HPE ALM ラボ管理

ソフトウェアバージョン: 12.53

ラボ管理ガイド

ドキュメントリリース日 : 2016 年 5 月 (英語版) | ソフトウェアリリース日 : 2016 年 5 月

ご注意

保証

Hewlett Packard Enterprise Development LP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPEはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPEからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®および Windows®は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Unix®は、The Open Groupの登録商標です。

Oracle および Java は Oracle およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。
https://softwaresupport.hpe.com

このサイトを利用するには、HPE Passportへの登録とサインインが必要です。HPE Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。https://softwaresupport.hpe.com にアクセスして［**Register**］をクリックしてください。

サポート

HPEソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。https://softwaresupport.hpe.com

HPEソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPEソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング

- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPEサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HPE Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HPE Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。https://softwaresupport.hpe.com にアクセスして、[**Register**] をクリックしてください。

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。
https://softwaresupport.hpe.com/web/softwaresupport/access-levels

HPEソフトウェアソリューション、統合、およびベストプラクティス

HPE Software Solutions Now (https://softwaresupport.hpe.com/group/softwaresupport/search-result/-/facetsearch/document/KM01702710) サイトでは、HPEソフトウェアカタログに掲載のプロダクト間の連携や統合方法の閲覧、情報の交換、ビジネスニーズを満たすソリューションの検索を行うことができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (https://hpln.hpe.com/group/best-practices-hpsw) では、さまざまなベストプラクティスドキュメントや資料を閲覧できます。

目次

第1章: ラボ管理の概略 11

第2章: ラボ管理の管理 13
ラボ管理の管理の概要 14
ラボ管理の管理者の作成方法 14
ラボ管理の管理の使用方法 14
ラボ管理管理のユーザ・インタフェース 17
[ラボ管理]タブ 18
[Performance Center の一般設定]ダイアログ・ボックス 19

第3章: プロジェクト設定 21
プロジェクトの設定の概要 22
ターゲット IP アドレスの使用 22
サブネット・マスクの使用 22
プロジェクトを作成する方法 23
プロジェクト設定のユーザ・インタフェース 24
プロジェクトの設定モジュール 25
プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン 26
プロジェクト設定モジュールのフィールド 29
[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス 30
VUD のアクション 33
[Performance Center Controller のオプション]ダイアログ・ボックス 36

第4章: メンテナンス・タスク 44
メンテナンス・タスクの概要 45
メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース 46
メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ 47
メンテナンス・タスクのフィールド 48
メンテナンス・タスクのメニューとボタン 48
[メンテナンスタスクの詳細]ダイアログ・ボックス 50

第5章: クラウド設定 52
クラウド・ホストの概要 53
クラウド・ホストを使用するメリット 53
ALM でのクラウド・ホストの使用 53
クラウド・ホストの設定方法 54
クラウドの初期設定 55
クラウドの初期設定の概要 56
クラウド通信の初期設定 61

クラウド・ネットワークの設定方法 63
デジタル証明書を作成する方法 64
[クラウド ネットワーク設定]ダイアログ・ボックス 66
クラウド・アカウント 67
クラウド・アカウントの概要 68
クラウド・クレジット 68
クラウド・アカウントを管理する方法 69
クラウド・アカウントの追加 69
クラウド・アカウントの詳細の変更 71
クラウド・アカウントの削除 71
クラウド・アカウントのユーザ・インタフェース 72
クラウド・アカウント・モジュール・ウィンドウ 73
クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン 74
クラウド・アカウント・モジュールのフィールド 77
[新規クラウド アカウント]ダイアログ・ボックス 78
[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックス 79
[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックス 81
クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ページ 82
ホスト・テンプレート 83
ホスト・テンプレートの概要 84
ホスト・テンプレートを管理する方法 85
ホスト・テンプレートの作成 85
Microsoft Azure クラウド・アカウント用のイメージの作成 86
ホスト・テンプレートの詳細の変更 86
ホスト・テンプレートの削除 87
ホスト・テンプレートのユーザ・インタフェース 87
ホスト・テンプレート・モジュールのウィンドウ 88
ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン 88
ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド 91
[新規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボックス 93
[ホスト テンプレートの詳細]ダイアログ・ボックス 94
ホストのプロビジョニング 95
ホストのプロビジョニングの概要 96
クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法 96
クラウド・ホストのプロビジョニング 96
クラウド・ホストの終了 98
ホスト・プロビジョニングのユーザ・インタフェース 99
[クラウド ホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックス 100
ホスト・プロビジョニング・レポート 104
クラウド・リソースの監視 106
クラウド・リソースの監視の概要 107
クラウドの使用状況レポート 107
クラウド警告および通知 107

クラウド警告の構成方法 107
[クラウド警告および通知]ダイアログ・ボックス 108

第6章: ラボ・リソース 110
ラボ・リソースの概要 111
ラボ・リソースの管理 113
テスティング・ホストの管理方法 114
ホスト・プールを管理する方法 122
ホストの場所を管理する方法 123
タイムスロットの予約方法 124
メンテナンス・タイムスロットのスケジュール - 管理者のユース・ケース 125
ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース 128
ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン 129
ホスト・モジュール 136
ホスト/テスティング・ホスト・モジュールのウィンドウ 137
ホストのフィールド 140
[新規テスティングホスト]ダイアログ・ボックス 146
[テスティングホスト詳細]ダイアログ・ボックス 148
イベント・ログ 151
[プロセス]ページ 153
[サービス]ページ 154
[ホストのステータスの確認]ページ 155
ホストのステータスの確認のフィールド 156
[ファイアウォール越し]ページ 157
[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス 159
プール・モジュール 160
プール・モジュール・ウィンドウ 161
プール・フィールド 162
[新規ホスト プール]ダイアログ・ボックス 162
[ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス 163
[ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス 165
[リンクされたホスト]ページ 166
場所モジュール 167
場所モジュール・ウィンドウ 168
場所のフィールド 169
[新規ホストの場所]ダイアログ・ボックス 169
[ホストの場所詳細]ダイアログ・ボックス 170
タイムスロット・モジュール 171
[タイムスロットの予約:メンテナンス]ダイアログ・ボックス 172

第7章: Performance Center テスト実行 176
Performance Center テスト実行モジュールの概要 177

Performance Center テスト実行のユーザ・インタフェース 177
PC テスト実行モジュールのウィンドウ 178
PC テスト実行モジュールのフィールド 180
PC テスト実行モジュールのメニューとボタン 181
[実行詳細]ダイアログ・ボックス 184

第8章: 使用状況レポート 186
使用状況レポートの概要 187
使用状況レポートを作成する方法 188
使用状況レポートのユーザ・インタフェース 189
ダッシュボード・レポート 190
リソース・サマリ・レポート 191
Resource by User(ユーザ別リソース)レポート 193
プロジェクト別リソース使用状況レポート 195
同時実行レポート 197
Project Limit vs. Actual Use(プロジェクトの上限対実際の使用)レポート 198
プロトコル粒度レポート 201
Host Activity Utilization(ホスト・アクティビティ利用率)レポート 204
タイムスロット使用状況レポート 205
[タイムスロットの使用状況]グラフ 207
[プロジェクト別タイムスロットの使用状況]テーブル 208
[Timeslot Usage by User Table(ユーザ別タイムスロット使用状況)]テーブル 208
VUDs Overall Usage(VUD の全体的使用状況)レポート 209
VUDs Usage Details(VUD 使用状況の詳細)レポート 210
クラウド高レベル・レポート 212
クラウド・クレジット(タイプ別)レポート 214
クラウド利用率レポート 216
クラウド操作レポート 219

第9章: システムのヘルス 221
システムのヘルスの概要 222
システムのヘルスのユーザ・インタフェース 222
システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ 223
[システムチェックの設定]ダイアログ・ボックス 224

第10章: Performance Center ライセンス 226
Performance Center ライセンスの概要 227
Performance Center のライセンス・キーの設定方法 229
PC ライセンスのユーザ・インタフェース 230
PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ 231
[ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボックス 234

第11章: MI Listener 236
MI Listener の概要 237
MI Listener を管理する方法 237
MI Listener モジュール 238
MI Listener モジュール・ウィンドウ 239
MI Listener のフィールド 240
MI Listener モジュールのメニューとボタン 240
[新規 MI Listener] ダイアログ・ボックス 243
[MI Listener 詳細] ダイアログ・ボックス 244

第12章: 診断管理 246
J2EE/.NET 診断の概要 247
ERP/CRM 診断の概要 247
ERP/CRM メディエータの追加方法 249
HP Diagnostics サーバの追加方法 250
Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法 250
Oracle 11i 診断を事前に設定する方法 254
SAP 診断を事前に設定する方法 255
Siebel サーバでログを有効，無効にする方法 255
Oracle サーバのログを有効にする方法 257
Oracle サーバの診断パスワードを設定，無効にする方法 258
診断のユーザ・インタフェース 258
診断モジュール・ウィンドウ 259
診断モジュールのフィールド 259
診断モジュールのメニューとボタン 261

第13章: パッチ管理 264
パッチの概要 265
パッチの ALM へのアップロード方法 265
パッチ管理のユーザ・インタフェース 265
パッチ・モジュール・ウィンドウ 266
パッチ・モジュールのフィールド 266
パッチ・モジュールのメニューとボタン 267
[パッチの詳細] ダイアログ・ボックス 269
[新規パッチ] ダイアログ・ボックス 270

第14章: AUT ホストの管理 272
AUT リソースの概要 273
Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法 273
AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース 278
AUT ホスト・モジュール 279
AUT ホストのフィールド 280

[新規 AUT ホスト]ダイアログ・ボックス 281
[AUT ホストの詳細]ダイアログ・ボックス 282
AUT プール・モジュール 283
[リンクされたホスト]ページ 284
[AUT ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス 285
AUT プールのフィールド 287
[新規 AUT ホスト プール]ダイアログ・ボックス 287
[AUT ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス 288
AUT リソース・モジュールのメニューとボタン 289

第 15章: プロジェクト管理 293
ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法 293

第 16章: Performance Center サーバ 296
Performance Center サーバの概要 297
Performance Center サーバを管理する方法 297
Performance Center サーバ・モジュールのユーザ・インタフェース 298
PC サーバ・モジュール・ウィンドウ 299
PC サーバ・モジュールのメニューとボタン 300
PC サーバ・モジュールのフィールド 303
[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックス 305
[新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックス 306
[プロセス]ページ 307
[サーバのステータスの確認]ページ 308

第 17章: CDA サーバ 311
CDA サーバの概要 312
CDA サーバを管理する方法 312
CDA サーバのユーザ・インタフェース 313
CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ 314
CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン 314
CDA サーバ・モジュールのフィールド 317
[新規 CDA サーバ]ダイアログ・ボックス 317
[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックス 318

第 18章: Lab Service 320
HP ALM Lab Service の概要 321
HP ALM Lab Service のインストール 321
HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール 327
HP ALM Lab Service の使用 328
自動ログイン 330
HP ALM Lab Service Agent 331

フィード バックを送 信 ……337

第1章: ラボ管理の概略

HP ALM ラボ管理では，ALM サーバ側テストで使用するリソースを管理します。

ALM テストでは，さまざまな実行モードでテストを実行できます。ALM エディションまたは Performance Center のユーザは，機能テスト・セットまたはパフォーマンス・テスト・セットにアクセスし，リモート・テスティング・ホストでテストの即時実行またはスケジュール実行を行うことができます。ALM では，ビルドのデプロイメントとテストをエンドツーエンドで実行し，ラボ管理では，ALM のサーバ側テスト機能のインフラストラクチャを構成するテスト・リソースを管理します。

ラボ管理は，次のモジュールで構成されています。

ラボ設定

リソースを監視，保守，ALM プロジェクトに割り当てる方法を管理します。このグループには次のモジュールが含まれます。

プロジェクト設定	各 ALM プロジェクトの設定を管理します。ホスト数の上限とホスト・プールの割り当てを，プロジェクトごとに設定します。
メンテナンス・タスク	主要なシステム・コンポーネントで発生した障害を検出および修復するタスクを監視します。

クラウド設定

ALM でクラウド・テスティング・ホストのプロビジョニングに使用するクラウド・アカウントとホスト・テンプレートを追加します。

クラウド・アカウント	外部クラウド・アカウントを ALM に追加します。
ホスト・テンプレート	クラウド・ホストのプロビジョニングに使用するテンプレートを作成および変更します。

ラボ・リソース

サーバ側テストで使用できるテスティング・ホストとプールを作成および定義します。

ホスト	ALM がサーバ側テストで使用するテスティング・ホストを作成および変更します。
プール	テスティング・ホストのプールを作成および変更します。ホスト・プールは，ALM プロジェクトに割り当てられます。
場所	テスティング・ホストに割り当て可能な場所を定義します。
タイムスロット	ホスト上で行う手動メンテナンスのスケジューリングと予約を行います。

Performance Center

Performance Center に関連するリソース，設定，テスト結果データを管理します。

PC テスト実行	すべてのプロジェクトについて，Performance Center テスト実行の結果を表示します。
使用状況レポート	Performance Center サイト・ユーザとリソースの使用状況を分析します。
システムのヘルス	システムの稼働状態を追跡および管理します。
PC ライセンス	Performance Center と Performance Center のホスト・ライセンスを管理します。
MI Listener	MI Listener を作成および変更します。これにより，ファイアウォールを介してパフォーマンス・テストを実行可能になります。
診断	診断モジュールを統合することによって，複雑なテスト対象アプリケーションのパフォーマンスを監視および分析します。
パッチ	アプリケーション・パッチをアップロードします。これにより，Performance Center サーバとホストにパッチをインストールできるようになります。
AUT ホスト	テスト対象アプリケーション(AUT) コンポーネントをホストするマシンを作成および変更します。
AUT ホスト・プール	AUT ホストのプールを作成および変更します。

サーバ

パフォーマンス・テストとテストのデプロイメントで使用するサーバを作成および構成します。

PC サーバ	Performance Center サーバを作成し，パフォーマンス・テストでの使用方法を管理します。
CDA サーバ	HP Continuous Delivery Automation(CDA) サーバを作成および変更します。これによって ALM は，サーバ側テストの環境を，クラウドを使って動的にデプロイできるようになります。

第2章: ラボ管理の管理

本章の内容

- ラボ管理の管理の概要 14
- ラボ管理の管理者の作成方法 14
- ラボ管理の管理の使用方法 14
- ラボ管理管理のユーザ・インタフェース 17

ラボ管理の管理の概要

ホストやホスト・プールの作成や保守などの管理タスクを実行するラボ管理ユーザには，管理者権限を割り当てる必要があります。

ラボ管理ユーザの定義や管理者の役割の割り当ては，ALM サイト管理で行います。ラボ管理の管理者ユーザを作成する方法の詳細については，「ラボ管理の管理者の作成方法」(14ページ)を参照してください。

関連タスクの詳細については，「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

ラボ管理の管理者の作成方法

このタスクでは，ラボ管理とサイト管理で，すべての**プロジェクト管理**タスクを担当する，ラボ管理の管理者ユーザを作成する方法について説明します。

> **注:**
> - このタスクは，「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)のタスクの前提条件になります。
> - このタスクはサイト管理で実行されます。サイト管理へのログインと使用方法の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理の管理者ユーザを作成するには，次の手順を実行します。

1. 「サイト管理」にログインします。
2. ［**サイトのユーザ**］タブで，新しいユーザを作成します。
3. ［**ラボ管理**］タブで，［**ラボ管理ユーザ**］タブを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［ラボ管理］タブ」(18ページ)を参照してください。
4. 手順 2 で作成したユーザを追加し，新しいユーザに対して［**プロジェクト管理者**］オプションを選択します。

ラボ管理の管理の使用方法

本項では，ラボ管理 管理者が実行できるタスクの一覧を示します。

一部のタスクは，Performance Center ライセンスのあるプロジェクトのみで実行できます。

- 「前提条件」(15ページ)
- 「Performance Center の初期設定の実行」(15ページ)
- 「Performance Center プロジェクトの作成とプロジェクト設定の定義」(15ページ)
- 「ラボ管理のラボ・リソースの管理と保守」(15ページ)
- 「パフォーマンス・テストの実行の表示と管理」(15ページ)
- 「Performance Center 使用状況レポートの表示」(16ページ)

- 「アプリケーション・パッチのアップロード」(16ページ)
- 「Performance Center サーバの管理」(16ページ)
- 「Performance Center ライセンスと Performance Center ホスト・ライセンスの管理」(16ページ)
- 「Diagnostic サーバと Diagnostic メディエータの管理」(16ページ)
- 「システムのヘルスの維持」(16ページ)
- 「Performance Center システム・ユーザの変更」(16ページ)
- 「通信セキュリティ・パスフレーズの更新」(16ページ)
- 「セキュリティ保護されたホスト通信設定の更新」(17ページ)
- 「Performance Center の一般設定の設定」(17ページ)

前提条件

これらのいずれかのタスクを実行するには，ラボ管理 管理者である必要があります。ラボ管理の管理者を作成する方法の詳細については，「ラボ管理の管理者の作成方法」(14ページ)を参照してください。

Performance Center の初期設定の実行

Performance Center コンポーネントのインストール直後に，関連するコンポーネントの設定ツールが開き，初期設定の入力が求められます。この設定をスキップした場合，Performance Center の使用を開始する前に，手動で設定を行う必要があります。

詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

Performance Center プロジェクトの作成とプロジェクト設定の定義

サイト管理でプロジェクトを作成し，ラボ管理のプロジェクト設定モジュールでプロジェクトの制限やその他の設定を定義します。詳細については，「プロジェクトを作成する方法」(23ページ)を参照してください。

ラボ管理のラボ・リソースの管理と保守

ホスト，ホスト・プール，ホストの場所の管理は，ラボ・リソース・モジュールで行います。詳細については，「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)を参照してください。

ホスト上でメンテナンス・タスク(パッチのインストール，ホストの再起動など) の実行を計画している場合，これらのホストをタイムスロットに確保することをお勧めします。これで，ホストをメンテナンスに確実に利用できるようになります。詳細については，「タイムスロットの予約方法」(124ページ)を参照してください。

パフォーマンス・テストの実行の表示と管理

システムのすべてのラボ管理からのテストの実行は，テスト実行モジュールで表示，管理できます。詳細については，「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」(178ページ)を参照してください。

Performance Center 使用状況レポートの表示

Performance Center 使用状況レポートには，Performance Center サイト・ユーザの全体的な分析，リソース使用状況，同時実行リソース使用状況とライセンスによる上限の比較，タイムスロットの使用状況，期間と実行別のリソース使用状況に関する情報が表示されます。詳細については，「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)を参照してください。

これらのレポートを PDF 形式と Excel 形式でエクスポートすることもできます。詳細については，「How to Export Reports to PDF or Excel Formats」を参照してください。

アプリケーション・パッチのアップロード

アプリケーション・パッチを Performance Center のサーバとホストにインストールする前に，パッチをシステムにアップロードする必要があります。詳細については，「パッチの ALM へのアップロード方法」(265ページ)を参照してください。

Performance Center サーバの管理

Performance Center サーバの管理は，ラボ管理の PC サーバ・モジュールから行います。詳細については，「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)を参照してください。

Performance Center ライセンスと Performance Center ホスト・ライセンスの管理

Performance Center ライセンスと Performance Center ホスト・ライセンスの管理は，ラボ管理のライセンス・モジュールから行います。詳細については，「PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ」(231ページ)を参照してください。

Diagnostic サーバと Diagnostic メディエータの管理

診断モジュールを ALM と統合すると，テスト対象の複雑なアプリケーションのパフォーマンスを監視，分析できます。診断モジュールの設定の詳細については，「診断管理」(246ページ)を参照してください。

システムのヘルスの維持

システムのヘルスの追跡と維持は，のシステムのヘルス・モジュールから行います。詳細については，「システムのヘルスの概要」(222ページ)を参照してください。

Performance Center システム・ユーザの変更

Performance Center のサーバとホスト上の Performance Center システム・ユーザを変更するには，Performance Center サーバ上にインストールされているシステム ID ユーティリティを使用します。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

通信セキュリティ・パスフレーズの更新

Performance Center のサーバとホスト上の通信セキュリティ・パスフレーズを更新するには，Performance Center サーバ上にインストールされているシステム ID ユーティリティを使用します。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

セキュリティ保護されたホスト通信設定の更新

最初に，Performance Center ホストまたはスタンドアロン Load Generator にローカルにインストールされているホスト・セキュリティ・セットアップ・ユーティリティを使用して，各ホストまたは Load Generator 上でセキュリティ保護された通信設定を定義します。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

すべてのホストと Load Generator で同時にこれらの設定を更新するには，Performance Center サーバにインストールされている Host Security Manager を使用できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

Performance Center の一般設定の設定

Performance Center の一般設定は，ラボ管理で管理します。マストヘッドで，をクリックして［**Performance Center 一般設定**］を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［Performance Center の一般設定］ダイアログ・ボックス」(19ページ)を参照してください。

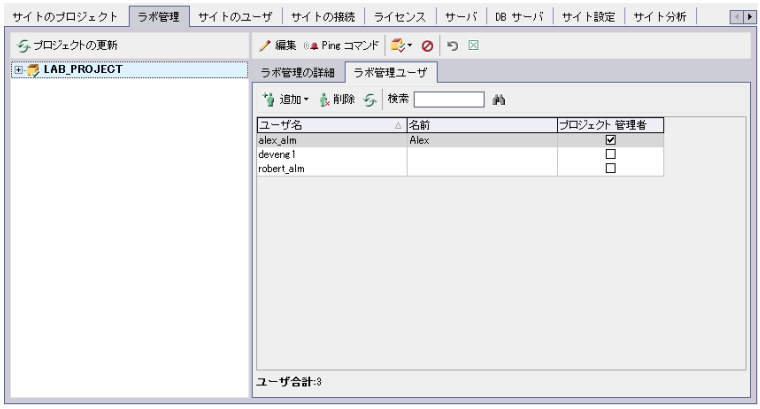
ラボ管理管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

- ［ラボ管理］タブ 18
- ［Performance Center の一般設定］ダイアログ・ボックス 19

[ラボ管理]タブ

サイト管理の[ラボ管理]タブを使用すると, LAB_PROJECT プロジェクトの詳細を管理し, ラボ管理管理タスクを担当するラボ管理ユーザを定義できます。



アクセス方法	「サイト管理」の[**ラボ管理**]タブをクリックします。
関連タスク	「ラボ管理の管理者の作成方法」(14ページ)
参照情報	「ラボ管理の管理の概要」(14ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
編集	**接続文字列の編集**:ラボ管理の接続文字列を編集します。接続文字列の編集の詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
Ping コマンド	**プロジェクトに Ping コマンドを適用**:プロジェクト・データベースがサイト管理からアクセスできるかどうかをチェックします。
	プロジェクトのメンテナンス:プロジェクトを検証, 修復, アップグレードできます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
	プロジェクトのアクティブ化/非アクティブ化: LAB_PROJECT を非アクティブ化すると，ユーザはラボ管理にログインできなくなります。非アクティブにすると，プロジェクトに現在接続されているすべてのユーザが，強制的にログアウトされます。LAB_PROJECT がサーバから削除されるわけではありません。 また，ユーザは LAB_PROJECT にリンクされているプロジェクトに接続できず，現在接続されているユーザは切断されます。
	ラボ・プロジェクトの復元: LAB_PROJECT へのアクセスを復元し，サイト管理の[ラボ管理]タブに追加します。LAB_PROJECT を復元した場合，復元した LAB_PROJECT で作成したラボ管理プロジェクトのみ使用できます。 復元プロセスの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
	ラボ・プロジェクトの削除: サイト管理の[ラボ管理]タブから LAB_PROJECT を削除します。この操作で LAB_PROJECT がサーバから削除されることはありません。LAB_PROJECT は，必要に応じて元に戻せます。プロジェクトがまだアクティブな場合は，非アクティブにするように求めるメッセージが表示されます。 LAB_PROJECT を削除すると，関連付けられているすべてのラボ管理プロジェクトが非アクティブ化されます。これらのプロジェクトを有効にするには，該当するバージョンの LAB_PROJECT を復元する以外に方法はありません。
[ラボ管理の詳細]タブ	ラボ管理を使用するための LAB_PROJECT の詳細を表示，編集できます。プロジェクトの詳細の表示と編集の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
[ラボ管理ユーザ]タブ	ラボ管理 管理を担当するユーザを割り当てることができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

[Performance Center の一般設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，Performance Center の一般設定を定義できます。

アクセス方法	ラボ管理 の ALM マストヘッドで，をクリックして[**Performance Center の一般設定**]を選択します。

重要な情報	ここで定義した設定は，Performance Center システムの一般設定となります。
関連タスク	「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)
参照情報	「ラボ管理の管理の概要」(14ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
[PC サーバ] > [PC サーバの設定]	• **制限なしキャッシュ・サイズ**: Performance Center サーバのキャッシュ・サイズが無制限になり，キャッシュはクリアされません。 • **キャッシュ・サイズ**: Performance Center サーバのキャッシュ・サイズ(ギガバイト単位) 。 **標準設定値** : 1GB
[PC ホスト] > [PC ホストの設定]	Load Generator の接続チェックのタイムアウト (秒) 。
[PC ホスト] > [Data Processor の設定]	• **Data Processor のタイムスロットの最小長 (分)** : Data Processor のタイムスロットに割り当てる必要がある最小時間 (分) 。 **標準設定値** : 1 分 • **保留中の Data Processor タスクのタイムアウト (分)** : データ処理タスクが保留中のままの状態を維持できる時間。 **標準設定値** : 30 分
適用	定義した設定を保存します。
標準設定	Performance Center サーバおよび Data Processor の標準設定を復元します。

第3章: プロジェクト設定

本章の内容

- プロジェクトの設定の概要 22
- プロジェクトを作成する方法 23
- プロジェクト設定のユーザ・インタフェース 24

プロジェクトの設定の概要

プロジェクト設定モジュールを使用すると，プロジェクト設定の次のような項目を表示，変更できます。

- 一般的なプロジェクトの詳細
- パフォーマンス・テストのターゲットとしてのIPアドレスの使用
- プロジェクトと使用状況へのVUD仮想ユーザの割り当て
- プロジェクトに対するタイムスロットの設定
- プロジェクトに対するControllerの設定

ターゲットIPアドレスの使用方法の詳細については，「ターゲットIPアドレスの使用」(22ページ)を参照してください。

ターゲットIPアドレスの使用

ターゲットIPアドレスは，指定されたネットワーク上のすべてのホストのアドレスが共通のプレフィックスを共有するように割り当てられます。共通のプレフィックスでIPアドレスのネットワーク部分を定義し，残りでホスト部分(ローカル部分とも呼ばれる)を定義します。

このコンテキストでのネットワークという用語は，1つまたは複数の物理ネットワークにまたがる論理ネットワークを指します。IPアドレスのネットワーク部分によってサイトが識別され，ローカル部分によってそのサイトの1つのホストが識別されます。

サブネット・マスクの使用

サブネット・アドレス指定を使用しているサイトは，各ネットワークに32ビットのサブネット・マスクを指定する必要があります。サブネット・マスクの各ビットは，ネットワークでIPアドレスの対応するビットがネットワーク・アドレスの一部として扱われる場合，1に設定され，IPアドレスの対応するビットがホストIDとして扱われる場合，0に設定されます。

たとえば，次のサブネット・マスクを考えてみましょう。

```
11111111 11111111 0000000 0000000
```

(10進数形式では255.255.0.0)。このサブネット・マスクでは，最初の2つのオクテットでネットワークが識別され，最後の2つのオクテットでそのネットワークのホストが識別されます。

個々のIPアドレスの定義時に追加する，サブネット・マスク255.255.255.255(2進数形式では11111111 11111111 11111111 11111111)では，サブネット・マスクが存在しないかのように，IPアドレスの4つのオクテットすべてでネットワークとホストが識別されます。実際上は，NULLがターゲット・パフォーマンス・テストに対する正確なIPアドレスとして使用されます。

プロジェクトを作成する方法

このタスクでは，プロジェクトを作成する方法について説明します。サイト管理でプロジェクトを作成し，ラボ管理でプロジェクトの設定を定義します。

> **注：** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「サイト管理へのログイン」(23ページ)
- 「プロジェクト・ドメインの作成 - オプション」(23ページ)
- 「プロジェクト管理者ユーザの作成」(23ページ)
- 「新規プロジェクトの作成」(23ページ)
- 「その他のプロジェクト管理者のプロジェクトへの割り当て - オプション」(24ページ)
- 「プロジェクトの設定の定義」(24ページ)
- 「プロジェクト・ユーザの追加とカスタマイズ」(24ページ)

1. **サイト管理へのログイン**

   Web ブラウザを開き，次の形式で ALM の URL を入力します。

   `http://<ALM 名>[<:ポート番号>]/qcbin`

   HP Application Lifecycle Managementウィンドウで，［**サイト管理**］をクリックします。

   サイト管理者のユーザ名とパスワードを入力し，［**ログイン**］をクリックします。

2. **プロジェクト・ドメインの作成 - オプション**

   ［**ドメインの作成**］ボタンをクリックし，新しいドメインの名前を入力して，［**OK**］をクリックします。

3. **プロジェクト管理者ユーザの作成**

   a. ［**サイトのユーザ**］タブを選択し，［**ユーザの新規作成**］ボタンをクリックします。［ユーザの新規作成］ダイアログ・ボックスが開きます。

   b. プロジェクト管理者ユーザの詳細を入力し，［**OK**］をクリックします。

   c. ユーザを選択し，［**パスワード**］をクリックして，パスワードを入力します。［**OK**］をクリックします。

      詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

4. **新規プロジェクトの作成**

   a. ［**サイトのプロジェクト**］タブをクリックし，プロジェクトを作成するドメインを選択します。

   b. ［**プロジェクトの作成**］ボタンをクリックし，プロジェクトを作成する手順を実行します。

必要な場合，次の操作を実行します。

- 上記で作成したプロジェクト管理者ユーザを追加します。
- まだ有効になっていない場合には**ALM ラボ拡張**を有効化します。

詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

5. **その他のプロジェクト管理者のプロジェクトへの割り当て - オプション**

   その他のプロジェクト管理者を追加するには，次の手順を実行します。

   a. ［**サイトのプロジェクト**］タブをクリックします。
   b. 左側の［**プロジェクト**］リストで，作成したプロジェクトを選択します。
   c. 右の表示枠の［**プロジェクト ユーザ**］タブをクリックします。
   d. 別のユーザを追加し，［**プロジェクト管理者**］を選択します。

6. **プロジェクトの設定の定義**

   プロジェクトは標準設定で作成されますが，必要に応じて変更できます。ラボ管理で，次のようにプロジェクトの設定を定義します。

   a. 管理者のユーザ名とパスワードを使用して，ラボ管理にログインします。
   b. ラボ管理サイドバーの［**ラボ設定**］で，［**プロジェクト設定**］を選択します。
   c. 少なくとも次の設定を定義します。**ホスト数の上限**，**仮想ユーザ数の上限**，**同時実行数の上限**。

      ユーザ・インタフェースの詳細については，「［プロジェクト設定の詳細］ダイアログ・ボックス」(30ページ)を参照してください。

> **注:** プロジェクト管理者は，ALM 内のプロジェクトのプロジェクト設定を表示し，いくつかのプロジェクト設定を変更できます。ALM 内のプロジェクト設定にアクセスするには，ALM マストヘッドで，⚙をクリックし，［**ラボ設定**］を選択します。

7. **プロジェクト・ユーザの追加とカスタマイズ**

   この手順は，プロジェクト管理者が実行します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

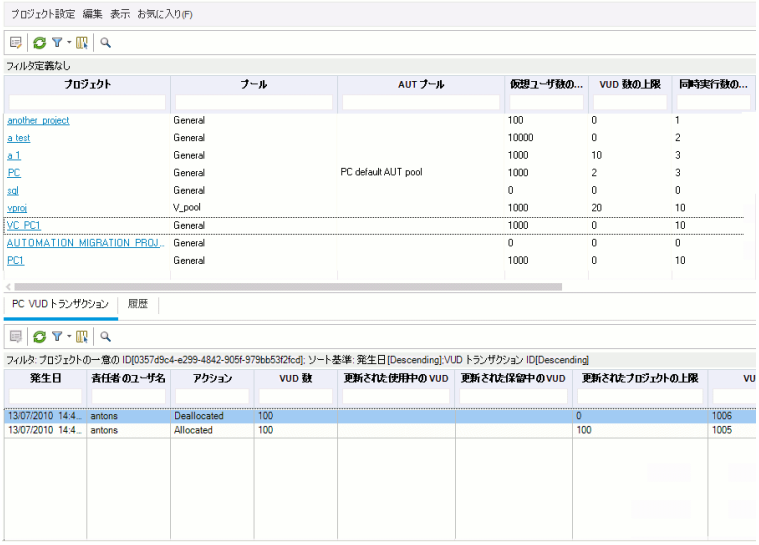
プロジェクト設定のユーザ・インタフェース

本項の内容

- プロジェクトの設定モジュール 25
- プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン 26
- プロジェクト設定モジュールのフィールド 29
- ［プロジェクト設定の詳細］ダイアログ・ボックス 30
- ［Performance Center Controller のオプション］ダイアログ・ボックス 36

プロジェクトの設定モジュール

このモジュールを使用すると，すべてのプロジェクトとその設定を表示，管理できます。



アクセス方法	サイドバーの[**ラボ設定**]で，[**プロジェクト設定**]を選択します。
重要な情報	このモジュールによって，ALM 内のすべてのプロジェクトのリストが表示されます。 あるいは，特定のプロジェクト内からプロジェクト設定にアクセスできます。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(23ページ)
参照情報	「プロジェクトの設定の概要」(22ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<プロジェクト設定モジュールの共通の UI 要素>	• **プロジェクト設定モジュールのフィールド**: フィールドの定義については，「プロジェクト設定モジュールのフィールド」(29ページ)を参照してください。 • **プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン**: コマンドとボタンの説明については，「プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン」(26ページ)を参照してください。 • **ALM メイン・メニューとサイドバー**: [**ツール**] メニュー，[**ヘルプ**] メニュー，サイドバーの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<プロジェクト設定のグリッド>	ALM 内のプロジェクトのリストとそのプロジェクト設定が表示されます。
[PC VUD トランザクション] タブ	各プロジェクト内の PC VUD トランザクションが表示されます。詳細については，「[プロジェクト設定の詳細] ダイアログ・ボックス」(30ページ)を参照してください。
[履歴] タブ	現在選択されているプロジェクトに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン

プロジェクト設定モジュールを使用すると，プロジェクト設定を表示，管理できます。

アクセス方法	• サイドバーの [**ラボ設定**] で，[**プロジェクト設定**] を選択します。 • **プロジェクト管理者**: ALM のマストヘッドで，⚙ をクリックして [**Performance Center ラボ設定**] を選択します。
重要な情報	プロジェクト管理者の場合，ALMで現在のプロジェクト設定を表示できます。一部の設定を変更することもできます。

プロジェクト設定モジュールのメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー	[プロジェクト設定]と<右クリック・メニュー>	選択したプロジェクトをコピーして，その URL をリンクとして貼り付けます。プロジェクト自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し，プロジェクト・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
エクスポート	[プロジェクト設定]と<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのプロジェクト設定をテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**: グリッドのすべてのプロジェクト設定をエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**: グリッドの選択したプロジェクト設定をエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでプロジェクト設定を検索できます。検索オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
プロジェクト設定に移動	プロジェクト設定	[プロジェクト設定に移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID 番号で特定のプロジェクト設定レコードを検索できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。

UI要素	場所	説明
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，プロパティを変更するか，ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
プロジェクト設定の詳細	[プロジェクト設定]と<右クリック・メニュー>	[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したプロジェクトの詳細を表示，編集できます。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	プロジェクトの詳細のグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 プロジェクト設定のフィールドの詳細については，「プロジェクト設定モジュールのフィールド」(29ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のプロジェクト設定に対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	[編集]と<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

プロジェクト設定モジュールのフィールド

本項では，プロジェクト設定モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
AUT プール	プロジェクトの AUT ホスト・プール。
ビルド検証スイートの自動延長時間 (分)	初期タイムスロットが経過した時点で，ビルド検証スイートのタイムスロットを自動延長するときの分数。タイムスロットを延長するには，そのタイムスロットで[タイムスロットを自動的に拡張]を有効にし，テスト・リソースを十分に確保しておく必要があります。
CDA ドメイン	CDA サーバのドメイン。
CDA サーバ	CDA サーバの名前。
同時実行数の上限	プロジェクト内で許可される同時テスト実行の最大数。
Diagnostics サーバ	プロジェクトに定義されている Diagnostics サーバ。
ドメイン名	プロジェクトが作成されたドメイン。
機能テストの自動延長時間 (分)	初期タイムスロットが経過した時点で，機能テストのタイムスロットを自動延長するときの分数。タイムスロットを延長するには，そのタイムスロットで[タイムスロットを自動的に拡張]を有効にし，テスト・リソースを十分に確保しておく必要があります。
ホスト数の上限	タイムスロットに予約するホストの合計数 (Controller + Load Generator) は，この上限を超えることはできません。
ID	プロジェクトの ID。
タイムスロットの自動延長の最大回数	BVS または機能テストで設定されている初期タイムスロットが経過した後，タイムスロットを自動延長できる回数の最大値。
プール	プロジェクトのホスト・プール。
プロジェクト	プロジェクトの名前。
消費済み VUD 数	プロジェクトによって消費されている VUD の数。
VUD 数の上限	プロジェクトで利用できる VUD の最大数。

フィールド	説明
VuGen 作業モード	VuGen からスクリプトをアップロードするために使用するモード。 • **[Runtime Files] モード**：スクリプトを正しく再生するのに必要なファイルのみアップロードします。 • **[User Defined] モード**：サムネイル画像を含む利用可能なすべてのファイルをアップロードします。
仮想ユーザ数の上限	プロジェクトで一度に実行できる仮想ユーザの最大数。すべてのプロジェクトの同時実行パフォーマンス・テストで使用される合計数は，この上限を超えることはできません。

[プロジェクト設定の詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，プロジェクトの設定を行うことができます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの [**ラボ設定**] で，[**プロジェクト設定**] を選択します。 2. グリッド内のプロジェクトを右クリックし，[**プロジェクト設定の詳細**] を選択します。
重要な情報	[Controller のオプション] ページは，特定のプロジェクトにログインした場合にのみ利用できます。ラボ管理では，Controller のオプションを設定できません。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(23ページ)
参照情報	「プロジェクトの設定の概要」(22ページ)

共通要素

次に，共通ユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：プロジェクトのリストの間を移動できます。 **利用場所**：ラボ管理 のみ。

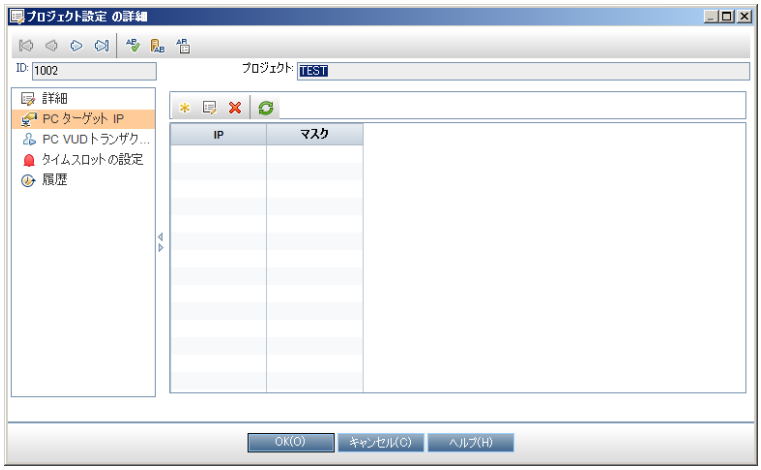
UI 要素	説明
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
プロジェクト	プロジェクトの名前。

[詳細]ページ

このページには，選択したプロジェクトの一般的な詳細が表示されます。詳細については，「プロジェクト設定モジュールのフィールド」(29ページ)を参照してください。

[PC ターゲット IP]ページ

このページを使用すると，パフォーマンス・テストのターゲットとして使用する IP アドレスを定義できます。



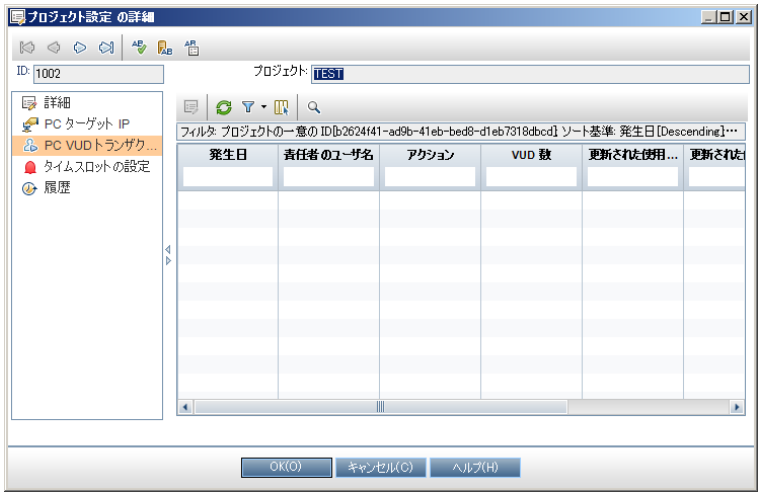
重要な情報	ターゲット IP を定義できるのは，Performance Center host のみで，スタンドアロン Load Generator では定義できません。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(23ページ)
参照情報	「ターゲット IP アドレスの使用」(22ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	新規：[新規ターゲット IP] ダイアログ・ボックスが開き，パフォーマンス・テストのターゲットとして使用する IP アドレスを定義できます。
	編集：[ターゲット IP 詳細] ダイアログ・ボックスが開き，選択したターゲット IP の詳細を表示，編集できます。
	削除：選択したターゲット IP を削除できます。
	更新：最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
IP	ターゲット IP アドレス。
マスク	各ネットワークの 32 ビットのサブネット・マスク。

[PC VUD トランザクション] ページ

このページを使用すると，プロジェクト内の PC VUD トランザクションを追跡できます。



次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
アクション	実行する VUD アクション。可能なアクションの詳細については，「VUD のアクション」(33ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
使用中の実行 ID	VUD を現在実行しているテスト実行の ID。
所有者実行 ID	VUD を最初に発行したテスト実行の ID。
発生日	トランザクションが発生した日付。
責任者のユーザ名	トランザクションを担当するユーザまたは自動化されたシステム・プロセス。
トークンの一意の ID	同じトランザクションに属するすべてのアクションを識別します。 **注:** VUD を使用する 1 つの通常の実行で，発行済み，保留中，期限切れの 3 つのアクションがあります。これらの各アクションには，異なるトランザクション ID が設定されますが，トークン ID は同じです。
更新された使用中の VUD	トランザクションの結果実行中の VUD の現在の数。
更新された保留中の VUD	トランザクションの結果保留中の状態にある VUD の現在の数。
更新されたプロジェクトの上限	トランザクションの結果によるプロジェクトの VUD の上限。
VUD 数	アクションに関わる VUD の数。
VUD トランザクション ID	アクション ID。

VUD のアクション

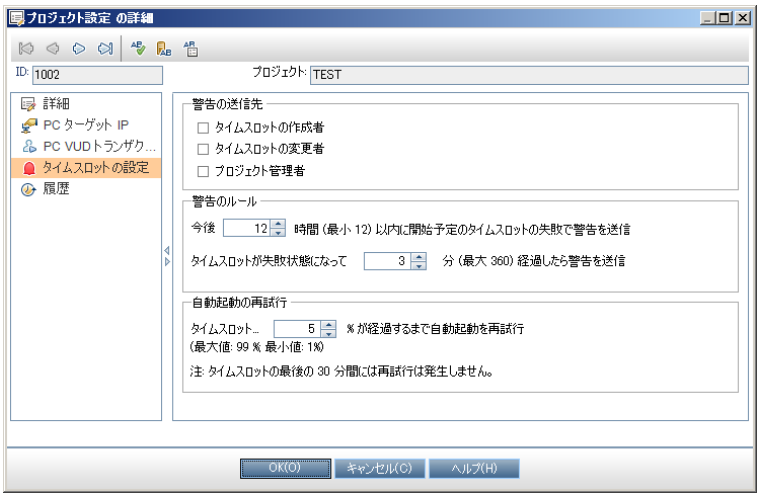
次の表に，可能な VUD アクションの一覧を示します。

UI 要素	説明
割り当て済み	管理者によってプロジェクトの VUD 数の上限に追加された VUD 数。
割り当て解除済み	管理者によってプロジェクトの VUD 数の上限から削除された VUD 数。

UI要素	説明
期限切れ	24時間の有効期間終了後にライセンスから削除されるVUD数。 **注:** 24時間を超えるパフォーマンス・テストに関わるVUDは，期限が切れても完了するまで実行し続けます。
発行済み	パフォーマンス・テストに追加されるVUD数。 **注:** • パフォーマンス・テストに関わるすべてのVUDは，実行が開始されていたかどうかに関わらず，テストの開始時点から発行されているものと見なされます。 • 発行済みのVUD数によって，プロジェクトのVUD数の上限は減ります。 • 未使用のすべてのVUDは，テストの完了時点でプロジェクトのVUD数の上限に返されます。
保留中	テスト実行は完了したが，24時間の有効期間が終了していないため，今後さらに利用できるVUD数。
返却済み	発行済みで，テストで未使用のVUD数。これらのVUDは，プロジェクトのVUD数の上限に返され，後日再発行される可能性があります。
再使用済み	保留中の状態のVUDから差し引かれる実行中のVUD数。 **注:** ALM Performance Centerは，新しいVUDを発行する前に，保留中の状態のVUDを再利用します。たとえば，**100**個のVUDを含むパフォーマンス・テストを定義するとします。ここで，現在のプロジェクトの上限は**200**で，**25**個のVUDが現在保留中の状態です。ALM Performance Centerは，この場合最初に**25**個の保留中のVUDを再利用し，ライセンスからは**75**個のみ発行します。新しい上限は**125**個になります。

[タイムスロットの設定]ページ

このページを使用すると，タイムスロットの設定を行うことができます。



次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
警告の送信先	タイムスロット警告を受信する必要があるユーザ。 • **タイムスロットの作成者**：タイムスロットを予約したユーザ。 • **タイムスロットの変更者**：タイムスロットを最後に変更したユーザ。 • **プロジェクト管理者**：タイムスロットが予約されたプロジェクトの管理者。
警告のルール	タイムスロット警告を送信する条件（両方の条件を保持する必要があります）。 • **今後 <XX> 時間以内に開始予定のタイムスロットの失敗で警告を送信**：タイムスロット開始予定のXX時間以内に警告を送信します。 **標準設定値**：72時間 **最小値**：12時間 • **タイムスロットが失敗状態になって <XX> 分経過したら警告を送信**：タイムスロットがXX分間無効になったら警告を送信します。 **標準設定値**：30分 **最大値**：360分（6時間）

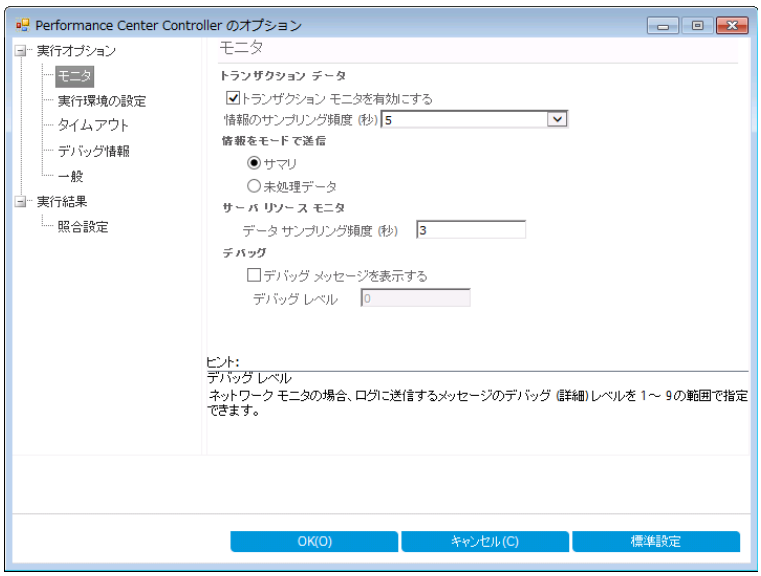
UI 要素	説明
自動起動の再試行	タイムスロットにリンクされているパフォーマンス・テストの自動起動が予定されているが，実行を開始しない場合，システムは正常に実行されるまで，テストの自動起動を試行し続けます。 ［**自動起動の再試行**］オプションでは，システムがテストの自動起動の**試行を停止**する必要があります。いずれの場合でも，タイムスロットの残りが30分以内になると，再試行は停止されます。 **標準設定値**：50%，つまり，タイムスロットの半分が経過すると，システムは再試行を停止します。 **最大値**：99%，**最小値**：1% **注：** システムは，最大3回パフォーマンス・テストの再起動を試みます。

履歴ページ

このページには，プロジェクトに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

［Performance Center Controller のオプション］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，Performance Center プロジェクトの Controller のグローバル・オプションを設定できます。



アクセス方法	ALM マストヘッドで，をクリックして［**Performance Center Controller のオプション**］を選択します。 **注：**このページにアクセスできるのは，ALM プロジェクト自身からのみで，ラボ管理からはアクセスできません。
重要な情報	Controller は，パフォーマンス・テストのマネージャです。Controller は，スクリプト，その実行時の設定，使用する Load Generator のリストを受け取ります。Controller は，実行するスクリプト，スクリプトごとに実行する仮想ユーザ数，仮想ユーザの実行の開始時点を含む指示を Load Generator に発行します。 パフォーマンス・テスト中に，Controller はオンライン監視情報を表示します。テスト実行の終了時に，Controller は Analysis 用のデータを照合します。 パフォーマンス・テストを実行する前に，プロジェクト内のすべてのパフォーマンス・テストに対して Load Generator と仮想ユーザのオプションを設定できます。標準設定ではほとんどの環境に対応できますが，設定を変更してテストの動作をカスタマイズできます。 これらの設定は，プロジェクトの今後のすべてのテスト実行に適用され，通常，一度だけ設定する必要があります。これらの設定は，パフォーマンス・テストのすべての Load Generator にグローバルに適用されます。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(23ページ)
参照情報	「プロジェクトの設定の概要」(22ページ)

［実行オプション］＞［モニタ］

トランザクション・モニタをアクティブにし，トランザクション・データの動作を設定し，オンライン・モニタのデータ・サンプリング頻度，デバッグ，周波数設定を設定できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
トランザクション・データ	トランザクション，データ・ポイント，および Web リソースの各オンライン・グラフ用のデータの動作を設定します。 • **トランザクション・モニタを有効にする**: オンライン仮想ユーザ・トランザクション・モニタを有効にして，テスト実行の開始時にトランザクションの監視を開始するには，このオプションを選択します。 **情報のサンプリング頻度 (秒) <>**: オンライン・モニタがデータをサンプリングして，トランザクション，データ・ポイント，Web リソースの各オンライン・グラフを作成する頻度 (秒単位) を選択します。 頻度が高いほど，ネットワーク・トラフィックが少なくなります。データは定義された頻度の期間で平均化され，ただ 1 つの値が Controller に送信されます。 **標準設定値**: 5 秒 **例**: • 小さなテストでは，頻度 1 を使用してください。 • 大きなテストでは，頻度 3 ～ 5 を使用してください。 **注**: テスト実行中にこれらの設定を変更できません。モニタを非アクティブ化するか，頻度を変更する前に，テスト実行を停止する必要があります。
情報をモードで送信	データを Controller に返信する方法を指定します。 • **サマリ**: トランザクション・データのサマリを Controller に返信します。 • **未処理データ**: トランザクション・データをすべて未処理形式で Controller に返信します。未処理データを送信すると，データを処理する必要がないため，時間を節約できます。 **注**: [未処理データ] を選択した場合，Controller に転送されるデータ量によって，より多くのネットワーク・トラフィックが発生する可能性があります。転送速度が重要な場合は，[**サマリ**] を選択してください。

UI要素	説明
サーバ・リソース・モニタ	サーバ・リソース・モニタの動作を設定します。 • **データ・サンプリング頻度**: 連続して行われるデータ・サンプリングの間の時間(秒)です。標準設定では, オンライン・モニタは3秒の間隔でデータをサンプリングします。サンプリング頻度を大きくすると, データの監視頻度が減ります。この設定はすべてのグラフに適用されます。 **注:** • ここで設定したサンプリング頻度は, その後アクティブにするすべてのサーバ・モニタに適用されます。すでにアクティブにされているサーバ・モニタには適用されません。新しいサンプリング頻度をアクティブになっているサーバ・モニタに適用するには, パフォーマンス・テストを保存してから再度開きます。 • 各タイプのモニタには, 異なる最小サンプリング頻度が設定されています。標準設定のサンプリング頻度またはここで設定されている頻度がモニタの最小サンプリング頻度より小さい場合, モニタはその最小サンプリング頻度でデータをサンプリングします。たとえば, Oracle モニタの最小サンプリング頻度は10秒です。ここでデータ・サンプリング頻度が10秒未満に設定されている場合, Oracle モニタは10秒の間隔でデータを監視し続けます。
デバッグ	• **デバッグ・メッセージを表示する**: オンライン・モニタはデバッグ機能を提供します。デバッグ・メッセージを出力ウィンドウに表示するには, このオプションを選択します。 • **デバッグ・レベル**: ネットワーク・モニタの場合, ログに送信するメッセージのデバッグ(詳細)レベルを1 ～ 9の範囲で指定できます。

[実行オプション] > [実行環境の設定]

仮想ユーザ・クォータ, 仮想ユーザの停止時, およびランダム・シーケンス・シードに関連するテストの実行環境の設定を指定して, システムに負荷がかかりすぎるのを防止し, 仮想ユーザが実行を停止する方法を制御できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
仮想ユーザ・クォータ	仮想ユーザ・クォータは，システムに負荷がかかりすぎるのを防止し，すべてのLoad Generatorの仮想ユーザに適用されます。 **すべてのLoad Generatorで同時に初期化できる仮想ユーザ数**:一度に初期化できる仮想ユーザ数を制限します(初期化コマンドの送信時)。 **標準設定値**:999
仮想ユーザの停止時	テスト実行を手動で停止時に仮想ユーザが実行を停止する方法を制御します。 • **停止前に現在の反復終了まで待機する**:(標準設定オプション)停止前に仮想ユーザが実行中の反復を完了します。仮想ユーザは[**徐々に終了**]ステータスに移行し，段階的にテスト実行を終了します。 • **停止前に現在のアクション終了まで待機する**:停止前に仮想ユーザが実行中のアクションを完了します。仮想ユーザは[**徐々に終了**]ステータスに移行し，段階的にテスト実行を終了します。 • **直ちに停止する**:仮想ユーザは直ちに実行を停止して，[**終了中**]ステータスに移行し，直ちにテスト実行を終了します。
ファイル・タイプ・パラメータのランダム・アドバンス・モード	• **シード付きのランダム・シーケンスを使用する**:ランダム・シーケンスのシード数を設定できます。テストの実行中に問題が発生して，同じシーケンスのランダム値を使用してテストを繰り返す場合，このオプションを選択します。 • **シードを使用する<#>**:各シード値は，テストの実行に使用されるランダム値の1つのシーケンスを表します。このシード値を使用するときは，常に同じシーケンスの値がテスト内の仮想ユーザに割り当てられます。 この設定は，データ・ファイルから値を割り当てるためにRandomメソッドを使用しているパラメータ化された仮想ユーザ・スクリプトに適用されます。記録された思考遅延時間の乱数率(『HP Virtual User Generator ユーザーズ・ガイド』の[実行環境の設定]ダイアログ・ボックスの情報を参照)にも影響します。

[実行オプション] > [タイムアウト]

Performance Centerのさまざまなコマンドのタイムアウトを設定できます。Controllerからコマンドが発行されたら，コマンドを実行するためのLoad Generatorまたは仮想ユーザの最大時間を設定できます。時間制限内にコマンドが完了しない場合，Controllerはエラー・メッセージを発行します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
コマンド・タイムアウト(秒)	**タイムアウトをチェックする**: 次に示すように, Load Generator と仮想ユーザのタイムアウトをチェックできます。 **注:** このオプションを選択しない場合, ALM は, Load Generator による接続と切断, および初期化, 仮想ユーザの開始, 期間, 仮想ユーザの停止の各アクションが実行されるのを無期限に待機します。
Load Generator	Load Generator のタイムアウト制限: • **接続操作(秒)**: 任意の Load Generator に接続するまでに待機する時間(秒)です。この時間内に接続が成功しない場合, Load Generator のステータスは[**失敗**]になります。 **標準設定の接続タイムアウト**: 30 秒 • **切断操作(秒)**: 任意の Load Generator から切断するまで待機する時間です。Load Generator がこの時間内に切断しない場合, Load Generator のステータスは[**失敗**]になります。 **標準設定の切断タイムアウト**: 120 秒
仮想ユーザ	仮想ユーザのタイムアウト制限: • **初期化ステージ(秒)**: 初期化アクションのタイムアウト値。 **標準設定のタイムアウト制限**: 180 秒 • **実行ステージ(秒)**: 仮想ユーザの開始アクションのタイムアウト値。 **標準設定のタイムアウト制限**: 120 秒 • **一時停止ステージ(秒)**: 期間アクションのタイムアウト値。 **標準設定のタイムアウト制限**: 120 秒 • **停止ステージ(秒)**: 仮想ユーザの停止アクションのタイムアウト値。 **標準設定のタイムアウト制限**: 120 秒 **注:** 計算では, アクティブな仮想ユーザ数とそのタイムアウト値への影響が考慮されます。たとえば, 1000 個の仮想ユーザが初期化を試行している場合, 10 個の仮想ユーザより時間がかなりかかります。アクティブな仮想ユーザ数に基づいて, 指定したタイムアウト値に内部値が追加されるためです。

[実行オプション] > [デバッグ情報]

テスト実行中にトレースする情報のタイプを選択できます。ここでの選択に応じて，トレース・ファイルが作成され，デバッグ目的での情報の収集に使用されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
次のトレースを有効にする	発生しているパフォーマンス・テストの問題に関連するトレース・フラグ: • **一般**: テスト実行中に一般トレースを実行します。 • **ファイル転送**: テスト実行中にファイルの転送に関わる問題をトレースします。 • **受信**: テスト実行中に受信をトレースします。 • **送信**: テスト実行中に送信をトレースします。 **注:** Performance Center エージェントと Controller は，仮想ユーザに送信されるパラメータ・ファイル，出力コンパイル・ファイル，設定ファイルなどの情報を収集するいくつかの一時ファイルを作成します。Performance Center エージェントのファイルは，エージェント・マシンの **TMP** または **TEMP** ディレクトリの **brr** フォルダに保存されます。Controller のファイルは，Controller マシンの **TMP** または **TEMP** ディレクトリの **lrr** フォルダに保存されます。テスト実行の最後に，これらのファイルはすべて自動的に削除されます。

[実行オプション] > [一般]

IP スプーフィングを有効にした場合に，マルチ IP アドレスを割り当てるモードを選択できます。また，パフォーマンス・テスト・デザイナ・ウィンドウに詳細な警告を表示することもできます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
マルチ IP アドレス・モード	Controller は，次のいずれかの方法で IP アドレスを割り当てることができます。 • **プロセスごとに IP アドレスを割り当てる**: プロセスごとに IP アドレスを割り当てます。 • **スレッドごとに IP アドレスを割り当てる**: スレッドごとに IP アドレスを割り当てるため，テスト実行における IP アドレスの範囲がより多様になります。 **例:** • Web 仮想ユーザには，プロセスごとに IP アドレスを割り当てる必要があります。 • WinSock 仮想ユーザの IP アドレスは，スレッドまたはプロセスごとに割り当てることができます。
詳細警告	パフォーマンス・テスト・デザイナ・ウィンドウの[メッセージ]表示枠に詳細な警告を表示します。

[実行結果]>[照合設定]

実行結果の照合に関連する動作を指定できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
出力メッセージ・データベース	• **次の値より小さい場合に output.mdb を RawResults.zip に追加**: 照合プロセスは，サイズが指定した **RawResults.zip** ファイルのサイズより小さい場合にのみ，**output.mdb** を **RawResults.zip** に追加します。 • **output.mdb を RawResults.zip から常に除外**: 照合プロセスは，**output.mdb** を **RawResults.zip** から常に除外します。
タイムアウト	• **照合タイムアウト(分)**: 照合プロセスが進捗なしに実行を継続する必要がある最大の時間。 • **診断の照合タイムアウト(分)**: 結果と診断データの照合時に，照合プロセスが進捗なしに実行を継続する必要がある最大の時間。

第4章: メンテナンス・タスク

本章の内容

- メンテナンス・タスクの概要 45
- メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース 46

メンテナンス・タスクの概要

サーバ側のテストをALMで実行するには，ラボ・システムが起動し，正常に動作している必要があります。自動メンテナンスのスケジュールを指定しておくと，主要なシステム・コンポーネントを定期的に監視し，システム障害を検出することができます。システムのステータス・チェックには，メンテナンス・タスク・モジュールを使用します。

次の表では，メンテナンス・タスクについて説明します。

UI要素	説明
Check Host Task	ホストのインストールを確認し，ホストのステータスを[**稼働中**]または[**非稼働**]に更新します。 **標準設定の頻度**: 24時間ごと
Data Processor Task	次のアクションのいずれかのデータ処理キューを設定，更新します。テスト実行の分析，SLAの再計算，またはテスト実行のトレンド・レポートへの追加。 **標準設定の頻度**: 1分ごと
Handle Non Polling Functional Hosts	登録済みのすべての機能テスティング・ホストを対象に，[最終ポーリング時刻]フィールドをチェックします。長期間アクティブになっていないテスティング・ホストを検出すると，ステータスを[**アイドル**]または[**非稼働**]に変更します。
OFW Status Update Task	ファイアウォール越しのホストの実際のステータス([**稼働中**]または[**非稼働**])を更新します。 **標準設定の頻度**: 15分ごと
Orphan Run Task	アクティブなタイムスロット中と外で孤立したテスト実行を識別します。 **標準設定の頻度**: 15分ごと

UI 要素	説明
Resource Recovery Task	[**非稼働**]状態のControllerとLoad Generatorで，定義済みの検証テストを実行します。ホストがテストに成功した場合，ステータスが[**稼働中**]に変わります。 • **Controller の検証テスト**：OTA 接続，実行機能，利用可能なディスク領域をテストします。 • **Load Generator の検証テスト**：エージェントへの接続をテストします。 タスクのパラメータは次のガイドライン以内である必要があります。 • **MIN_APPLICATION_DIR_DISK_SPACE**：10 ～ 1000 • **CHECK_LG_TIMEOUT**：1 ～ 15 • **MAX_RETRIES**：1 ～ 1000 **標準設定の頻度**：15 分ごと **注：** ファイアウォール越しの Load Generator の場合，これは OFW ステータス更新タスクによって実行されます(上記を参照)。
Result Cleaning Task	次のインスタンスで，Controller または Load Generator からのテスト実行結果をクリーニングします。 • 結果がすでに照合済みの場合。 • 結果が照合されていない古いパフォーマンス・テストがある場合。 • パフォーマンス・テストが削除済みの場合。 **RESULT_EXPIRY_DAYS** タスク・パラメータには，1～1000 の値を指定します。 **標準設定の頻度**：6 時間ごと
Synchronize Lab and SA times	ラボ管理とサイト管理者の時刻の差異を検出し，**DATACONST** テーブルの **SA_LAB_TIME_DIFF_MILLIS** パラメータに設定します。

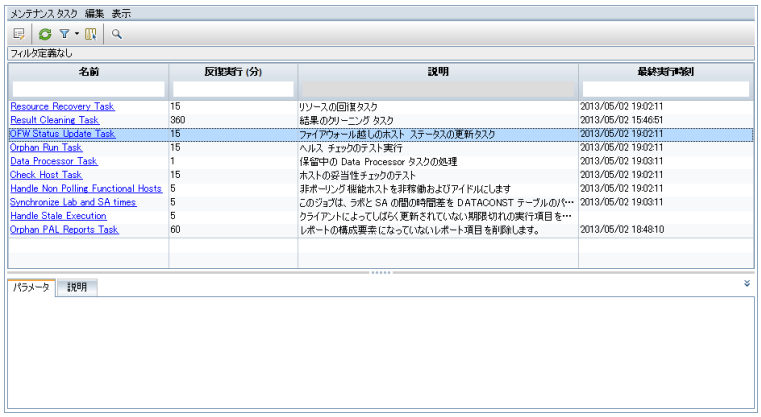
メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース

本項の内容

• メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ 47
• メンテナンス・タスクのフィールド 48
• メンテナンス・タスクのメニューとボタン 48
• [メンテナンスタスクの詳細]ダイアログ・ボックス 50

メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ

このモジュールには，システムによって実行されたメンテナンス・タスクに関する情報が表示されます。



アクセス方法	サイドバーの[**ラボ設定**]で，[**メンテナンス タスク**]を選択します。
参照情報	「メンテナンス・タスクの概要」(45ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<[メンテナンス タスク]タブの UI 要素>	• **メンテナンス・タスクのフィールド**：フィールドの定義については，「メンテナンス・タスクのフィールド」(48ページ)を参照してください。 • **メンテナンス・タスクのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「メンテナンス・タスクのメニューとボタン」(48ページ)を参照してください。 • **ALM メイン・メニューとサイドバー**：[**ツール**]メニュー，[**ヘルプ**]メニュー，サイドバーの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<メンテナンス・タスクのグリッド>	メンテナンス・タスクのリストが表示されます。詳細については，「メンテナンス・タスクの概要」(45ページ)を参照してください。
[パラメータ]タブ	選択したメンテナンス・タスクのパラメータ情報が表示されます。 テキスト・ボックス内で右クリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
[説明]タブ	選択したメンテナンス・タスクの説明が表示されます。

メンテナンス・タスクのフィールド

[メンテナンス タスク]タブでは，次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
説明	メンテナンス・タスクの説明。
ID	メンテナンス・タスクの ID。
最終実行時刻	メンテナンス・タスクを最後に実行した時刻。
名前	メンテナンス・タスクの名前。メンテナンス・タスクのタイプのリストについては，「メンテナンス・タスクの概要」(45ページ)を参照してください。
反復実行(分)	メンテナンス・タスクの頻度。

メンテナンス・タスクのメニューとボタン

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	場所	説明
URL のコピー	[メンテナンス タスク]と<右クリック・メニュー>	選択したメンテナンス・タスクをコピーして，その URL をリンクとして貼り付けます。タスク自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し，タスク・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
エクスポート	[メンテナンス タスク]と<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのタスクをテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**：グリッドのすべてのタスクをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**：グリッドの選択したタスクをエクスポートします。

UI要素	場所	説明
検索	表示	［検索］ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでタスクを検索できます。検索オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
メンテナンス・タスクに移動	メンテナンス・タスク	［メンテナンスタスクに移動］ダイアログ・ボックスが開き，ID番号で特定のタスクを検索できます。現在のフィルタで利用可能なタスクにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	［表示］と<右クリック・メニュー>	［フィルタ］ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	［表示］と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある［情報パネル］を表示/非表示にします。
メンテナンス・タスクの詳細	［メンテナンスタスク］と<右クリック・メニュー>	［メンテナンスタスクの詳細］ダイアログ・ボックスが開き，タスクの詳細を表示，編集できます。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
置換	［編集］と<右クリック・メニュー>	グリッドに［置換］ダイアログ・ボックスを開き，グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	［カラムの選択］ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 システムのヘルスのフィールドの詳細については，「メンテナンス・タスクのフィールド」(48ページ)を参照してください。

UI要素	場所	説明
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のタスクに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	［編集］と<右クリック・メニュー>	［選択項目の更新］ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

［メンテナンス タスクの詳細］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，選択したメンテナンス・タスクの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	1. サイドバーの［**ラボ設定**］で，［**メンテナンス タスク**］を選択します。 2. グリッドでメンテナンス・タスクを選択し，［**メンテナンス タスクの詳細**］ボタンをクリックします。
参照情報	• 「メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ」(47ページ) • 「メンテナンス・タスクのフィールド」(48ページ) • 「メンテナンス・タスクの概要」(45ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：ホストのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。

UI要素	説明
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
[詳細]タブ	現在選択されているメンテナンス・タスクの詳細が表示されます。詳細については，「メンテナンス・タスクのフィールド」(48ページ)を参照してください。
[説明]タブ	選択したメンテナンス・タスクの説明が表示されます。
[パラメータ]タブ	パラメータ，パラメータの値と説明をグリッドに表示します。詳細については，「メンテナンス・タスクの概要」(45ページ)を参照してください。

第5章: クラウド設定

本章の内容

- クラウド・ホストの概要 53
- クラウド・ホストの設定方法 54
- クラウドの初期設定 55
- クラウド・アカウント 67
- ホスト・テンプレート 83
- ホストのプロビジョニング 95
- クラウド・リソースの監視 106

クラウド・ホストの概要

ソフトウェア・アプリケーションのテストには，大量のリソースが必要になることがあります。特にパフォーマンス・テストには，負荷を生成する複数のホストとコントローラを使用し，テスト結果の照合機能などを備えた大規模なラボ環境が必要になることがあります。したがって，必要なホスト数がテスト・ラボの限界を超えてしまうケースや，社内ではラボ環境を保守しないことを選択するケースも考えられます。いずれの場合も，Amazon EC2 や Microsoft Azure などのクラウド・プロバイダを利用することによって，それぞれのニーズに合ったテスティング・ホストをオンデマンドで使用できるようになります。このようなクラウド・リソースを最大限に活用することを目的に，ALM ではクラウド・アカウントとの統合に対応しています。

注:

- HP ALM がサポートできるのは，Performance Center Load Generator のプロビジョニングのみです。
- HP ALM と統合できるのは，Microsoft Azure および Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。
- クラウドベースの Load Generator は，外部 AUT のテストに最適です。

クラウド・ホストを使用するメリット

ALM でクラウド・ホストを使用することには，次のようなメリットがあります。

- 必要なときだけにテスティング・ホストをプロビジョニングできる。
- クラウド・プロビジョニングをプロジェクト単位で管理できる。各プロジェクトに，必要なクラウド・リソースのみへのアクセスを割り当てることができる。
- QA テスト担当者は，事前に承認されたテスティング・ホストのプロビジョニングを行うことができるので，クラウド・アカウントに直接アクセスする必要がない。
- プロジェクトにクレジットを割り当てることによって，クラウド・ホストの使用を調整できる。
- クラウド・ホストの使用状況レポートに基づいて，クラウド・リソースの消費を管理できる。

ALM でのクラウド・ホストの使用

ALM でクラウド・ホストを使用するには，次の作業が必要です。

段階	説明	詳細情報
クラウドの初期設定	クラウド・プロバイダにアカウントを設定し，クラウド・プロバイダの資格情報を取得します。次に，ALM からクラウド・プロバイダへの通信を設定し，クラウドベースの Load Generator との通信に使用するネットワーク設定を行います。	「クラウドの初期設定の概要」(56ページ)
クラウド・アカウントの追加	クラウド・プロバイダにアカウントを設定したら，ALM でもクラウド・アカウントを設定します。ALM でクラウド・アカウントを設定する際，クラウド・プロバイダの資格情報の入力，プロジェクトとアカウントの関連付け，プロビジョニングするホストが消費可能なクラウド・クレジットの総数の指定を行います。	「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)
ホスト・テンプレートの定義	ホスト・テンプレートは，プロビジョニング関連の情報(インスタンス・タイプ，領域，ハードウェア仕様，ソフトウェア・イメージなど)の定義に使用されます。標準設定のホスト・テンプレートを使用する方法と，独自のテンプレートを作成する方法があります。ALM は，選択されたテンプレートの詳細情報を使用してホストをプロビジョニングします。 **注:** Microsoft Azure クラウド・アカウントには標準設定テンプレートは使用できません。テンプレートを作成する必要があります。	「ホスト・テンプレートの概要」(84ページ)
クラウド・ホストのプロビジョニング	プロビジョニングとは，クラウド上にマシンを作成する操作をクラウド・プロバイダに要求するプロセスです。マシンの定義には，選択したクラウド・アカウントとホスト・テンプレートが使用されます。マシンの数と場所はユーザが選択できます。また，選択したアカウントのクレジットの残高確認も可能です。	「ホストのプロビジョニングの概要」(96ページ)
リソース使用状況の監視	クラウド・ホストのプロビジョニングが完了したら，クラウド・リソースの使用状況を分析および監視できます。これには，使用状況レポートを作成する方法と，警告と通知を送信する方法があります。	「クラウド・リソースの監視の概要」(107ページ)

ALM でクラウド・ホストを設定する方法の詳細については，「クラウド・ホストの設定方法」(54ページ)を参照してください。

クラウド・ホストの設定方法

このタスクでは，ALM でのクラウド・ホストの設定方法を説明します。

1. クラウドと通信するための最初のステップを実行します。タスクの詳細については,「クラウド通信の初期設定」(61ページ)を参照してください。
2. ALM にクラウド・アカウントを追加します。タスクの詳細については,「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)を参照してください。
3. 標準設定のホスト・テンプレートを使用するか, 追加のホスト・テンプレートを作成します。Microsoft Azure では, ホスト・テンプレートを作成する必要があります。タスクの詳細については,「ホスト・テンプレートを管理する方法」(85ページ)を参照してください。
4. クラウド・ホストをプロビジョニングします。タスクの詳細については,「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(96ページ)を参照してください。
5. クラウド警告を設定し, 使用状況レポートを生成して, クラウド・リソースの消費を監視します。タスクの詳細については,「クラウド警告の構成方法」(107ページ)および「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)を参照してください。

クラウドの初期設定

本項の内容

- クラウドの初期設定の概要 56
- クラウド通信の初期設定 61
- クラウド・ネットワークの設定方法 63
- デジタル証明書を作成する方法 64
- [クラウド ネットワーク設定]ダイアログ・ボックス 66

クラウドの初期設定の概要

クラウド・プロバイダとの通信の初期設定では，クラウド・プロバイダにアカウントを作成し，クラウド・プロバイダの資格情報を取得する必要があります。次に，ALM からクラウド・プロバイダへの通信を設定し，クラウドベースの Load Generator との通信に使用するネットワーク設定を行います。

クラウド・プロバイダでのアカウント作成

最初に，クラウド・プロバイダ・サービスを使用するためのクラウド・プロバイダ・アカウントを作成する必要があります。クラウドにリソースを格納しアクセスするために，資格情報を次のように指定する必要があります。

- Amazon EC2：アクセス・キー，秘密キー，アカウント番号
- Microsoft Azure：サブスクリプション ID， 証明書ファイル

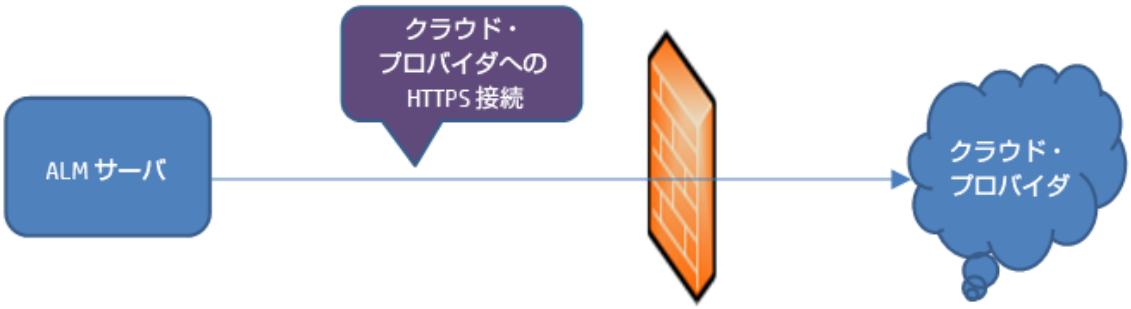
> **注：** HP ALM と統合できるのは，Microsoft Azure および Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。

クラウド・プロバイダ・アカウントの作成に関する詳細は，クラウド・プロバイダが提供するドキュメントを参照してください。

クラウド・プロバイダとの通信

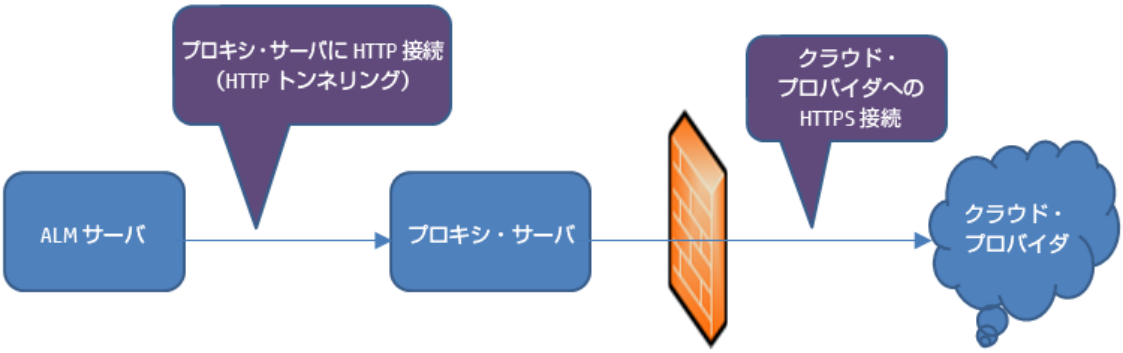
クラウド・プロバイダとの通信では，直接通信とプロキシ経由の通信のいずれかを選択できます。

次の図は，クラウド・プロバイダとの直接通信を示しています。



ALM サーバが通信を開始し，企業ファイアウォールを経由してクラウド・プロバイダに通信します。ポートが開くのは，発信要求のみです。

次の図は，プロキシ・サーバを経由したクラウド・プロバイダとの通信を示しています。



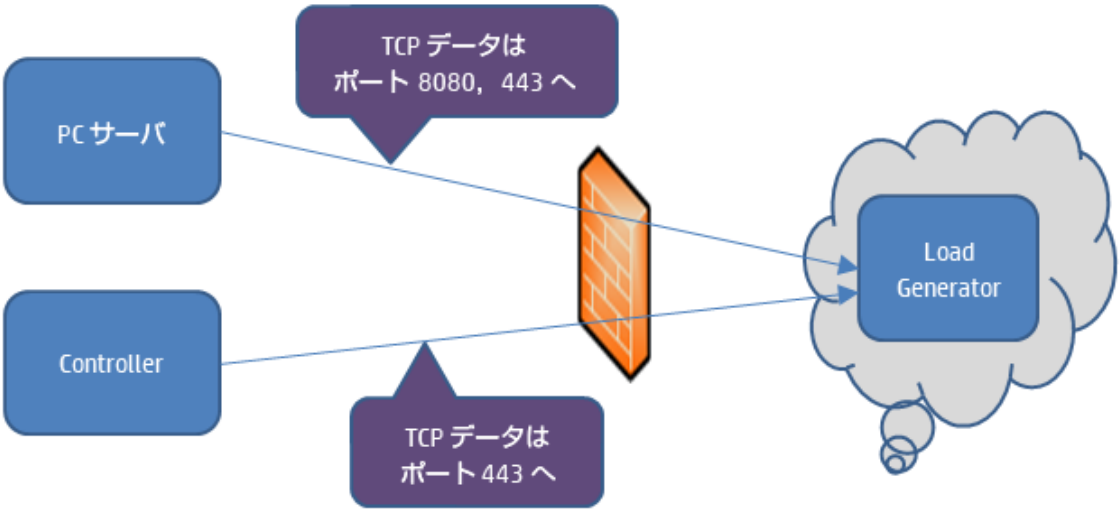
ALM サーバが，HTTP トンネリングを使用して，定義されたプロキシ・サーバとの通信を開始します。プロキシ・サーバは企業ファイアウォールを経由して，発信要求をクラウド・プロバイダに転送します。

クラウドベースの Load Generator との通信

クラウドベースのホストとの通信では，直接通信とプロキシ経由の通信のいずれかを選択できます。

> **注:**
> - プロキシ経由の場合は SSL(Secure Socket Layer) が必要です。
> - HP ALM がサポートできるのは，Performance Center Load Generator のプロビジョニングのみです。

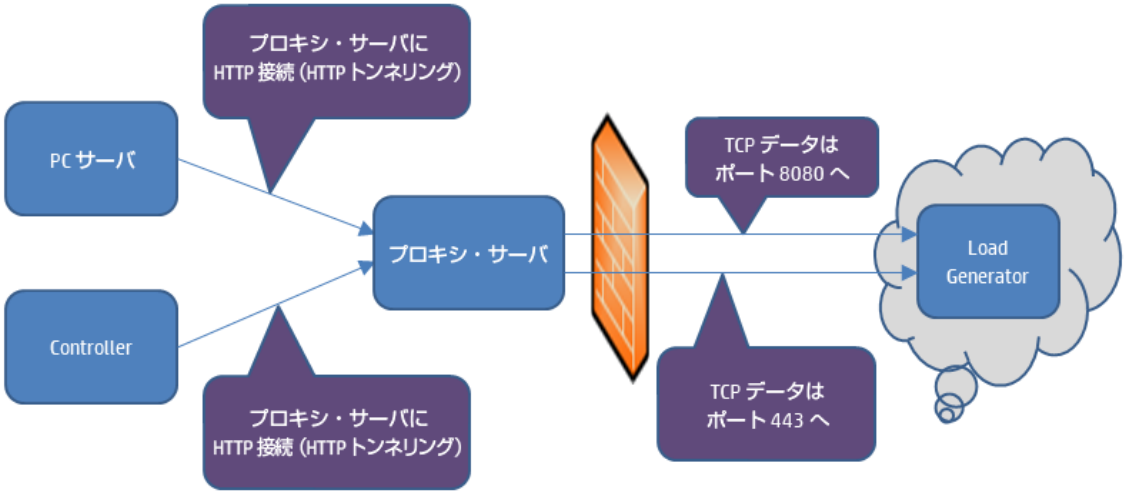
次の図は，クラウドベースの Load Generator との直接通信を示しています。



Performance Center サーバと Controller が通信を開始し，ファイアウォールを経由してクラウドベースの Load Generator に接続します。データはポート経由で転送され，TCP

(Transmission Control Protocol) が使用されます。ポートは発信要求に対して開かれます。ポートは再設定が可能です。

次の図は，プロキシ・サーバを経由したクラウドベースの Load Generator との通信を示しています。



Performance Center サーバと Controller が通信を開始し，定義したプロキシ・サーバに接続します。Performance Center サーバと Controller からプロキシ・サーバへの通信には HTTP トンネルが使用されます。プロキシ・サーバはファイアウォールを経由して，データを TCP ポートからクラウドベース Load Generator に転送します。

> **注:** コントローラとクラウドベース Load Generator との間は SSL がサポートされています。

セキュリティ設定

クラウド・プロバイダに関連するその他のセキュリティ機能。

機能	説明
セキュリティ・グループ	一般的に，ローカル・ネットワーク上のホストへのアクセスはファイアウォールによって制御しますが，クラウド・ホストへのアクセスの制御にはセキュリティ・グループを使用します。セキュリティ・グループでは，使用を許可するプロトコル，クラウド・ホストに対する受信トラフィックと送信トラフィックで開くポートが定義されています。受信トラフィックについては，アクセスを1つまたは複数のIPアドレスに限定することができます。 **例:** クラウド・ホストにはリモート・デスクトップ経由で接続する必要があります。したがって，TCPポート3389(RDP)経由で受信トラフィックを転送できるようにセキュリティ・グループを設定します。ただし，外部からの不正アクセスを防止するために，会社のIPアドレスへのアクセスのみを許可します。 セキュリティ・グループはクラウド・プロバイダのWebサイトで設定し，領域ごとに個別に作成する必要があります。セキュリティ・グループは必要に応じて作成でき，クラウド・プロバイダが設定した最大数が上限となります。クラウド・ホストのプロビジョニング時にセキュリティ・グループを選択すると，ホストが停止するまでそのセキュリティ・グループが適用されます。 **注:** Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

機能	説明
キー・ペア	公開イメージから作成されたクラウド・ホストにリモート接続するには，キー・ペアが必要になります。 キー・ペアとは，公開キーと秘密キーのペアです。公開キーはクラウド・ホストに保管され，秘密キーはコンピュータまたはネットワーク上にローカルに保管されます。 **注意:** 新しいキー・ペアを作成すると，プロンプトに従って公開キーを保存します。保存先には安全な場所を選択してください。公開キーがないと，ホストにログインできなくなります。 秘密キーは，Windows ホストと Linux ホストでは異なる方法で使用します。 **Windows ホスト**: Windows ホストへのリモート接続には，管理者パスワードが必要です。秘密キーをアップロードすると，管理者パスワードがクラウド・プロバイダの Web サイトで作成されます。 **Linux ホスト**: Linux ホストへの接続には秘密キーをそのまま使用します。 キー・ペアはクラウド・プロバイダの Web サイトで作成され，領域ごとに個別に作成する必要があります。キー・ペアは，テスト・チームごとに必要に応じて作成でき，クラウド・プロバイダが設定した最大数が上限となります。クラウド・ホストのプロビジョニング時にキー・ペアを選択すると，ホストが停止するまでそのキー・ペアが適用されます。 **注:** カスタム・イメージからホストのプロビジョニングを行う場合，管理者パスワード(Windows マシン)または公開キー(Linux マシン)は，イメージが作成されたコンピュータから取得されます。管理者パスワードまたは秘密キーが必要な場合は，カスタム・イメージの管理担当者に問い合わせてください。 **注:** Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

機能	説明
エラスティック IP アドレス	このクラウド・プロバイダ機能では，プロビジョニングするホストの静的な IP アドレスを定義できます。ファイアウォールの設定を開く際にエラスティック IP アドレスを使用すると，ホストマシンをプロビジョニングするときに毎回異なる IP アドレスを使用する必要がありません。そうするには，ファイアウォール・アクセスを割り当てる IP アドレスの静的なプールを作成し，自分のアカウント専用に予約しておきます。この IP アドレスのプールは，明示的に解放するまで，自分のクラウド・アカウントに関連付けられたままになります。 **注:** Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。
証明書ファイル	証明書は，Windows Azure のセキュリティ機能において重要なコンポーネントです。 アプリケーションやサービスのセキュリティ保護では，主にサービス証明書と管理証明書の 2 つを使用します。 ALM で使用するサービス証明書として，Personal Information Exchange(.pfx) 形式の Windows Azure サービス証明書が必要です。 X.509(.cer) 形式の Windows Azure 管理証明書を取得し，Azure にアップロードする必要があります。 **注:** Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。

セキュリティ・グループ，キー・ペア，エラスティック IP アドレス，証明書ファイルの詳細については，クラウド・プロバイダが提供するドキュメントを参照してください。

通信の初期設定に関するタスクの詳細については，「クラウド通信の初期設定」(61ページ)を参照してください。

クラウド通信の初期設定

このタスクでは，クラウドとの通信を設定する上で最初に必要になる作業について説明します。

概要については，「クラウドの初期設定の概要」(56ページ)を参照してください。

注: このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「クラウド・ホストの設定方法」(54ページ)を参照してください。

1. **クラウド・プロバイダでのアカウント作成**
   a. クラウド・プロバイダ・サービスに登録し，アカウントを作成します。
   b. 次のクラウド証明書を取得します。
      i. Amazon EC2: アクセス・キー，秘密キー，アカウント番号
      ii. Microsoft Azure: サブスクリプション ID， 証明書ファイル

   > **注:** HP ALM と統合できるのは，Microsoft Azure および Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。

2. **ALM サーバからクラウド・プロバイダへのクラウド通信の定義**

   外側のネットワークとの通信にプロキシ・サーバを使用する場合は，[クラウド ネットワーク設定]ダイアログ・ボックスでプロキシの設定を定義します。タスクの詳細については，「クラウド・ネットワークの設定方法」(63ページ)を参照してください。

3. **クラウドベースの Load Generator との通信の定義**

   タスクの詳細については，「クラウド・ネットワークの設定方法」(63ページ)を参照してください。

4. **Amazon EC2 クラウド・アカウント向けに，クラウド・プロバイダ側でのセキュリティ設定の定義。**
   a. クラウド・プロバイダ・コンソールから，セキュリティ・グループを作成します。クラウドベース Load Generator との通信用に定義されたポートが開いている必要があります。セキュリティ・グループのルールの詳細については，『HP ALM ラボ管理トラブルシューティング・ガイド』を参照してください。

      セキュリティ・グループの詳細については，クラウド・プロバイダが提供するドキュメントを参照してください。
   b. キー・ペアを作成します。
   c. エラスティック IP アドレスを使用する場合には，エラスティック IP アドレスを割り当て，発信トラフィックが企業ファイアウォールを通過できるように設定してください。

5. **Microsoft Azure クラウド・アカウント用クラウド・プロバイダのセキュリティ設定の定義**
   a. JDK の強度を[**無制限**]に設定してください。適切なバージョンの Java Cryptography Extension を java.sun.com からダウンロードします。local_policy.jar ファイルと，JRE の US_export_policy.jar ファイルを置換します。jar ファイルは標準設定では C:\Program Files\HP\ALM\java\jre\lib\security にあります。
   b. ALM で使用する Personal Information Exchange(.pfx) 形式の Windows Azure サービス証明書を作成します。
   c. X.509(.cer) 形式の Windows Azure 管理証明書を作成し，Azure にアップロードします。

クラウド・ネットワークの設定方法

本項では，ALMからクラウド・プロバイダへの通信と，クラウドベースのLoad Generatorとの通信に使用するクラウド・ネットワークを設定する方法を説明します。

概要については，「クラウドの初期設定の概要」(56ページ)を参照してください。

> **注:** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「クラウド通信の初期設定」(61ページ)を参照してください。

1. **SSL(Secure Socket Layer)を使用する場合の前提条件**

   クラウドベースのLoad GeneratorでSSLを有効にするには，証明機関(CA)とデジタル証明書を作成し，作成したファイルをALM，Performance Centerサーバ，Controllerに保管する必要があります。証明書の作成の詳細については，「デジタル証明書を作成する方法」(64ページ)を参照してください。

2. **[クラウド ネットワーク設定]ダイアログ・ボックスを開く**

   ラボ管理 のマストヘッドで，⚙をクリックして[**クラウド ネットワーク設定**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[クラウド ネットワーク設定]ダイアログ・ボックス」(66ページ)を参照してください。

   > **注:** Performance Centerサーバが作成されていない場合，[クラウド ネットワーク設定]オプションは使用できません。Performance Centerサーバの作成の詳細については，「Performance Centerサーバを管理する方法」(297ページ)を参照してください。

3. **ALMからクラウド・プロバイダへの通信を有効化**

   a. [**プロキシ設定**]で**プロキシ・サーバ**のURL(`http[s]://server[:8080]`という形式)を入力します。

   b. プロキシ・サーバへの接続権限を持つユーザの**ユーザ名**と**パスワード**を入力します。

4. **クラウドベースのLoad Generatorとの通信を有効化**

   a. [**Performance Center 通信設定**]で通信モードを定義します。標準設定では，[**Load Generatorとの通信にプロキシ サーバを使用**]と[**Load Generatorとの通信にSSLを使用**]が選択されます。プロキシ経由で通信する場合はSSLが必要です。

   b. **Performance Centerエージェント・サービスのポート**番号を入力します。このポートは，Load Generatorで仮想ユーザを実行する際に使用します。発信要求に対してポートが開くことを確認してください。

   c. **リモート管理エージェント・サービスのポート**番号を入力します。このポートは，ラボ管理の操作で使用されます。発信要求に対してポートが開くことを確認してください。

デジタル証明書を作成する方法

このタスクでは，証明機関とデジタル証明書を作成する方法を説明します。作成した証明機関とデジタル証明書は，クラウドベースのLoad Generatorとの通信でセキュリティを確保するSSL(Secure Socket Layer) で使用します。

概要については，「クラウドの初期設定の概要」(56ページ)を参照してください。

> **注:** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「クラウド・ネットワークの設定方法」(63ページ)を参照してください。

1. **証明機関(CA) の作成**

> **注:** ここでは，**gen_ca_cert.exe** ユーティリティでCAを作成する方法を説明します。Linuxプラットフォームの場合は **gen_ca_cert** ユーティリティを使用してください。

CAを作成するには，次の手順を実行します。

a. **gen_ca_cert** ユーティリティを**＜LoadRunner ルート・フォルダ＞\bin** フォルダから実行します。

b. 次のいずれかのオプションを指定して，**gen_ca_cert** コマンドを実行します。
   - -country_name
   - -organization name
   - -common_name

   これにより，ユーティリティを実行したフォルダ内に，CA証明書(**cacert.cer**) とCA秘密キー(**capvk.cer**) の2つのファイルが作成されます。

   > **注:** 標準設定では，CAの有効期限は作成時から3年間です。有効期限を変更するには，**-nb_time**(有効期限の開始日) と **-na_time**(有効期限の終了日) をそれぞれ使用してください。

   次のサンプル・コマンドを実行すると，現在のフォルダに **ca_igloo_cert.cer** と **ca_igloo_pk.cer** の2ファイルが作成されます。

```
gen_ca_cert - country_name "North Pole" -organization_name "Igloo Makers" -
common_name "ICL" -CA_cert_file_name "ca_igloo_cert.cer" - CA_pk_file_name "ca_
igloo_pk.cer" -nb_time 10/10/2013 -na_time 11/11/2013
```

c. 次のいずれかのオプションでCAをインストールします。
   - **-install ＜証明書ファイル名＞**: 既存のCAリストがあれば置換し，指定したCAのみを含むリストを新規作成します。
   - **-install_add ＜証明書ファイル名＞**: 新しいCAを既存のCAリストに追加します。

> **注:** `-install` オプションと `-install_add` オプションを指定すると，証明書ファイルのみがインストールされます。秘密キー・ファイルは安全な場所に保管し，証明書の発行時のみに使用するようにしてください。

2. **デジタル証明書の作成**

> **注:** ここでは，**gen_cert.exe** ユーティリティでデジタル証明書を作成する方法を説明します。Linux プラットフォームの場合は **gen_cert** ユーティリティを使用してください。

デジタル証明書を作成するには，次の手順を実行します。

a. **gen_cert** ユーティリティを**＜LoadRunner ルート・フォルダ＞\bin** フォルダから実行します。

b. 次のいずれかのオプションを指定して，**gen_cert** コマンドを実行します。
   - **-country_name**
   - **-organization_name**
   - **-organization_unit_name**
   - **-eMail**
   - **-common_name**

   コマンド実行では次の点に注意してください。
   - 証明書の作成には，CA 証明書ファイルと CA 秘密キー・ファイルが必要です。標準設定では，このファイルは現在のフォルダに作成され，ファイル名は **cacert.cer** と **capvk.cer** です。ファイル名と場所が異なる場合は，**-CA_cert_file_name** オプションと **-CA_pk_file_name** オプションをそれぞれ使用します。
   - 証明書ファイルは，ユーティリティを実行したフォルダ内に作成されます。標準設定のファイル名は **cert.cer** です。

3. **ALM，Performance Center，Controller への証明書のコピー**

a. **ALM: cert.cer** と **cacert.cer** を＜ALM デプロイメント・ディレクトリ＞\repository\sa\DomsInfo\Certificates にコピーします。

b. **Performance Center サーバ: cert.cer** を＜Performance Center サーバ・ディレクトリ＞\dat\cert にコピーし，**cacert.cer** を＜Performance Center サーバ・ディレクトリ＞\dat\cert\Verify にコピーします。

c. **Controller: cert.cer** を＜Performance Center ホスト・ディレクトリ＞\dat\cert にコピーし，**cacert.cer** を＜Performance Center ホスト・ディレクトリ＞\dat\cert\Verify にコピーします。

[クラウド ネットワーク設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，クラウドの初期設定を定義できます。これらの設定では，パフォーマンス・テストの実行のために，ALM とクラウドベースの Load Generator との通信を有効にします。

アクセス方法	**ラボ管理**のみ： ラボ管理のマストヘッドで，をクリックして[**クラウド ネットワーク設定**]を選択します。
関連タスク	• 「クラウド通信の初期設定」(61ページ) • 「クラウド・ネットワークの設定方法」(63ページ) • 「デジタル証明書を作成する方法」(64ページ) • 「クラウド・ホストの設定方法」(54ページ)
参照情報	• 「クラウドの初期設定の概要」(56ページ) • 「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)

プロキシ設定

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
プロキシ・サーバ	プロキシ・サーバの URL(`http[s]://server[:8080]` という形式)。
ユーザ名	プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザの名前(**Domain\username** という形式)。
パスワード	プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザのパスワード。

Performance Center 通信設定

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
Load Generator との通信にプロキシ・サーバを使用	上記の[プロキシ設定]セクションで指定したプロキシ情報に基づいて, Load Generator との通信を有効にします。 **注:** このオプションを有効にすると, [**Load Generator との通信に SSL を使用**]オプションも有効になります。
Load Generator との通信に SSL を使用	SSL を使用した Load Generator との通信を有効にします。 **注:** • これは, 標準設定の選択です。 • SSL を使用するには, デジタル証明書を作成する必要があります。証明書は, ALM, Performance Center サーバ, Controller に保管する必要があります。デジタル証明書の作成の詳細については, 「デジタル証明書を作成する方法」(64ページ)を参照してください。
Performance Center エージェント・サービスのポート	Performance Center エージェント・サービスのポート番号。このポートは, Load Generator で仮想ユーザを実行する際に使用します。 **注:** ポートは, 発信要求に対して開く必要があります。 **標準設定値:** 54345
リモート管理エージェント・サービス・ポート	リモート管理エージェントのポート番号。このポートは, ラボ管理の操作で使用されます。 **注:** ポートは, 発信要求に対して開く必要があります。 **標準設定値:** 54245

クラウド・アカウント

本項の内容

• クラウド・アカウントの概要 68
• クラウド・アカウントを管理する方法 69

• クラウド・アカウントのユーザ・インタフェース 72

クラウド・アカウントの概要

クラウド・プロバイダにアカウントを設定したら，ALM でもクラウド・アカウントを設定します。ALM でクラウド・アカウントを設定する際，クラウド・プロバイダの資格情報の入力，プロジェクトとアカウントの関連付け，プロビジョニングするホストが消費可能なクラウド・クレジットの総数の指定を行います。

クラウド・アカウントの追加は，ラボ管理 または ALM プロジェクトから実行できます。ラボ管理から追加したアカウントは公開なので，リンクされているすべてのプロジェクトがアクセスできます。ALM プロジェクトから追加したアカウントは非公開なので，アカウントを作成したプロジェクトのみがアクセスできます。

> **注:** ALM にアカウントを追加するには，既存の Microsoft Azure または Amazon EC2 アカウントが必要です。

クラウド・クレジット

ALM でクラウド・アカウントをセットアップするときは，効率性を確保しコストを削減するために，仮想的なクラウド・クレジットをプロジェクトに割り当てて，クラウド・プロビジョニングの使用状況を制御できます。各プロジェクトに対して，プロビジョニングしたホストで消費可能なクラウド・クレジットの総数を定義できます。なお，使用され消費されるクレジットが，クラウド・プロバイダに対する実際のコストを表すわけではありません。

定義した数よりクレジット数が少なくなったときに，電子メールで警告を受け取るように設定できます。詳細については，「クラウド警告の構成方法」(107ページ)を参照してください。また，クラウド・クレジットの消費状況を，使用状況レポートを生成して監視することもできます。詳細については，「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)を参照してください。

> **注:**
>
> - プロビジョニングされたホストは，プロビジョニングで使用したプロジェクトのクレジットを消費します。
> - 各ホストはクレジットを時間単位で消費します。1 時間あたりの消費クレジット数はホスト・テンプレートで指定します。
> - 使用可能なクレジットがないと，ホストのプロビジョニングは実行できません。クレジットの総数がゼロになると，新しいホストをプロビジョニングすることができなくなります。プロビジョニング済みのホストは，引き続きクレジットを消費します。

クラウド・アカウントを ALM で作成し管理する処理の詳細については，「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)を参照してください。

クラウド・アカウントを管理する方法

本項では，ALM でのクラウド・アカウントの管理方法を説明します。

概要については，「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)を参照してください。

> **注:** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「クラウド・ホストの設定方法」(54ページ)を参照してください。

クラウド・アカウントの追加

このタスクでは，ALM にクラウド・アカウントを追加する方法，およびそのアカウントにプロジェクトをリンクする方法を説明します。

1. **前提条件**

   ALM にクラウド・アカウントを追加するには，サポートされているクラウド・プロバイダと契約しクラウド・アカウントを取得しておく必要があります。

   クラウド・アカウントを準備した後に，クラウド・プロバイダの Web サイトから次の情報を記録する必要があります。

   - アカウントのアクセス・キー(Amazon EC2 アカウントのみ)
   - アカウントの秘密キー(Amazon EC2 アカウントのみ)
   - アカウント番号(Amazon EC2 アカウントのみ)
   - サブスクリプション ID(Microsoft Azure アカウントのみ)
   - 証明書ファイル(Microsoft Azure アカウントのみ)

2. **ALM へのクラウド・アカウントの追加**

   ALM にクラウド・アカウントを追加するには，次の手順を実行します。

   a. ALM または ラボ管理 で，[**クラウド設定**] > [**クラウド アカウント**] に移動します。

   b. [**新規クラウド アカウント**] ボタン をクリックします。「[新規クラウド アカウント] ダイアログ・ボックス」(78ページ)が開きます。

   c. クラウド・アカウント情報を入力します。[**OK**] をクリックすると，ALM にクラウド・アカウントが追加されます。

   d. [**プロバイダ**] が Microsoft Azure の場合，[MS Azure API アクセス証明書] ダイアログ・ボックスが開きます。

      i. Personal Information Exchange(.pfx) 形式の Microsoft Azure サービス証明書を選択します。

      ii. サービス証明書のパスワードを入力します。

      iii. [**OK**] をクリックします。

> **注:** アカウントの作成処理は，完了するまでに数分かかります。

> **注:** ユーザ・プロジェクトから追加したクラウド・アカウントは公開されておらず，このアカウントを作成したプロジェクトでしか使用できません。ただし，プロジェクトが他のプロジェクトとプールを共有している場合，プロビジョニングされるマシンは，同じプールを共有するすべてのプロジェクトから認識されるようになります。

これで，このクラウド・アカウントからテンプレートを作成し，ホストをプロビジョニングできるようになりました。

3. **クラウド・アカウントへのプロジェクトのリンク**

   ラボ管理 で作成したクラウド・アカウントからホストをプロビジョニングするのに必要なすべてのプロジェクトは，そのクラウド・アカウントにリンクする必要があります。

   ラボ管理 で作成したクラウド・アカウントにプロジェクトをリンクするには，次の手順を実行します。

   a. ラボ管理 で，[**クラウド設定**] > [**クラウド アカウント**] に移動します。
   b. アカウント・グリッドで，リンクするクラウド・アカウントを選択します。
   c. [**リンクされたプロジェクト**] タブで，[**クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て**] をクリックします。「[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て] ダイアログ・ボックス」(81 ページ)が開きます。
   d. グリッドからプロジェクトを選択し，[**割り当て**] をクリックします。これにより，選択したプロジェクトがクラウド・アカウントにリンクされます。

   これで，リンクされたすべてのプロジェクトは，選択したクラウド・アカウントからクラウド・ホストにプロビジョニングできるようになりました。

   > **注:** プロジェクトにリンクできるのは，ラボ管理 で追加したアカウントのみです。ユーザ・プロジェクトから追加したアカウントは，このアカウントを追加したプロジェクトに自動的にリンクされ，他のプロジェクトにはリンクできません。

4. **クラウド・アカウントに対するクレジットの合計数の定義**

   クレジットをラボ管理で定義する場合は，クラウド・アカウントにリストされたプロジェクトごとにクレジットを割り当てます。ALM では，1 つのプロジェクトに対してクレジットを定義します。

   - **ラボ管理**: [**リンクされたプロジェクト**] タブの [**クレジット残高**] で，アカウントにリストされているプロジェクトごとにクレジット数を定義します。
   - **ALM**: [**クラウド設定**] > [**クラウド アカウント**] に移動します。アカウント・グリッドで，クラウド・アカウントを選択します。[**クレジット**] タブで，アカウントに対するクレジット数を定義します。

注：

- ホストをプロビジョニングすると，そのホストをプロビジョニングしたプロジェクトとアカウントのクレジットが消費されます。
- 各ホストはクレジットを時間単位で消費します。1時間あたりの消費クレジット数はホスト・テンプレートで指定します。
- 使用可能なクレジットがないと，ホストのプロビジョニングは実行できません。クレジットの総数がゼロになると，新しいホストをプロビジョニングすることができなくなります。プロビジョニング済みのホストは，引き続きクレジットを消費します。
- 定義した数よりクレジット数が少なくなったときに，電子メールで警告を受け取るように設定できます。詳細については，「クラウド警告の構成方法」(107ページ)を参照してください。また，クラウド・クレジットの消費状況を，使用状況レポートを生成して監視することもできます。詳細については，「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)を参照してください。

クラウド・アカウントの詳細の変更

クラウド・アカウントの詳細を変更するには，次の手順を実行します。

1. クラウド・アカウントを作成したプロジェクトにログインします。
2. [**クラウド設定**]＞[**クラウド アカウント**]で，グリッド内のクラウド・アカウントを選択し，[**クラウド アカウントの詳細**]ボタン をクリックします。「[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックス」(79ページ)が開きます。
3. 必要な変更を行い，[**OK**]をクリックします。

クラウド・アカウントの削除

クラウド・アカウントを削除するには，次の手順を実行します。

1. 削除するクラウド・アカウントからプロビジョニングしたすべてのクラウド・ホストを終了します。詳細については，「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(96ページ)を参照してください。
2. 削除するクラウド・アカウントを作成したプロジェクトにログインします。
3. [**クラウド設定**]＞[**クラウド アカウント**]で，グリッド内のクラウド・アカウントを選択し，[**削除**]ボタン をクリックします。クラウド・アカウントと，このクラウド・アカウントを使用するすべてのホスト・テンプレートが削除されます。

注意：クラウド・アカウントを削除すると，このクラウド・アカウントを使用するすべてのホスト・テンプレートも削除されます。

注: 削除しようとするクラウド・アカウントで現在プロビジョニングされているクラウド・ホストが存在する場合，そのクラウド・アカウントは削除できません。

クラウド・アカウントのユーザ・インタフェース

本項の内容

- クラウド・アカウント・モジュール・ウィンドウ 73
- クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン 74
- クラウド・アカウント・モジュールのフィールド 77
- [新規クラウド アカウント]ダイアログ・ボックス 78
- [クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックス 79
- [クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックス 81
- クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ページ 82

クラウド・アカウント・モジュール・ウィンドウ

クラウド・アカウント・モジュールを使用すると，外部のクラウド・アカウントを ALM に追加できます。

アクセス方法	**ラボ管理**および **ALM**: サイドバーの[**クラウド設定**]で[**クラウド アカウント**]をクリックします。
重要な情報	**ラボ管理**: ユーザ・プロジェクト内で作成したアカウントは読み取り専用です。これらのアカウントを編集するには，所有者プロジェクトにアクセスしてください。 **ALM**: 現在のプロジェクト内で作成したアカウントのみを表示できます。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)，「クラウド・ホストの概要」(53ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<クラウド・アカウント・モジュールの共通の UI 要素>	**クラウド・アカウント・モジュールのフィールド**: フィールドの定義については，「クラウド・アカウント・モジュールのフィールド」(77ページ)を参照してください。 **クラウド・アカウントのメニューとボタン**: コマンドとボタンの説明については，「クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン」(74ページ)を参照してください。
<アカウント・グリッド>	ALM に追加したクラウド・アカウントの一覧が表示されます。
[説明]タブ	選択したクラウド・アカウントについての説明を入力できます。
[リンクされたプロジェクト]タブ	選択したクラウド・アカウントにリンクされているプロジェクトの一覧が表示されます。またこのタブでは，他のプロジェクトのリンクまたはリンクの解除を行うことができます。ユーザ・プロジェクトがラボ管理 で作成したクラウド・アカウントからホストをプロビジョニングするには，プロジェクトにアカウントをリンクする必要があります。またこのタブには，選択したアカウントで使用できるクレジットの合計数が表示されます。詳細については，「クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ページ」(82ページ)を参照してください。 **利用場所**: ラボ管理

UI要素	説明
クレジット	選択したアカウントで使用できるクレジットの合計数が表示されます。 **利用場所**：ALM
イベント・ログ	イベント・ログには，クラウド・アカウントを作成する際に発生したイベントが表示され，各イベントの原因と重大度が報告されます。詳細については，「イベント・ログ」(151ページ)を参照してください。
［履歴］タブ	選択したクラウド・アカウントに行った変更が一覧されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン

本項では，クラウド・アカウント・モジュールで利用可能なメニューとボタンを説明します。

重要な情報	**ラボ管理**：ユーザ・プロジェクト内で作成したアカウントは読み取り専用です。これらのアカウントを編集するには，所有者プロジェクトにアクセスしてください。 **ALM**：現在のプロジェクト内で作成したアカウントのみを表示できます。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)，「クラウド・ホストの概要」(53ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	メニュー	説明
お気に入りに追加	お気に入り	［追加 お気に入り］ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
クラウド・アカウントの詳細	［クラウド アカウント］と<右クリック・メニュー>	クラウド・アカウントの詳細を表示できるように［クラウド アカウントの詳細］ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，「［クラウド アカウントの詳細］ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。

UI要素	メニュー	説明
URLのコピー	[クラウド アカウント]と<右クリック・メニュー>	選択したクラウド・アカウントへのリンクをコピーします。クラウド・アカウント自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。このリンクをクリックするとALMが開き，クラウド・アカウントが表示されます。ログインしていない場合，ALMによって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除	[編集]と<右クリック・メニュー>	選択したクラウド・アカウントを削除します。削除しようとするクラウド・アカウントから現在プロビジョニングされているクラウド・ホストがない場合にかぎり，そのクラウド・アカウントを削除できます。
エクスポート	[クラウド アカウント]と<右クリック・メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスを開き，グリッド内のアカウントを，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTMLドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**：グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**：グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，アカウントを検索できます。検索オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
クラウド・アカウントへの移動	クラウド・アカウント	[クラウド アカウントに移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID番号で特定のクラウド・アカウントを検索できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	グリッドの各カラムにフィルタ・ボックスが表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。

UI要素	メニュー	説明
新規クラウド・アカウント	クラウド・アカウント	新しいクラウド・アカウントを追加できるように[新規クラウド アカウント]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については,「[新規クラウド アカウント]ダイアログ・ボックス」(78ページ)を参照してください。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには,次の手順で行います。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	表示	ビューが最新の情報を表示するように更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	[置換]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き,グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	クラウド・アカウント・グリッドにフィルタ処理とソートのオプションを設定できます。 次のオプションがあります。 • **フィルタ/ソートの設定**:[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。クラウド・アカウントのフィルタ処理とソートを実行できます。 • **フィルタ/ソートのクリア**:適用したフィルタまたはソートが解除されます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI要素	メニュー	説明
選択項目の更新	[編集]と<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドの複数のクラウド・アカウントのフィールド値を更新できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

クラウド・アカウント・モジュールのフィールド

本項では,クラウド・アカウントのフィールドについて説明します。ラボ管理 では,プライベート・アカウントのフィールドはすべて読み取り専用です。

フィールド	説明
アクセス・キー	ALM からクラウド・アカウントへの接続で使用します。このキーは,クラウド・アカウント・プロバイダから取得します。 **注:** Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。
アカウント ID	アカウントの ID。アカウントの追加時に ALM によって自動生成されます。
アカウント番号	Amazon EC2 のアカウント番号。この番号は,クラウド・アカウントからカスタム・イメージにアクセスするときに使用します。 **注:** 追加したアカウント番号が正しくない場合は,このアカウントに関連するカスタム・イメージにアクセスできなくなります。 **利用可能**:Amazon EC2 アカウントのみ。
アクティブなホスト	このアカウントから現在プロビジョニングされているホストの数。ホストの表示は,ラボ管理 では[**ラボ リソース**]>[**ホスト**],ALM では[**ラボ リソース**]>[**テスティング ホスト**]を選択します。
作成者	アカウントを作成したユーザ。
作成されたプロジェクト	クラウド・アカウントが作成されたプロジェクト。
説明	クラウド・アカウントの説明。
名前	クラウド・アカウントに付けた名前。

フィールド	説明
プロバイダ	アカウントのクラウド・プロバイダ。 **注:** HP ALM と統合できるのは，Microsoft Azure および Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。
秘密キー	クラウド・アカウントへの接続で**アクセス・キー**に使用するパスワード。このキーは，クラウド・プロバイダから取得します。 **注:** Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。
サブスクリプション ID	Microsoft Azure クラウド・アカウントのサブスクリプション ID。 **利用可能:** Microsoft Azure アカウントのみ。

[新規クラウド アカウント] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，新しいクラウド・アカウントを ALM に追加します。

アクセス方法	**ラボ管理**および **ALM**: 1. サイドバーの[**クラウド設定**]で[**クラウド アカウント**]をクリックします。 2. [**新規クラウド アカウント**]ボタン をクリックするか，[クラウド アカウント]メニューから[**新規クラウド アカウント**]を選択します。
重要な情報	• ALM にアカウントを追加するには，既存の Microsoft Azure または Amazon EC2 アカウントが必要です。 • クラウド・アカウントは，ラボ管理 から追加すると公開アカウントとなり，どのプロジェクトでも使用できるようになります。ユーザ・プロジェクトから追加したクラウド・アカウントは非公開なので，アカウントを作成したプロジェクトのみが使用できます。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	すべてのフィールドのリセット: ダイアログ・ボックス内のフィールドに入力されているデータをすべて消去します。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索: 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例: a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
名前	クラウド・アカウントに付けた名前。
詳細	必須フィールドは赤で表示されます。使用可能なクラウド・アカウントのフィールドの詳細については，「クラウド・アカウント・モジュールのフィールド」(77ページ)を参照してください。
説明	クラウド・アカウントの説明を入力します。

[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，選択したクラウド・アカウントの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	**ラボ管理**および**ALM**: 1. サイドバーの[**クラウド設定**]で[**クラウド アカウント**]をクリックします。 2. グリッドでクラウド・アカウントを右クリックし，[**クラウド アカウントの詳細**]を選択します。
重要な情報	• このダイアログ・ボックスは，ラボ管理とALMの両方で利用できます。 • **ラボ管理**: ユーザ・プロジェクトに追加したクラウド・アカウントは読み取り専用になります。 • **ALM**: ラボ管理で作成したアカウントは読み取り専用になります。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：クラウド・アカウントのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
アカウント ID	アカウントの ID。アカウントの追加時に ALM によって自動生成されます。
名前	クラウド・アカウントに付けた名前。
詳細	現在選択されているクラウド・アカウントの詳細が表示されます。使用可能なクラウド・アカウントのフィールドの詳細については，「クラウド・アカウント・モジュールのフィールド」(77ページ)を参照してください。
クレジット	選択したアカウントの合計クレジットを指定します。 **利用場所**：ALM
リンクされたプロジェクト	アカウントにユーザ・プロジェクトをリンクします。ラボ管理 で作成したクラウド・アカウントにユーザ・プロジェクトからアクセスするには，アカウントをプロジェクトにリンクする必要があります。詳細については，「クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ページ」(82ページ)を参照してください。 **利用場所**：ラボ管理
イベント・ログ	イベント・ログには，クラウド・アカウントを作成する際に発生したイベントが表示され，各イベントの原因と重大度が報告されます。詳細については，「イベント・ログ」(151ページ)を参照してください。

UI要素	説明
履歴	現在選択されているクラウド・アカウントで行われた変更の一覧です。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, クラウド・アカウントにプロジェクトをリンクします。

アクセス方法	**ラボ管理のみ**: • クラウド・アカウント・モジュールからの場合:ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]にある[クラウド設定]で[**クラウド アカウント**]を選択します。情報パネルで[**リンクされたプロジェクト**]を選択し, [**クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て**]ボタンをクリックします。 • [クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]にある[クラウド設定]で[クラウド アカウント]を選択します。クラウド・アカウントを右クリックし, [**クラウド アカウントの詳細**]を選択します。[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックスが開いたら, [**リンクされたプロジェクト**]を選択し, [**クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て**]ボタンをクリックします。
重要な情報	[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックスが表示されるのは, ラボ管理 のみです。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	すべて更新:最新の情報が表示されるように, グリッドを更新します。
割り当て	選択したプロジェクトをクラウド・アカウントに割り当てます。
<プロジェクト・グリッド>	クラウド・アカウントに割り当て可能なプロジェクトを一覧表示します。
選択済み	クラウド・アカウントに割り当てるプロジェクトを表示します。

クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ページ

このページでは，クラウド・アカウントに1つまたは複数のプロジェクトをリンクします。アカウントをプロジェクトにリンクすると，そのアカウントを使用して，プロジェクトからホストをプロビジョニングできます。さらにこのページでは，選択したアカウントで使用できる合計クレジットが表示されます。

アクセス方法	**ラボ管理**のみ: • クラウド・アカウント・モジュールからの場合: ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]にある[クラウド設定]で[**クラウド アカウント**]を選択します。情報パネルで，[**リンクされたプロジェクト**]を選択します。 • [クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合: ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]にある[クラウド設定]で[**クラウド アカウント**]を選択します。クラウド・アカウントを右クリックし，[**クラウド アカウントの詳細**]を選択します。[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックスで，[**リンクされたプロジェクト**]を選択します。
重要な情報	ユーザ・プロジェクトから，ラボ管理 クラウド・アカウントのホストをプロビジョニングするには，このページでクラウド・アカウントをプロジェクトにリンクする必要があります。 クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ダイアログ・ボックスが表示されるのは，ラボ管理 のみです。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	クラウド・アカウントへのプロジェクトの割り当て: [クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックスが開いたら，クラウド・アカウントからのプロビジョニングが可能なプロジェクトを選択します。詳細については，「[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックス」(81ページ)を参照してください。
	クラウド・アカウントからのプロジェクトの割り当て解除: 選択したプロジェクトは，クラウド・アカウントからプロビジョニングできなくなります。
	プロジェクトに移動: プロジェクト設定モジュール内で選択したプロジェクトを表示します。

UI要素	説明
	すべて更新: 最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
プロジェクト	クラウド・アカウントにリンクされているプロジェクトを表示します。
クレジット残高	クレジット残高を表示します。

ホスト・テンプレート

本項の内容

- ホスト・テンプレートの概要 84
- ホスト・テンプレートを管理する方法 85
- ホスト・テンプレートのユーザ・インタフェース 87

ホスト・テンプレートの概要

ホスト・テンプレートには，そのテンプレートを使ってプロビジョニングされるホストに関する技術的な詳細が定義されます。ホスト・テンプレートには，次の詳細情報が指定されます。

- ホストをプロビジョニングする際に使用するクラウド・アカウント
- 時間あたりのコスト。これは，ホストが1時間あたりに消費するクレジットの数を示します。

> **注:** 使用され消費されるクレジットが，クラウド・プロバイダに対する実際のコストを表すわけではありません。

- ホストのタイプと用途。

> **注:** HP ALM では，パフォーマンス・テストの Load Generator のみがサポートされています。

- ホストがプロビジョニングされるクラウドの場所。
- ホストのハードウェアの仕様(インスタンス・タイプ)。
- ホストで使用するソフトウェア・イメージ(マシン・イメージ)

> **注:** HP では，ホスト・テンプレートを作成する際に使用できる多くの定義済みのイメージを提供しています。定義済みのイメージを使用することをお勧めします。インスタンス・タイプとマシン・イメージは，クラウド・プロバイダの Web サイト上で管理され，ホスト・テンプレートの作成時に自動的にアクセスされます。Microsoft Azure クラウド・アカウントでは，事前定義のイメージは使用できません。イメージの作成が必要です。

すべてのクラウド・ホストは，ホスト・テンプレートからプロビジョニングされます。ホストのプロビジョニング時，ALM はテンプレートの詳細情報をプロビジョニング対象となるホストにコピーします。

ALM は，Amazon EC2 クラウド・アカウントごとにホスト・テンプレートを作成します(標準設定)。テンプレートは事前定義の HP イメージと推奨ハードウェア設定(インスタンス・タイプで定義)を Load Generator マシンに使用します。この標準設定のホスト・テンプレートを使用できますが，独自にホスト・テンプレートを作成することもできます。Microsoft Azure クラウド・アカウントでは，ホスト・テンプレートを作成する必要があります。テンプレート・ホストを使用する場合は，どのマシン仕様の使用を可能にして推奨するかを管理者が管理できます。

ホスト・テンプレートの管理は，ラボ管理 または ALM プロジェクトから実行できます。ラボ管理から追加したホスト・テンプレートは公開されており，テンプレートのクラウド・アカウントにリンクされるすべてのプロジェクトで使用できます。ユーザ・プロジェクトから追加したホスト・テンプレートは公開されておらず，このホスト・テンプレートを作成したプロジェクトでしか使用できません。

ホスト・テンプレートの作成手順については,「ホスト・テンプレートを管理する方法」(85ページ)を参照してください。

ホスト・テンプレートを管理する方法

本項では, ALM でホスト・テンプレートを作成および管理する方法を説明します。

概要については,「ホスト・テンプレートの概要」(84ページ)を参照してください。

> **注:** このタスクは, 上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「クラウド・ホストの設定方法」(54ページ)を参照してください。

ホスト・テンプレートの作成

このタスクでは, ALMでホスト・テンプレートを作成する方法を説明します。

1. **ホスト・テンプレートを作成する際の考慮事項**

   ホスト・テンプレートを作成する際は, 次の事項に留意してください。

   - テスト担当者が必要とするホスト設定ごとに1つのテンプレートを作成します。テスト担当者は既存のテンプレートからのクラウド・ホストのみをプロビジョニングできます。
   - テスト担当者が必要なクラウド・ホストのみをプロビジョニングできるように, 各テンプレートによってプロビジョニングされるホストのタイプを明確に示します。
   - ホストによって消費されるクレジット数がそのホストのプロビジョニング費用を正確に反映するようにします。

2. **前提条件**

   ALM にホスト・テンプレートを追加するには, 少なくとも1つのクラウド・アカウントを追加しておく必要があります。詳細については,「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)を参照してください。

   ホスト・テンプレートを作成する際は, 次を指定する必要があります。

   - **場所**: テンプレートによってホストがプロビジョニングされるクラウド領域を指定します。選択した場所によって, テンプレートで利用できるインスタンス・タイプとマシン・イメージが決まります。
   - **インスタンス・タイプ**: テンプレートから作成したホストのハードウェア構成を指定します。インスタンス・タイプはクラウド・プロバイダによって提供されます。クラウド・プロバイダから利用できる各インスタンス・タイプを十分に理解してから, ホスト・テンプレートの作成を開始してください。
   - **マシン・イメージ**: テンプレートから作成したホストで使用するソフトウェア・イメージを指定します。マシン・イメージは, クラウド・プロバイダの Web サイト上で管理されます。クラウド・プロバイダに必要なすべてのイメージをアップロードしてから, ホスト・テンプレートの作成を開始してください。HP では, 使用できる定義済みのイメージのセットも用意

しています。Microsoft Azure クラウド・アカウントでは，事前定義のイメージは使用できません。

3. **ホスト・テンプレートの作成**

   ホスト・テンプレートを作成するには，次の手順を実行します。

   a. ホスト・テンプレートを作成しようとしているクラウド・アカウントを作成したプロジェクトにログインします。

   b. [**クラウド設定**] > [**ホスト テンプレート**] に移動します。

   c. [**新規ホスト テンプレート**] ボタン をクリックします。[新規ホスト テンプレート] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[新規ホスト テンプレート] ダイアログ・ボックス」(93ページ)を参照してください。

   d. 新規ホスト・テンプレートの詳細を入力し，[**OK**] をクリックします。ホスト・テンプレートが作成されます。各フィールドに入力する内容の詳細については，「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(91ページ)を参照してください。

   これで，新しいホスト・テンプレートがクラウド・ホストをプロビジョニングするために使用できるようになりました。

> **注:**
>
> - ユーザ・プロジェクトから追加したホスト・テンプレートは公開されておらず，このホスト・テンプレートを作成したプロジェクトでしか使用できません。ラボ管理 から追加したホスト・テンプレートは公開されており，テンプレートのクラウド・アカウントにリンクされるすべてのプロジェクトで使用できます。
> - ホスト・テンプレートを作成する際は，同じプロジェクトで追加したクラウド・アカウントしか選択できません。

Microsoft Azure クラウド・アカウント用のイメージの作成

Microsoft Azure クラウド・アカウントで使用するイメージを作成するには，HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM01774286 の指示に従います。

ホスト・テンプレートの詳細の変更

ホスト・テンプレートの詳細を変更するには，次の手順を実行します。

1. ホスト・テンプレートを作成したプロジェクトにログインします。
2. [**クラウド設定**] > [**ホスト テンプレート**] で，グリッド内のホスト・テンプレートを選択し，[**ホスト テンプレートの詳細**] ボタン をクリックします。「[ホスト テンプレートの詳細] ダイアログ・ボックス」(94ページ)が開きます。
3. 必要な変更を行い，[**OK**] をクリックします。

ホスト・テンプレートの削除

ホスト・テンプレートを削除するには，次の手順を実行します。

1. 削除するホスト・テンプレートを作成したプロジェクトにログインします。
2. [**クラウド設定**] > [**ホスト テンプレート**] で，グリッド内のホスト・テンプレートを選択し，[**削除**] ボタン をクリックします。ホスト・テンプレートが削除されます。

> **注:** ホスト・テンプレートを削除しても，そのテンプレートからプロビジョニングされたクラウド・ホストは終了しません。クラウド・ホストの終了の詳細については，「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(96ページ)を参照してください。

ホスト・テンプレートのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ホスト・テンプレート・モジュールのウィンドウ 88
- ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン 88
- ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド 91
- [新規ホスト テンプレート] ダイアログ・ボックス 93
- [ホスト テンプレートの詳細] ダイアログ・ボックス 94

ホスト・テンプレート・モジュールのウィンドウ

ホスト・テンプレート・モジュールでは，クラウド・ホストのプロビジョニングで使用するホスト・テンプレートを作成します。

アクセス方法	**ラボ管理**および**ALM**: サイドバーの[クラウド設定]で[**ホスト テンプレート**]をクリックします。
重要な情報	**ラボ管理**: ユーザ・プロジェクト内で作成したホスト・テンプレートは，読み取り専用になります。これらのアカウントを編集するには，所有者プロジェクトにアクセスしてください。 **ALM**: 現在のプロジェクト内で作成したホスト・テンプレートのみが表示されます。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(85ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(84ページ)，「クラウド・ホストの概要」(53ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
＜ホスト・テンプレート・モジュール共通のUI要素＞	**ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド**: フィールドの定義については，「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(91ページ)を参照してください。 **ホスト・テンプレートのメニューとボタン**: コマンドとボタンの説明については，「ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン」(88ページ)を参照してください。
<テンプレート・グリッド>	ALMに追加したホスト・テンプレートが一覧表示されます。
[説明]タブ	選択したホスト・テンプレートの説明を入力します。
[履歴]タブ	選択したホスト・テンプレートに行った変更が一覧表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン

本項では，ホスト・テンプレート・モジュールで利用できるメニューおよびボタンについて説明します。

重要な情報	**ラボ管理**：ユーザ・プロジェクト内で作成したホスト・テンプレートは，読み取り専用になります。これらのアカウントを編集するには，所有者プロジェクトにアクセスしてください。 **ALM**：現在のプロジェクト内で作成したホスト・テンプレートのみが表示されます。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(85ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(84ページ)，「クラウド・ホストの概要」(53ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
お気に入りに追加	お気に入り	［追加 お気に入り］ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
ホスト・テンプレートの詳細	［ホスト テンプレート］と＜右クリック・メニュー＞	［ホスト テンプレートの詳細］ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは，ホスト・テンプレートの詳細情報が表示されます。詳細については，「［ホスト テンプレートの詳細］ダイアログ・ボックス」(94ページ)を参照してください。
URL のコピー	［ホスト テンプレート］と＜右クリック・メニュー＞	選択したホスト・テンプレートのリンクをコピーします。ホスト・テンプレート自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックするとALM が開き，ホスト・テンプレートにアクセスできます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除	［編集］と<右クリック・メニュー>	選択したホスト・テンプレートを削除します。 **注：**ホスト・テンプレートを削除しても，そのテンプレートからプロビジョニングされたクラウド・ホストは終了しません。

UI要素	メニュー	説明
エクスポート	[ホスト テンプレート]と< 右クリック・メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッド内のテンプレートを，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**: グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**: グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，テンプレートを検索できます。検索オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
ホストテンプレートに移動	ホスト・テンプレート	[ホスト テンプレートに移動]ダイアログ・ボックスが開きます。ID 番号でホスト・テンプレートを検索できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	グリッドの各カラムにフィルタ・ボックスが表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規ホスト・テンプレート	ホスト・テンプレート	[新規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボックスが開き，新しいホスト・テンプレートを追加できます。詳細については，「[新規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボックス」(93ページ)を参照してください。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには，次の手順で行います。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。

UI要素	メニュー	説明
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	表示	ビューが最新の情報を表示するように更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	[置換]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き,グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	ホスト・テンプレート・グリッドで使用するフィルタ・オプションとソート・オプションを設定します。 次のオプションがあります。 • **フィルタ/ソートの設定**:[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。ホスト・テンプレートのフィルタ処理とソートを実行できます。 • **フィルタ/ソートのクリア**:適用したフィルタまたはソートが解除されます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	[編集]と<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドで選択した複数のホスト・テンプレートについて,フィールド値を更新できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド

本項では,ホスト・テンプレート・モジュールのフィールドについて説明します。ホスト・テンプレートのフィールドを編集するには,テンプレートを作成したプロジェクトから操作する必要があります。

フィールド	説明
クラウド・アカウント	ホストのプロビジョニングに使用したテンプレートのクラウド・アカウント。
説明	ホスト・テンプレートの説明。 **ヒント:** 各テンプレートでプロビジョニングするホストのタイプを明確に指定します。これによってテスト担当者は，ホストのプロビジョニング時に適切なテンプレートを選択することができます。
ホスト属性	ホストのシステム属性を指定します。 **例:** ホストのメモリ: 高; ホストの強度: 中; インストール済みのコンポーネント: Citrix Client **ヒント:** ホスト属性はラボ管理 でカスタマイズできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
ホスト・クレジット	このテンプレートからプロビジョニングされた各ホストが 1 時間あたりに消費するクレジット数。
ホスト・インストール	ホストのインストール・タイプ。 次のタイプを利用できます。 • **Unix Load Generator**: この Unix ホストを，パフォーマンス・テストで Load Generator として使用することを示します。 • **Windows Standalone LG**: この Windows ホストを，パフォーマンス・テストでスタンドアロン Load Generator として使用することを示します。 **注:** • イメージのインストール・タイプは正しく選択してください。設定を間違えると，パフォーマンス・テストが正しく実行されなくなります。 • [ホスト インストール] リストには [**Unified Functional Testing**] オプションと [**Windows ホスト**] オプションが表示されますが，選択できません。

フィールド	説明
ホストの用途	ホスト上で使用できるテスト・ツール。たとえば，Controller，Load Generator，Data Processor，QuickTest Professional，Sprinter などがあります。 **注:** HP ALM では Load Generator のみを選択できます。
インスタンス・タイプ	テンプレートからプロビジョニングするクラウド・ホストのハードウェア仕様。インスタンス・タイプは，クラウド・プロバイダの Web サイトで表示され，ホスト・テンプレートの作成時に自動的にアクセスされます。
場所	Amazon EC2 および Microsoft Azure において，ホストがプロビジョニングされる領域です。
マシン・イメージ	テンプレートからクラウド・ホストをプロビジョニングする際に使用するソフトウェア・イメージ。マシン・イメージは，クラウド・プロバイダの Web サイトで管理され，ホスト・テンプレートの作成時に自動的にアクセスされます。 **注:** マシン・イメージの値を表示できない場合は，使用したクラウド・アカウント番号が正しいことを確認してください。
テンプレート ID	ホスト・テンプレートの ID。テンプレートの作成時に ALM によって自動生成されます。
テンプレート名	テンプレートに割り当てる名前。

[新規ホスト テンプレート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，新しいホスト・テンプレートを ALM に追加します。

アクセス方法	**ラボ管理**および **ALM**: 1. サイドバーの[クラウド設定]で[**ホスト テンプレート**]をクリックします。 2. [**新規ホスト テンプレート**]ボタン をクリックするか，[ホスト テンプレート]メニューから[**新規ホスト テンプレート**]を選択します。
重要な情報	ALM にホスト・テンプレートを追加するには，既存の Microsoft Azure または Amazon EC2 アカウントが必要です。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(85ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(84ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	すべてのフィールドのリセット:ダイアログ・ボックス内のフィールドに入力されているデータをすべて消去します。
	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典:選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション:スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索:指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例:a*b はacbとadefbを返し，a?bはacbを返します。
名前	ホスト・テンプレートに付ける名前。テンプレートでプロビジョニングするホストのタイプを明確に示す名前を指定します。これによってテスト担当者は，必要なホストをプロビジョニングできるようになります。
詳細	必須フィールドは赤で表示されます。使用可能なホスト・テンプレートのフィールドの詳細については，「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(91ページ)を参照してください。
説明	ホスト・テンプレートの説明を入力します。

[ホスト テンプレートの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，選択したホスト・テンプレートの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	**ラボ管理**および**ALM**: 1. サイドバーの[クラウド設定]で[**ホスト テンプレート**]をクリックします。 2. グリッドでホスト・テンプレートを右クリックし，[**ホスト テンプレートの詳細**]を選択します。
重要な情報	• このダイアログ・ボックスは，ラボ管理とALMの両方で利用できます。 • ホスト・テンプレートのフィールドを編集するには，テンプレートを作成したプロジェクトから操作する必要があります。

関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(85ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(84ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：ホスト・テンプレートのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
テンプレートID	ホスト・テンプレートのID。ホスト・テンプレートの追加時にALMによって自動生成されます。
テンプレート名	ホスト・テンプレートに付けた名前。
詳細	現在選択されているホスト・テンプレートの詳細が表示されます。使用可能なホスト・テンプレートのフィールドの詳細については，「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(91ページ)を参照してください。
説明	ホスト・テンプレートの説明を入力します。
履歴	現在選択されているホスト・テンプレートに加えられた変更が一覧表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホストのプロビジョニング

本項の内容

- ホストのプロビジョニングの概要 96
- クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法 96
- ホスト・プロビジョニングのユーザ・インタフェース 99

ホストのプロビジョニングの概要

クラウド・ホストをテスト実行に使用するには，テスティング・ホストと同様に，ラボ・リソースに追加する必要があります。クラウド・ホストを追加する作業をプロビジョニングと呼びます。ホストのプロビジョニングでは，特定の設定を使用して，マシンをクラウド上で予約します。この設定には，マシンのハードウェアの詳細情報とマシンに適用されるソフトウェア・イメージが含まれます。ALM では，すべてのホストのプロビジョニングにテンプレートを使用します。ホスト・テンプレートの詳細については，「ホスト・テンプレートの概要」(84ページ)を参照してください。

ホストのプロビジョニングの詳細については，「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(96ページ)を参照してください。

注:

- ラボ管理 でホストをプロビジョニングするには，[**ラボ リソース**] > [**ホスト**]を選択します。ユーザ・プロジェクトでホストをプロビジョニングするには，[**ラボ リソース**] > [**テスティング ホスト**]を選択します。
- プロビジョニングされたホストは，プロビジョニングで使用したプロジェクトのクレジットを消費します。各ホストはクレジットを時間単位で消費します。1 時間あたりの消費クレジット数はホスト・テンプレートで指定します。要求されたホストをプロビジョニングするには，少なくとも 1 クレジットが必要です。

クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法

本項では，ALM からクラウド・ホストをプロビジョニングする方法と終了する方法を説明します。

概要については，「ホストのプロビジョニングの概要」(96ページ)を参照してください。

注: このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「クラウド・ホストの設定方法」(54ページ)を参照してください。

クラウド・ホストのプロビジョニング

このタスクでは，ALM でのクラウド・ホストのプロビジョニング方法を説明します。

1. **前提条件**

   ALM からホストをプロビジョニングするには，次の手順を実行します。

   - クラウド・アカウントと，プロジェクトにリンクされたホスト・テンプレートが少なくとも 1 つずつ必要です。詳細については，「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)および「ホスト・テンプレートを管理する方法」(85ページ)を参照してください。

- プロジェクトには，目的のホストをプロビジョニングするのに使用できる十分なクラウド・クレジットが必要です。詳細については，「クラウド・アカウントを管理する方法」(69ページ)を参照してください。プロジェクトにクレジットを追加するアクセス許可がない場合は，ラボ管理者に問い合わせてください。

ホストをプロビジョニングする際は，次を指定する必要があります。

- **セキュリティ・グループ**: クラウド・ホストに対して許可される着信および発信ネットワーク・トラフィックを指定します。たとえば，クラウド・ホストにリモート・デスクトップ経由で接続する必要がある場合，セキュリティ・グループは，TCP ポート 3389(RDP) 経由での着信トラフィックを許可する必要があります。セキュリティ・グループはクラウド・プロバイダの Web サイト上で構成し，プロビジョニング時に ALM で選択します。セキュリティ・グループの詳細については，「クラウドの初期設定の概要」(56ページ)を参照してください。
- **キー・ペア**: クラウド・ホストにリモートで接続できるようになります。Windows ホストの場合，キー・ペアはメインの管理者のパスワードを生成するのに使用します。Linux ホストの場合，キー・ペアはマシンへのログインに使用します。キー・ペアはクラウド・プロバイダの Web サイト上で作成し，プロビジョニング時に ALM で選択します。キー・ペアの詳細については，「クラウドの初期設定の概要」(56ページ)を参照してください。

> **注**: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

> **注**: セキュリティ・グループとキー・ペアはクラウドの場所ごとに個別に作成します。必要なセキュリティ・グループとキー・ペアがプロビジョニングを行う場所ごとに構成しておく必要があります。

2. **ホストをプロビジョニングする際の考慮事項**

ホストをプロビジョニングする際は，以下の事項に留意してください。

- ホストをプロビジョニングする場所は，テストの効率に影響する可能性があります。自分のテスト・ニーズに合ったクラウドの場所を選択するようにしてください。
- ホスト・テンプレートは場所ごとに個別に作成するため，ある場所に存在するテンプレートが別の場所には存在しないことがあります。必要なテンプレートがどの場所にあるかを把握し，また目的のテンプレートを必ずプロビジョニングする場所に追加する必要があります。
- プロビジョニング済みのホストにリモートで接続する必要がある場合，秘密キーを持つためにキー・ペアを選択し，リモート接続を許可するセキュリティ・グループを選択するようにします。

> **注**: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

- ホストはバッチでプロビジョニングします。1 つのバッチでプロビジョニングしたホストはすべて，同じアカウント，場所，テンプレートを使用し，同じ構成になります。別のタイプのホストをプロビジョニングするには，異なるバッチを作成する必要があります。1 つのプロビジョン要求にホストの複数のバッチを含めることができます。

3. **クラウド・ホストのプロビジョニング**

   クラウド・ホストをプロビジョニングするには，次の手順を実行します。

   a. ラボ管理で，[**ラボリソース**] > [**ホスト**] に移動します。ALMで，[**ラボリソース**] > [**テスティングホスト**] に移動します。

   b. [**プロビジョニング...**] ボタン をクリックします。[ホストのプロビジョニング] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[クラウド ホストのプロビジョニング] ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。

   c. プロビジョニングするホストのバッチごとに詳細を入力し，[**バッチの追加**] をクリックします。

   > **注:** 要求されたホストをプロビジョニングするには，少なくとも 1 クレジットが必要です。

   d. 必要なバッチすべてを追加して，[**プロビジョニング**] をクリックします。ホストはプロビジョニングのためのキューに入り，クラウド・プロビジョニング・レポートが開きます。

4. **プロビジョニング後:**

   ホスト・プロビジョニング・レポートにはプロビジョニングの進行状況が表示され，レポートは自動的に更新され最新情報が表示されます。プロビジョニング中にエラーが発生すると，そのエラーがホスト・プロビジョニング・レポートに表示されます。詳細については，「ホスト・プロビジョニング・レポート」(104ページ)を参照してください。

   クラウド・ホストのプロビジョニングが完了すると，ホストでのテスト実行が可能になります。

   > **注:** クラウド・ホストのステータスが稼働中に変わってから，ホストが使用可能になるまでに数分かかることがあります。

   プロビジョニングが完了すると，ホストはプロジェクトのクレジットを消費します。

クラウド・ホストの終了

クラウド・ホストを終了するには，次の手順を実行します。

1. ラボ管理で，[**ラボリソース**] > [**ホスト**] に移動します。ALMで，[**ラボリソース**] > [**テスティングホスト**] に移動します。

2. グリッド内のクラウド・ホストを選択し，[**削除**] ボタン をクリックします。クラウド・ホストが終了のためのキューに入ります。

ホストが終了するのに数分かかる場合があります。ホストは，終了すると，ホスト・グリッドから削除されます。

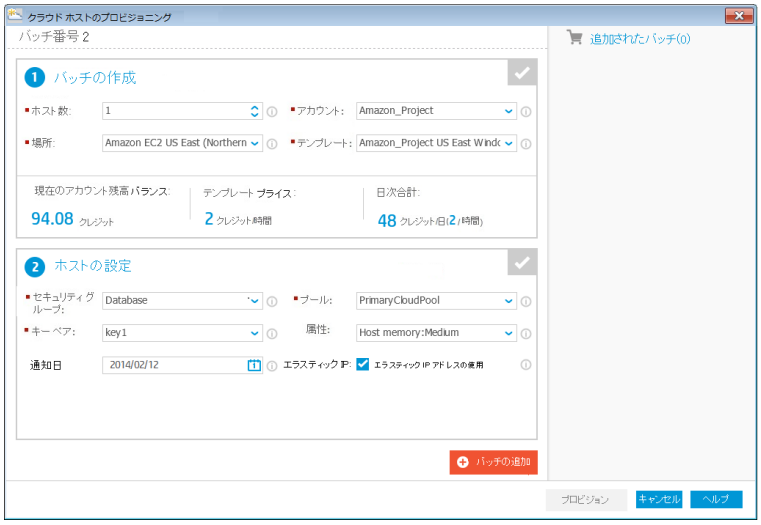
ホスト・プロビジョニングのユーザ・インタフェース

本項の内容

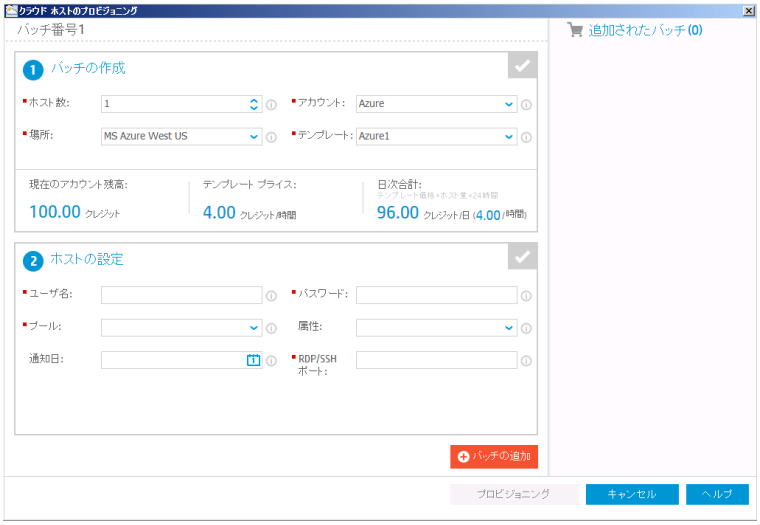
- [クラウド ホストのプロビジョニング] ダイアログ・ボックス 100
- ホスト・プロビジョニング・レポート 104

［クラウド ホストのプロビジョニング］ダイアログ・ボックス

［クラウド ホストのプロビジョニング］ダイアログ・ボックスでは，ホストのプロビジョニングを行います。プロビジョニングの対象となるホストの数，プロビジョニング先，必要なホスト設定を選択できます。



Microsoft Azure の場合は，［クラウド ホストのプロビジョニング］ダイアログ・ボックスは次のようになります。



アクセス方法	**ラボ管理**： 1. サイドバーの[ラボリソース]で，[**ホスト**]をクリックします。 2. [**プロビジョニング**]ボタン をクリックするか，[**テスティングホスト**]＞[**プロビジョニング**]を選択します。 **ALM**： 1. サイドバーの[ラボリソース]で，[**テスティングホスト**]をクリックします。 2. [**プロビジョニング**]ボタン をクリックするか，[**テスティングホスト**]＞[**プロビジョニング**]を選択します。 My **Performance Center**： 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで，[**リソース**]＞[**テスティングホスト**]を選択します。 2. [**ホストのプロビジョニング**]ボタンをクリックします。
重要な情報	ホストをプロビジョニングするには，1つ以上のクラウド・アカウントと1つ以上のホスト・テンプレートをプロジェクトにリンクしておく必要があります。
関連タスク	「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(96ページ)
参照情報	「ホストのプロビジョニングの概要」(96ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
バッチ番号	詳細情報の入力対象となるバッチの番号が表示されます。
ホスト数	バッチでプロビジョニングするホストの数を入力します。バッチ内のホストのアカウント，場所，テンプレートがすべて同じであり，設定も同じであることを確認してください。
アカウント	プロビジョニングを行うクラウド・アカウントを選択します。
場所	ホストのプロビジョニング先となる地理的な場所を選択します。適切なホスト・テンプレートが設定されている場所を選択してください。
テンプレート	ホスト・テンプレートでは，ホストの用途，ハードウェア，マシン・イメージ，1時間あたりの消費クレジットが指定されています。テスト・ニーズに合ったホスト・テンプレートを選択します。使用可能なテンプレートのリストは，選択した場所で異なります。
現在のアカウント残高	アカウントで使用可能なクレジット数が表示されます。 **利用場所**：ALMとPerformance Center

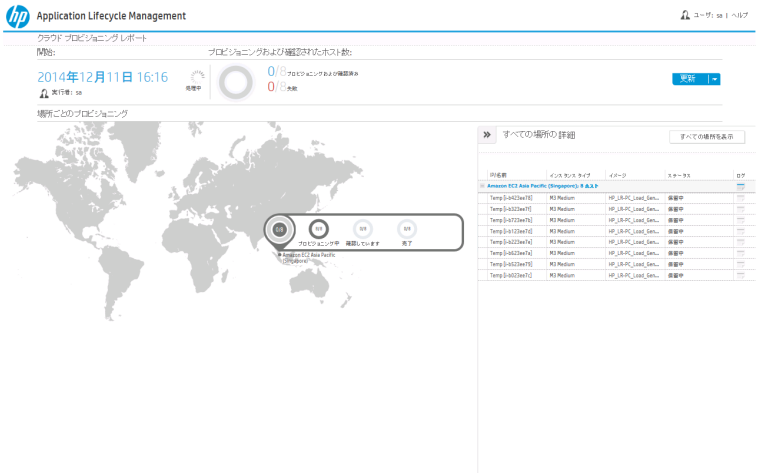
UI要素	説明
テンプレート・プライス	選択したテンプレートの1時間あたりのコストがクレジット単位で表示されます。 **利用場所**: ALMとPerformance Center
日次合計	バッチが1日あたりに消費するクレジットの総数が表示されます。 **利用場所**: ALMとPerformance Center
セキュリティ・グループ	テスティング・ホストへのアクセスを許可するセキュリティ・グループを選択します。セキュリティ・グループでは，ホストとの通信で許可する送信接続と受信接続(HTTPのポート80やRDPのポート3389など)を指定します。セキュリティ・グループはクラウド・プロバイダのWebサイトで設定し，場所ごとに個別に作成する必要があります。選択した場所で設定されているセキュリティ・グループのみが表示されます。詳細については，「クラウドの初期設定の概要」(56ページ)を参照してください。 **注**: Microsoft Azureクラウド・アカウントには該当しません。
プール	新しくプロビジョニングしたホストの追加先となるホスト・プールを選択します。
キー・ペア	取得した秘密キーのキー・ペアを選択します。キー・ペアは，Windowsマシンの管理者パスワードの生成，Linuxマシンへのログインに使用されます。キー・ペアが必要になるのは，クラウド・ホストにリモート接続する場合のみです。キー・ペアはクラウド・プロバイダのWebサイトで管理し，場所ごとに個別に作成する必要があります。選択した場所で設定されているキー・ペアのみが表示されます。 **注**: ホストをプロビジョニングするには，キーペアが少なくとも1つ必要です。 サイクルの詳細については，「クラウドの初期設定の概要」(56ページ)を参照してください。 **注**: Microsoft Azureクラウド・アカウントには該当しません。

UI要素	説明
属性	ホストの機能に合ったホスト属性を選択します。ホスト属性を元に，テストの実行時に目的に適したホストを特定します。 **注:** 属性リストは，ALMプロジェクト・カスタマイズから変更できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
通知日	ホストがクラウド・プロバイダでプロビジョニングされている場合，通知を送信する日を入力します。指定した日を過ぎたプロビジョニング済みホストは，クラウド・ホスト日次ダイジェストに表示されます。 **注:** これはオプションのフィールドですが，期限日が過ぎているホストをよりよく追跡できるように，値を入力することをお勧めします。この値は，ホスト・モジュールから変更できます。
エラスティックIP	事前定義済みのIPアドレスのプールをクラウド・プロバイダで定義してある場合，このオプションを選択すると，その事前定義済みの静的IPアドレスを使ってホストがプロビジョニングされます。エラスティックIPアドレスの詳細については，「クラウドの初期設定の概要」(56ページ)を参照してください。 **注:** Microsoft Azureクラウド・アカウントには該当しません。
ユーザ名	RDP/SSHポートをプロビジョニング済みのマシンに接続するユーザのユーザ名。このユーザ名は，仮想マシンで使用するオペレーティング・システムで要求される複雑さの要件を満たす必要があります。 **注:** Microsoft Azureクラウド・アカウントのみに該当します。
パスワード	RDP/SSHポートをプロビジョニング済みのマシンに接続するユーザのパスワード。このパスワードは，仮想マシンで使用するオペレーティング・システムで要求される複雑さの要件を満たす必要があります。 **注:** Microsoft Azureクラウド・アカウントのみに該当します。

UI要素	説明
パスワードの確認	RDP/SSHポートをプロビジョニング済みのマシンに接続するユーザのパスワードを再度入力します。 **注：** Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。
RDP/SSHポート	セキュアな接続のリモート・デスクトップのポート。 **注：** Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。
バッチの追加	選択したバッチをカートに追加します。[**プロビジョニング**]をクリックすると，カート内にあるすべてのホストがプロビジョニングのキューに追加されます。
追加されたバッチ	プロビジョニングの対象バッチがすべて表示されます。カートからバッチを削除するには，[**バッチの削除**]ボタンをクリックします。
バッチの削除	選択したバッチを削除し，カートから削除します。
プロビジョニング	カート内のすべてのバッチをプロビジョニングのキューに追加し，ホスト・プロビジョニング・レポートを表示します。このレポートの詳細については，「ホスト・プロビジョニング・レポート」(104ページ)を参照してください。

ホスト・プロビジョニング・レポート

ホスト・プロビジョニング・レポートでは，ホストのプロビジョニングの進行状況が場所ごとに表示されます。プロビジョニングのプロセスが手順を追って表示され，詳細な情報はログ・ファイルに記録されます。クラウド・ホストのプロビジョニングが完了すると，ホストでのテスト実行が可能になります。



アクセス方法	**ラボ管理**： 1. サイドバーの[ラボリソース]で，[**ホスト**]をクリックします。 2. [**ホスト操作**]ドロップダウン矢印をクリックし，[**ホスト プロビジョニング レポート**]を選択します。 または，[**プロビジョニング**]ボタン をクリックします。[クラウド ホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックスが開いたら，[**プロビジョニング**]ボタンをクリックします。 **ALM**： 1. サイドバーの[ラボリソース]で，[**テスティング ホスト**]をクリックします。 2. [**ホスト操作**]ドロップダウン矢印をクリックし，[**ホスト プロビジョニング レポート**]を選択します。 または，[**プロビジョニング**]ボタン をクリックします。[クラウド ホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックスが開いたら，[**プロビジョニング**]ボタンをクリックします。 My **Performance Center**： 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで，[**リソース**]＞[**テスティング ホスト**]を選択します。 2. [**プロビジョニング レポート**]ボタンをクリックします。 または，[**ホストのプロビジョニング**]ボタンをクリックします。[クラウド ホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックスが開いたら，[**プロビジョニング**]ボタンをクリックします。
重要な情報	• ホストをプロビジョニングするには，1つ以上のクラウド・アカウントと1つ以上のホスト・テンプレートをプロジェクトにリンクしておく必要があります。 • クラウド・ホストのステータスが稼働中に変わってから，ホストが使用可能になるまでに数分かかることがあります。 • プロビジョニングが完了すると，ホストはプロジェクトのクレジットを消費します。
関連タスク	「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(96ページ)
参照情報	「ホストのプロビジョニングの概要」(96ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
開始	このセクションでは，次の詳細情報が表示されます。 • プロビジョニングの開始日時。 • レポートを作成しているユーザの名前。 • レポートの進行状況。
プロビジョニングおよび確認されたホスト数	プロビジョニングを待っているホストの数とそのステータスを示します。
更新	レポートは自動更新され，最新情報が表示されます。矢印をクリックすると，自動更新の頻度を秒単位で変更できます。頻度は，**1** 秒，**10** 秒，**30** 秒のいずれかを選択できます。
	指定した場所について，プロビジョニングを待っているホストの数とそのステータスを示します。インジケータをクリックすると，レポートの詳細パネルが開きます。 可能性のある状態は次のとおりです。 **プロビジョニング中**：ホストはプロビジョニングの実行中です。 **確認しています**：ホストは確認中です。 **完了**：ホストのプロビジョニングが完了し，確認済みです。 **完了 - 失敗**：ホストのプロビジョニングに失敗しました。
	レポートの詳細を表示します。レポートには次の項目が表示されます。 • **すべての場所を表示**：同時に複数の場所で稼働している場合は，すべての場所の詳細情報が表示されます。 • **IP/名前**：ホストの名前または IP アドレス。 • **インスタンス・タイプ**：ホストのハードウェア仕様。 • **イメージ**：ホストの使用するソフトウェア・イメージ。 • **ステータス**：ホストのプロビジョニング・ステータスを示します。 • **ログ**：ホストに関連するイベントのログが表示されます。

クラウド・リソースの監視

本項の内容

• クラウド・リソースの監視の概要 107
• クラウド警告の構成方法 107
• [クラウド警告および通知]ダイアログ・ボックス 108

クラウド・リソースの監視の概要

プロビジョニングしたホストが消費するクラウド・リソースの分析と監視には，使用状況レポートを作成する方法と警告と通知を送信する方法があります。

クラウドの使用状況レポート

次のクラウド使用状況レポートを作成できます。

レポート	説明
クラウド・サマリ	消費されたクレジットとプロビジョニングされたホストをプロジェクトごとにまとめて表示します。
クラウド・クレジット(タイプ別)	消費されたクラウド・クレジットを，場所，テンプレート，インスタンス，イメージごとの内訳で表示します。
クラウド利用率	クラウド・ホストの稼働時間，実行時間とアイドル時間を比較し，総アイドル時間のクレジット数をプロジェクトごとにまとめて表示します。
クラウド操作およびホスト	各ホストのプロビジョニングと終了の操作，詳細なプロビジョニング・データを表示します。

詳細については，「使用状況レポートの概要」(187ページ)を参照してください。

クラウド警告および通知

ホストのプロビジョニングでは，次の警告と通知を使用できます。

- アイドル・ホスト(非アクティブ時間)
- アカウント使用状況(クレジット残高)
- ホスト・ステータスの詳細(稼働中，非稼働，利用不可のホスト)

警告の設定の詳細については，「クラウド警告の構成方法」(107ページ)を参照してください。

クラウド警告の構成方法

本項では，クラウド警告と通知を構成する方法を説明します。クラウド警告の詳細については，「ホストのプロビジョニングの概要」(96ページ)を参照してください。

1. 前提条件
   - ユーザに警告と通知を送信するには，ALMメール・プロトコルを設定する必要があります。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- クラウドの警告と通知を設定するには，ユーザ権限が必要です。アクセス許可の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
- 電子メールを受信するには，管理者が電子メール送信に使用するメールを設定する必要があります。管理者は，TDAdmin グループに所属し，有効な電子メール・アドレスを持っている必要があります。

2. ALM または ラボ管理 のマストヘッドで，をクリックして[**クラウド警告および通知**]を選択します。詳細については，「[クラウド警告および通知]ダイアログ・ボックス」(108ページ)を参照してください。
3. ユーザに通知する警告とルールを定義します。

[クラウド警告および通知]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，警告と通知を設定することにより，重要なクラウド・アクティビティに関する情報をユーザに送信します。

アクセス方法	または ALM または ラボ管理 のマストヘッドで，をクリックして[**クラウド警告および通知**]を選択します。
重要な情報	• ユーザに警告と通知を送信するには，ALM メール・プロトコルを設定する必要があります。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • クラウドの警告と通知を設定するには，ユーザ権限が必要です。アクセス許可の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「クラウド警告の構成方法」(107ページ)
参照情報	「ホストのプロビジョニングの概要」(96ページ)

警告の送信先

このパネルでは，警告と通知の送信先となるユーザを設定します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ホストをプロビジョニングしたユーザ(該当する場合)	クラウド・ホストをプロビジョニングしたユーザに通知します。
プロジェクト管理者	プロジェクトの管理者ユーザに通知します。
以下のユーザ:	指定したユーザに通知します。

警告と通知のルール

この表示枠では，ユーザに通知する際のルールを設定します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
アイドル時間が次の長さを超えたホストに関する警告を送信	クラウド・ホストがアイドル状態のまま指定の時間が経過した場合，警告を送信します。 **ALMのみ**: 現在ログインしているプロジェクトからプロビジョニングしたホストに警告を送信します。 **ラボ管理のみ**: ラボ管理からプロビジョニングしたホストに警告を送信します。
他のプロジェクトの公開アカウントからプロビジョニングされたホストを含める	**ラボ管理のみ**: ラボ管理から追加したクラウド・アカウントでプロビジョニングしたホストを含めます。
クラウド・ホストの日次ダイジェストを次の時刻に送信	指定した日時にクラウド・ホスト・サマリを送信します。このレポートには，今日の操作，アカウントの使用状況，ホストの詳細情報が含まれます。
プロジェクトの特定クラウド・アカウントの残りクレジット数が次の値を下回ったら警告を送信	プロジェクトで，クラウド・アカウントのクレジット残高が指定した値を下回った時点で警告を送信します。

第6章: ラボ・リソース

本章の内容

- ラボ・リソースの概要 111
- ラボ・リソースの管理 113
- ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース 128

ラボ・リソースの概要

ラボ・リソース・モジュールでは，ALM サーバ側のテストで使用するテスト・リソースの定義，管理，保守を行います。

ラボ管理 なしで ALM を使用すると，ユーザはローカル・コンピュータからテストを管理する必要があります。このテスト方法はクライアント側の実行と呼ばれます。ラボ管理では，テスト実行にサーバ側の実行を使用することができます。テスティング・ホストのセットアップが完了すると，ALM を使用して，リモート・サーバでのテストのスケジュール設定やテストの自動実行を行うことができます。ラボ管理 では，テスト実行で使用するホストとホスト・プールのセットアップと保守を行います。

テスティング・ホスト/ホスト

テスティング・ホストは，テストを実行し，これらのテストから収集したデータを処理するために使用されます。機能ホストやパフォーマンス・ホストとしてホストを定義できます。

機能ホストとパフォーマンス・ホストは，次の用途に使用できます。

機能ホスト (ALM エディションのみ)	• **Business Process Testing**：ビジネス・プロセス・テストが実行されるテスティング・ホスト。 • **QuickTest Professional**：QuickTest Professonal が実行されるテスティング・ホスト。 • **Service Test**：Service Test が実行されるテスティング・ホスト。 • **システム・テスト**：システム・テストが実行されるホスト。 • **Unified Functional Testing**：Unified Functional Testing が実行されるテスティング・ホスト。 • **VAPI-XP**：VAPI-XP が実行されるテスティング・ホスト。 **注：** • 機能テストにテスティング・ホストを使用するには，テスティング・ホストを ALM に登録する必要があります。詳細については，「HP ALM Lab Service の使用」(328ページ)を参照してください。 • 機能テスティング・ホストを自動選択の対象から除外することが可能です。 • 特定のユーザにホストを予約し，他のユーザが予約済みホストを選択できないようにします。

パフォーマンス・ホスト	• **Controller**：パフォーマンス・テストの管理に使用されるテスティング・ホスト。テストの実行中に，Controllerは，実行するスクリプト，スクリプトごとに実行する仮想ユーザ数，仮想ユーザの実行の開始時点と停止時点を含む指示をLoad Generatorに発行します。Controllerはテストごとに1つしかありません。 • **Load Generator**：テスト中に仮想ユーザが実行されるテスティング・ホスト。特定のテストに対して任意の数のLoad Generatorを使用できます。 • **Data Processor**：テストの実行中に収集されたデータを処理，公開するために使用されるテスティング・ホスト。 **注：** • 柔軟性を高めるために(リソースが少ない場合に特に)，ControllerとLoad Generatorを兼用した1台のパフォーマンス・ホストを割り当てることができます。一般的に，この方法はお勧めできません。仮想ユーザの数が非常に少ないテストに対してのみ適しています。ホストの割り当て時に，システムは，ControllerとLoad Generatorを兼用したホストの前に，単一機能のホストの使用を試みます。 • 1台のホストをController，Data processor兼用として設定することもできますが，データ処理用には別のホストを設定することをお勧めします。 • ファイアウォール越しのホストやUNIXホストは，Load Generator専用として使用できます。

テスティング・ホスト/ホスト・モジュールは，ラボ管理 プロジェクトとALMプロジェクトの両方で使用できます。

テスティング・ホストの管理に関するタスクの詳細は，「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)を参照してください。

ホスト・プール

ホスト・プールとは，テスティング・ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。ホスト・プールを管理する場合，利用可能な総リソースを理解していることが重要です。

パフォーマンス・テストに関連するプロジェクトでプールを使用する場合，そのプールにはController，Load Generator，Data Processorがそれぞれ1つ以上必要です。ホストには二重の機能を持たせられるため，プールには，他のホストの中でもController機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。

利用場所：ラボ管理 のみ。

ホスト・プールの管理に関するタスクの詳細は，「ホスト・プールを管理する方法」(122ページ)を参照してください。

クラウド・アカウント

クラウド・アカウントとは，クラウド・プロバイダで実際に設定されているアカウントのラボ管理バージョンです。

詳細については，「クラウド・アカウントの概要」(68ページ)を参照してください。

クラウド・テンプレート

クラウド・テンプレートでは，クラウド・ホストの各タイプを示す詳細情報が定義されています。

詳細については，「ホスト・テンプレートの概要」(84ページ)を参照してください。

タイムスロット

テストを実行したり，ホスト・マシンでメンテナンスを実施する場合，これらのタスクに必要なリソースは，利用可能であり，プロジェクトとライセンスの制限範囲内である必要があります。タイムスロット・モジュールでは，タスク実行準備が整ったときに，必要なリソースが利用できるように，事前に確認してリソースを予約できます。

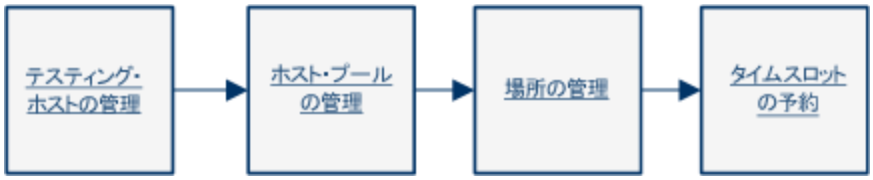
タイムスロットには，テスト・タイムスロットとメンテナンス・タイムスロットの2タイプがあります。

- テスト・タイムスロットを予約すると，機能テストまたはパフォーマンス・テストの実行時に必要なリソースが確保されます。テスト・タイムスロットの予約は，ALMプロジェクトのみで行います。
- メンテナンス・タイムスロットを予約すると，メンテナンスの実行時に必要なリソースが確保されます。メンテナンス・タイムスロットの予約は，ラボ管理 プロジェクトで行います。

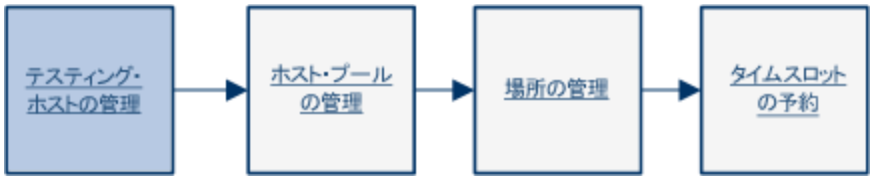
タイムスロットの予約の詳細については，「タイムスロットの予約方法」(124ページ)を参照してください。

ラボ・リソースの管理

次に，ラボ・リソースの管理ワークフローを示します。



テスティング・ホストの管理方法



本項では，ALM で機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側実行する際に必要になるテスティング・ホストを作成，変更，監視する方法について説明します。

注：

- **ホスト**・モジュールは，ラボ管理とALM で表示されます。ただし，ALM では「**テスティング・ホスト**」と表示されます。ここでの説明は，ラボ管理の**ホスト**・モジュールを対象にしたものですが，ほとんどの機能は ALM の**テスティング・ホスト**・モジュールでも使用できます。
- ALM のテスティング・ホスト・モジュールを使用している場合，プロジェクトのホスト・プールに関連付けられているテスティング・モジュールのみが表示されます。
- **ALM のエディション:** 機能テスティング・ホストの管理は，ALM Edition のみで実行できます。ALM エディションとその機能の詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

本タスクの内容

- 「テスティング・ホストの追加」(115ページ)
- 「Excel を使用したテスティング・ホストのインポート」(116ページ)
- 「ラボ・リソースの詳細の変更/表示」(119ページ)
- 「テスティング・ホストに対するホスト接続のチェック」(119ページ)
- 「ホストの再起動」(120ページ)
- 「ホストへのパッチのインストール」(120ページ)
- 「ホストの再設定」(121ページ)
- 「パフォーマンス・ホスト上のプロセスの終了」(121ページ)
- 「テスティング・ホストのホスト・プールへのリンク」(121ページ)

テスティング・ホストの追加

機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側で実行するには，テスティング・ホストをALMに追加する必要があります。テスティング・ホストの概要については，「ラボ・リソースの概要」(111ページ)を参照してください。

テスト・ラボのホストをALMに追加するには，次の手順を実行します。

1. **前提条件**

   次の内容を確認します。

   - 必要なテスト・ツールがテスティング・ホストにインストールされている必要があります。インストール手順については，各テスト・ツールのドキュメントを参照してください。
   - リモートの場所にあるパフォーマンス・テスティング・ホストを追加する場合は，場所を[**ラボ リソース**]＞[**場所**]モジュールに追加する必要があります。タスクの詳細については，「ホストの場所を管理する方法」(123ページ)を参照してください。
   - 追加するテスティング・ホストがファイアウォール越しにある場合，ホストはMI Listener経由でパフォーマンス・ホストと通信します。MI Listenerが[**ラボ リソース**]＞[**MI Listener**]モジュールで追加されたことを確認してください。タスクの詳細については，「MI Listenerを管理する方法」(237ページ)を参照してください。
   - 機能テスト用にホストを使用する場合，追加するテスティング・ホストにHP ALM Lab Serviceをインストールしておく必要があります。HP ALM Lab Serviceをダウンロードしてインストールするには，[**ヘルプ**]＞[**ALM ツール**]を選択してツール・アドインページを開き，[**HP ALM Lab Service**]リンクをクリックしてから，各オペレーティング・システム用のパッケージをダウンロードします。HP Lab Serviceのインストールの詳細については，「HP ALM Lab Service のインストール」(321ページ)を参照してください。

2. **新しいテスティング・ホストの作成**

   > **ヒント：** ホストのインポート機能を使用すると，ホストのリストをExcelファイルからALMにインポートできます。詳細については，「Excelを使用したテスティング・ホストのインポート」(116ページ)を参照してください。

   [**ラボ リソース**]＞[**ホスト**]を選択し，[**新規テスティング ホスト**]ボタン をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規テスティング ホスト]ダイアログ・ボックス」(146ページ)を参照してください。

> **注：** ALM プロジェクト内で作成されたホストは非公開ホストであり，同時に1つのホスト・プールにしか存在できません。

3. **テスティング・ホストを登録します。**

   機能テスティング・ホストを使用するには，セキュリティ上の理由から，HP ALM Lab Service を使用して機能テスティング・ホストを登録する必要があります。テスティング・ホストの登録後，テスティング・ホストの登録はラボ管理 内で承認される必要があります。

   テスティング・ホストで[登録自動承認]フィールドを **Y** に設定した場合，ホストは登録時に自動承認されます。[登録自動承認]を **N** に設定した場合，[ステータス]フィールドを[登録済み]に変更すると登録作業が完了します。

   Lab Service でテスティング・ホストを登録する手順の詳細については，「HP ALM Lab Service の使用」(328ページ)を参照してください。

> **注：** 互換性を確保するには，Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンである必要があります。使用中の Lab Service のバージョンが ALM サーバと一致しない場合，[ホスト/テスティング ホスト]グリッドでテスティング・ホストが[**利用不可**]と表示されます。

パフォーマンス・テスト用にクラウドからホストをプロビジョニングする手順は，「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(96ページ)を参照してください。

Excel を使用したテスティング・ホストのインポート

ALM または ラボ管理 では，テスティング・ホストのリストを Excel ファイル(.xls または .csv) からインポートできます。

1. Excel ファイルが，インポート機能によってそのカラムを認識，マップできるように設定されていることを確認します。
   - Excel ファイルの最初の行には，次の表に表示されるフィールド名または対応する論理名が含まれている必要があります。(日付文字列は，大文字と小文字が区別されません。)

     フィールドの中には，必須のフィールド，あるいは必要または任意指定のフィールドがあります。
     - **必須**は，Excel ファイルに**必ずなければならない**フィールドを示します。このフィールドを省略すると，インポートは失敗します。このフィールドのカラムのいずれかの行で値を省略すると，その特定の行のインポートが失敗します。
     - **必要**は，Excel ファイルに**ある必要がある**フィールドを示します。このフィールドを省略すると，コードによってすべての行に標準設定値が入ったフィールドが追加されます。フィールドを指定しても，このカラムのいずれかの行で値を省略すると，コードによってその行に標準設定値が追加されます。
     - **任意指定**は，Excel ファイルにある必要がないフィールドを示します。このフィールドを省略しても，インポート手順に影響はありません。

- 仮想，参照，無効なフィールドを表すフィールドは無視されます。
- 空のカラムは許可されます。

次のようにファイル内のカラムと値を設定します。

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
HOST_NAME 必須	**名前**	任意の文字列	テスティング・ホスト・マシンの有効な名前。
HOST_PURPOSE 必須	**用途**	Controller, Load Generator, QTP，Sprinter などがあります。	テスティング・ホストの用途。 **注：**オプションの任意の組み合わせを指定できます。オプションは，スペースなしでセミコロンで区切る必要があります。 **例：**Controller; Data Processor; QTP
HOST_STATE 必要	**ステータス**	◦ 稼働中 ◦ 非稼働 ◦ 利用不可 **標準設定値：**稼働中	テスティング・ホストの状態。
HOST_INSTALLATION 必要	**インストール**	◦ Unified Functional Testing ◦ Unix Load Generator ◦ Windows Host ◦ Windows Standalone LG **標準設定値：**Windows Host	テスティング・ホストのインストールのタイプ。 **注：**次には，ダブル・スペースがあります。 ◦「Windows <スペース> <スペース> Host」 ◦「Unix<スペース><スペース>Load Generator」

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
HOST_PRIORITY 必要	**優先度**	◦ 1 - 優先度が最も低い ◦ 2, 3 ...8 ◦ 9 - 優先度が最も高い **標準設定値**:5	テスティング・ホストの優先度。
HOST_SSL_ENABLED 必要	**SSL の有効化**	◦ Y ◦ N **標準設定値**:N	SSL の有効化。
HOST_USERNAME 任意指定	**ユーザ名**	任意の文字列	テスティング・ホストへのログインで使用するユーザ名。
HOST_PASSWORD 任意指定	**パスワード**	任意の文字列	テスティング・ホストへのログインで使用するユーザ・パスワード。
HOST_DOMAIN 任意指定	**ドメイン**	任意の文字列	テスティング・ホストのドメイン。
HOST_DESCRIPTION 任意指定	**説明**	任意の文字列	テスティング・ホストの説明。

次の表に指定したフィールドは，Excel ファイルに含めないでください。各ホストのインポート中に，これらのフィールドには標準設定値が割り当てられます。

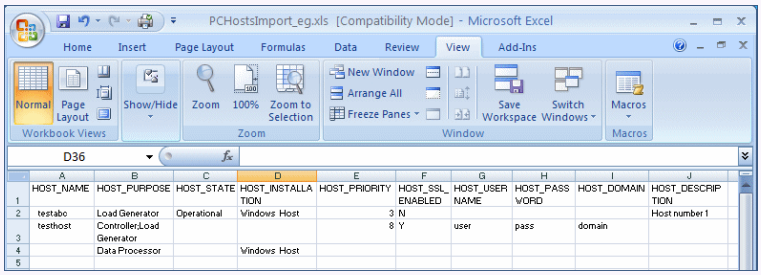
フィールド名	割り当てられる標準設定値
所属プール	一般(ALM プロジェクトから追加する場合は，プロジェクトのプール)
場所	標準設定値
MI Listener	なし

注: これらのフィールドのデータが Excel ファイルに含まれている場合，そのデータは無視されます。特定のホストに関連しない標準設定値は，ホスト・モジュール

で手動で変更する必要があります。

例：

次の図は，2台のAUTホスト（**testabc**，**testhost**）と名前が提供されていない3番目のホストによるExcelファイルの設定を示しています。



2. **次の手順でテスティング・ホストをインポートします。**
   a. [**ラボ リソース**] > [**ホスト**] で[**テスティング ホスト**] > [**インポート**] を選択します。
   b. ホストを含むExcelファイルを参照し，[**開く**] をクリックします。

   インポート・プロセスの最後に，レポートにインポート結果が表示され，インポートされたホストがホスト・モジュールにリストされます。正常にインポートされなかったホストは，手動で追加する必要があります。

ラボ・リソースの詳細の変更/表示

[**ラボ リソース**] > [**ホスト**] を選択してからグリッドのテスティング・ホストを選択し，[**テスティング ホストの詳細**] ボタン をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスティング ホスト詳細] ダイアログ・ボックス」(148ページ)を参照してください。

テスティング・ホストに対するホスト接続のチェック

[**ラボ リソース**] > [**ホスト**] を選択してから，グリッドのテスティング・ホストを右クリックして[**ホストの確認**] を選択します。

タスク・マネージャが開き，ホスト上で実行された各チェックの結果全体，[**成功**] または[**失敗**] が表示されます。

ホスト・チェックの進行状況は，ホスト・モジュールの[**ホストのステータスの確認**] タブで確認できます。

> **注：** 機能ホストで実行可能なテストは，［**ホストへの ping**］のみです。

テスティング・ホストの用途と場所に基づいて，次のチェックが実行されます。

実行されるチェック	Load Generator ホスト				Controller ホスト	Data Processor ホスト	機能ホスト
	通常	UNIX	スタンドアロン	OFW			
ホストに対する ping	はい	はい	はい	なし	はい	はい	はい
インストール済みのパッチ	はい	なし	なし	なし	はい	はい	なし
サービス	はい	なし	なし	なし	はい	はい	なし
パフォーマンス	はい	なし	なし	なし	はい	はい	なし
ファイアウォール越しのステータス	なし	なし	なし	はい	なし	なし	なし

あるいは，上記のチェックとともにホストから特定の URL への追加の接続チェックを実行できます。グリッド内のホストを右クリックし，［**URL への接続性の確認**］を選択して，URL を入力します。

> **例：**
>
> - 通常の URL：`http://www.website.com`
> - マシン名：`machine22` または `http://machine22`

ホストの再起動

［**ラボ リソース**］＞［**ホスト**］を選択し，再起動するホストをグリッド内で右クリックして［**ホストの再起動**］を選択します。

ホストへのパッチのインストール

> **注：**
>
> - ホストにパッチをインストールするには，最初にパッチを ALM にアップロードしておく必要があります。詳細については，「パッチの ALM へのアップロード方法」(265ページ)

を参照してください。

- パッチをホストにインストールできるのは，ホストの状態が[**アイドル**]の場合のみです。
- パッチは，パフォーマンス・ホストにのみインストールできます。

[**ラボ リソース**]＞[**ホスト**]を選択し，パッチをインストールするホストをグリッド内で右クリックして[**パッチのインストール**]を選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス」(159ページ)を参照してください。

ホストの再設定

注：再設定可能なのはパフォーマンス・ホストのみです。

ホストを再設定すると，ホストのライセンス，Performance Center のシステム・ユーザ(IUSR_METRO)，ホスト・マシンの通信セキュリティ・パスフレーズがリセットされます。

ホストを再設定するには，[**ラボ リソース**]＞[**ホスト**]を選択します。グリッド内の再設定するホストを右クリックし，[**ホストの再設定**]を選択します。

パフォーマンス・ホスト上のプロセスの終了

パフォーマンス・ホストでプロセスを終了するには，[**ラボ リソース**]＞[**ホスト**]を選択します。ホストを選択し，[**プロセス**]タブでプロセスを選択して，をクリックします。

テスティング・ホストのホスト・プールへのリンク

注：ホスト・プール管理は，ラボ管理でのみ使用できます。

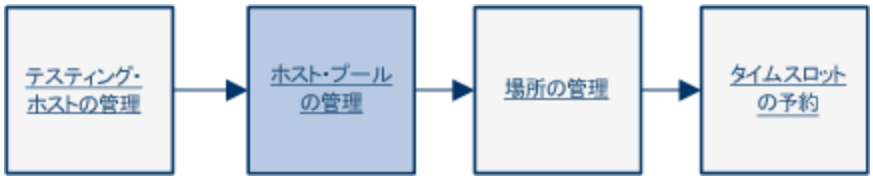
次のいずれかの方法で，ラボ管理 でホスト・プールを設定できます。

- **ホスト・モジュールからの場合**：1 つまたは複数のホスト・プールにテスティング・ホストをリンクできます。
- **プール・モジュールからの場合**：各ホスト・プールに 1 つまたは複数のテスティング・ホストをリンクできます。詳細については，「ホスト・プールを管理する方法」(122ページ)を参照してください。

ホスト・モジュールからテスティング・ホストを 1 つまたは複数のホスト・プールにリンクするには，次の手順を実行します。

1. [**ラボ リソース**]＞[**ホスト**]を選択します。
2. グリッドのホストを右クリックし，[**テスティング ホストの詳細**]を選択します。
3. [**所属プール**]の横にある下向き矢印をクリックし，ホストを含めるプールを選択します。[**OK**]をクリックします。

ホスト・プールを管理する方法



本項では，ALM で機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側で実行する際に，使用するテスティング・ホストのプールを管理する方法について説明します。

本タスクの内容

- 「ホスト・プールの追加」(122ページ)
- 「ホスト・プールの詳細の変更/表示」(122ページ)
- 「ホストのホスト・プールへのリンク」(122ページ)

ホスト・プールの追加

ALM でサーバ側テストを設計および実行するには，テスティング・ホストをホスト・プールに追加し，ホスト・プールをプロジェクトに割り当てる必要があります。ホスト・プールの概要については，「ラボ・リソースの概要」(111ページ)を参照してください。テスティング・ホストの作成の詳細については，「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)を参照してください。

ホスト・プールを追加するには，次の手順を実行します。

1. **[ラボ リソース]** > **[プール]** を選択します。
2. [**新規ホスト プール**] ボタン をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規ホスト プール] ダイアログ・ボックス」(162ページ)を参照してください。

ホスト・プールの詳細の変更/表示

[ラボ リソース] > **[プール]** を選択してからグリッドのホスト・プールを選択し，[**ホスト プール詳細**] ボタン をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「[ホスト プール詳細] ダイアログ・ボックス」(163ページ)を参照してください。

ホストのホスト・プールへのリンク

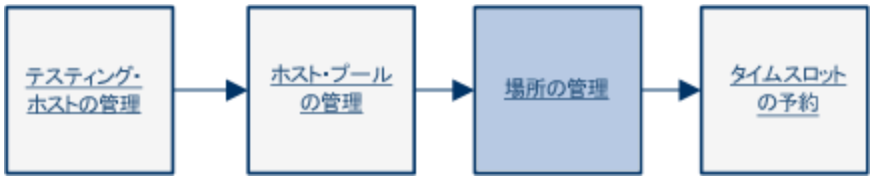
プール・モジュールから 1 つまたは複数のホストを 1 つのホスト・プールにリンクするには，次の手順を実行します。

1. **[ラボ リソース]** > **[プール]** を選択します。
2. グリッド内のホスト・プールを選択します。
3. [**リンクされたホスト**] タブで，[**ホストをプールに追加**] をクリックします。グリッドからホスト

を選択し，［**追加**］をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「［リンクされたホスト］ページ」(166ページ)を参照してください。

ホストの場所を管理する方法



本項では，ALMで機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側で実行する際に使用するテスティング・ホストの場所を管理する方法について説明します。

> **注：** 新しいクラウド・アカウントをALMに追加すると，クラウドの場所が自動的に作成されます。クラウドの場所は読み取り専用です。

本タスクの内容

- 「ホストの場所の追加」(123ページ)
- 「ホストの場所の詳細の変更/表示」(123ページ)
- 「ホストへのホストの場所の割り当て」(124ページ)

ホストの場所の追加

場所に基づいてテスティング・ホストを管理するには，場所モジュールでホストの場所エンティティを作成します。ホストの場所の概要については，「ラボ・リソースの概要」(111ページ)を参照してください。テスティング・ホストの作成の詳細については，「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)を参照してください。

ホストの場所を追加するには，次の手順を実行します。

1. ［**ラボ リソース**］＞［**場所**］を選択します。
2. ［**新規ホストの場所**］ボタン をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［新規ホストの場所］ダイアログ・ボックス」(169ページ)を参照してください。

ホストの場所の詳細の変更/表示

［**ラボ リソース**］＞［**場所**］を選択してからグリッド内でホストの場所を選択し，［**ホストの場所の詳細**］ボタン をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「［ホストの場所詳細］ダイアログ・ボックス」(170ページ)を参照してください。

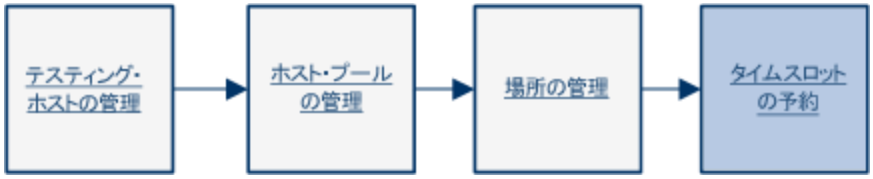
ホストへのホストの場所の割り当て

場所をホストに割り当てるには，次の手順を実行します。

1. [**ラボ リソース**] > [**ホスト**]を選択します。
2. グリッドでテスティング・ホストを選択して，[**テスティング ホストの詳細**]ボタンをクリックします。
3. [**テスティング ホスト**]ダイアログ・ボックスが開いたら，[**場所**]フィールドで場所を選択します。

   ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスティング ホスト詳細]ダイアログ・ボックス」(148ページ)を参照してください。

タイムスロットの予約方法



このタスクでは，メンテナンス・タスクを実行するホストの予約方法を説明します。

> **注：**
> - このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。
> - テスティング・ホストの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

1. **メンテナンス・タイムスロットの作成**
   a. ラボ管理サイドバーの[**ホスト**]で，[**タイムスロット**]を選択します。
   b. タイムスロットのツールバーで，[**新規メンテナンス タイムスロット**]ボタンをクリックします。
   c. タイムスロットの詳細を入力し，ホストを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[タイムスロットの予約：メンテナンス]ダイアログ・ボックス」(172ページ)を参照してください。
2. **要求されたホストの可用性の確認**

   次のいずれかを行います。
   - (推奨)[**可用性の計算**]をクリックします。システムにより，選択したタイムスロットに要求したホストの可用性が確認されます。この計算の結果は，[**タイムスロットのステータス**]タブに表示され，リソース可用性予定表に視覚的に表示されます。可用性予定

表には，要求されたホストを予約できるタイムスロットがすべて表示されます。要求されたホストを選択したタイムスロットで予約できない場合でも，他のタイムスロットでは利用できることがあります。

タイムスロットを予約できない場合，ホストを再度選択するときに，[タイムスロットのステータス]タブに表示された理由を検討します。タイムスロットを予約できる場合，[**送信**]をクリックして，タイムスロットを保存できます。

たとえば，15:00から1時間，特定のホストを要求する場合は，[**可用性の計算**]をクリックします。可用性予定表から，17:00～21:00はすでに予約されていることがわかります。したがって，15:00～16:00のタイムスロットを選択するか，21:00以降のタイムスロットを選択できます。[**タイムスロットのステータス**]タブでは，予約可能なタイムスロットが表示されます。

- [**送信**]をクリックします。システムにより，選択したタイムスロットに要求したホストの可用性が計算されます。すべてのホストが利用可能な場合，[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックスが閉じ，タイムスロットが予約され，タイムスロット・モジュールに表示されます。タイムスロットが予約できない場合，[タイムスロットのステータス]タブに理由が表示されます。

> **注:** メンテナンスに予約しようとしているホストがまだ開始してない別のタイムスロットに予約されていて，メンテナンス・タスクを遅延できない場合は，まず他のタイムスロットを予約したユーザに相談してください。そのユーザが同意した場合は，他のタイムスロットの開始時刻を移動するか，適宜削除します。

メンテナンス・タイムスロットのスケジュール - 管理者のユース・ケース

Paulは，Mercury Toursのデータセンターでシステム管理者を務めています。システム管理者になって3年が経過し，サーバ・ラボの管理も担当しています。Mercury ToursはALMを使用してプロジェクトを管理しており，昨年，サーバ・ラボのテスティング・ホストの管理にラボ管理 を使用することを決定しました。

テスティング・ホストが正常稼働することを確認することはPaulの職務であり，ラボ管理 を使用してサーバの保守を行っています。Paulは，テスティング・ホストを個々に保守できるようにメンテナンス・タイムスロットのスケジュールを設定しており，次のチェックリストを使ってタイムスロットを計画します。

- メンテナンス・タイムスロットのスケジュール設定の前提条件
- 自分のメンテナンス・タイムスロットの新規作成
- タイムスロット内でのメンテナンス・タスクの実行

Paulは，今日のメンテナンス・タイムスロットをスケジュール設定し，一部のホストを安全にシャットダウンして新しいハードウェアをインストールしようとしています。チェックリストを使用して，作業を開始します。

メンテナンス・タイムスロットのスケジュール設定の前提条件

Paul は，ラボ管理 が正常に稼働しており，テスティング・ホストがすべて登録済みで使用可能な状態であることを確認します。

自分のメンテナンス・タイムスロットの新規作成

Paul はラボ管理で[**テスト**]＞[**タイムスロット**]を選択します。[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックスが開きます。

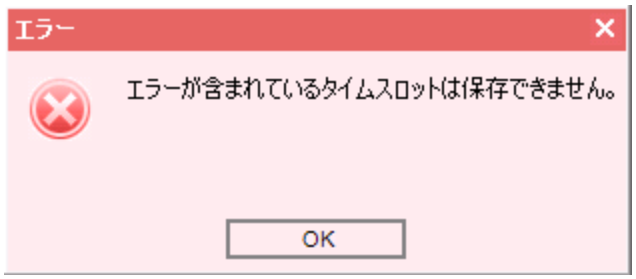
参照：「[タイムスロットの予約：メンテナンス]ダイアログ・ボックス」(172ページ)

Paul は，[タイムスロットの予約]フィールドに次の内容を入力します。

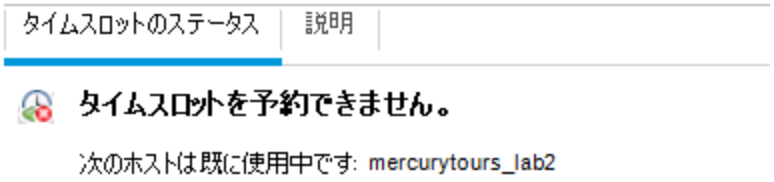
- **名前**：Mercury Tours ホスト再起動
- **継続時間**：1 時間 30 分
- **開始時刻**：10/12/2012，14:00
- **終了時刻**：10/12/2012，15:30

Paul は[**特定のホストの追加**]ボタンをクリックし，再起動するホストを選択します。

タイムスロットの詳細を再度確認してから，[**送信**]をクリックします。すると，エラー・メッセージが表示されました。



Paul は，［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックスの下にある［**タイムスロットのステータス**］タブを確認します。

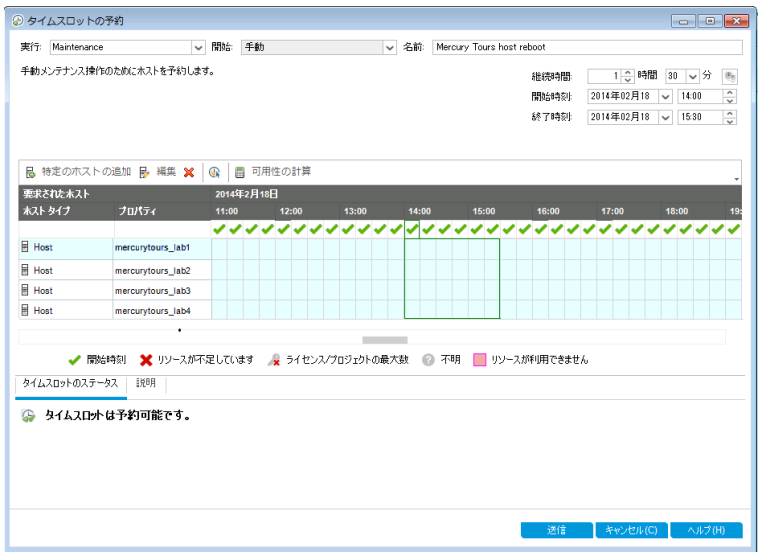


メッセージには，**mercurytours_lab2** ホスト（再起動するために予約していたテスティング・ホストの 1 つ）が指定のタイムスロットですでに予約されておりことが表示されています。この競合を解消しないと，メンテナンス用にホストを予約することはできません。

Paul が選択できるのは，別のタイミングでメンテナンスを行う方法と，テスティング・タイムスロットの所有者に連絡してテスティング・タイムスロットの移動を依頼する方法のいずれかです。

Paul がテスト担当者の名前を確認したところ，テスティング・タイムスロットを予約したのは John であることがわかりました。John は仲の良い友人です。電話で連絡し，テスティング・タイムスロットを 16:00 に変更できないか尋ねたところ，快く応じてくれました。

Paul はテスティング・タイムスロットを開き，開始時間を変更しました。これにより，メンテナンス・タイムスロットを 14:00 に予約することができました。



タイムスロット内でのメンテナンス・タスクの実行

14:00 になると，Paul はサーバ・ラボ内のテスティング・ホストをシャットダウンし，新しいハードウェアをインストールします。作業が完了したら，サーバを再起動してテストします。完了までに 1 時間しかかからなかったので，タイムスロットの終了時間には十分間に合います。

ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン 129
- ホスト・モジュール 136
- プール・モジュール 160
- 場所モジュール 167
- タイムスロット・モジュール 171

ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン

ラボ・リソース・モジュールを使用すると，テスト実行に使用するラボ・リソースを管理できます。

重要な情報	• 一部のリソースは，ラボ管理でのみ使用できます。管理者権限を持つユーザのみ，これらのリソースを管理できます。
	• ラボ管理の管理者以外のユーザは，自身のプロジェクトに属するホストの詳細とホスト・プールの詳細の表示，ホストの再設定，再起動，ホスト上でのホスト接続のチェックを行うことができます。
	• このトピックは，次のラボ・リソース・モジュールのすべてに関連します。
	  • ホスト
	  • プール
	  • 場所
	  • MI Listener(**Performance Center** グループで利用可能)
	これらすべてのリソースは，通常，<リソース> として参照されます。

関連タスク	「ラボ・リソースの管理」(113ページ)

ラボ・リソース・モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
登録の承認	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	テスティング・ホストの登録を承認できます。これにより，テスト実行にそのホストが使用できるようになります。 **注：** • 選択したホストの[登録自動承認]フィールドが「**Y**」の場合，このボタンは無効になります。 • このボタンはラボ管理 のみで表示されます。ホストの追加に使用したプロジェクトには関係しません。
自動更新	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	グリッドを30秒ごとに自動更新します。
URLへの接続性の確認	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	[**ホストの確認**]ボタンと同じチェック，任意の指定されたURLへの接続性のチェックを実行します。
ホストの確認	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	機能ホストの場合，選択したテスティング・ホストに有効な用途が関連付けられているかどうかをチェックします。検証チェックの結果は，[タスクマネージャ]ダイアログ・ボックスに表示されます。 パフォーマンス・ホストの場合，選択したホストとシステム内の他のマシン間の接続性をチェックします。
Data Processor キュー	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	[Data Processor キュー]ウィンドウが開き，保留中のデータ処理要求を表示できます。 **注：** パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。

UI 要素	場所	説明
削除	［編集］と<右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したリソースを削除します。 **注：** ホストが使用中の MI Listener は，削除できません。
<リソース> の詳細	ツールバーと右クリック・メニュー	［<リソース> の詳細］ダイアログ・ボックスが開き，選択したリソースの詳細を表示，編集できます。
エクスポート	ツールバーと<右クリック・メニュー>	［すべてのグリッド データをエクスポート］ダイアログ・ボックスが開き，リソースを，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**：グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**：グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索	表示	［検索］ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでリソースを検索できます。検索オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
＜リソース＞に移動	ツールバー	［<リソース> に移動］ダイアログ・ボックスが開き，ID 番号で特定のリソースを検索できます。現在のフィルタ内のリソースにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	［表示］と<右クリック・メニュー>	［フィルタ］ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI要素	場所	説明
ホスト・プロビジョニング・レポート	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	選択したクラウド・ホストのプロビジョニング・レポートを表示します。詳細については、「ホスト・プロビジョニング・レポート」(104ページ)を参照してください。複数のホストを選択した場合やクラウド・ホスト以外を選択した場合，このオプションは無効になります。
インポート	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	lab ホストのリストを Excel ファイル(.xls または .csv) から ALM(.xls または .csv 形式) にインポートできます。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
パッチのインストール	ホスト・モジュール	[パッチのインストール]ダイアログ・ボックスが開き，選択したホストにインストールするパッチを選択できます。詳細については、「[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス」(159ページ)を参照してください。 **注：** • Controller ホストと Load Generator ホストが[**実行中**]状態の場合，これらのホスト上でパッチのインストール機能は使用できません。これらのホストがアイドル時にのみ，パッチをインストールできます。 • この機能は，ALM 認定パッチのインストールのみに使用してください。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。 **利用場所：**ラボ管理 のみ。

UI要素	場所	説明
最終プロビジョニング・レポート	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	最後にプロビジョニングしたクラウド・ホストのプロビジョニング・レポートを表示します。詳細については、「ホスト・プロビジョニング・レポート」(104ページ)を参照してください。
新規＜リソース＞	ツールバー	リソースを追加できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
プロビジョニング	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	クラウド・ホストのプロビジョニングを行います。詳細については、「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(96ページ)を参照してください。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。

UI 要素	場所	説明
クイック フィルタ:	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	クイック・ビューとは，ホスト・グリッドで事前定義されているフィルタです。次のクイック・ビューを利用できます。 • **すべてのホスト**：すべてのホストを表示します。このビューには，クラウド，ローカル，パフォーマンス，機能の各種ホストが含まれます。 • **機能テスティング・ホスト**：UFT，Service Test Professional，Business Process Testing，システム・テスト，VAPI-XP 用のホストをすべて表示します。 • **すべてのパフォーマンス・テスティング・ホスト**：Controller，Data Processor，Load Generator 用のホストをすべて表示します。このビューには，クラウド・ホストとローカル・ホストが両方含まれます。 • **ローカル・パフォーマンス・テスティング・ホスト**：ローカルのパフォーマンス・テスティング・ホストをすべて表示します。 • **クラウド Load Generator**：クラウド Load Generator をすべて表示します。
ホストの再起動	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	リモートでホスト・マシンを再起動できます。 **注：** • Controller ホストと Load Generator ホストは，［**実行中**］状態の場合，再起動できません。アイドル時にのみ，これらのホストを再起動できます。 • UNIX Load Generator ホストは再起動できません。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。

UI 要素	場所	説明
ホストの再設定	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	選択したホスト・マシンの次の項目をリセットします。 • ホスト・ライセンス • システム・ユーザ(IUSR_METRO) • 通信セキュリティ・パスフレーズ 注: • 一度に1つのホストのみ再設定できます。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように, グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	<リソース> のグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き, グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き, グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば, ツールバーの下に表示されます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
クラウド・サマリ・パネルの表示	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	ホスト・グリッドの上に[クラウド サマリ] パネルを表示します。

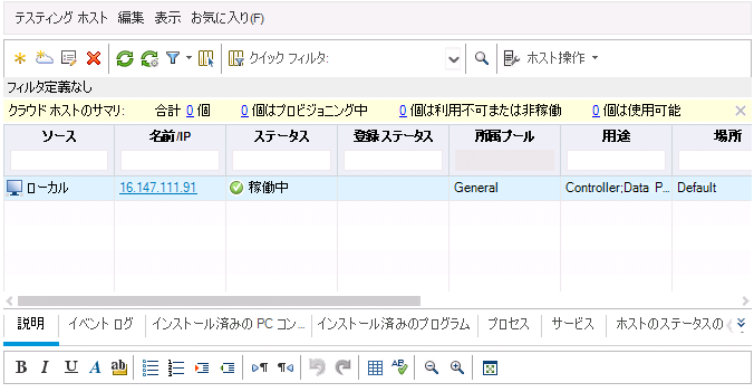
UI要素	場所	説明
登録解除	ホスト/テスティング・ホスト・モジュール	テスティング・ホストの登録を解除できます。これにより，テスト実行にそのホストが使用できなくなります。
選択項目の更新	［編集］と<右クリック・メニュー>	［選択項目の更新］ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホスト・モジュール

- ホスト/テスティング・ホスト・モジュールのウィンドウ 137
- ホストのフィールド 140
- ［新規テスティングホスト］ダイアログ・ボックス 146
- ［テスティングホスト詳細］ダイアログ・ボックス 148
- イベント・ログ 151
- ［プロセス］ページ 153
- ［サービス］ページ 154
- ［ホストのステータスの確認］ページ 155
- ［ファイアウォール越し］ページ 157
- ［インストールするパッチの選択］ダイアログ・ボックス 159

ホスト/テスティング・ホスト・モジュールのウィンドウ

このモジュールを使用すると，テスト実行に使用するホストを表示および管理できます。



アクセス方法	**ラボ管理**：サイドバーの[**ラボ リソース**]で，[**ホスト**]を選択します。 **ALM**：サイドバーの[**ラボ リソース**]で，[**テスティング ホスト**]を選択します。
重要な情報	一部の要素は，パフォーマンス・ホストでのみ表示されます。 **ラボ管理**：ホスト・モジュールによって，利用可能なすべてのホストのリストが表示されます。 **ALM**：テスティング・ホスト・モジュールによって，プロジェクトのホスト・プール内のすべてのホストのリストが表示されます。 **ALM のエディション:** 機能テスティング・ホスト管理に関連する一部の機能は ALM Edition にのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ホスト・モジュールの共通の UI 要素>	• **ホスト・モジュールのフィールド**：フィールドの定義については，「ホストのフィールド」(140ページ)を参照してください。 • **ホスト・モジュールのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(129ページ)を参照してください。
＜クラウド・サマリ・パネル＞	クラウド・ホストのサマリ情報を，ステータスとホストの状態ごとに表示します。ステータス/ホストの状態の横にある数値をクリックすると，そのステータス/ホストの状態に基づいてホスト・グリッドをフィルタ処理できます。 **[クラウド サマリ] パネルを表示**：[クラウド] メニューで [**クラウド サマリ パネルの表示**] を選択します。 **[クラウド サマリ] パネルを閉じる**：表示枠の右にある X ボタンをクリックします。
<ホスト・グリッド>	ALM 内のホストのリストを表示します。
[説明] タブ	現在選択されているホストについての説明が表示されます。 **ヒント**：この領域を右クリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[イベント ログ] タブ	選択したホストで実行されているタスク，操作のステータス，エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については，「イベント・ログ」(151ページ)を参照してください。
[インストール済みの PC コンポーネント] タブ	ホスト・マシンにインストールされている PC コンポーネント(バージョンとパッチを含む)のリストを表示します。 **注**：パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。 グリッドを更新するには，をクリックします。

UI 要素	説明
[インストール済みのプログラム]タブ	ホスト・マシンにインストールされているすべてのプログラムのリストを表示します。詳細には，バージョン，ソフトウェアの発行元，ホスト・マシンにインストールされた日付が含まれます。 **注：** パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。 グリッドを更新するには，をクリックします。
[プロセス]タブ	選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。 **注：** パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。 詳細については，「[プロセス]ページ」(153ページ)を参照してください。
[サービス]タブ	ホスト・マシンで実行中のサービスを表示します。 **注：** パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。 詳細については，「[サービス]ページ」(154ページ)を参照してください。
[ホストのステータスの確認]タブ	ホストの確認の各ステップのステータスを表示します。ホストの確認のステータスの詳細を表示するには，[ホストのステータスの確認]タブの行を右クリックし，[**ホスト ステータスの詳細の確認**]を選択します。詳細については，「ホストのステータスの確認のフィールド」(156ページ)を参照してください。
[PC 実行]タブ	選択したホストで実行されているテスト実行に関する詳細情報を表示します。詳細については，「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」(178ページ)を参照してください。
[ファイアウォール越し]タブ	ファイアウォール越しのホストの場合，ファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。詳細については，「[ファイアウォール越し]ページ」(157ページ)を参照してください。 **注：** パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
[履歴]タブ	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホストのフィールド

本項では，ホストのフィールドについて説明します。ラボ管理で，プライベート・ホストおよびパブリック・ホストのフィールドを変更できます。ALM では，プライベート・ホストのフィールドのみが変更できます。

フィールド	説明
アクティブなタイムスロット ID	このホストが予約されていて，現在開いているタイムスロットの ID。
所属プール	ホストの割り当て先のホスト・プール。 ホスト・プールを使用すると，どのホストをどのホスト・プールに割り当てるかを制御できます。テスト用のホストを割り当てる場合，システムでは，プロジェクトのホスト・プールからホストを割り当てます。ホストは少なくとも 1 つのプールに割り当てる必要があります。 **注：** プライベート・ホストは，1 つのプールにしか割り当てできません。 **利用場所：** ラボ管理のみ。
クラウド・アカウント	ホストのプロビジョニングで使用したクラウド・アカウントの名前。
クラウド・ホスト ID	クラウド・プロバイダがホストに割り当てる一意の ID。
クラウド・イメージ	クラウド・ホストに適用するマシン・イメージ。
クラウド・インスタンス・タイプ	クラウド・ホストのインスタンス・タイプ。
クラウド要求 ID	単一のプロビジョニング要求を示すクラウド・プロバイダの ID。プロビジョニング要求には，対象となるホストのバッチがすべて含まれます。バッチにはそれぞれのクラウド要求項目 ID が割り当てられています。 **ヒント：** クラウド要求 ID でフィルタ処理すると，あるプロビジョニング要求でプロビジョニングされたホストがすべて表示されます。

フィールド	説明
クラウド要求項目 ID	プロビジョニング要求に含まれるホストのバッチに割り当てられたクラウド・プロバイダ ID。バッチ内のホストは，仕様と設定がすべて同じです。 **ヒント：** クラウド要求項目 ID でフィルタ処理すると，あるホスト・バッチでプロビジョニングされたホストがすべて表示されます。
クラウド・テンプレート	ホストのプロビジョニングに使用したホスト・テンプレート。ホスト・テンプレートを変更しても，そのテンプレートを元にプロビジョニングを行った既存のホストには影響しません。
作成されたプロジェクト	ホストが作成されたプロジェクト。プライベート・ホストなど，ラボ管理内のすべてのホストを変更できます。ALM では，プロジェクトのプール内のプライベート・ホストのみを作成し，変更できます。 **注：** ラボ管理でのみ表示できます。
説明	ホストの説明。
SSL の有効化	Load Generator ホストと Controller との通信を SSL(Secure Socket Layer) 経由で行うかどうかを示します。 **注：** Load Generator は，実行時にのみ SSL を使用して Controller と通信します。実行時以外の機能(結果の照合など) では，Load Generator は通信プロトコルとして SSL を使用しません。 ファイアウォール越しの Load Generator ホストにのみ関連します。
自動適合から除外	このフィールドを Y に設定すると，自動適合でホストを選択できなくなります。ホストを選択するには，名前を指定する必要があります。 この設定は，機能ホストのみに適用されます。
ホスト属性	ホストのシステム属性。 **例：** メモリ，強度，インストールされているコンポーネント。 **ヒント：** ホスト属性はラボ管理 でカスタマイズできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

フィールド	説明
ホスト ID	ホストのID。
ホストの状態	ホスト上の現在のアクティビティ。 • **アイドル**：ホストが使用されていないことを示します。 • **インストール中**：パッチをホストにインストール中であることを示します。 • **再起動中**：ホストを再起動中であることを示します。 • **<実行状態>**：パフォーマンス・テストの実行中のホストの状態を示します。 • **<データ処理の状態>**：データ処理タスク中のホストの状態を示します。 • **＜プロビジョニング状態＞**：クラウド・ホストのプロビジョニング・ステータスを示します。ホストのプロビジョニングが完了すると，［ホストの状態］は「アイドル」になります。
ホスト・バージョン	テスティング・ホストにインストールされているLab Service エージェントのバージョン。 **注意：** テスティング・ホストにインストールされているLab Service エージェントとALM サーバのバージョンが異なる場合，テスティング・ホストのステータスは［**利用不可**］になり，サーバ側のテストを実行できなくなります。テスティング・ホストを使用可能な状態に戻すには，Lab Service エージェントを最新バージョンにアップグレードし，テスティング・ホスト・グリッドでステータスを［**稼働中**］にリセットします。

フィールド	説明
インストール	ホストのインストール・タイプ。 次のタイプを利用できます。 • **Windows UFT**：このホストにUnified Functional Testingがインストールされていることを示します。 HP Unified Functional Testing(UFT)は，以前はHP QuickTest ProfessionalとHP Service Testと呼ばれていた製品で構成されています。 • QuickTestの機能は，UFTではGUIテストと呼ばれます。 • Service Testの機能は，UFTではAPIテストと呼ばれます。 **注：**［Windows UFT］を選択すると，Service TestとQTPが標準設定の用途として選択されます。Windows UFTのインストールでは，この標準設定の用途を1つ以上含める必要があります。 • **Unix Load Generator**：このUnixホストを，パフォーマンス・テストでLoad Generatorとして使用することを示します。 • **Windows Host**：このWindowsホストは，パフォーマンス・テスト(Controller，Load Generator，Data Processor)または汎用機能テスト(システム・テスト，Vapi-XPなど)で使用可能であることを示します。 • **Windows Standalone LG**：このWindowsホストを，パフォーマンス・テストでスタンドアロンLoad Generatorとして使用することを示します。 **注：**既存のホストのこのフィールドは変更できません。
最終設定チェック	実行済みの最後の設定チェック。
最終接続性チェック	実行済みの最後の接続チェック。
最終インストール・チェック	実行済みの最後のインストール・チェック。
最終パフォーマンス・チェック	実行済みの最後のパフォーマンス・チェック。
最終ポーリング時刻	実行済みの最後のポーリング時刻。

フィールド	説明
最終回復時刻	ホストのステータスが「稼働中」に復帰した最終時刻。ホストが稼働できない状態になると，ALM はホストの状態を「非稼働」に変更します。その後，稼働状態に復帰すると，ALM はステータスを「稼働中」に変更し，[最終回復時刻] フィールドをタイムスタンプで更新します。
最終実行のタイムスロット ID	ホスト上でパフォーマンス・テストまたはデータ処理が行われたタイムスロットの ID。
場所	ホストの場所。たとえば，物理的領域に従って場所を定義できます。 場所によって，ホストがファイアウォール越しにあるかどうかも判断できます。ファイアウォール越しにある場合，データ収集を有効にする MI Listener を選択する必要があります。
論理名	ホストの名前または IP アドレス。
名前/IP	ホストの名前または IP アドレス。 **注:** ホスト名は，サフィックスを付けずに入力します。
パスワード	ホスト・マシン上の Performance Center システム・ユーザのパスワード。 **標準設定値**: P3rfoRm@1nce **注:** • Performance Center システム・ユーザの名前とパスワードは，UNIX ホスト，以前のバージョンの Performance Center から移行されたホストでのみ表示されます。 • 新たに追加された Windows ホストのシステム・ユーザの名前とパスワード (ここでは詳細は表示されません) は，残りの Performance Center システムのシステム・ユーザの名前とパスワードと同じです。
MI Listener	データ収集を可能にする MI Listener の IP アドレスまたは名前。 ファイアウォール越しのホストにのみ関連します。
優先度	ホストに割り当てられているランク。ホストに指定する優先度が高いほど，そのホストがテストに割り当てられる可能性が高くなります。優先度の割り当てでは，さまざまな条件を考慮する必要があります。主な考慮点は，ホストが専用マシンかどうか，そのマシンにインストールされているハードウェアのタイプです。

フィールド	説明
プロバイダの場所 ID	クラウド・ホストのプロビジョニングに使用した領域。
用途	ホスト上で使用できるテスト・ツール。たとえば，Controller，Load Generator，Data Processor，QuickTest Professional，Sprinter などがあります。 **注：** • ホスト・マシンがファイアウォール越しに配置されている場合，または UNIX マシンである場合，Controller または Data Processor として使用することはできません。 • インストール・オプションとして［**Windows Standalone LG**］または［**Unix Load Generator**］を選択した場合，ホストの用途として［**Load Generator**］が自動的に選択され，他のオプションは無効になります。
登録自動承認	テスティング・ホストが HP ALM Lab Service による登録後に自動承認されたかどうかを示します。 詳細については，「HP ALM Lab Service の使用」(328ページ)を参照してください。
登録要求日	新しく追加したテスティング・ホストから ALM がホスト登録要求を受信した日時。
登録要求詳細	登録要求を送信したホストに関する詳細情報。
登録ステータス	ホストの登録のステータス。テスト用のホストを使用するには，最初に HP ALM Lab Service を使用してホストを登録する必要があり，ホストはラボ管理のラボ管理者によって承認する必要があります。 詳細については，「HP ALM Lab Service の使用」(328ページ)を参照してください。 **注：**［**登録ステータス**］が［未登録］の場合，ホストの［**ステータス**］を「稼働中」に変更することはできません。
ユーザ用に予約	このホストへのアクセスが許可されるユーザです。 この設定は，機能ホストのみに適用されます。

フィールド	説明
ソース	テスティング・ホストのソース。 **ローカル**：ホストはテスティング・ラボ内にあります。 **クラウド**：ホストはクラウド・プロバイダからプロビジョニングされています。
ステータス	ホストのステータス。ホスト名の横に表示される，現在のステータスを示すインジケータ。 可能性のあるステータスは次のとおりです。 • **稼働中**：ホスト・マシンは稼働しています。 • **非稼働**：ホスト・マシンはダウンしています。 • **利用不可**：ホストのステータスに関して利用可能な情報はありません。
ユーザ名	ホスト・マシン上のシステム・ユーザの名前。 **標準設定値**：IUSR_METRO **注：** • システム・ユーザの名前とパスワードは，UNIX ホスト，以前のバージョンのラボ管理から移行されたホストでのみ表示されます。 • 新たに追加された Windows ホストのシステム・ユーザの名前とパスワード（ここでは詳細は表示されません）は，残りのラボ管理システムのシステム・ユーザの名前とパスワードと同じです。

［新規テスティング ホスト］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスではテスティング・ホストを作成できます。

アクセス方法	• **ラボ管理**：［ラボ リソース］で［**テスティング ホスト**］を選択します。［**新規テスティング ホスト**］ボタンをクリックします。 • **ALM**：［ラボ リソース］で［**テスティング ホスト**］を選択します。［**新規テスティング ホスト**］ボタンをクリックします。

重要な情報	• 新しいパブリック・ホストを作成できるのは，ラボ管理内のみです。ALM内で作成したホストはプライベート・ホストとみなされ，プロジェクトのホスト・プールに直接追加されます。プライベート・ホストは，ALM内で変更できます。 • ホストを **Load Generator** として使用する場合は，ファイアウォール越しにのみ作成できます。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	すべてのフィールドをクリア：データをクリアします。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
名前	新規ホストの名前。 **ヒント：** ホストに意味のある名前を付けてください。これは，ホストの場所，用途，タイプ，ID，オペレーティング・システムから作成できます。名前により多くの情報を付加すれば，システムの使用と保守がより簡単になります。名前は覚えやすく，長くしすぎないでください。 **注意：** リモート・ホスト上で機能テストを実行するために，ドメイン名を含まないコンピュータ名である必要があります。入力した名前が登録するホストの名前と一致しない場合，登録は失敗します。

UI要素	説明
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ，赤色で表示されます。利用可能なホスト・フィールドの詳細については，「ホストのフィールド」(140ページ)を参照してください。

[テスティング ホスト詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，選択したホストの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	• **ラボ管理**：[ラボ リソース]で[**ホスト**]を選択します。グリッドのホストを右クリックし，[**テスティング ホストの詳細**]を選択します。 • **ALM**：[ラボ リソース]で[**テスティング ホスト**]を選択します。グリッドのホストを右クリックし，[**テスティング ホストの詳細**]を選択します。
重要な情報	• このダイアログ・ボックスは，ラボ管理とALMの両方で利用できます。 • 一部のUI要素は，**パフォーマンス・ホスト**でのみ使用できます。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：ホストのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
ホスト ID	ホストのID。

UI 要素	説明
名前	ホストの名前です。
詳細	現在選択されているホストの詳細が表示されます。利用可能なホスト・フィールドの詳細については，「ホストのフィールド」(140ページ)を参照してください。
インストール済みの PC コンポーネント	ホストにインストールされている Performance Center コンポーネント (バージョンとパッチを含む) のリストを表示します。 **注：** • すべてのエントリを表示するには，ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
イベント・ログ	選択したホストで実行されているタスク，イベント・ステータス，エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については，「イベント・ログ」(151ページ)を参照してください。
インストール済みのプログラム	ホスト・マシンにインストールされているすべてのプログラムのリストを表示します。詳細には，バージョン，ソフトウェアの発行元，ホスト・マシンにインストールされた日付が含まれます。 **注：** • すべてのエントリを表示するには，ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
プロセス	選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については，「[プロセス] ページ」(153ページ)を参照してください。 **注：** • すべてのエントリを表示するには，ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。

UI要素	説明
サービス	ホスト・マシンで実行中のサービスを表示します。詳細については、「［サービス］ページ」(154ページ)を参照してください。 **注：** • すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
ホストのステータスの確認	ホストの確認の各ステップのステータスを表示します。ホストの確認のステータスの詳細を表示するには、［ホストのステータスの確認］タブの行を右クリックし、［**ホスト ステータスの詳細の確認**］を選択します。詳細については、「ホストのステータスの確認のフィールド」(156ページ)を参照してください。
PC実行	選択したホストで実行されているテスト実行に関する詳細情報を表示します。詳細については、「PCテスト実行モジュールのウィンドウ」(178ページ)を参照してください。 **注：** すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。
ファイアウォール越し	ファイアウォール越しのホストの場合、ファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。詳細については、「［ファイアウォール越し］ページ」(157ページ)を参照してください。 **注：** パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
履歴	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

イベント・ログ

イベント・ログには，プロジェクトで発生したイベントが表示され，各イベントの原因と重大度が報告されます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • をクリックして［**イベント ログ**］を選択します。 • ［**イベント ログ**］タブを選択します。 利用可能なモジュール: • **ラボ管理の場合**：ホスト，PC テスト実行，タイムスロット，PC サーバ • **ALM プロジェクト**：タイムスロット（グリッド・ビューのみ），ホスト，テスト実行
重要な情報	• イベント・ログは，グリッド・ビューでのみ利用可能です。 • イベント・ログには，関連する選択内容の情報が表示されます。つまり，プロジェクト全体，タイムスロット，ホスト，サーバなどのイベントが表示されます。 • 削除可能なイベントを EVENT_LOG データベース・テーブルに残しておく期間（日数）は，**EVENT_LOG_PURGE_PERIOD_DAYS** サイト・パラメータによって決定されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	フィルタの設定：イベント・ログ内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択：［カラムの選択］ダイアログ・ボックスが開き，イベント・ログに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	更新：最新の情報が表示されるように，イベント・ログを更新します。
	すべてエクスポート：［すべてのグリッド データをエクスポート］ダイアログ・ボックスが開き，リソースを，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。

UI 要素	説明
アクション	イベントが発生したアクションのカテゴリ。 **例**: サーバの作成。
コンテキスト	イベントが発生した特定のエンティティ。 **例**: PC サーバ: VM05
作成日	イベントがログに記録された日時。
説明	イベントの説明。
イベント・ログ ID	イベント ID。
イベント名	イベントの名前。
イベント・タイプ	イベントの重大度の表示。最も重大なイベントから最も重大でないイベントの順に, エラー, 警告, または情報。
フロー・コンテキスト ID	いくつかのイベントに関する一意のアクションを示す GUID。たとえば, テストの実行など。
モジュール	イベントの原因となった ALM モジュール。 **例**: テスト
プロジェクト名	イベントが発生したプロジェクト。
担当者	イベントを担当するユーザまたは自動システム・プロセス。
ソース	イベントの原因となったシステム要素。
サブ・モジュール	イベントが発生した ALM サブ・モジュール。 **例**: テスト・ラボ

[プロセス] ページ

このページには，選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報が表示されます。

アクセス方法	• **ホスト・モジュールからの場合**：サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**ホスト**]を選択します。情報パネルで，[**プロセス**]を選択します。 • **[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスからの場合**：サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**ホスト**]を選択します。ホストを右クリックして，[ホスト詳細]を選択します。[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスで，[**プロセス**]を選択します。
重要な情報	• ALM では，UNIX マシンまたは Windows スタンドアロン Load Generator に関するプロセスおよびリソースの使用情報を表示できません。 • [プロセス] ページは，Performance ホストでのみ利用可能です。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新：最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
	プロセスの強制終了：グリッド内の選択したプロセスを終了します。 • **ホスト・モジュールの場合**：選択したプロセスを終了するには，プロセスの強制終了アクセス許可が必要です。 • **ラボ管理サーバ・モジュールの場合**：ビューア・アクセス許可を持つユーザが選択したプロセスを終了できます。
自動更新	選択した期間が経過した後にグリッドを自動的に更新します。

UI要素	説明
<プロセス・グリッド>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。 • **名前**：プロセスの名前。 • **PID**：プロセスID。 • **プロセッサ時間(%)**：プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。 • **メモリ使用量(KB)**：プロセスが使用するメモリ量(KB)。 • **経過時間(d.hh:mm:ss)**：プロセス開始以降に経過した時間で，**d**は日数，**hh:mm:ss**は経過した時間，分，秒です。
<ナビゲーション領域>	グリッド内のエントリのページ内を移動できます。エントリの合計数がナビゲーション領域の右側に表示されます。 ページの下部にあります。

[サービス]ページ

このページには，選択したホストのサービスが表示されます。

アクセス方法	• **ホスト・モジュールの場合**：サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**ホスト**]を選択します。情報パネルで，[**サービス**]を選択します。 • **[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスの場合**：サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**ホスト**]を選択します。ホストを右クリックして，[**ホスト詳細**]を選択します。[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスで，[**サービス**]を選択します。
重要な情報	[サービス]ページは，Performance ホストでのみ利用可能です。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	更新：最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
名前	サービスの名前。
表示名	サービスの正式名。
ステータス	サービスのステータス：[**Running**]または[**Stopped**]。

UI要素	説明
スタートアップ・タイプ	サービスのスタートアップの設定方法： • **Auto**：サービスが自動的に開始します。 • **Disabled**：サービスは無効になっています。 • **Manual**：サービスは手動で開始する必要があります。
<ナビゲーション領域>	ページの下部にあり，グリッド内のエントリのページ内を移動できます。エントリの合計数がナビゲーション領域の右側に表示されます。

［ホストのステータスの確認］ページ

このページには，選択したホストのチェックのステータスが表示されます。

アクセス方法	• **ホスト・モジュールからの場合**：サイドバーの［**ラボリソース**］で，［**ホスト**］を選択します。ホストを選択し，情報パネルで，［**ホストのステータスの確認**］を選択します。 • **［ホスト詳細］ダイアログ・ボックスからの場合**：サイドバーの［**ラボリソース**］で，［**ホスト**］を選択します。ホストを右クリックして，［**ホスト詳細**］を選択します。［ホストの詳細］ダイアログ・ボックスで，［**ホストのステータスの確認**］を選択します。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	ホストのステータスの確認の詳細：［ホストのステータスの確認詳細］ダイアログ・ボックスが開き，各チェックの詳細を表示できます。フィールドの詳細については，「ホストのステータスの確認のフィールド」(156ページ)を参照してください。
	すべて更新：最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定：グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI要素	説明
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索：[検索]ダイアログ・ボックスが開き，確認を検索できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<ホストのステータスの確認のグリッド>	ホストの確認のステータスを表示します。グリッドに表示するカラムを選択するには，をクリックします。フィールドの詳細については，「ホストのステータスの確認のフィールド」(156ページ)参照してください。

ホストのステータスの確認のフィールド

[ホストのステータスの確認]ページには，次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
実際の値	ホストの接続性の確認による実際の値。
カテゴリ	ホストの確認機能によってチェックされるホストの領域。 • 設定 • 接続性 • インストール • パフォーマンス
確認	ホストの確認機能によってチェックされるホストのサブ領域。たとえば，パフォーマンス・チェックの場合のサブ領域は，**プロセッサ**，**メモリ**，**システム**です。
確認日	ホストがチェックされた日付。
確認結果 ID	ホストの確認の各ステップのID。
エラー	チェック中にエラーが発生した場合，エラーを表示します。
期待値	ホストの確認による期待される値。
ステータス	ホストの確認が成功または失敗したかを示します。

［ファイアウォール越し］ページ

このページには，Performance Center Load Generator ホストと MI Listener 間の通信設定が表示され，選択した Load Generator ホストのファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。

アクセス方法	• **ホスト・モジュールからの場合**：サイドバーの［ラボリソース］で，［**ホスト**］を選択します。情報パネルで，［**ファイアウォール越し**］を選択します。 • **［ホスト詳細］ダイアログ・ボックスからの場合**：サイドバーの［ラボリソース］で，［**ホスト**］を選択します。ホストを右クリックして，［**ホスト詳細**］を選択します。［ホストの詳細］ダイアログ・ボックスで，［**ファイアウォール越し**］を選択します。
重要な情報	• ホストの場所がファイアウォール越しとして定義されている場合に，このページにその情報が表示されます。 • ファイアウォール越しのホストは，Load Generator ホストとしてのみ使用できます。 • ［ファイアウォール越し］ページは，Performance ホストでのみ利用可能です。
関連タスク	• 「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ) • 「MI Listener を管理する方法」(237ページ)
参照情報	• 「ラボ・リソースの概要」(111ページ) • 「MI Listener の概要」(237ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
接続タイムアウト(秒)	エージェントが MI Listener マシンに接続を再試行するまでの待ち時間(秒単位)。ゼロの場合，接続はエージェントの実行時点から開いたままになります。 **標準設定値**：20 秒 **注：** このフィールドは必要なフィールドです。
接続の種類 - TCP/HTTP	使用している設定に応じて，［**TCP**］または［**HTTP**］を選択します。 **標準設定値**：TCP

UI 要素	説明
HTTP	HTTP 接続タイプ用の HTTP の設定です。 • **プロキシの名前**：プロキシ・サーバの名前。[**接続の種類**] オプションが [**HTTP**] に設定されている場合，このフィールドは必須です。 • **プロキシ・ポート**：プロキシ・サーバの接続ポート。[**接続の種類**] オプションが [**HTTP**] に設定されている場合，このフィールドは必須です。 • **プロキシ・ユーザ名**：プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザの名前。 • **プロキシ・パスワード**：プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザのパスワード。 • **プロキシ・ドメイン**：プロキシ・サーバの設定で定義されている場合のユーザのドメイン。このオプションは，NTLM を使用する場合にのみ必要です。
MI Listener パスワード	MI Listener マシンへの接続に必要なパスワード。
MI Listener ユーザ名	MI Listener マシンへの接続に必要なユーザ名。
ポーリング・タイムアウト (秒)	ファイアウォール越しの Load Generator のステータスを確認するために，ALM は Load Generator が最後に MI Listener に接続した時期を確認します。 Load Generator が [**ポーリング タイムアウト**] で設定した時間数より長い時間 MI Listener マシンに接続されなかった場合，ラボ管理によって Load Generator のステータスは [**リソース エラー**] に変更されます。 **標準設定値**：60 秒 **注：** • このフィールドは必要なフィールドです。 • [ポーリング タイムアウト] は ALM の設定です。Performance Center エージェントでは設定されません。 • ポーリング・タイムアウトは，以下に示す接続タイムアウトより長くなるように指定する必要があります。

UI要素	説明
セキュア接続を使用	Secure Sockets Layer(SSL) プロトコルを使用して通信できます。 **標準設定値**：無効 • **サーバ証明書を確認**：サーバから送信されるSSL証明書を認証します。サーバ証明書が信頼された証明機関によって署名されていることを確認するには，［**Medium**］を選択します。送信者のIPアドレスが証明書の情報と一致することを確認するには，［**High**］を選択します。この設定は，［**セキュア接続を使用**］が［**True**］に設定されている場合にのみ利用できます。 • **秘密キー・パスワード**：SSL証明書の認証プロセス中に必要となるパスワード。このオプションは，［**クライアント証明書の所有者**］オプションが有効になっている場合にのみ関係します。 • **クライアント証明書を使用**：SSL証明書を読み込むことができます(接続を許可するためにサーバで必要な場合)。このオプションは，［セキュア接続を使用］オプションが有効になっている場合にのみ関係します。 **標準設定値**：無効

［インストールするパッチの選択］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，パフォーマンス・ホストにパッチをインストールできます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの［**ラボリソース**］で，［**ホスト**］を選択します。 2. ［**ホスト操作**］ドロップダウン矢印をクリックし，［**パッチのインストール**］を選択します。 **ヒント：** パッチは，複数のホストに同時にインストールできます。複数のホストを選択するには，キーボードのCTRLキーを押しながらホストを選択します。
重要な情報	• ラボ管理のみでパッチをインストールできます。 • ホストにパッチをインストールするには，最初にパッチをALMにアップロードしておく必要があります。詳細については，「パッチのALMへのアップロード方法」(265ページ)を参照してください。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<パッチ・グリッド>	選択したホストにインストールできる，ALM 内のパッチを表示します。

プール・モジュール

- プール・モジュール・ウィンドウ 161
- プール・フィールド 162
- ［新規ホスト プール］ダイアログ・ボックス 162
- ［ホスト プール詳細］ダイアログ・ボックス 163
- ［ホストをプールに追加］ダイアログ・ボックス 165
- ［リンクされたホスト］ページ 166

プール・モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると，ホスト・プールを表示，管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で，[**プール**]を選択します。
重要な情報	ホスト・プールとは，ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。 **HP ALM Performance Center Edition**：パフォーマンス・ホストでホスト・プールを管理する場合，利用可能な総リソースを理解していることが重要です。ホスト・プールには，少なくとも1つのController，1つのLoad Generator，1つのData Processorが含まれている必要があります。ホストには二重の機能を持たせられるため，プールには，他のホストの中でもController機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。 プライベート・ホストは，一度に1つのプールにしか存在できません。 ホスト・プールにホストを追加する方法はいくつかあります。詳細については，「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)を参照してください。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(122ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<ホスト・プール・モジュールの共通のUI要素>	• **プール・モジュールのフィールド**：フィールドの定義については，「プール・フィールド」(162ページ)を参照してください。 • **プール・モジュールのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(129ページ)を参照してください。
<ホスト・プールのグリッド>	ALM内で定義されているホスト・プールのリストを表示します。
[説明]タブ	現在選択されているホスト・プールについての説明が表示されます。 **ヒント**：この領域を右クリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。

UI 要素	説明
[リンクされたホスト]タブ	ホストを選択したプールに追加し，プールからホストを削除できます。詳細については，「[リンクされたホスト]ページ」(166ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されているホスト・プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

プール・フィールド

本項では，ホスト・プールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
C＋LG ホスト	ホスト・プール内の Controller と Load Generator を兼用したホストの数。
Controller ホスト	ホスト・プール内の Controller ホストの数。
説明	ホスト・プールの説明。
DP ホスト	ホスト・プール内の Data Processor ホストの数。
LG ホスト	ホスト・プール内の Load Generator ホストの数。
プール ID	ホスト・プールの ID。
プール名	ホスト・プールの名前。 **注：**この名前には，スペース，ピリオド，次のいずれかの文字を除き，最大 255 文字まで指定できます。 : ; * \ / " ~ & ? { } $ % | < > + = ^ [ ] ( )
ホストの総数	ホスト・プール内のホストの合計数。

[新規ホスト プール]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，ホスト・プールを ALM に追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で，[**プール**]を選択します。 2. プール・モジュールで，[**新規ホスト プール**]ボタン をクリックします。

重要な情報	各プロジェクトには，少なくとも 1 つの Controller ホスト，1 つの Load Generator ホスト，1 つの Data Processor ホストを含む必要がある 1 つのホスト・プールがあります。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(122ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア：データをクリアします。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
プール名	新規ホスト・プールの名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ，赤色で表示されます。利用可能なホスト・プール・フィールドの詳細については，「プール・フィールド」(162ページ)を参照してください。

[ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，選択したホスト・プールの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[**ラボ リソース**]で，[**プール**]を選択します。 2. グリッドのホスト・プールを右クリックし，[**ホスト プール詳細**]を選択します。

重要な情報	• ホスト・プールとは，ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。 • ホスト・プールを管理する場合，利用可能な総リソースを理解していることが重要です。プールには，少なくとも1つのController，1つのLoad Generator，1つのData Processorが含まれている必要があります。ホストには二重の機能を持たせられるため，プールには，他のホストの中でもController機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。 • プライベート・ホストは，一度に1つのプールにしか存在できません。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(122ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：ホスト・プールのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b はacbとadefbを返し，a?b はacbを返します。
プール名	ホスト・プールの名前。
詳細	選択したホスト・プールの詳細情報をリストします。利用可能なフィールドの詳細については，「プール・フィールド」(162ページ)を参照してください。
リンクされたホスト	ホストを選択したプールに追加し，プールからホストを削除できます。詳細については，「[リンクされたホスト]ページ」(166ページ)を参照してください。

UI要素	説明
履歴	現在選択されているホスト・プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

［ホストをプールに追加］ダイアログ・ボックス

このページを使用すると，ホスト・プールに追加するホストを選択できます。

アクセス方法	• **プール・モジュールからの場合**： ラボ管理サイドバーの［**ラボ リソース**］で，［**プール**］を選択します。情報パネルで，［リンクされたホスト］を選択し，［**ホストをプールに追加**］ボタン をクリックします。 • **［ホストプール詳細］ダイアログ・ボックスからの場合**： ラボ管理サイドバーの［**ラボ リソース**］で，［**プール**］を選択します。ホスト・プールを右クリックし，［**ホスト プール詳細**］を選択します。［ホスト プール詳細］ダイアログ・ボックスで，［**リンクされたホスト**］を選択し，［**ホストをプールに追加**］ボタン をクリックします。
重要な情報	あるいは，ホストの詳細の［**所属プール**］フィールドから単一のホストを複数のホスト・プールにリンクできます。詳細については，「ホストのフィールド」(140ページ)を参照してください。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(122ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	すべて更新：最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
	カラムの選択：［カラムの選択］ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI要素	説明
	フィルタ/ソートの設定：グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	選択したホストをホスト・プールに追加します。
<ホスト・グリッド>	ホスト・プールに追加できるホストが一覧表示されます。
選択済み	プールに追加することを選択したホストが表示されます。

[リンクされたホスト]ページ

このページを使用すると，ホストをホスト・プールに追加し，プールからホストを削除できます。

アクセス方法	• **プール・モジュールからの場合**：ラボ管理サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**プール**]を選択します。情報パネルで，[**リンクされたホスト**]を選択します。 • **[ホストプール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合**：ラボ管理サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**プール**]を選択します。ホスト・プールを右クリックし，[**ホスト プール詳細**]を選択します。[ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックスで，[**リンクされたホスト**]を選択します。
重要な情報	[リンクされたホスト]ページを使用すると，複数のホストをホスト・プールにリンクできます。 あるいは，ホストの詳細の[**所属プール**]フィールドから単一のホストを複数のホスト・プールにリンクできます。詳細については，「ホストのフィールド」(140ページ)を参照してください。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(122ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	テスティング・ホストの詳細：[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したリンクされているホストの詳細情報を表示できます。詳細については，「[テスティング ホスト詳細]ダイアログ・ボックス」(148ページ)を参照してください。
	ホストをプールに追加：[ホストをプールに追加]が開き，ホスト・プールに追加するホストを選択できます。詳細については，「[ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス」(165ページ)を参照してください。
	ホストの削除：ホスト・プールから選択したホストを削除します。
	ホストに移動：ホスト・モジュール内の選択したリンクされているホストを表示します。
	すべて更新：最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定：グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索：[検索]ダイアログ・ボックスが開き，ホストを検索できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リンクされているホストのグリッド>	ホスト・プールに属しているホストが一覧表示されます。

場所モジュール

- 場所モジュール・ウィンドウ 168
- 場所のフィールド 169
- [新規ホストの場所]ダイアログ・ボックス 169
- [ホストの場所詳細]ダイアログ・ボックス 170

場所モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると，ホストの場所を表示，管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**場所**]を選択する。 **注：**場所モジュールは，ラボ管理でのみ使用できます。
関連タスク	「ホストの場所を管理する方法」(123ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<場所モジュールの共通のUI要素>	• **場所モジュールのフィールド**：フィールドの定義については，「場所のフィールド」(169ページ)を参照してください。 • **場所モジュールのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(129ページ)を参照してください。
<ホストの場所のグリッド>	ALM内で定義されているホストの場所のリストを表示します。
[説明]タブ	現在選択されているホストの場所についての説明が表示されます。 **ヒント：**この領域を右クリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[履歴]タブ	現在選択されているホストの場所に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

場所のフィールド

本項では，ホストの場所のフィールドについて説明します。

フィールド	説明
クラウド・プロバイダ	場所の作成に使用したクラウド・プロバイダを示します。 **クラウドの場所のみで表示されます。**
説明	ホストの場所の説明。
場所 ID	ホストの場所の ID。
場所の名前	ホストの場所の名前。名前には，ホストの場所との論理接続がある必要があります。
ファイアウォール越し	ホストの場所がファイアウォール越しかを示します。
プロバイダの場所 ID	クラウド・プロバイダが場所の特定に使用する ID を示します。 **クラウドの場所のみで表示されます。**

［新規ホストの場所］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，ホストの場所を ALM に追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの［ラボリソース］で，［**場所**］を選択します。 2. ホストの場所モジュールで，［**新規ホストの場所**］ボタン を クリックします。
関連タスク	「ホストの場所を管理する方法」(123ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア：データをクリアします。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI要素	説明
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
場所の名前	新規ホストの場所の名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*) のマークが付けられ，赤色で表示されます。利用可能なホストの場所のフィールドの詳細については，「場所のフィールド」(169ページ)を参照してください。

[ホストの場所詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，選択したホストの場所の詳細情報が表示されます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で，[**場所**]を選択します。 2. グリッド内の場所を右クリックし，[**ホストの場所詳細**]を選択します。
重要な情報	ホストの場所は，ホストの詳細でその場所を選択する前に定義する必要があります。
関連タスク	「ホストの場所を管理する方法」(123ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：ホストの場所のリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
場所 ID	ホストの場所の ID。
場所の名前	ホストの場所の名前。
詳細	現在選択されているホストの場所の詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「場所のフィールド」(169ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているホストの場所に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

タイムスロット・モジュール

注： 本項では，ラボ管理専用のプロジェクトタイムスロット・モジュールで表示される画面のユーザ・インタフェースを説明します。タイムスロット・モジュールのユーザ・インタフェースの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[タイムスロットの予約：メンテナンス]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，メンテナンスのタイムスロットを予約し，予約したメンテナンスのタイムスロットの詳細を表示できます。

アクセス方法	• **新規メンテナンス・タイムスロットの予約(ラボ管理のみ)**： ラボ管理サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**タイムスロット**]を選択します。次のいずれかを実行します。 • タイムスロットのツールバーで，[**新規タイムスロット**]ボタンをクリックします。 • カレンダー・ビューのみ：カレンダーの任意の場所をダブルクリックするか，ターゲット時間を右クリックして，[**新規タイムスロット**]を選択します。 • **既存のメンテナンス・タイムスロットの予約**： **[ラボ管理]から**：サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**タイムスロット**]を選択します。 **ALM から**：サイドバーの[**テスト**]の下にある[**タイムスロット**]を選択します。 次のいずれかを実行します。 • グリッド・ビュー：タイプが[**メンテナンス**]のタイムスロットを右クリックして，[**タイムスロットの詳細**]を選択します。 • カレンダー・ビューのみ：メンテナンス(黄色)のタイムスロットを右クリックして，[**タイムスロットの詳細**]を選択します。
重要な情報	• **メンテナンス**のタイムスロットを予約または表示するには，このダイアログ・ボックスを使用します。 • テストのタイムスロットとデータ処理のタイムスロットについては，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
関連タスク	「タイムスロットの予約方法」(124ページ)
参照情報	『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
実行	タイムスロットがメンテナンス・タイプであることを示します。

UI 要素	説明
起動	メンテナンス・タスクが手動で実行されることを示します。 **注：**このフィールドは無効になっていて，選択は変更できません。
名前	タイムスロットのわかりやすい名前。
継続時間	メンテナンス・タイムスロットの継続時間（時，分）。 **注：**メンテナンス・タイムスロットは，15 分以上，480 時間（20 日）以下で予約できます。
開始時刻	タイムスロットが開始する日時（時，分）。 **注：**メンテナンス・タスクにホストを予約する必要があり，ホストが同じタイムスロットのテストの実行にすでに予約されている場合，テストのタイムスロットの開始を変更するか，テストのタイムスロットを削除できます。変更する前に，テストのタイムスロットを予約したユーザに相談してください。
終了時刻	タイムスロットが終了する日時（時，分）。
特定のホストの追加	［特定のホストの追加］ダイアログ・ボックスが開き，メンテナンス・タイムスロットのホストを選択できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 **注：**タイムスロットには，少なくとも 1 つのホストを選択する必要があります。 **利用条件：**新しい，開かれた，または未来のメンテナンス・タイムスロット。
×	**削除：**選択したホストを要求したホストのリストから削除します。

UI要素	説明
	開始時刻を現在に設定：リソースの可用性のグラフで，現在の時刻を選択します。 **注：**開始時刻が現在の時刻に設定されているタイムスロットは，予約の送信時に直ちに開きます。
可用性の計算	選択したタイムスロットに要求したリソースの可用性が計算されます。結果は，リソースの可用性の予定表に視覚的に表示され，［**タイムスロットのステータス**］タブにメッセージが表示されます。 可用性予定表には，要求されたホストを予約できるタイムスロットがすべて表示されます。要求されたホストを選択したタイムスロットで予約できない場合でも，他のタイムスロットでは利用できることがあります。
<メッセージ・バー>	ダイアログ・ボックスの上部にあります。タイムスロットに関するメッセージと警告が表示されます。 **利用可能**：既存のタイムスロットのみ。
<リソース可用性予定表>	要求されたリソースの可用性が予定表に表示されます。 • **可用性が計算されていません**：新しいタイムスロットに要求したリソースの可用性を計算する前，またはタイムスロットを変更するときに予定表に表示されます。 • **開始時刻**：要求したリソースが利用できる場合，タイムスロットに利用可能な開始時刻を示します。 • **リソースが不足しています**：要求されたすべてのリソースが，予定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。 • **ライセンス/プロジェクトの最大数**：予定表に示された開始時刻のライセンスまたはプロジェクトの上限の問題を示します。たとえば，ライセンスで利用可能なホストの上限より多くのホストが要求されている場合。 • **不明**：タイムスロットに要求したリソースの可用性の計算前に表示されます。 • **リソースが利用できません**：要求されたリソースが，予定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。

UI要素	説明
[要求されたホスト]グリッド	タイムスロットに要求されたホストが表示されます。 **注：**タイムスロットには，少なくとも1つのホストを選択する必要があります。
[タイムスロットのステータス]タブ	タイムスロット予約のステータスが表示されます。 タイムスロット障害の詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
[説明]タブ	現在選択されているタイムスロットについての説明が表示されます。 **ヒント：**この領域を右クリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[追加の詳細]タブ	タイムスロットに関連する追加の詳細が表示されます。 **利用可能：**既存のタイムスロットのみ。
[イベント ログ]タブ	タイムスロットに関連するイベントのログが表示されます。詳細については，「イベント・ログ」(151ページ)を参照してください。 **利用条件：**既存のタイムスロットの詳細。

第7章: Performance Center テスト実行

本章の内容

- Performance Center テスト実行モジュールの概要 177
- Performance Center テスト実行のユーザ・インタフェース 177

Performance Center テスト実行モジュールの概要

PC テスト実行モジュールは，システム内の全プロジェクトにわたるすべてのテスト実行に関する情報を表示します。テストの実行状態に関連する詳細情報，関連仮想ユーザ，ホストとタイムスロット情報を表示できます。イベント・ログでは，各テストで発生したイベントにドリルダウンし，詳細を表示できます。

Performance Center テスト実行のユーザ・インタフェース

本項の内容

- PC テスト実行モジュールのウィンドウ 178
- PC テスト実行モジュールのフィールド 180
- PC テスト実行モジュールのメニューとボタン 181
- ［実行詳細］ダイアログ・ボックス 184

PC テスト実行モジュールのウィンドウ

このモジュールは，システム内の全プロジェクトにわたる個々のテスト実行に関する情報を表示します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**PC テスト実行**]を選択します。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
＜PC テスト実行モジュールの共通の UI 要素＞	• **PC テスト実行モジュールのフィールド**:フィールドの定義については，「PC テスト実行モジュールのフィールド」(180ページ)を参照してください。 • **PC テスト実行モジュールのメニューとボタン**:コマンドとボタンの説明については，「PC テスト実行モジュールのメニューとボタン」(181ページ)を参照してください。 • ALM **メイン・メニューとサイドバー**:[**ツール**]メニュー，[**ヘルプ**]メニュー，サイドバーの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<PC テスト実行のグリッド>	全プロジェクトにわたるすべてのテスト実行のリストが表示されます。各テスト実行の詳細情報が表示されます。

[イベント ログ]タブ

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	フィルタの設定:イベント・ログ内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択:[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，イベント・ログに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
	更新: 最新の情報が表示されるように，イベント・ログを更新します。
	すべてエクスポート: [すべてのグリッド データをエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き，リソースを，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。
	イベントの詳細: [イベントの詳細] ダイアログ・ボックスが開き，選択したイベント・ログの詳細を表示できます。
アクション	イベントが発生したアクションのカテゴリ。 **例**: サーバの作成。
作成日	イベントがログに記録された日時。
コンテキスト	イベントが発生した特定のエンティティ。 **例**: PC サーバ: VM05
説明	イベントの説明。
イベント・ログ ID	イベント ID。
イベント名	イベントの名前。
イベント・タイプ	イベントの重大度の表示。最も重大なイベントから最も重大でないイベントの順に，エラー，警告，または情報。
フロー・コンテキスト ID	いくつかのイベントに関する一意のアクションを示す GUID。たとえば，テストの実行など。
モジュール	イベントの原因となった ALM モジュール。 **例**: テスト
プロジェクト名	イベントが発生したプロジェクト。
担当者	イベントを担当するユーザまたは自動システム・プロセス。
サブ・モジュール	イベントが発生した ALM サブ・モジュール。 **例**: テスト・ラボ

PC テスト実行モジュールのフィールド

PC テスト実行モジュールでは，次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
平均仮想ユーザ数	実行中の同時実行仮想ユーザの平均数。
Controller	テスト実行に関わる Controller。
ドメイン/プロジェクト	テストのドメインとプロジェクト。
経過時間	テストの実行にかかった時間(分)。 **注:** このフィールドは手動で編集しないでください。
終了日	実行の終了日。 **注:** このフィールドは手動で編集しないでください。
関係する仮想ユーザ数	実行中に少なくとも一度初期化された仮想ユーザ数。
Load Generator	テスト実行に関わる Load Generator。
最大仮想ユーザ数	実行中の同時実行仮想ユーザの最大数。
プロジェクト ID	テストのプロジェクト ID。
実行 ID	テスト実行の識別番号。この番号は，負荷テストの実行開始時にシステムによって自動的に生成されます。
実行名	テスト実行の名前。
状態	テスト実行の状態。テストが特定の状態で停止する場合，変更できます。
開始日	実行の開始日。 **注:** このフィールドは手動で編集しないでください。

フィールド	説明
開始時刻	実行の開始時刻。 **注:** このフィールドは手動で編集しないでください。
一時結果のディレクトリ・パス	テスト結果が一時的に格納されるディレクトリのパス。
テスト名	作成時にテストに与えられた名前。
テスト担当者	テストを実行しているユーザの名前。
VUD を消費	テスト実行で使用されている VUD 数。
タイムスロット ID	テスト実行のタイムスロットの ID。

PC テスト実行モジュールのメニューとボタン

本項では，PC テスト実行モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**PC テスト実行**]を選択する。

PC テスト実行モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
実行の停止	<右クリック・メニュー>	現在実行中のテストを停止します。 **注:** 選択したテスト実行のステータスが[**初期化中**]，[**実行中**]，[**停止中**]のいずれかである場合のみ有効です。
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
URL のコピー	[実行]と<右クリック・メニュー>	選択したテスト実行をコピーして，その URL をリンクとして貼り付けます。テスト実行自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し，テスト実行ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除	[編集]と<右クリック・メニュー>	選択したテスト実行を削除します。 **注:** 選択したテスト実行がアクティブな状態のいずれかでない場合にのみ有効になります。
Data Processor キュー	<右クリック・メニュー>	実行後のテスト実行の分析，SLA の再計算，テスト実行のトレンド・レポートへの追加を行う場合，そのアクションがデータ処理キューに追加されるため，アクションがいつ実行されるか確認できます。
エクスポート	[実行]と<右クリック・メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスを開き，グリッド内のテスト実行を，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**: グリッド内のすべてのテスト実行をエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**: グリッド内の選択したテストの実行をエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでテスト実行を検索できます。検索オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
実行に移動	実行	[実行に移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID番号で特定のテスト実行を検索できます。現在のフィルタに含まれるテスト実行にのみ移動できます。
タイムスロットに移動	<右クリック・メニュー>	タイムスロット・モジュールが開き，選択したテスト実行のタイムスロットが表示されます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，プロパティを変更するか，ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
実行の詳細	[実行]と<右クリック・メニュー>	[実行の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したテスト実行の詳細を表示，編集できます。

UI 要素	場所	説明
実行画面	<右クリック・メニュー>	パフォーマンス・テスト実行画面が開き，テスト実行を表示，管理できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **注:** テスト実行のステータスが[**実行中**]である場合のみ有効です。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 テスト実行のフィールドの詳細については，「PC テスト実行モジュールのフィールド」(180 ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のテスト実行に対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[実行詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，テスト実行の詳細が表示されます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**PC テスト実行**]を選択する。 2. グリッド内のテスト実行を右クリックし，[**実行の詳細**]を選択します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存: 詳細を保存します。

UI 要素	説明
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ: プロジェクトのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索: 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例: a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
詳細	選択したテスト実行の詳細情報が表示されます。詳細については，「PC テスト実行モジュールのフィールド」(180ページ)を参照してください。
イベント・ログ	選択したテスト実行中に発生したイベントがリストされます。詳細については，「イベント・ログ」(151ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているテスト実行に行われた変更の一覧です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第8章: 使用状況レポート

本章の内容

- 使用状況レポートの概要 187
- 使用状況レポートを作成する方法 188
- 使用状況レポートのユーザ・インタフェース 189

使用状況レポートの概要

Performance Center リソースの使用状況の監視および管理に役立つレポートを生成できます。

次のレポートを利用できます。

レポート	説明
「ダッシュボード・レポート」	ダッシュボード・レポートは、最上位レベルのサマリ・レポートを提供します。
「Resource by User (ユーザ別リソース) レポート」	Resource by User(ユーザ別リソース) レポートは、ユーザ別のリソース使用状況に関する詳細情報を提供します。
「プロジェクト別リソース使用状況レポート」	プロジェクト別リソース使用状況レポートは，プロジェクト別のリソース使用状況に関する詳細情報を提供します。
「同時実行レポート」	同時実行レポートは，日付別のリソース使用状況を表示します。
「Project Limit vs. Actual Use(プロジェクトの上限対実際の使用) レポート」	Project Limit vs. Actual Use(プロジェクトの上限対実際の使用) レポートは，プロジェクトごとの同時実行リソース使用状況，およびリソースがライセンスの制限範囲内で使用されているかどうかを表示します。
「プロトコル粒度レポート」	プロトコル粒度レポートでは，仮想ユーザ・スクリプトによるプロトコルの使用状況が表示されます。
「Host Activity Utilization(ホスト・アクティビティ利用率) レポート」	Host Activity Utilization(ホスト・アクティビティ利用率) レポートは，テスト実行ごとのホストの使用状況を表示します。
「タイムスロット使用状況レポート」	タイムスロットの使用状況レポートは，タイムスロットに関連付けられているリソースの使用状況を表示します。
「VUDs Overall Usage(VUD の全体的使用状況) レポート」	VUDs Overall Usage(VUD の全体的使用状況) レポートは，すべてのプロジェクトの VUD ライセンス使用状況を表示します。
「VUDs Usage Details(VUD 使用状況の詳細) レポート」	VUDs Usage Details(VUD 使用状況の詳細) レポートは，各プロジェクトの 1 日あたりの VUD 使用状況に関する情報を表示します。

レポート	説明
「クラウド高レベル・レポート」	クラウド高レベル・レポートでは，プロビジョニング済みのホストと消費クレジットがプロジェクトごとに時系列で表示されます。
「クラウド・クレジット(タイプ別)レポート」	クラウド・クレジット(タイプ別)レポートには，消費されたクラウド・クレジット数が場所，テンプレート，インスタンス，マシン・イメージごとに表示されます。
「クラウド利用率レポート」	クラウド利用率レポートでは，クラウド・ホストの稼働時間とアイドル時間を比較します。このレポートでは，クラウド・リソースが有効活用されているかどうかを確認できます。
「クラウド操作レポート」	クラウド操作レポートでは，クラウド・ホストで行ったプロビジョニングと終了操作が個々に表示されます。

注:
- NV Insights でスクリプトを有効にすると，請求される仮想ユーザの合計数は，レポートに表示されるよりも少なくなります。各スクリプトは，2 つの追加仮想ユーザ(無料)を消費します。
- ノイズ・ジェネレータ・スクリプトを使用している場合，請求される仮想ユーザの合計数は，レポートに表示されるよりも少なくなります。たとえば，10 のノイズ仮想ユーザは 1 つの仮想ユーザとして請求されます。

レポートの生成方法の詳細については，「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)を参照してください。

使用状況レポートを作成する方法

このタスクでは，レポートを表示する方法と，フィルタ条件を設定する方法について説明します。フィルタ条件は，レポートの対象にするプロジェクト，結果を表示する時間フレームを定義します。

Performance Center レポートの詳細については，「使用状況レポートの概要」(187ページ)を参照してください。

1. **レポートの選択**
   - **ラボ管理 から**: ラボ管理の[**Performance Center**]で[**使用状況レポート**]を選択すると，Performance Center レポート・ツリーが表示されます。レポートを選択します。
   - **My Performance Center から**: My Performance Center ナビゲーション・バーで，[**レポート**]をクリックします。
   - **Performance Center 管理**: HP Application Lifecycle Management のオプション・ウィンドウで，[**Performance Center 管理**]をクリックします。または，「`http://<PCS server name>/admin/`」と入力します。レポートを選択します。

各レポートのユーザ・インタフェース要素の詳細については，「使用状況レポートのユーザ・インタフェース」(189ページ)を参照してください。

2. **レポートに関する時間範囲の選択**

   ラボ管理および Performance Center 管理から：ウィンドウの右上隅にある⚙をクリックします。

   My Performance Center から：左の表示枠で をクリックします。

3. **レポートに含めるプロジェクトの選択**

   ラボ管理および Performance Center 管理から：ウィンドウの右上隅にある⚙をクリックし，プロジェクトを選択します。

   > **利用できない場所**：My Performance Center

   > **注**：レポートを生成するには，少なくとも 1 つのプロジェクトを選択する必要があります。

4. **レポートに関するクラウド・アカウントの選択**

   右上隅にある Accounts(0) をクリックし，レポートのクラウド・アカウントを選択します。

   > **利用場所**：クラウド・レポート

5. レポートの表示

グラフの表示時に実行可能な操作：	• **表示/非表示**：グラフの要素を**表示**または**非表示**にするには，凡例内の要素名をクリックします。 • **ズーム・イン/ズーム・アウト**：棒グラフまたは線グラフの一部を**ズーム イン**するには，グラフの上にマウスポインタを置き，マウスの左ボタンを押したまま，目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには，［**Reset Zoom(ズームのリセット)**］を使用します。
グリッドの表示時に実行可能な操作：	**Sort order(ソート順序)**：任意のカラムの値に従って，グリッドをソートできます。見出しの矢印は，カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには，カラムの見出しをクリックします。

使用状況レポートのユーザ・インタフェース

本項の内容

• ダッシュボード・レポート 190

- リソース・サマリ・レポート 191
- Resource by User(ユーザ別リソース)レポート 193
- プロジェクト別リソース使用状況レポート 195
- 同時実行レポート 197
- Project Limit vs. Actual Use(プロジェクトの上限対実際の使用)レポート 198
- プロトコル粒度レポート 201
- Host Activity Utilization(ホスト・アクティビティ利用率)レポート 204
- タイムスロット使用状況レポート 205
- VUDs Overall Usage(VUD の全体的使用状況)レポート 209
- VUDs Usage Details(VUD 使用状況の詳細)レポート 210
- クラウド高レベル・レポート 212
- クラウド・クレジット(タイプ別)レポート 214
- クラウド利用率レポート 216
- クラウド操作レポート 219

ダッシュボード・レポート

ダッシュボード・レポートは、最上位レベルのサマリ・レポートを提供します。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. [**Performance Center**] > [**使用状況レポート**]を選択します。 2. [**ダッシュボード**]を選択します。 **Performance Center 管理**: [**ダッシュボード**]を選択します。
利用場所	ラボ管理 および Performance Center 管理
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

ヒント	グラフの表示時に実行可能な操作: - **表示/非表示**:グラフの要素を**表示**または**非表示**にするには，凡例内の要素名をクリックします。 - **ズーム・イン/ズーム・アウト**:棒グラフまたは線グラフの一部を**ズームイン**するには，グラフの上にマウスポインタを置き，マウスの左ボタンを押したまま，目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには，[**Reset Zoom(ズームのリセット)**]を使用します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

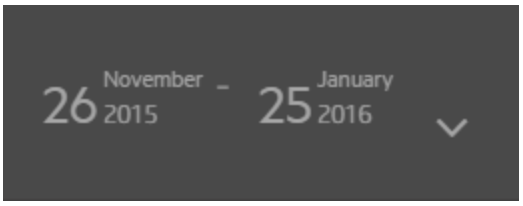
UI 要素	説明
⚙	**Select Time Range(時間範囲の選択)**:レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには，選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
同時実行仮想ユーザ	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行仮想ユーザの平均/最大数。 グラフの要素を**表示**または**非表示**にするには，凡例内の要素名をクリックします。 棒グラフまたは線グラフの一部を**ズームイン**するには，グラフの上にマウスポインタを置き，マウスの左ボタンを押したまま，目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには，[**Reset Zoom(ズームのリセット)**]を使用します。
Run State Distribution(実行状態の配分)	選択したプロジェクトのテスト実行の実行状態。
同時実行	選択したプロジェクトの同時テスト実行数。
実行 - Concurrent vs. Project Limits (同時実行 対 プロジェクトの上限)	同時テスト実行の平均数，および選択したプロジェクトに許可されている同時実行の最大数の比較。

リソース・サマリ・レポート

リソース・サマリ・レポートには，プロジェクトによるシステムのさまざまなリソースの使用方法に関する集計データが表示されます。

アクセス方法	**ラボ管理:** 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**リソース サマリ**]を選択します。 **My Performance Center:** 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで, [**レポート**] をクリックします。 2. [**リソース サマリ**]を選択します。 **Performance Center 管理:** [**リソース サマリ**]を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには, 選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
	矢印をクリックして, レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**:My Performance Center
	グラフを印刷するか, .PNG, .JPEG, .SVG または .PDF ファイルとしてダウンロードできます。
Vusers Distribution By Project(プロジェクト別仮想ユーザの配分)	すべての実行にわたって集計された, プロジェクトごとの仮想ユーザ数が表示されます。
Runs Distribution By Project(プロジェクト別実行の配分)	プロジェクトごとのテスト実行数が表示されます。

UI 要素	説明
Machines Distribution By Project (プロジェクト別マシンの配分)	すべてのプロジェクトにわたって集計された，プロジェクトで使用されたマシンの合計数が表示されます。
＜リソース・サマリ・グラフ＞	• **合計実行数**: 選択したプロジェクト内の実行の合計数。 • **関連仮想ユーザの合計数**: 選択したプロジェクト内の仮想ユーザの合計数。 • **実行ごとの平均仮想ユーザ数**: 実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。 • **Total Duration (min)(合計継続時間(分))**: リストされている実行で使用された合計時間(分)。 • **Avg Duration per Run (min)(実行ごとの平均継続時間(分))**: リストされている実行に使用された平均時間(分)。

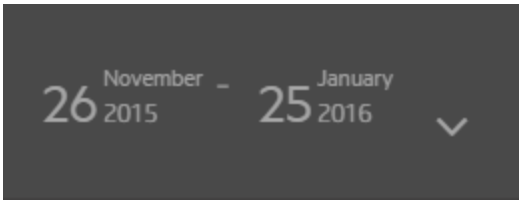
Resource by User(ユーザ別リソース)レポート

Resource by User(ユーザ別リソース)レポートは、ユーザ別のリソース使用状況に関する詳細情報を提供します。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. **[Performance Center]＞[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**ユーザ別リソース使用状況**]を選択します。 **My Performance Center**: 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで，[**レポート**]をクリックします。 2. [**ユーザ別リソース使用状況**]を選択します。 **Performance Center 管理**: [**ユーザ別リソース使用状況**]を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

ヒント	グラフの表示時に実行可能な操作: • **表示/非表示**: グラフの要素を**表示**または**非表示**にするには, 凡例内の要素名をクリックします。 • **ズーム・イン/ズーム・アウト**: 棒グラフまたは線グラフの一部を**ズームイン**するには, グラフの上にマウスポインタを置き, マウスの左ボタンを押したまま, 目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには, [**Reset Zoom(ズームのリセット)**]を使用します。 グリッドの表示時に実行可能な操作: **Sort order(ソート順序)**: 任意のカラムの値に従って, グリッドをソートできます。見出しの矢印は, カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには, カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択): レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**: レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには, 選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**: ラボ管理 および Performance Center 管理
	矢印をクリックして, レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**: My Performance Center
	グラフを印刷するか, .PNG, .JPEG, .SVG または .PDF ファイルとしてダウンロードできます。
Resources by User(ユーザ別リソース)	ユーザごとのリソース使用状況合計を表示します。
ユーザ名	ユーザ名。
合計実行数	ユーザ別の実行の合計数。
関連仮想ユーザの合計数	ユーザに関連付けられている仮想ユーザの合計数。

UI 要素	説明
実行ごとの平均仮想ユーザ数	実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。
Total Duration(合計継続時間)	リストされている実行で使用された合計時間。
実行ごとの平均継続時間	リストされている実行に使用された平均時間。
実行ごとの平均マシン数	実行ごとに使用されているマシンの平均数。

プロジェクト別リソース使用状況レポート

プロジェクト別リソース使用状況レポートは，プロジェクト別のリソース使用状況に関する詳細情報を提供します。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. [**Performance Center**] > [**使用状況レポート**]を選択します。 2. [**プロジェクト別リソース使用状況**]を選択します。 **Performance Center 管理**: [**プロジェクト別リソース使用状況**]を選択します。
利用場所	ラボ管理 および Performance Center 管理
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

ヒント	グラフの表示時に実行可能な操作: • **表示/非表示**:グラフの要素を**表示**または**非表示**にするには，凡例内の要素名をクリックします。 • **ズーム・イン/ズーム・アウト**:棒グラフまたは線グラフの一部を**ズームイン**するには，グラフの上にマウスポインタを置き，マウスの左ボタンを押したまま，目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには，[**Reset Zoom(ズームのリセット)**]を使用します。 グリッドの表示時に実行可能な操作: **Sort order(ソート順序)**:任意のカラムの値に従って，グリッドをソートできます。見出しの矢印は，カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには，カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

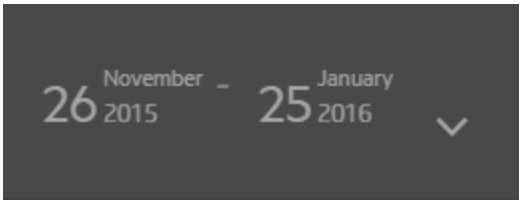
UI 要素	説明
⚙	**Select Time Range(時間範囲の選択)**:レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには,選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
≡	グラフを印刷するか,.PNG,.JPEG,.SVG または .PDF ファイルとしてダウンロードできます。
Resources by Project(プロジェクト別リソース)	プロジェクトごとのリソース使用状況合計を表示します。
プロジェクト名	プロジェクト名。
合計実行数	プロジェクト内の実行の合計数。
関連仮想ユーザの合計数	プロジェクト内の仮想ユーザの合計数。
実行ごとの平均仮想ユーザ数	実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。
Total Duration(合計継続時間)	リストされている実行で使用された合計時間。
実行ごとの平均継続時間	リストされている実行に使用された平均時間。
実行ごとの平均マシン数	実行ごとに使用されているマシンの平均数。

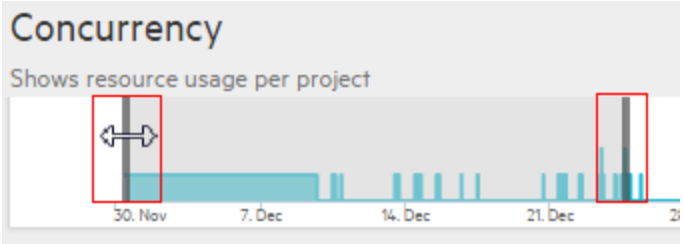
同時実行レポート

同時実行レポートは，日付別のリソース使用状況を表示します。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**同時実行**]を選択します。 **My Performance Center**: 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで，[**レポート**]をクリックします。 2. [**同時実行**]を選択します。 **Performance Center 管理**: [**同時実行**]を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには，選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
	矢印をクリックして，レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**:My Performance Center

UI 要素	説明
<日付範囲スライダ>  	両側のスライダを動かして、下のグラフに表示される日付の範囲を調整します。
同時実行	1 日あたりの同時実行数を表示します。
同時実行仮想ユーザ	同時に実行されている仮想ユーザの 1 日あたりの平均数と最大数を表示します。
Concurrent LG Machines(同時実行 LG マシン)	同時実行されている Load Generator の 1 日あたりの数を表示します。
Concurrent Protocol Usage(同時実行プロトコル使用状況)	1 日あたりの同時プロトコル使用状況を表示します。

Project Limit vs. Actual Use(プロジェクトの上限対実際の使用) レポート

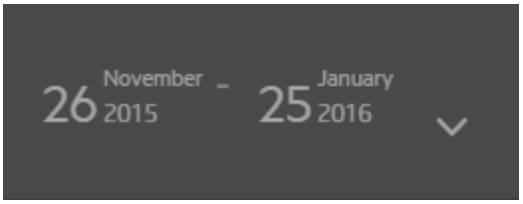
Project Limit vs. Actual Use(プロジェクトの上限対実際の使用) レポートは，プロジェクトごとの同時実行リソース使用状況，およびリソースがライセンスの制限範囲内で使用されているかどうかを表示します。

アクセス方法	**ラボ管理:** 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. **[Project Limit vs. Actual Use(プロジェクトの上限対実際の使用)]**を選択します。 **My Performance Center:** 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、**[レポート]**をクリックします。 2. **[Project Limit vs. Actual Use(プロジェクトの上限対実際の使用)]**を選択します。 **Performance Center 管理:** **[Project Limit vs. Actual Use(プロジェクトの上限対実際の使用)]**を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

ヒント	• グラフを表示する場合、棒グラフまたは線グラフの一部を**ズームイン**することができます。これには、グラフの上にマウスポインタを置き、マウスの左ボタンを押したまま、目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには、**[Reset Zoom(ズームのリセット)]**を使用します。 • グリッドの表示中は、任意のカラムの値に従ってグリッドを**ソート**できます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには、選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理

UI 要素	説明
	矢印をクリックして，レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**: My Performance Center
プロジェクト	プロジェクト名。
実行 > 最大	プロジェクトの同時テスト実行の最大数。
実行 > 平均	プロジェクトの同時テスト実行の平均数。
実行 > 上限	プロジェクト設定 ([**ラボ管理**] > [**ラボ設定**] > [**プロジェクト設定**]) で定義されている，このプロジェクトに許可されている同時テスト実行の最大数。
LG Machines(LG マシン) - 最大	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行マシンの最大数。
LG Machines(LG マシン) - 平均	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行マシンの平均数。
LG Machines(LG マシン) - 上限	プロジェクト設定 ([**ラボ管理**] > [**ラボ設定**] > [**プロジェクト設定**]) で定義されている，このプロジェクトに許可されている同時実行マシンの最大数。
仮想ユーザ - 最大	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行仮想ユーザの最大数。
仮想ユーザ - 平均	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行仮想ユーザの平均数。
仮想ユーザ - 上限	プロジェクト設定 ([**ラボ管理**] > [**ラボ設定**] > [**プロジェクト設定**]) で定義されている，このプロジェクトに許可されている同時実行仮想ユーザの最大数。
実行 - Concurrent vs. Project Limits(同時実行 対 プロジェクトの上限)	同時テスト実行の平均数，および選択したプロジェクトに許可されている同時実行の最大数の比較。

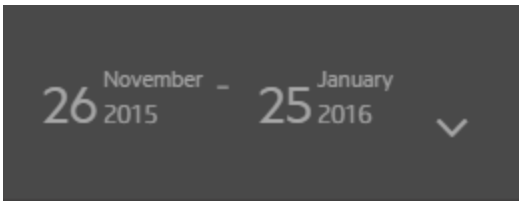
プロトコル粒度レポート

プロトコル粒度レポートでは，仮想ユーザ・スクリプトによるプロトコルの使用状況が表示されます。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**プロトコル粒度**]を選択します。 **My Performance Center**: 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで，[**レポート**]をクリックします。 2. [**プロトコル粒度**]を選択します。 **Performance Center 管理**: [**プロトコル粒度**]を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

ヒント	グラフの表示時に実行可能な操作: • **表示/非表示**:グラフの要素を**表示**または**非表示**にするには，凡例内の要素名をクリックします。 • **ズーム・イン/ズーム・アウト**:棒グラフまたは線グラフの一部を**ズームイン**するには，グラフの上にマウスポインタを置き，マウスの左ボタンを押したまま，目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには，[**Reset Zoom(ズームのリセット)**]を使用します。 グリッドの表示時に実行可能な操作: **Sort order(ソート順序)**:任意のカラムの値に従って，グリッドをソートできます。見出しの矢印は，カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには，カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには,選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
	矢印をクリックして,レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**:My Performance Center
Protocol Vusers Distribution(プロトコル仮想ユーザの配分)	パフォーマンス・テストの設計および実行時に,プロトコルでの仮想ユーザ分布を比較します。
Accumulated Usage Per Period(期間ごとの累積使用量)	日付別のプロトコルでの合計仮想ユーザ使用量を表示します。
プロトコル	仮想ユーザ・スクリプトのプロトコル
合計仮想ユーザ数	パフォーマンステストの設計/実行時のプロトコル別仮想ユーザ使用量の合計数。
Avg Usage(平均使用量)	仮想ユーザが実行に参加していた設計時間の平均プロトコル使用量。 **注:** • 計算は,最新のパフォーマンス・テスト設計に基づいて行われます。 • 実行時操作は無視されます。 • 実行中に失敗した仮想ユーザは無視されます。

UI 要素	説明
Max Usage(最大使用量)	仮想ユーザが実行に参加していた設計時間の最大プロトコル使用量。 **注:** • 計算は, 最新のパフォーマンス・テスト設計に基づいて行われます。 • 実行時操作は無視されます。 • 実行中に失敗した仮想ユーザは無視されます。
Avg Concurrent(平均同時実行)	パフォーマンステストの設計/実行時のプロトコル別の, 実行あたりの同時仮想ユーザの平均数。
Max Concurrent(最大同時実行)	パフォーマンステストの設計/実行時のプロトコル別の, 実行あたりの同時仮想ユーザの最大数。
実行ごとの平均	パフォーマンステストの実行時のプロトコル別の, 実行あたりの仮想ユーザの平均数。
Max Per Run(実行ごとの最大)	パフォーマンステストの実行時のプロトコル別の, 実行あたりの仮想ユーザの最大数。
合計仮想ユーザ数	パフォーマンス・テストの設計/実行時のすべてのプロトコルの仮想ユーザ使用量の合計数。
合計実行数	パフォーマンス・テストの設計/実行時のすべての実行の合計数。

Host Activity Utilization(ホスト・アクティビティ利用率)レポート

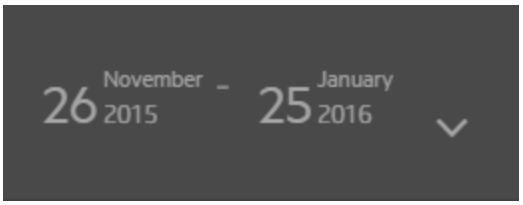
Host Activity Utilization(ホスト・アクティビティ利用率)レポートは，テスト実行ごとのホストの使用状況を表示します。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. **[Host Activity Utilization(ホスト・アクティビティ利用率)]**を選択します。 **My Performance Center**: 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで，**[レポート]**をクリックします。 2. **[Host Activity Utilization(ホスト・アクティビティ利用率)]**を選択します。 **Performance Center 管理**: **[Host Activity Utilization(ホスト・アクティビティ利用率)]**を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

ヒント	グリッドの表示中は，任意のカラムの値に従ってグリッドをソートできます。見出しの矢印は，カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには，カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには，選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理

UI 要素	説明
	矢印をクリックして，レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**: My Performance Center
ホスト名	ホスト名。
合計実行数	ホスト上で実行されたテスト実行の合計数。
Total Passed Runs(合計成功実行数)	実行の合計数のうち、成功したテスト実行の数。
Total Failed Runs(合計失敗実行数)	実行の合計数のうち、失敗したテスト実行の数。
Failure Rate %(失敗率(%))	失敗したテスト実行数が，実行の合計数に占める割合。
Last Used Date(最終使用日)	ホスト上でテストを最後に実行した時刻。
<ホストごとのグラフ表示>	失敗した実行の合計数に従ってホストを表示します。失敗した実行数の大きい順にソートされます。
≡	グラフを印刷するか，.PNG，.JPEG，.SVG または .PDF ファイルとしてダウンロードできます。

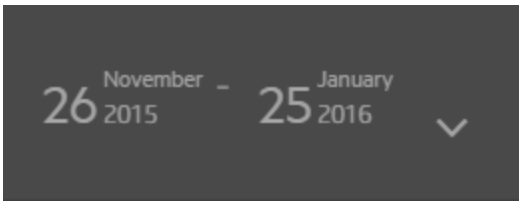
タイムスロット使用状況レポート

タイムスロット使用状況レポートは，タイムスロットに関連付けられているリソースの使用状況を表示します。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**タイムスロットの使用状況**]を選択します。 **My Performance Center**: 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで, [**レポート**]をクリックします。 2. [**タイムスロットの使用状況**]を選択します。 **Performance Center 管理**: [**タイムスロットの使用状況**]を選択します。
注	• タイムスロット全体は, 指定された時間範囲内にある必要があります。 • このレポートは, 発生したタイムスロットの使用状況のみを表示します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

ヒント	• グラフの表示時に, 凡例内の要素名をクリックすると, グラフの要素を**表示**または**非表示**にすることができます。 • グリッドの表示中は, 任意のカラムの値に従ってグリッドを**ソート**できます。見出しの矢印は, カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには, カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには，選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
	矢印をクリックして，レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**:My Performance Center

[タイムスロットの使用状況]グラフ

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
Ad-Hoc vs Reserved Distribution(アドホック対 予約配分)	アドホックで予約されるタイムスロット継続時間と，事前に予約されているタイムスロット継続時間を比較します。
Duration Utilization(継続時間利用率)	選択したプロジェクトのタイムスロットの継続時間に関する予約と使用状況の情報を表示します。
Machines Utilization(マシン利用率)	選択したプロジェクトのタイムスロット・マシンに関する予約と使用状況の情報を表示します。
VUsers Utilization(仮想ユーザ利用率)	選択したプロジェクトのタイムスロット仮想ユーザに関する予約と使用状況の情報を表示します。

[プロジェクト別タイムスロットの使用状況]テーブル

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
プロジェクト	プロジェクト名。
継続時間 予約済み	プロジェクトに予約された時間。
継続時間 使用済み	プロジェクト内で使用された時間。
継続時間 Unused(未使用)	プロジェクト内で未使用であった時間。
マシン数 予約済み	プロジェクトに予約されたマシン数。
マシン数 使用済み	プロジェクト内で使用されてたマシン数。
マシン Unused(未使用)	プロジェクト内で未使用であったマシンの数。
仮想ユーザ予約済み	プロジェクトに予約された仮想ユーザ数。
仮想ユーザ使用済み	プロジェクト内で使用された仮想ユーザ数。
仮想ユーザ Unused(未使用)	プロジェクト内で未使用であった仮想ユーザの数。

[Timeslot Usage by User Table(ユーザ別タイムスロット使用状況)]テーブル

ヒント	任意のカラムの値に従って，テーブルをソートできます。見出しの矢印は，カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには，カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
ユーザ名	タイムスロットを予約したユーザ。
継続時間 予約済み	ユーザによって予約された時間。
継続時間 使用済み	ユーザによって使用された時間。
継続時間 Unused(未使用)	ユーザによって使用されなかった時間。

UI 要素	説明
マシン数 予約済み	ユーザによって予約されたマシン数。
マシン数 使用済み	ユーザによって使用されたマシン数。
マシン Unused(未使用)	ユーザによって使用されなかったマシン数。
仮想ユーザ 予約済み	ユーザによって予約された仮想ユーザの数。
仮想ユーザ 使用済み	ユーザによって使用された仮想ユーザの数。
仮想ユーザ Unused(未使用)	ユーザによって使用されなかった仮想ユーザの数。

VUDs Overall Usage(VUD の全体的使用状況)レポート

VUDs Overall Usage(VUD の全体的使用状況)レポートは，すべてのプロジェクトの VUD ライセンス使用状況を表示します。

アクセス方法	**ラボ管理:** 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**VUDs Overall Usage(VUD の全体的使用状況)**]を選択します。 **Performance Center 管理:** [**VUDs Overall Usage(VUD の全体的使用状況)**]を選択します。
利用場所	ラボ管理 および Performance Center 管理
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

ヒント	• グラフを表示する場合，棒グラフまたは線グラフの一部を**ズームイン**することができます。これには，グラフの上にマウスポインタを置き，マウスの左ボタンを押したまま，目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには，[**Reset Zoom(ズームのリセット)**]を使用します。 • グリッドの表示中は，任意のカラムの値に従ってグリッドを**ソート**できます。見出しの矢印は，カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには，カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
	グラフを印刷するか, .PNG, .JPEG, .SVG または .PDF ファイルとしてダウンロードできます。
[Total VUDs Usage(VUD の合計使用状況)]グラフ	消費された VUD の合計数、および残りの VUD 数を表示します。
日付	VUD 使用状況情報が表示されている日付。
追加済み	当日追加された VUD 数。
消費済み	当日使用された VUD 数。
Remains(残り)	当日の終わりに残った VUD 数。
VUDs Usage Over Time(VUD 使用状況の推移)	VUD の経過時間ごとの使用状況のパターンを表示します。

VUDs Usage Details(VUD 使用状況の詳細)レポート

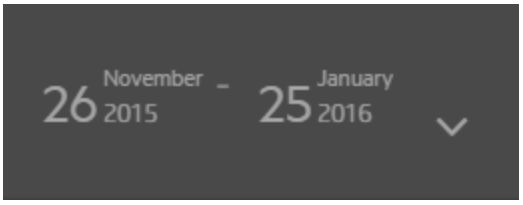
VUDs Usage Details(VUD 使用状況の詳細)レポートは, 各プロジェクトの 1 日あたりの VUD 使用状況に関する情報を表示します。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**VUDs Usage Details(VUD 使用状況の詳細)**]を選択します。 **My Performance Center**: 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで, [**レポート**]をクリックします。 2. [**VUDs Usage Details(VUD 使用状況の詳細)**]を選択します。 **Performance Center 管理**: [**VUDs Usage Details(VUD 使用状況の詳細)**]を選択します。

関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)

ヒント	グリッドの表示中は，任意のカラムの値に従ってグリッドを**ソート**できます。見出しの矢印は，カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには，カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには，選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
	矢印をクリックして，レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**:My Performance Center
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており，赤色の x で示されます。
日付	VUD 使用状況情報が表示されている日付。
割り当て済み	当日の初めにプロジェクトに割り当てられた VUD 数。
消費済み	当日中に消費された VUD 数。
Remains(残り)	当日の終わりに残った VUD 数。
アクション	VUD の現在の状態。
値	[**アクション**]カラムで示された状態にある VUD 数。
使用中	現在実行中の VUD 数。

UI要素	説明
保留中	実行できるVUD数。
ユーザ	トランザクションを実行したユーザ。
テスト名	パフォーマンス・テストの名前。

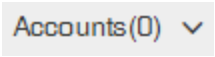
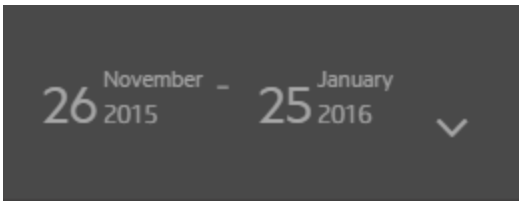
クラウド高レベル・レポート

クラウド高レベル・レポートでは，プロビジョニング済みのホストと消費クレジットがプロジェクトごとに時系列で表示されます。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. ［**Cloud High Level(クラウド高レベル)**］を選択します。 **My Performance Center**: 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで，［**レポート**］をクリックします。 2. ［**Cloud High Level(クラウド高レベル)**］を選択します。 **Performance Center 管理**: ［**Cloud High Level(クラウド高レベル)**］を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)
参照情報	• 「クラウド・アカウントの概要」(68ページ) • 「クラウド・リソースの監視の概要」(107ページ)

ヒント	グラフの表示時に実行可能な操作: • **表示/非表示**:グラフの要素を**表示**または**非表示**にするには，凡例内の要素名をクリックします。 • **ズーム・イン/ズーム・アウト**:棒グラフまたは線グラフの一部を**ズームイン**するには，グラフの上にマウスポインタを置き，マウスの左ボタンを押したまま，目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには，［**Reset Zoom(ズームのリセット)**］を使用します。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには,選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。レポートには,選択したクラウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
	矢印をクリックして,レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**:My Performance Center
	グラフを印刷するか,.PNG,.JPEG,.SVG または .PDF ファイルとしてダウンロードできます。
Provisioned Cloud Account Usage – Credits (Monthly)(プロビジョニング済みクラウド アカウント使用状況 – クレジット(月ごと))	指定した時間フレーム内で,各月ごとにプロジェクトが消費したクレジット数を表示します。
Provisioned Cloud Account Usage – Credits (Weekly)(プロビジョニング済みクラウド アカウント使用状況 – クレジット(週ごと))	指定した時間フレーム内で,各週ごとにプロジェクトが消費したクレジット数を表示します。
Provisioned Cloud Account Usage – Hosts (Monthly)(プロビジョニング済みクラウド アカウント使用状況 – ホスト(月ごと))	指定した時間フレーム内で,各月ごとにプロジェクトがプロビジョニングしたホストの数を表示します。
Provisioned Cloud Account Usage – Hosts (Weekly)(プロビジョニング済みクラウド アカウント使用状況 – ホスト(週ごと))	指定した時間フレーム内で,各週ごとにプロジェクトがプロビジョニングしたホストの数を表示します。

クラウド・クレジット(タイプ別)レポート

クラウド・クレジット(タイプ別)レポートには，消費されたクラウド・クレジット数が場所，テンプレート，インスタンス，マシン・イメージごとに表示されます。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**クラウド クレジット (タイプ別)**]を選択します。 **My Performance Center**: 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで，[**レポート**]をクリックします。 2. [**クラウド クレジット (タイプ別)**]を選択します。 **Performance Center 管理**: [**クラウド クレジット (タイプ別)**]を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)
参照情報	• 「クラウド・アカウントの概要」(68ページ) • 「クラウド・リソースの監視の概要」(107ページ)

ヒント	グリッドの表示中は，任意のカラムの値に従ってグリッドを**ソート**できます。見出しの矢印は，カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには，カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには，選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理

UI 要素	説明
Accounts(0)	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。レポートには，選択したクラウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
26 November 2015 - 25 January 2016	矢印をクリックして，レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**: My Performance Center
	グラフを印刷するか，.PNG，.JPEG，.SVG または .PDF ファイルとしてダウンロードできます。
クレジット(場所別)	アカウントの使用状況を，場所別の消費されたクレジットごとに表示します。
クレジット(テンプレート別)	アカウントの使用状況を，テンプレート別の消費されたクレジットごとに表示します。
クレジット(イメージ別)	アカウントの使用状況を，マシン・イメージ別の消費されたクレジットごとに表示します。
クレジット(インスタンス別)	アカウントの使用状況を，インスタンス・タイプ別の消費されたクレジットごとに表示します。
Hosts By Location(ホスト(場所別))	アカウントの使用状況を，場所別のプロビジョニングされたホストごとに表示します。
Hosts By Template(ホスト(テンプレート別))	アカウントの使用状況を，テンプレート別のプロビジョニングされたホストごとに表示します。
Hosts By Image(ホスト(イメージ別))	アカウントの使用状況を，マシン・イメージ別のプロビジョニングされたホストごとに表示します。
Hosts By Instance(ホスト(インスタンス別))	アカウントの使用状況を，インスタンス・タイプ別のプロビジョニングされたホストごとに表示します。

次のカラムは，下部の表示枠(選択したグラフ・ウィジェットによって変わります)に表示されます。

フィールド	説明
プロジェクト	ホストのプロビジョニングを行い，クレジットを消費したプロジェクト(ドメインを含む)を表示します。

フィールド	説明
<場所>	場所からプロビジョニングしたホストの数と，その場所が消費するクレジット数を表示します。 **利用可能**: クレジット(場所別)，Hosts By Locations(ホスト(場所別))。
<テンプレート>	テンプレートからプロビジョニングしたホストの数と，そのテンプレートからプロビジョニングしたホストが消費するクレジット数を表示します。 **利用可能**: クレジット(テンプレート別)，Hosts By Template(ホスト(テンプレート別))。
<イメージ>	マシン・イメージを使用してプロビジョニングしたホストの数と，そのマシン・イメージのホストが消費するクレジット数を表示します。 **利用可能**: クレジット(イメージ別)，Hosts By Image(ホスト(イメージ別))。
<インスタンス>	インスタンス・タイプを使用してプロビジョニングしたホストの数と，そのインスタンス・タイプのホストが消費するクレジット数を表示します。 **利用可能**: クレジット(インスタンス別)，Hosts By Instance(ホスト(インスタンス別))。
クレジット	指定した場所，テンプレート，インスタンス，イメージを使用するプロジェクトが消費したクレジット数を表示します。
ホスト	指定した場所，テンプレート，インスタンス，イメージを使用するプロジェクトがプロビジョニングしたホストの数を表示します。

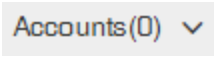
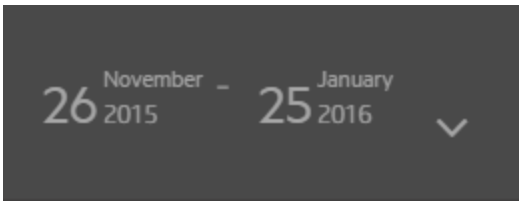
クラウド利用率レポート

クラウド利用率レポートでは，クラウド・ホストの稼働時間とアイドル時間を比較します。このレポートでは，クラウド・リソースが有効活用されているかどうかを確認できます。

アクセス方法	**ラボ管理:** 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**クラウド利用率**]を選択します。 **My Performance Center:** 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで, [**レポート**]をクリックします。 2. [**クラウド利用率**]を選択します。 **Performance Center 管理:** [**クラウド利用率**]を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)
参照情報	• 「クラウド・ホストの概要」(53ページ) • 「クラウド・リソースの監視の概要」(107ページ)

ヒント	グラフの表示時に実行可能な操作: • **表示/非表示**:グラフの要素を**表示**または**非表示**にするには, 凡例内の要素名をクリックします。 • **ズーム・イン/ズーム・アウト**:棒グラフまたは線グラフの一部を**ズームイン**するには, グラフの上にマウスポインタを置き, マウスの左ボタンを押したまま, 目的の領域までドラッグします。前の表示に戻るには, [**Reset Zoom(ズームのリセット)**]を使用します。 グリッドの表示時に実行可能な操作: **Sort order(ソート順序)**:任意のカラムの値に従って, グリッドをソートできます。見出しの矢印は, カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには, カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには,選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。レポートには,選択したクラウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
	矢印をクリックして,レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**:My Performance Center
	グラフを印刷するか,.PNG,.JPEG,.SVG または .PDF ファイルとしてダウンロードできます。
クラウド利用率	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストでテストを実行した時間の合計(時間単位),およびプロジェクトによってプロビジョニングしたホストで,テスト実行が可能であるにもかかわらず未使用状態だった時間の合計(時間単位)を表示します。

グリッドに表示されるレポートの出力には,次のカラムがあります。

フィールド	説明
プロジェクト名	使用状況のサマリを表示するプロジェクト(ドメインを含む)。
Total In-Use Time(合計使用時間)	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストで,テストを実行した時間の合計(時間単位)。
合計アイドル時間	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストで,テスト実行が可能であるにもかかわらず未使用状態だった時間の合計(時間単位)。

フィールド	説明
Estimated Idle Time in Credits(予想アイドル時間(クレジット))	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストで，テスト実行が可能であるにもかかわらず未使用状態だったときに消費したクレジット数の合計。

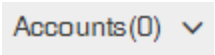
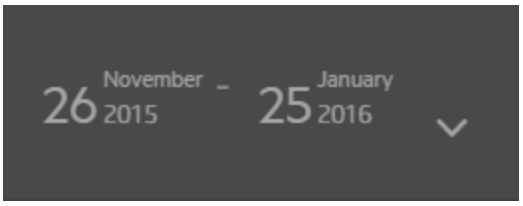
クラウド操作レポート

クラウド操作レポートでは，クラウド・ホストで行った操作が表示されます。

アクセス方法	**ラボ管理**: 1. **[Performance Center]** > **[使用状況レポート]**を選択します。 2. [**クラウド操作**]を選択します。 **My Performance Center**: 1. My Performance Center ナビゲーション・バーで，[**レポート**]をクリックします。 2. [**クラウド操作**]を選択します。 **Performance Center 管理**: [**クラウド操作**]を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(188ページ)
参照情報	• 「クラウド・ホストの概要」(53ページ) • 「クラウド・リソースの監視の概要」(107ページ)

ヒント	グリッドの表示中は，任意のカラムの値に従ってグリッドを**ソート**できます。見出しの矢印は，カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには，カラムの見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Select Time Range(時間範囲の選択):レポートに関する日付範囲を選択できます。 **プロジェクトの選択**:レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには,選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 **利用場所**:ラボ管理 および Performance Center 管理
	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。レポートには,選択したクラウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
	矢印をクリックして,レポートに関する時間範囲を選択します。 **利用場所**:My Performance Center
要求 ID	クラウド操作を示すクラウド・プロバイダの ID。
ユーザ	テスト実行を開始したユーザ。
操作	クラウド操作のタイプ([**プロビジョニング**]または[**終了**])。
開始時刻	クラウド操作が開始された日時。
継続時間	ホストのプロビジョニングまたは終了にかかった時間(分)。
要求された量	**プロビジョニング操作**:クラウド・プロバイダに要求されたホストの数。 **終了操作**:終了するホストの数。
成功した量	**プロビジョニング操作**:実際にプロビジョニングされたホストの数。すべてのホストでプロビジョニングが失敗した場合は空白になります。 **終了操作**:終了するホストの数。
プロジェクト	クラウド操作を開始したプロジェクト。

第9章: システムのヘルス

本章の内容

- システムのヘルスの概要 222
- システムのヘルスのユーザ・インタフェース 222

システムのヘルスの概要

ALM でパフォーマンス・テストを設計，実行するには，Performance Center システムが正常に稼働中である必要があります。システムのヘルス・モジュールでは，システム・コンポーネント間の通信をチェックするタスクを実行することによって，システム稼働を正常な状態に維持することができます。

システムのヘルスのユーザ・インタフェース

本項の内容

- システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ 223
- ［システムチェックの設定］ダイアログ・ボックス 224

システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ

このモジュールには，ALM Performance Center システムのヘルスのメンテナンス・タスクと全般的なシステム・チェックに関する情報が表示され，ALM Performance Center システムで完全な検証を実行できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**システムのヘルス**]を選択します。
参照情報	「システムのヘルスの概要」(222ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
システムの確認	[システムチェックの設定]ダイアログ・ボックスが開き，システム・チェックの対象にする ALM-Performance Center システム内のサーバとホストを選択できます。詳細については，「[システムチェックの設定]ダイアログ・ボックス」(224ページ)を参照してください。
	すべて更新：最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。 [**自動更新**]が有効になっている場合，このボタンは無効になります。
	自動更新をオンに設定/自動更新をオフに設定：有効にした場合，最新のタスク情報が表示されるように，グリッドを5秒ごとに自動更新します。
失敗したタスクのみ表示	失敗ステータスのみを持つシステム・チェック結果が表示されます。
エクスポート	[グリッドデータのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き，システム・チェックの結果を Microsoft Excel ワークシートとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべて**：グリッドのすべてのタスクをエクスポートします。 • **選択済み**：グリッドの選択したタスクをエクスポートします。

UI要素	説明
<結果グリッド>	システム・チェックの進行状況と結果が表示されます。次のフィールドがあります。 • **ステータス**：システム・チェックのステータスです。 • **コンポーネント**：サーバ名またはホスト名。 • **説明**：タスクの説明。 • **結果**：タスクの結果。 • **開始時刻**：タスクが開始された時刻。 • **終了時刻**：タスクが終了した時刻。 • **成功**：タスクの確認が成功または失敗したかを示します。
タスク結果	タスク・ステータスとシステム・チェックの結果が表示されます。
タスク・ログ	稼働中のサーバまたはホストで実行されるタスク， アクションのステータス，エラーの説明に関する詳細情報が表示されます。

[システムチェックの設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，システム・チェックの実行時に対象とするALM-Performance Centerシステム・コンポーネント(サーバとホスト)を選択できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**システムのヘルス**]を選択します。 をクリックします。
重要な情報	• システム・チェックは，稼働中状態のPerformance Centerサーバとホストのみで実行されます。 • システム・チェックは，Controller用途のホストのみで実行されます。
参照情報	「システムのヘルスの概要」(222ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
ALM Platformの確認	システム・チェックでALMサーバを対象にします。

UI 要素	説明
Performance Center サーバの確認	システム・チェックで稼働中の Performance Center サーバを対象にします。 • **すべて**: システム・チェックで稼働中の Performance Center サーバをすべて対象にします。 • **特定**: システム・チェックの対象にする稼働中の Performance Center サーバを選択できます。
ホストの確認	システム・チェックで Controller 目的の稼働中の Performance Center ホストを対象にします。 • **すべて**: システム・チェックで Controller 目的の稼働中の Performance Center ホストをすべて対象にします。 • **特定**: システム・チェックの対象にする Controller 目的の稼働中の Performance Center ホストを選択できます。
<Performance Center サーバのグリッド>	システム・チェックの対象にするように選択した Performance Center サーバがリストされ，その詳細が表示されます。詳細については，「PC サーバ・モジュールのフィールド」(303ページ)を参照してください。
<Performance Center ホスト・グリッド>	システム・チェックの対象にするように選択した Performance Center ホストがリストされ，その詳細が表示されます。詳細については，「ホストのフィールド」(140ページ)を参照してください。

第10章: Performance Center ライセンス

本章の内容

- Performance Center ライセンスの概要 227
- Performance Center のライセンス・キーの設定方法 229
- PC ライセンスのユーザ・インタフェース 230

Performance Center ライセンスの概要

HP ALM Performance Center を使用するには，次のライセンスを定義する必要があります。

ライセンス	説明
ALM	ALM ライセンスは，ALM のインストール・プロセスの一環として設定され，サイト管理で管理されます。ALM ライセンスの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ライセンス	説明
Performance Center	Performance Center のライセンスには 2 つのタイプがあります。 • **PC**: PC ライセンスは，同時実行または仮想ユーザの合計数によって制限され，有効期限が設定されている可能性があります。 **注**: このライセンスは，恒久的な Community ライセンス・バンドルとして無償で提供されます。このバンドルには，Controller 1 つ (同時実行数は 1) と仮想ユーザ 50 人が含まれます。 • **PC_VUDS**: バーチャル・ユーザ・デイ(VUD) ライセンスでは，指定された仮想ユーザ数 (VUD) を 24 時間の期間 (バーチャル・ユーザ・デイ) 以内に無制限で実行できます。バーチャル・ユーザ・デイの終わりに，ライセンス済み VUD の残りの数が計算されます。この計算では，使用済みの VUD 数を差し引くか，同時実行で使用した場合は，ライセンス済み VUD の合計数から同時実行 VUD の最大数を差し引きます。 たとえば，ユーザに 1,000 個の VUD を実行できるライセンスがあったとします。ユーザは，200 個の仮想ユーザを必要とし，45 分間実行されるパフォーマンス・テストを作成します。テストを 08:00:00 時，10:00:00 時，14:00:00 時，16:00:00 時に実行します。それぞれのケースで，テストは次のテストが始まる前に終了します。仮想ユーザを同時実行で使用していないため，各テストで同じ 200 個の VUD を再利用できます。つまり，24 時間の期間の最後に，ライセンスから 200 個の VUD のみ差し引かれ，残りの 800 個を今後使用できることになります。 ただし，ユーザが 2 番目の実行を午前 8 時 30 分に開始した場合，2 番目のテストの初期化時に最初のテストはまだ実行中です。この重複によって，同時実行のために 400 個 (各テストで 200 個ずつ) の仮想ユーザ数が必要になります。この期間の最後に，ライセンスから 400 個の VUD が差し引からます。400 が同時実行仮想ユーザの最大数であるためです。今後使用できる残りの合計は，600 個の VUD となります。 **注**: • Performance Center ライセンスとホスト・ライセンスは，Performance Center サーバのインストール後に直接設定されます。ライセンスの設定は，PC ライセンス・モジュール・ウィンドウで行います。詳細については，「PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ」(231ページ)を参照してください。 • 次のものを除き，HP 開発のプロトコル上で VUD を実行できます。COM/DCOM，VB Com，VB 仮想ユーザ，VB Script 仮想ユーザ，VB.NET 仮想ユーザ，VB.NET テンプレート。

ライセンス	説明
	! • SDK プロトコル上では，VUD を実行できません。 • UFT Professional スクリプトなどの GUI 仮想ユーザ・スクリプト上では，VUD を実行できません。 • VUD ベースの Performance Center ライセンスを使用する場合，ホスト・ライセンスは無関係です。
ホスト	ホスト・ライセンスは，ホスト上のプロトコルごとの仮想ユーザ数の上限を定義します。ホスト・ライセンスの仮想ユーザ・タイプには，次の 2 つがあります。 • **＜バンドル・タイプ＞ バンドル**: 各バンドルにプロトコルの集合が含まれています。プロトコル・バンドルを選択した場合，このセクションには，含まれているプロトコルのリストが表示されます。 • **グローバル**: グローバル・ライセンスを使用すると，合計制限内に留まる限り，すべての仮想ユーザ・タイプを実行できます。「グローバル」の後に続く数は，購入した仮想ユーザの合計数を示します。
Community ライセンス・バンドル	Performance Center では，恒久的な Community ライセンス・バンドルが無償で提供されます。このバンドルには，次の内容が含まれます。 Controller 1 つ(同時実行数は 1)，PC Lifecycle ユーザ 1 人，恒久的な仮想ユーザ 50 人。これらの仮想ユーザは，GUI(UFT)，COM/DCOM，テンプレート・プロトコル以外のすべてのプロトコルに対して有効です。Community ライセンス・バンドルにはサポートは含まれません。 ! **注:** このバンドルは，Performance Center インストール DVD のルート・ディレクトリにある **CommunityLicense** に格納されています。

! **注:** Performance Center ライセンスとホスト・ライセンスは，Performance Center サーバのインストール後に直接設定されます。ライセンスの設定は，PC ライセンス・モジュール・ウィンドウで行います。詳細については，「Performance Center のライセンス・キーの設定方法」を参照してください。

Performance Center のライセンス・キーの設定方法

本項では，Performance Center のライセンス・キーを設定する方法について説明します。

1. **前提条件**

   ALM ライセンスが ALM サイト管理で設定されていることを確認します。ALM ライセンスの

詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2. **ライセンス・キーをアクティブ化します。**

   ライセンスをアクティブにするには, HPE Software Licensing Portal にアクセスし, Entitlement Order Number(EON) を入力してください。

   ライセンスを持っていない場合は, HPE Software Licensing Portal にアクセスし, [**ライセンス サポートへの問い合わせ**] リンクをクリックしてください。

3. **ライセンス・キーを設定します。**

   a. ラボ管理の[**Performance Center**] で[**PC ライセンス**] を選択します。PC ライセンス・モジュール・ウィンドウが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については,「PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ」(231ページ)を参照してください。

   b. 次のいずれかのオプションを選択します。

      - **ライセンス・キーの追加**:ライセンス・キーを 1 つ追加します。
      - **ファイルからライセンスを追加**:複数のライセンス・キーを同時に追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については,「[ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックス」(234ページ)を参照してください。

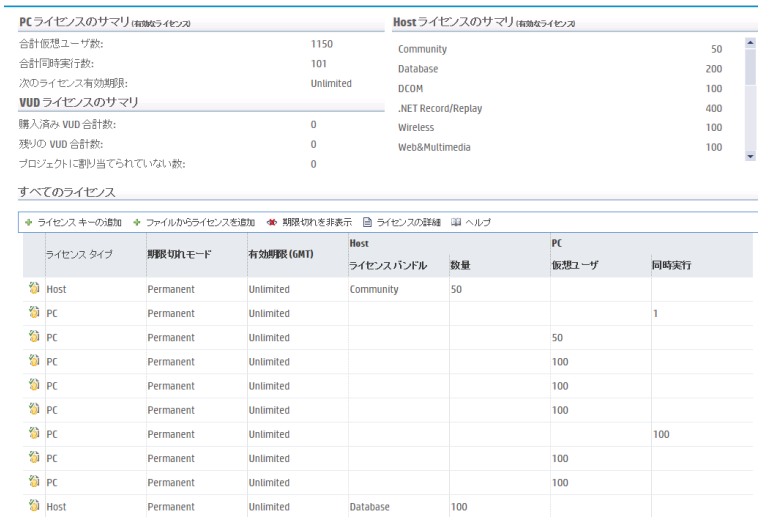
PC ライセンスのユーザ・インタフェース

本項の内容

- PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ 231
- [ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックス 234

PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ

このページでは，Performance Center ライセンスと VUD ベースのライセンスのサマリ，ホスト・ライセンスの情報を表示できます。



アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]から[**PC ライセンス**]を選択します。
関連タスク	• 「Performance Center のライセンス・キーの設定方法」(229 ページ)
参照情報	「Performance Center ライセンスの概要」(227ページ)

[PC ライセンスのサマリ]領域

すべての Performance Center ライセンスのサマリ情報が表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
合計仮想ユーザ数	すべてのライセンスの仮想ユーザの合計数。
合計同時実行数	同時に実行できる仮想ユーザの合計数。
次のライセンスの有効期限	ライセンスの有効期限が切れる日を示します。

[VUD ライセンスのサマリ]領域

VUD ベースのすべてのライセンスのサマリ情報が表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
購入済み VUD 合計数	購入した VUD の合計数。
残りの VUD 合計数	残っている VUD の合計数。
プロジェクトに割り当てられていない数	割り当てられていない VUD の合計数。

[Host ライセンスのサマリ] 領域

すべてのホスト・ライセンスについて，プロトコル・バンドルと容量の情報を表示します。

すべてのライセンス領域

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
ライセンスキーの追加	一度に 1 つのライセンス・キーをインストールできます。 クリックして[新規ライセンスの追加]ダイアログ・ボックスを開き，新規ライセンス・キーを入力します。 **注:** 必要なアクセス許可を持っている場合にのみ，ライセンスを追加できます。
ファイルからライセンスを追加	[ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボックスを開くと，複数のライセンス・キーを同時にインストールできます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックス」(234ページ)を参照してください。
期限切れを表示 期限切れを非表示	すべてのライセンスを表示，または期限切れのライセンスを非表示にします。

UI 要素	説明
ライセンスの詳細	クリックすると，［ライセンスの詳細］ダイアログ・ボックスが開き，次の情報が表示されます。 • **割り当て日**:ライセンスがシステムに追加された日付。 • **ライセンス・キー**:ライセンス・キー。 • **タイプ**:ライセンスのタイプ。 詳細を Excel ファイルにエクスポートするには，［**Excel にエクスポート**］をクリックします。 **注:** 必要なアクセス許可を持っている場合にのみ，ライセンスの詳細を表示できます。
ライセンス・タイプ	選択したライセンス・キーに利用できるライセンスのタイプ。値は次のとおりです。**PC**，**PC_VUDS**，**Host**。詳細については，「Performance Center ライセンスの概要」(227ページ)を参照してください。
期限切れモード	• **Permanent** • **Time Limited**:ライセンスは有効期限で制限されます。 • **Temporary**:製品のインストール後，定義済み日数の間供与される時間制限ライセンス。
有効期限(GMT)	ライセンスの有効期限が切れる日時。
Host	• **ライセンス・バンドル**:ライセンスが適用される仮想ユーザ・プロトコル・バンドルの名前を示します。ライセンスを使用すると，Controller でプロトコル・バンドルに含まれているすべてのプロトコルの仮想ユーザを実行できます。 • **容量**:LoadRunner Controller から同時に実行できる仮想ユーザの最大数を示します。
PC	• **仮想ユーザ**:仮想ユーザ数。 • **同時実行**:同時に実行できるテスト実行の最大数。

[ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，複数の Performance Center ライセンス・キーを同時にインストールできます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center] から[**PC ライセンス**] を選択します。 ファイルからライセンスを追加 をクリックします。
重要	必要なアクセス許可を持っている場合にのみ，ライセンスを追加できます。
関連タスク	• 「Performance Center のライセンス・キーの設定方法」(229ページ)
参照情報	「Performance Center ライセンスの概要」(227ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ライセンス・ファイル	[**選択**] をクリックしてライセンス・ファイルを選択します。
期限切れまたはインストール済みのライセンスを表示/非表示	すべてのライセンスを表示するか，または期限切れとインストール済みのライセンスを非表示にします。
#	連続する ID 番号を示します。
ライセンス・タイプ	選択したライセンス・キーに利用できるライセンスのタイプ。値は次のとおりです。**PC**，**PC_VUDS**，**Host**。詳細については，「Performance Center ライセンスの概要」(227ページ)を参照してください。
期限切れモード	• **Permanent** • **Time Limited**: ライセンスは有効期限で制限されます。 • **Temporary**: 製品のインストール後，定義済み日数の間供与される時間制限ライセンス。
有効期限	ライセンスの有効期限が切れる GMT 日時を示します。

UI 要素	説明
Host	• **ライセンス・バンドル**: ライセンスが適用される仮想ユーザ・プロトコル・バンドルの名前を示します。ライセンスを使用すると, Controller でプロトコル・バンドルに含まれているすべてのプロトコルの仮想ユーザを実行できます。 • **容量**: LoadRunner Controller から同時に実行できる仮想ユーザの最大数を示します。
PC	• **仮想ユーザ**: 仮想ユーザ数。 • **同時実行**: 同時に実行できるテスト実行の最大数。
追加	選択したライセンスをインストールします。

第 11章 : MI Listener

本章の内容

- MI Listener の概要 237
- MI Listener を管理する方法 237
- MI Listener モジュール 238

MI Listener の概要

MI Listener は，コントローラと Performance Agent 間のルータとして機能します。MI Listener を使用することにより，ファイアウォール越しに仮想ユーザを実行し，ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。

MI Listener は，Performance Agent から定期的にデータを受け取ります。テストの実行中に，Controller は MI Listener からデータを取得し，実行時データとして処理します。

MI Listener は Load Generator でのみ利用できます。

ファイアウォールを使用するようにラボ管理を設定する方法の詳細については，『HP Performance Center インストール・ガイド』のファイアウォールの使用に関する項を参照してください。

MI Listener の管理については，「MI Listener を管理する方法」(237ページ)を参照してください。

MI Listener を管理する方法

本項では，ファイアウォールを介してホスト上でパフォーマンス・テストを実行する際に使用する MI Listener を管理する方法を説明します。

本タスクの内容

- 「MI Listener の追加」(237ページ)
- 「ホストの場所の詳細の変更/表示」(237ページ)
- 「ホストへの MI Listener の割り当て」(237ページ)

MI Listener の追加

MI Listener を追加するには，次の手順を実行します。

1. **[Performance Center]** > **[MI Listener]** を選択します。
2. [**新規 MI Listener**] ボタン をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規 MI Listener] ダイアログ・ボックス」(243ページ)を参照してください。

ホストの場所の詳細の変更/表示

[Performance Center] > **[MI Listener]** を選択し，グリッドで MI Listener を選択してから，

[**MI Listener の詳細**] ボタン をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「[MI Listener 詳細] ダイアログ・ボックス」(244ページ)を参照してください。

ホストへの MI Listener の割り当て

ホストに MI Listener を割り当てるには，次の手順を実行します。

1. [**ラボ リソース**] > [**ホスト**] を選択します。
2. ファイアウォール越しに位置するホストをグリッドで選択し, [**テスティング ホストの詳細**] ボタン をクリックします。
3. [**テスティング ホスト**] ダイアログ・ボックスが開いたら, [**MI Listener**] フィールドで MI Listener を選択します。

   ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[テスティング ホスト詳細] ダイアログ・ボックス」(148ページ)を参照してください。

MI Listener モジュール

- MI Listener モジュール・ウィンドウ 239
- MI Listener のフィールド 240
- MI Listener モジュールのメニューとボタン 240
- [新規 MI Listener] ダイアログ・ボックス 243
- [MI Listener 詳細] ダイアログ・ボックス 244

MI Listener モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると，MI Listener を表示，管理できます。MI Listener を使用すると，ファイアウォール越しのホスト上でパフォーマンス・テストを実行し，ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**MI Listener**]を選択します。
重要な情報	• ファイアウォールを使用するように ALM を設定する方法の詳細については，『HP Performance Center インストール・ガイド』でのファイアウォールの使用に関する項を参照してください。 • MI Listener がホストによって使用されている場合は，削除できません。
関連タスク	「MI Listener を管理する方法」(237ページ)
参照情報	• 「MI Listener の概要」(237ページ) • 「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<MI Listener モジュールの共通の UI 要素>	• **MI Listener モジュールのフィールド**:フィールドの定義については，「MI Listener のフィールド」(240ページ)を参照してください。 • **MI Listener モジュールのメニューとボタン**:コマンドとボタンの説明については，「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(129ページ)を参照してください。
<MI Listener のグリッド>	ALM 内の MI Listener のリストを表示します。
[説明]タブ	現在選択されている MI Listener についての説明が表示されます。 **ヒント**:この領域を右クリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[履歴]タブ	現在選択されている MI Listener に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

MI Listener のフィールド

本項では，MI Listener のフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	MI Listener の説明。
MI Listener ID	MI Listener の ID。
公開 IP	MI Listener の公開 IP アドレス。 **注 :** 同じ MI Listener に対して 2 つの異なる IP アドレス(1 つは Controller との内部通信用，もう 1 つはファイアウォール越しの Load Generator との公開通信用) がある場合，ここに**公開 IP アドレス**を入力します。[**MI Listener 名**] フィールド (次を参照) には，内部 IP アドレスを入力します。
MI Listener 名	MI Listener の名前。 **注 :** 同じ MI Listener に対して 2 つの異なる IP アドレス(1 つは Controller との内部通信用，もう 1 つはファイアウォール越しの Load Generator との公開通信用) がある場合，ここに**内部 IP アドレス**を入力します。[**公開 IP**] フィールドには，公開 IP アドレスを入力します(上記参照)。
用途	MI Listener に指定されたロール。 • ファイアウォール越しの診断データの収集 • ファイアウォール越しの監視 • ファイアウォール越しのホストの実行

MI Listener モジュールのメニューとボタン

MI Listener モジュールでは，MI Listener を管理します。

関連タスク	「MI Listener を管理する方法」(237ページ)

MI Listener モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI要素	場所	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
削除	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッドで選択したMI Listenerを削除します。 **注:** ホストが使用中のMI Listenerは，削除できません。
MI Listenerの詳細	ツールバーと右クリック・メニュー	[**MI Listenerの詳細**]ダイアログ・ボックスが開き，選択したリソースの詳細を表示および編集できます。
エクスポート	ツールバーと<右クリック・メニュー>	[**すべてのグリッド データをエクスポート**]ダイアログ・ボックスまたは[**選択済みグリッド データをエクスポート**]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのMI Listenerを，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，またはHTMLドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべて**: グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • **選択項目**: グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでリソースを検索できます。検索オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
＜リソース＞に移動	ツールバー	[**MI Listenerに移動**]ダイアログ・ボックスが開き，ID番号でMI Listenerを検索できます。移動できるのは，現在適用しているフィルタに含まれるMI Listenerのみです。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI要素	場所	説明
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規 MI Listener	ツールバー	MI Listenerを追加します。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには，次の手順で行います。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き，グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のMI Listenerに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	[編集]と<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[新規 MI Listener] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，MI Listener を ALM に追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**MI Listener**]を選択します。 2. MI Listener モジュールで，[**新規 MI Listener**]ボタンをクリックします。
重要な情報	MI Listener を使用すると，ファイアウォール越しに仮想ユーザを実行し，ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。
関連タスク	「MI Listener を管理する方法」(237ページ)
参照情報	• 「MI Listener の概要」(237ページ) • 「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索: 指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例: a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
MI Listener 名	新しい MI Listener の名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*) のマークが付けられ，赤色で表示されます。利用できる MI Listener のフィールドの詳細については，「MI Listener のフィールド」(240ページ)を参照してください。

［MI Listener 詳細］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，選択した MI Listener の詳細情報が表示されます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの［**Performance Center**］で，［**MI Listener**］を選択します。 2. グリッド内の MI Listener を右クリックし，［**MI Listener 詳細**］を選択します。
重要な情報	MI Listener を使用すると，ファイアウォール越しのホスト上でテストを実行し，ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)
参照情報	• 「MI Listener の概要」(237ページ) • 「ラボ・リソースの概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：MI Listener のリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
MI Listener ID	MI Listener の ID。
MI Listener 名	MI Listener の名前。

UI要素	説明
詳細	現在選択されているMI Listenerについての詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については,「MI Listener のフィールド」(240ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているMI Listenerに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第12章: 診断管理

本章の内容

- J2EE/.NET 診断の概要 247
- ERP/CRM 診断の概要 247
- ERP/CRM メディエータの追加方法 249
- HP Diagnostics サーバの追加方法 250
- Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法 250
- Oracle 11i 診断を事前に設定する方法 254
- SAP 診断を事前に設定する方法 255
- Siebel サーバでログを有効，無効にする方法 255
- Oracle サーバのログを有効にする方法 257
- Oracle サーバの診断パスワードを設定，無効にする方法 258
- 診断のユーザ・インタフェース 258

J2EE/.NET 診断の概要

HP Diagnostics とHP Application Lifecycle Management(ALM) との統合によって, Java 2 Enterprise Edition (J2EE) , .NET 接続, SAP, Oracle, その他の複雑な環境のパフォーマンスを監視, 分析できるようになります。

パフォーマンス・テスト中に, HP Diagnostics データをドリルダウンしてテスト全体や特定のトランザクションを表示できます。テストの後に, HP LoadRunner Analysis を使用して, テスト中に収集されたオフライン診断データを分析できます。

サーバ要求の監視

J2EE/.NET 診断を使用するようにパフォーマンス・テストを設定する場合, 仮想ユーザ・トランザクションのコンテキスト外で発生するサーバ要求のパーセントをキャプチャするように ALM に指示できます。

この機能を有効にする利点は, 次の場合にも, バックエンドの VM への呼出しをキャプチャできることです。

- プローブが RMI 呼び出しをキャプチャしていない場合
- RMI 呼び出しをキャプチャできない場合 (おそらく, サポートされていないアプリケーション・コンテナが使用されているため)
- アプリケーションが複数の VM 間の通信に他の何らかのメカニズムを使用している場合

J2EE と .NET の診断の使用の詳細については, 『HP Diagnostics User Guide』を参照してください。

ERP/CRM 診断の概要

次の項では, ERP/CRM 診断の概要について説明します。

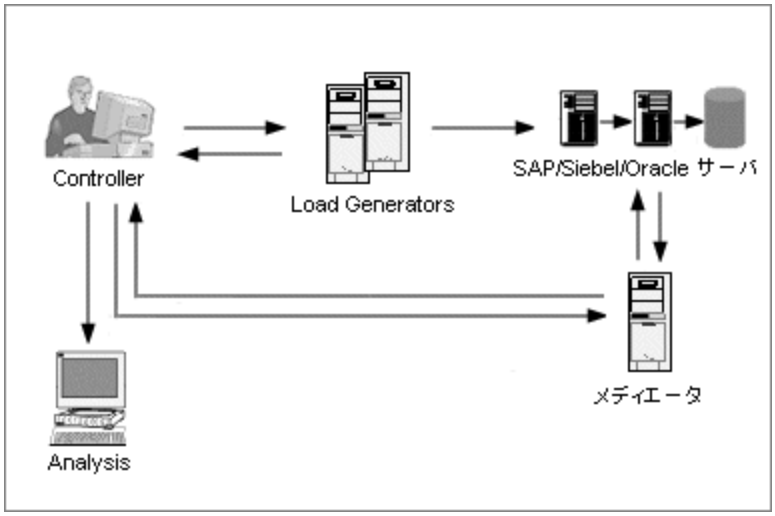
ERP/CRM 診断について

パフォーマンス・テスト中, ALM 診断モジュールは, Web, アプリケーション, データベース・サーバにわたって個々のトランザクションのトレース, 時間測定, トラブルシューティングを行います。これで, 低速のエンドユーザ・トランザクションからボトルネックとなったメソッドや SQL ステートメントまでドリルダウンできます。ALM Performance Center 診断モジュールを使用すると, 組織では次のことが可能になります。

- エンドユーザ体験に重大な影響を与えるアプリケーション・コンポーネントの迅速な隔離。
- 開発者へのパフォーマンスの改善方法に関する正確なデータの提供。

ERP/CRM 診断モジュールのアーキテクチャ

ERP/CRM 診断のアーキテクチャは, 次の図に示すように, 次のコンポーネントで構成されています。



- **メディエータ**: ERP/CRM メディエータ("メディエータ") は, Web, データベース, アプリケーション・サーバからオフライン・トランザクション・データを収集し, 相関します。メディエータのインストールの詳細については,『HP LoadRunner インストール・ガイド』を参照してください。
- **Controller**: テスト実行の前に, Controller はすべてのサーバ情報をメディエータに転送し, 監視に参加するユーザのパーセントを分配します。テストの実行後に, Controller は, 集計されたトランザクション・データ・ファイルをメディエータから収集し, 結果を照合します。結果は, Siebel 診断, SAP 診断, Oracle DB 結果ディレクトリに転送されます。
- **Load Generator**: 負荷テストを実行すると, Controller によって各仮想ユーザが Load Generator に分配され, Load Generator によって仮想ユーザ・スクリプトが実行されます。
- **Analysis**: 詳細な診断グラフと診断レポートを表示します。診断グラフの詳細については,『HP LoadRunner Analysis ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

メディエータのリモート・サーバへの接続

ERP/CRM 診断モジュールを設定する場合, 監視するサーバを定義するには, トレース/ログ・ファイルを格納するサーバのユーザ名を入力します。本項では, サーバがリモート Windows サーバまたは UNIX サーバである場合に, メディエータがサーバに接続する方法について説明します。

- リモート Windows サーバを監視する場合, メディエータは, 診断設定プロセス中に[<診断タイプ> サーバの設定]ダイアログ・ボックスに入力した設定詳細を使用してサーバへの接続を試みます。この設定では, リモート・マシンに対する管理者権限を付与する必要があります。
- リモート Linux を監視する場合, メディエータではリモート・シェル接続タイプをサポートしています。リモート・シェル接続の詳細については,『HP LoadRunner インストール・ガイド』の Linux Load Generator のインストールの確認に関する項を参照してください。

Siebel 診断と Siebel DB 診断の概要

Siebel 診断は, 次の 2 つのモジュールに分かれています。

- **Siebel 診断モジュール**: Siebel トランザクションをレイヤ，領域，サブ領域，サーバ，スクリプトにブレークダウンできます。また，トランザクションの呼び出しチェーンと呼び出しスタックの統計を表示して，トランザクションの各部分で費やされる時間のパーセントを追跡することもできます。Siebel-Web 仮想ユーザでは Siebel 診断がサポートされています。
- **Siebel DB 診断モジュール**: データベースのパフォーマンスの問題を迅速に特定し解決できます。各トランザクションの SQL が表示されるほか，各スクリプトで問題が生じている SQL クエリと，問題がどの時点で発生したかを特定できます。Siebel-Web 仮想ユーザでは Siebel DB 診断がサポートされています。

Siebel/Siebel DB 診断モジュールを事前に設定する方法の詳細については，「Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法」(250ページ)を参照してください。

Oracle 11i 診断の概要

Oracle 11i 診断では，Oracle NCA システム上のパフォーマンスの問題を特定できます。診断情報は，トランザクションから SQL ステートメントおよび各ステートメントの SQL ステージまでドリルダウンできます。Oracle NCA 仮想ユーザでは Oracle 11i 診断がサポートされています。

Oracle 11i 診断モジュールを事前に設定する方法の詳細については，「Oracle 11i 診断を事前に設定する方法」(254ページ)を参照してください。

SAP 診断の概要

SAP 診断では，特定の問題(たとえば DBA，ネットワーク，WAS，アプリケーション，OS/HW) の根本原因をすばやく簡単に特定できます。また問題を該当する専門家に限定して通知し，チームのメンバ全員に示す必要はありません。

SAP 診断モジュールの設定方法の詳細については，「SAP 診断を事前に設定する方法」(255ページ)を参照してください。

サーバ側のデータ収集: SAP 診断は SAP Distributed Statistical Records(DSR) に基づいています。アプリケーション・サーバで実行されるダイアログ・ステップごとに統計レコードが生成されます。レコードには，応答時間コンポーネント，データベースの統計情報，RFC 時間などの情報が含まれます。Diagnostics メディエータは，パフォーマンス・テスト中にサーバからの診断データの収集を担当します。

仮想ユーザの色分け: SAP 診断では，SAPGUI プロトコルを再生できます。[設定] ダイアログで色分けされる仮想ユーザのパーセントを設定します(最大 100%)。SAPGUI ユーザの色分けによるアプリケーション・サーバのオーバーヘッドは発生しません。

ERP/CRM メディエータの追加方法

このタスクでは，J2EE/.NET 診断と ERP/CRM 診断を使用するために，Diagnostic サーバと Diagnostic メディエータを追加する方法について説明します。

> **注**: このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

1. **前提条件**

   メディエータが監視対象サーバと同じ LAN にインストールされていることを確認します。ERP/CRM メディエータのインストールの詳細については,『HP LoadRunner インストール・ガイド』を参照してください。

2. **メディエータの追加と設定**

   a. ラボ管理サイドバーで, **Performance Center**の下の[**診断**]を選択します。

   b. [**ERP/CRM 診断**]タブを選択します。

   c. [**新規 Diagnostics メディエータ**]ボタン をクリックし, 必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については,「診断モジュールのフィールド」(259ページ)を参照してください。

HP Diagnostics サーバの追加方法

このタスクでは, HP Diagnostics サーバを追加して J2EE/.NET 環境を監視, 分析できるようにする方法について説明します。

> **注:** このタスクは, 上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

1. ラボ管理サイドバーで, **Performance Center**の下の[**診断**]を選択します。
2. [**J2EE/.NET 診断**]タブを選択します。
3. [**新規 Diagnostics サーバ**]ボタンをクリックし, 必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については,「診断モジュールのフィールド」(259ページ)を参照してください。
4. [**ラボ設定**]で, [**プロジェクト設定**]を選択します。該当するプロジェクトを右クリックし, [**プロジェクト設定の詳細**]を選択します。[**Diagnostics サーバ**]フィールドで該当するサーバ情報を追加します。

> **注:** 診断データをオンラインで利用できるようにするには, Diagnostics サーバの時刻がプローブと同期されていることを確認してください。

Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法

このタスクでは, パフォーマンス・テスト担当者が Siebel 診断を有効にし, 実行できるようになる, ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

> **注:** このタスクは, 上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(251ページ)
- 「リモート・シェル(RSH/RCP)接続を使用してUNIXサーバに接続している場合」(251ページ)
- 「診断を有効にするサーバ・マシンの設定」(251ページ)
- 「Siebel アプリケーション・サーバからメディエータへのファイルのコピー」(252ページ)
- 「時間の同期」(253ページ)
- 「(Siebel DB) Siebel サーバでのログの有効化」(253ページ)

1. **前提条件**

   ERP/CRM メディエータがインストールされ，設定されていることを確認します。詳細については，「ERP/CRM メディエータの追加方法」(249ページ)を参照してください。

2. **リモート・シェル(RSH/RCP)接続を使用してUNIXサーバに接続している場合**

   - RSH とRCP デーモンが UNIX サーバ上で実行されていることを確認します。
   - UNIX ユーザにリモート・シェル・コマンドを実行する権限があることを確認します。これをチェックするには，DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

     ```
     rsh <rsh サーバ・マシン名> -l <UNIX ユーザのログイン名> -n <コマンド>
     ```

     例:
     ```
     rsh my_unix -l my_name -n "cd ~;pwd"
     ```

     注: DOS コマンド・プロンプト・ウィンドウから動作する RSH コマンドのみ使用できます。

   - RSH コマンドの実行後に出力が生成されないことを確認します。

     注: .login，**.profile**，**.cshrc** の各ファイルから出力を生成しないでください(たとえば，**echo** による出力や，**biff** などによる間接的な出力も不可です)。既存のユーザの RSH ステップが出力を生成する場合，そのステップを削除できないのであれば，出力が生成されない新しいユーザを作成し，そのユーザにサーバ・マシンで RSH コマンドおよび RCP コマンドを実行する権限を与えます。

3. **診断を有効にするサーバ・マシンの設定**

   診断データを収集するように Siebel アプリケーション・サーバと Web サーバを設定するには，次の手順を実行します。

   a. **テストの対象となるすべての Siebel アプリケーション・サーバおよび Web サーバで，Siebel 診断を有効にします。**

      Siebel サーバの環境変数を次のように設定します。

      ```
      SIEBEL_SarmEnabled=true
      ```

次に，サーバを再起動します。

b. **サーバのパフォーマンス設定を最適化します。**

次の変数を使用して，メモリ・キャッシュやファイル・サイズの最大値を変更できます。

```
SIEBEL_SarmMaxMemory= <バイト数> SIEBEL_SarmMaxFileSize = <バイト数>
```

SIEBEL_SarmMaxMemory の値は，情報を Siebel ログ・ファイルに書き込む前に Siebel がメモリ内に保持するバッファのサイズを制御します。このパラメータ値を増やすことで，サーバのパフォーマンスを向上できます。ただし，実行の最後に得られる情報は，Analysis グラフには表示されません。

次の設定をお勧めします。

- **SIEBEL_SarmMaxMemory**

値	仮想ユーザ数
5000	20 未満 (低い負荷の場合)
1000000	100 超 (高い負荷の場合)

- **SIEBEL_SarmMaxFileSize**

値	仮想ユーザ数
5000000	20 未満 (低い負荷の場合)
25000000	100 超 (高い負荷の場合)

サーバで Siebel ログ・ファイルが生成される頻度が 10 秒ごとに 2 つ以上の場合，**SIEBEL_SarmMaxFileSize** の値を増やす必要があります。

c. **Siebel サーバ ID のリストを生成します。**

Siebel サーバでコマンド・ウィンドウを開き，次のコマンドを実行します。

```
<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /u <ユーザ名> /p <パスワード> /g <ゲートウェイ・サーバ>
/e <Enterprise サーバ> /c "list servers show SBLSRVR_NAME, SV_SRVRID"
```

ここで:

/u <ユーザ名>: サーバ管理者のユーザ名

/p <パスワード>: サーバ管理者のパスワード

/g <ゲートウェイ・サーバ>: ゲートウェイ・サーバのアドレス

/e <Enterprise サーバ>: Enterprise サーバ名

/c <コマンド>: 単一のコマンドを実行

このコマンドにより，すべての Siebel アプリケーション・サーバおよび ID のリストが生成されます。この情報は [Siebel サーバ設定] ダイアログ・ボックスで必要となるため，サーバ ID を記録しておいてください。

4. **Siebel アプリケーション・サーバからメディエータへのファイルのコピー**

アプリケーション・サーバを設定したら，次に示すファイルを Siebel アプリケーション・サーバの **\bin** ディレクトリから，`<メディエータのルート>\bin` ディレクトリ，`<Windows>\System32` ディレクトリ，またはメディエータ・マシンの `PATH` に含まれる他の任意のディレクトリにコピーします。

Siebel 7.53 の場合，次のファイルをコピーします。

• sarmanalyzer.exe • sslcver.dll • sslcsym.dll	• sslcshar.dll • sslcosa.dll

Siebel 7.7 の場合，次のファイルをコピーします。

• sarmanalyzer.exe • libarm.dll • msvcp70.dll • msvcr70.dll • sslcacln.dll • sslccore.dll • sslcevt.dll • sslcos.dll	• sslcosa.dll • sslcosd.dll • sslcrsa.dll • sslcscr.dll • sslcshar.dll • sslcsrd.dll • sslcsym.dll • sslcver.dll

5. **時間の同期**
   - **Windows Siebel サーバの場合**：Siebel システム内のすべてのマシンの時間が同期されていることを確認します。これによって，SQL とトランザクションの相関が正しいことが確認されます。

     Load Generator から次のコマンドを実行して，Siebel Gateway と Load Generator の時間を同期します。

     ```
     net time \ <Gateway 名> /set /y
     ```

     <Gateway 名> は，Siebel Gateway の名前で置き換えます。
   - **Unix Siebel サーバの場合**：Siebel システム内のすべてのマシンの時間が同期されていることを確認します。これによって，SQL とトランザクションの相関が正しいことが確認されます。

     UNIX システムでは，次のいずれかの方法で時間を同期させることができます。
     - UNIX Siebel Gateway サーバで **date** コマンドを使用して時間を手動で変更して，Load Generator の時間と同期するようにします。
     - Load Generator で時間を変更して，UNIX Siebel Gateway サーバと同期するようにします。
     - Analysis で時間差を設定します。詳細については，『HP LoadRunner Analysis ユーザーズ・ガイド』の Siebel DB 診断グラフに関する章を参照してください。

6. **(Siebel DB) Siebel サーバでのログの有効化**

タスクの詳細については,「Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法」(255ページ)を参照してください。

Oracle 11i 診断を事前に設定する方法

このタスクでは, パフォーマンス・テスト担当者が Oracle 11i diagnostics を有効にし, 実行できるようになる, ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

> **注:** このタスクは, 上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(254ページ)
- 「リモート・シェル(RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続する前の考慮事項」(254ページ)
- 「Oracle サーバでのログの有効化」(255ページ)
- 「Oracle サーバの診断パスワードの設定または無効化 - オプション」(255ページ)

1. **前提条件**

   ERP/CRM メディエータがインストールされ, 設定されていることを確認します。詳細については,「ERP/CRM メディエータの追加方法」(249ページ)を参照してください。

2. **リモート・シェル(RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続する前の考慮事項**

   - RSH と RCP デーモンが UNIX サーバ上で実行されていることを確認します。
   - UNIX ユーザにリモート・シェル・コマンドを実行する権限があることを確認します。これをチェックするには, DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

     ```
     rsh <rsh サーバ・マシン名> -l <UNIX ユーザのログイン名> -n <コマンド>
     ```

     > **例:**
     > ```
     > rsh my_unix -l my_name -n "cd ~;pwd"
     > ```

     > **注:** DOS コマンド・プロンプト・ウィンドウから動作する RSH コマンドのみ使用できます。

   - RSH コマンドの実行後に出力が生成されないことを確認します。

     > **注: .login**, **.profile**, **.cshrc** の各ファイルから出力を生成しないでください(たとえば, **echo** による出力や, **biff** などによる間接的な出力も不可です) 。既存のユーザの RSH ステップが出力を生成する場合, そのステップを削除できないのであれば, 出力が生成されない新しいユーザを作成し, そのユーザにサーバ・マ

> シンで RSH コマンドおよび RCP コマンドを実行する権限を与えます。

3. **Oracle サーバでのログの有効化**

   タスクの詳細については,「Oracle サーバのログを有効にする方法」(257ページ)を参照してください。

4. **Oracle サーバの診断パスワードの設定または無効化 - オプション**

   ALM が Oracle サーバの診断パスワードを扱えるようにするには, 仮想ユーザ・スクリプトでパスワードを設定するか, サーバ自体でパスワード要求を無効にできます。タスクの詳細については,「Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする方法」(258ページ)を参照してください。

SAP 診断を事前に設定する方法

このタスクでは, パフォーマンス・テスト担当者が SAP 診断を有効にし, 実行できるようになる, ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

> **注:** このタスクは, 上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

ERP/CRM メディエータのインストール

ERP/CRM メディエータがインストールされ, 設定されていることを確認します。詳細については,「ERP/CRM メディエータの追加方法」(249ページ)を参照してください。

> **注:** SAP 診断を使用する場合, SAPGUI クライアントが ERP/CRM メディエータと同じマシンにインストールされていることを確認します。

Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法

このタスクでは, Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法について説明します。

> **注:**
> - このタスクは, 上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。
> - Siebel サーバでログを有効にすると, サーバのパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。ログを無効にして, パフォーマンス・テストの完了後にログの標準設定を復元することをお勧めします。

Siebel サーバのログを有効にするには

次の手順を実行します。

1. コマンド・ウィンドウを開き，次のコマンドを実行します。

   <Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /g <ゲートウェイ・サーバ> /s <Siebel サーバ> /e <Enterprise サーバ名> /u <ユーザ名> /p <パスワード>

   ここで:

   /u <ユーザ名>: サーバ管理者のユーザ名

   /p <パスワード>: サーバ管理者のパスワード

   /g <ゲートウェイ・サーバ>: ゲートウェイ・サーバのアドレス

   /e <Enterprise サーバ>: Enterprise サーバ名

   /s <Siebel サーバ>: Siebel サーバ(標準設定のサーバ)

2. 次のコマンドを入力します。

   ```
   change evtloglvl ObjMgrsqllog=4 for comp <コンポーネント名>

   evtloglvl EventContext=3 for comp <コンポーネント名>

   evtloglvl ObjMgrSessionInfo =3 for comp <コンポーネント名>
   ```

   例:

   Call Center コンポーネントの場合，コンポーネント名として **sccobjmgr_enu** を入力します。

   ```
   change evtloglvl ObjMgrsqllog=4 for comp sccobjmgr_enu
   ```

Siebel サーバのログを無効にするには

次の手順を実行します。

1. コマンド・ウィンドウを開き，次のコマンドを実行します。

   <Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /g <ゲートウェイ・サーバ> /s <Siebel サーバ> /e <Enterprise サーバ名> /u <ユーザ名> /p <パスワード>

   ここで:

   /u <ユーザ名>: サーバ管理者のユーザ名

   /p <パスワード>: サーバ管理者のパスワード

   /g <ゲートウェイ・サーバ>: ゲートウェイ・サーバのアドレス

   /e <Enterprise サーバ>: Enterprise サーバ名

   /s <Siebel サーバ>: Siebel サーバ名(標準設定のサーバ)

2. 次のコマンドを入力します。

   ```
   change evtloglvl ObjMgrsqllog=0 for comp <コンポーネント名>

   change evtloglvl EventContext=0 for comp <コンポーネント名>

   change evtloglvl ObjMgrSessionInfo =0 for comp <コンポーネント名>
   ```

Oracle サーバのログを有効にする方法

このタスクでは，Oracle サーバでログを有効にする方法について説明します。

> **注:** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「トレース診断が有効であることの確認」(257ページ)
- 「トレース・ファイルのサイズの無制限への設定」(257ページ)

1. **トレース診断が有効であることの確認**

   次の手順を実行します。

   a. 管理者権限を持つユーザとして Oracle アプリケーション・サーバにログオンし，Oracle アプリケーションに使用するモジュールを選択します。[Responsibilities] ダイアログ・ボックスが開きます。

   b. [**System Administrator**] を選択し，[**OK**] をクリックします。

   c. [**Functions**] タブで，[**Profile**] > [**System**] を選択し，[**Open**] をクリックします。[System Profile Values] ダイアログ・ボックスが開きます。

   d. [**Display**] セクションで [**Site**] および [**Profiles with No Values**] を選択し，[**Profiles**] フィールドに `%Diagnostics%` と入力して，[**Find**] をクリックします。

   e. 診断プロファイルが無効になっている場合は ([**Site**] カラムに「Yes」と表示される)，設定を「No」に変更します。

   f. 設定を保存します。

2. **トレース・ファイルのサイズの無制限への設定**

   Oracle 9i の場合:

   Oracle サーバで，SQL エディタを使用して次のコマンドを実行します。

   ```
   Alter system set max_dump_file_size=UNLIMITED scope=both;
   ```

   Oracle 8i の場合:

   a. Oracle サーバで，SQL エディタを使用して次のコマンドを実行します。

   ```
   Alter system set max_dump_file_size=2048000;
   ```

   b. **$ORACLE_HOME\admin\ <sid> \pfile\init <sid>.ora** の **init*.ora** ファイルを編集します。パラメータの行を検索して値を変更し，ファイルを保存します。

   > **注:** トレース・ファイルは非常に大きくなる可能性があるため，データベース・サーバ上に十分なディスク領域があることを確認してください。

Oracle サーバの診断パスワードを設定，無効にする方法

ALM が Oracle サーバの診断パスワードを扱えるようにするには，仮想ユーザ・スクリプトでパスワードを設定するか，サーバ自体でパスワード要求を無効にできます。

> **注:** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

- 「仮想ユーザ・スクリプトでの診断パスワードの設定」(258ページ)
- 「Oracle サーバでの診断パスワード要求の無効化」(258ページ)

仮想ユーザ・スクリプトでの診断パスワードの設定

VuGen で，スクリプトに **nca_set_diagnostics_password(<パスワード>)** 関数を追加し，パスワードを選択します。

> **注: nca_set_diagnostics_password** 関数は，**nca_connect_server** 関数よりも後の位置に追加する必要があります。

Oracle サーバでの診断パスワード要求の無効化

次の手順を実行します。

1. 管理者権限を持つユーザとして Oracle サーバにログオンし，Oracle アプリケーションに使用するモジュールを選択します。[Responsibilities] ダイアログ・ボックスが開きます。
2. [**System Administrator**] を選択し，[**OK**] をクリックします。
3. [**Functions**] タブで，[**Profile**] > [**System**] を選択し，[**Open**] をクリックします。[System Profile Values] ダイアログ・ボックスが開きます。
4. [**Display**] セクションで [**User**] を選択し，必要なユーザ名を入力します。[**Profile**] フィールドに `%Utilities:Diagnostics%` と入力し，[**Find**] をクリックします。Utilities:Diagnostics プロファイルの値が表示されます。
5. Utilities:Diagnostics プロファイルの [**User**] カラムの値を「**Yes**」に設定します。
6. 設定を保存します。

診断のユーザ・インタフェース

本項の内容

- 診断モジュール・ウィンドウ 259
- 診断モジュールのフィールド 259
- 診断モジュールのメニューとボタン 261

診断モジュール・ウィンドウ

診断モジュールのウィンドウを使用すると，ERP/CRM メディエータと J2EE/.NET サーバを追加，管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで，**Performance Center**の下の[**診断**]を選択します。
関連タスク	• 「ERP/CRM メディエータの追加方法」(249ページ) • 「HP Diagnostics サーバの追加方法」(250ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ALM の共通領域>	ALM の共通領域の詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<診断モジュールのフィールド>	診断モジュールで利用できるフィールドの詳細については，「診断モジュールのフィールド」(259ページ)を参照してください。
<診断モジュールのメニューとボタン>	診断モジュールで利用できるアイコンの詳細については，「診断モジュールのメニューとボタン」(261ページ)を参照してください。
[ERP/CRM 診断]タブ	ERP/CRM 診断メディエータを追加，管理できます。
[J2EE/.NET 診断]タブ	J2EE/.NET 診断サーバを追加，管理できます。
[履歴]タブ	変更日時，変更者の名前を含め，選択したサーバ/メディエータに加えられた変更の履歴が表示されます。 詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

診断モジュールのフィールド

本項では，診断モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	メディエータ/サーバの説明。

フィールド	説明
SSL の有効化	ALM が SSL 経由で Diagnostics と通信している場合，［**有効化**］を選択します。
論理名	メディエータ/サーバに与えられている論理名。
コンピュータ名/IP	メディエータ/サーバの名前または IP アドレス。
ファイアウォール越し	ファイアウォール越しの監視が有効かどうかを指定します。有効にする場合は，［**Y**］を選択し，無効にする場合は，［**N**］を選択します。 **注:** ERP/CRM 診断でのみ利用可能です。
パスワード	HP Diagnostics へのログオンに使用するパスワードを入力します。 **標準設定値**: Admin **注:** J2EE/.NET 診断でのみ利用可能です。
ポート	Diagnostics サーバが使用するポート番号を入力します。 **標準設定値**: 2006 **注:** J2EE/.NET 診断でのみ利用可能です。
タイプ	ERP/CRM メディエータのタイプ。 **注:** ERP/CRM 診断でのみ利用可能です。
ユーザ名	HP Diagnostics にログインするユーザ名を入力します。 **注:** 指定するユーザ名には，［**表示**］，［**変更**］，［**実行**］の各権限がある必要があります。ユーザ権限の詳細については，『HP Diagnostics インストールおよび設定ガイド』を参照してください。

診断モジュールのメニューとボタン

本項では，診断モジュールのメニューとボタンについて説明します。

UI要素	メニュー	説明
	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバ/メディエータを削除します。
サーバ/メディエータの確認	[Diagnostics サーバ/メディエータ]と<右クリック・メニュー>	クリックして，サーバ/メディエータが起動され，実行中であるかどうかをチェックします。
URLのコピー	Diagnostics サーバ/メディエータ	選択したサーバ/メディエータをコピーして，そのURLをリンクとして貼り付けます。サーバ/メディエータ自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックするとALMが開き，サーバ/メディエータに移動します。ログインしていない場合，ALMによって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
Diagnostics サーバ/メディエータ詳細	[Diagnostics サーバ/メディエータ]と<右クリック・メニュー>	クリックすると，サーバ/メディエータの詳細が表示されます。
エクスポート	[Diagnostics サーバ/メディエータ]と<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのサーバ/メディエータをテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTMLドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**：グリッドのすべてのサーバ/メディエータをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**：グリッド内で選択したサーバ/メディエータをエクスポートします。

UI要素	メニュー	説明
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでフィールドの詳細を検索できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
Diagnostics サーバ/メディエータに移動	Diagnostics サーバ/メディエータ	サーバ/メディエータ ID の入力を要求するダイアログ・ボックスが開きます。[**OK**]をクリックすると，サーバ/メディエータの詳細ウィンドウが開きます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規 Diagnostics サーバ/メディエータ	Diagnostics サーバ/メディエータ	クリックして，新しい ERP/CRM メディエータまたは J2EE/.NET サーバを追加します。関連するフィールドの詳細については，「診断モジュールのフィールド」(259ページ)を参照してください。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き，グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 診断のフィールドの詳細については，「診断モジュールのフィールド」(259ページ)を参照してください。

UI要素	メニュー	説明
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば,ツールバーの下に表示されます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	[編集]と<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第13章: パッチ管理

本章の内容

- パッチの概要 265
- パッチのALMへのアップロード方法 265
- パッチ管理のユーザ・インタフェース 265

パッチの概要

パッチ・モジュールでは，Performance Center パッチを ラボ管理 にアップロードし，該当するホストまたはサーバにインストールできます。

パッチの ALM へのアップロード方法

このタスクでは，パッチを ALM にアップロードする方法について説明します。

> **注:** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)を参照してください。

パッチをアップロードするには，次の手順を実行します。

1. ラボ管理サイドバーで，**Performance Center** の下の[**パッチ**]を選択します。
2. [**新規パッチ**]ボタン をクリックします。[パッチの選択]ダイアログ・ボックスが開き，アップロードするパッチ(.msp/.msi) を選択できます。
3. [**開く**]をクリックします。[新規パッチ]ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 新しいパッチの詳細を入力し，[**OK**]をクリックします。パッチがシステムに追加され，パッチ・グリッドに表示されます。

パッチ管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

- パッチ・モジュール・ウィンドウ 266
- パッチ・モジュールのフィールド 266
- パッチ・モジュールのメニューとボタン 267
- [パッチの詳細]ダイアログ・ボックス 269
- [新規パッチ]ダイアログ・ボックス 270

パッチ・モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると，パッチを表示，アップロードできます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで，**Performance Center** の下の[**パッチ**]を選択します。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード方法」(265ページ)
参照情報	• 「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ) • 「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<情報パネル>	モジュールの下部領域にあります。グリッド内で選択されたパッチに関する説明を表示します。
<パッチ・グリッド>	ALM Performance Center にアップロードされたパッチのリストを表示します。
<パッチ・モジュールの共通の UI 要素>	• **パッチ・モジュールのフィールド**:フィールドの定義については，「パッチ・モジュールのフィールド」(266ページ)を参照してください。 • **パッチ・モジュールのメニューとボタン**:コマンドとボタンの説明については，「パッチ・モジュールのメニューとボタン」(267ページ)を参照してください。 • **ALM メイン・メニューとサイドバー**:[**ツール**]メニュー，[**ヘルプ**]メニュー，サイドバーの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

パッチ・モジュールのフィールド

本項では，パッチ・モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	選択したパッチの説明を表示します。
ID	パッチ ID。
名前	パッチ名。
パス	パッチのパス。

パッチ・モジュールのメニューとボタン

本項では，パッチ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで，**Performance Center** の下の[**パッチ**]を選択します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー	[パッチ]と<右クリック・メニュー>	選択したパッチをコピーし，その URL をリンクとして貼り付けます。パッチ自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し，パッチ・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
エクスポート	[パッチ]と<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのパッチをテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**：グリッドのすべてのプロジェクト設定をエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**：グリッドの選択したプロジェクト設定をエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでパッチを検索できます。検索オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
パッチに移動	パッチ	[パッチに移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID 番号で特定のパッチを検索できます。現在のフィルタに含まれるパッチにのみ移動できます。

UI要素	場所	説明
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規パッチ	パッチ	[パッチの選択]ダイアログ・ボックスが開き,アップロードするパッチを選択できます。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き,プロパティを変更するか,ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
パッチの詳細	[パッチ]と<右クリック・メニュー>	[パッチの詳細]ダイアログ・ボックスが開き,選択したパッチの詳細を表示,編集できます。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように,グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	プロジェクトの詳細のグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き,グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き,グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 パッチのフィールドの詳細については,「パッチ・モジュールのフィールド」(266ページ)を参照してください。

UI要素	場所	説明
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のパッチに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	［編集］と<右クリック・メニュー>	［選択項目の更新］ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

［パッチの詳細］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，ラボ管理 のパッチの詳細を表示できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで，**Performance Center** の下の［**パッチ**］を選択します。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード方法」(265ページ)
参照情報	• 「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ) • 「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：プロジェクトのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。

UI要素	説明
詳細	フィールドの定義については，「パッチ・モジュールのフィールド」(266ページ)を参照してください。

[新規パッチ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，Performance Center の新しいパッチを追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーで，**Performance Center** の下の[**パッチ**]を選択します。 2. [**新規パッチ**]ボタンをクリックします。[パッチの選択]ダイアログ・ボックスが開きます。 3. パッチの場所に移動し，[**開く**]をクリックします。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード方法」(265ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	すべてのフィールドをクリア：ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
詳細	パッチのフィールドがリストされます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「パッチ・モジュールのフィールド」(266ページ)を参照してください。 **ヒント**：このページの[**説明**]フィールドをクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。

UI要素	説明
名前	新しいパッチに付ける名前を入力します。 **構文の例外**: サーバ名には，次の文字は使用できません。**\ / : " ? < > | * % '**

第 14章 : AUT ホストの管理

本章の内容

- AUT リソースの概要 273
- Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法 273
- AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース 278

AUTリソースの概要

テスト対象アプリケーション(AUT)のコンポーネント(Webサーバ/アプリケーション・サーバやデータベース・サーバなど)は，AUTホストと呼ばれるマシンでホストされます。AUTホストをグループ化したものが，**AUTプール**です。

AUTホストは，トポロジとSiteScopeの統合機能の核となる要素です。

ExcelからAUTホスト・データをインポートする方法

このタスクでは，AUTホストのリストをExcelファイル(.xlsまたは.csv)からALMにインポートする方法について説明します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(273ページ)
- 「AUTホストのインポート(Performance Centerユーザのみ)」(276ページ)
- 「結果」(277ページ)

1. **前提条件**

   Excelファイルは，インポート機能によってそのカラムを認識，マップできるように設定する必要があります。

   - Excelファイルの最初の行には，次の表に表示されるフィールド名または対応する論理名が含まれている必要があります。(日付文字列は，大文字と小文字が区別されません。)

     フィールドの中には，必須のフィールド，あるいは必要または任意指定のフィールドがあります。

     - **必須**は，Excelファイルに**必ずなければならない**フィールドを示します。このフィールドを省略すると，インポートは失敗します。このフィールドのカラムのいずれかの行で値を省略すると，その特定の行のインポートが失敗します。
     - **必要**は，Excelファイルに**ある必要がある**フィールドを示します。このフィールドを省略すると，コードによってすべての行に標準設定値が入ったフィールドが追加されます。フィールドを指定しても，このカラムのいずれかの行で値を省略すると，コードによってその行に標準設定値が追加されます。
     - **任意指定**は，Excelファイルにある必要がないフィールドを示します。このフィールドを省略しても，インポート手順に影響はありません。
   - 仮想，参照，無効なフィールドを表すフィールドは無視されます。
   - 空のカラムは許可されます。

   次のようにファイル内のカラムと値を設定します。

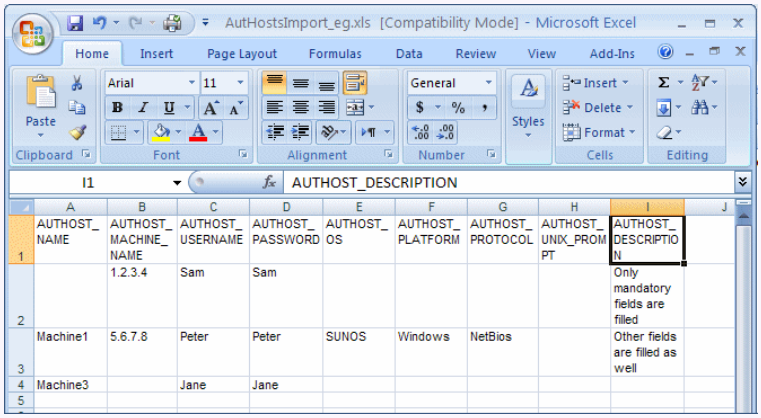
フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_NAME 必要	論理名	任意の文字列	AUTホストの論理名 **注**: この値が空の場合, AUTHOST_MACHINE_NAMEと同じ値が設定されます
AUTHOST_MACHINE_NAME 必須	コンピュータ名/IP	マシン名/IP	AUTホストの物理マシン名
AUTHOST_USERNAME 必須	ユーザ名	マシンのユーザ名	AUTホスト・マシンにログオンするためのユーザ名
AUTHOST_PASSWORD 必須	パスワード	ユーザ名のパスワード	AUTホスト・マシンにログオンするためのパスワード

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_OS UNIXプラットフォームに対してのみ必要	OSタイプ	• SUNOS(標準設定) • Sun Solaris • MacOSX • Linux • Red Hat Enterprise Linux • AIX • FreeBSD • HP-UX • HP/UX • HP/UX 64-bit • NonStopOS • OPENSERVER • SCO • SGI Irix • Tru64 5.x • Tru64 pre 4.x (Digital)	AUTホスト・マシンのオペレーティング・システム (UNIXプラットフォームに対してのみ)
AUTHOST_PLATFORM 必要	プラットフォーム	• Windows(標準設定) • UNIX	AUTホスト・プラットフォーム

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_PROTOCOL 必要	プロトコル	Windows: • NetBIOS(標準設定) • SSH • WMI UNIX: • rlogin • Telnet(標準設定) • SSH	AUTホスト・プロトコル
AUTHOST_UNIX_PROMPT UNIXプラットフォームに対してのみ必要	UNIXプロンプト	#(標準設定)	AUTホスト・マシン上のUNIXプロンプト
AUTHOST_DESCRIPTION 任意指定	説明	任意の文字列	AUTホストの説明

例:

次の図は, 2台のAUTホスト(**1.2.3.4**, **5.6.7.8**)と名前が提供されていない3番目のマシンによるExcelファイルの設定を示しています。



2. **AUTホストのインポート(Performance Centerユーザのみ)**

a. 次のようにAUTホスト・モジュールを開きます。
   - **ALMの場合**：ALMサイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTホスト**]を選択します。
   - **ラボ管理の場合**：ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTホスト**]を選択します。

b. [**AUTホスト**]＞[**インポート**]を選択します。

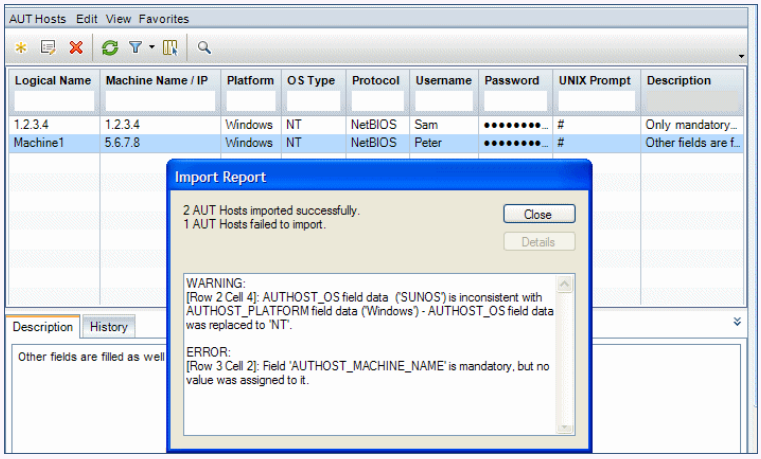
c. AUTホストを含むExcelファイルを参照し，[**開く**]をクリックします。

3. **結果**

インポート・プロセスの進行状況が表示されます。プロセスの最後に，レポートにインポート結果が表示されます。インポートされたAUTホストがAUTホスト・モジュールにリストされます。正常にインポートされなかったAUTホストは，手動で追加する必要があります。

例：

上記の手順 **1** でのExcelファイルのインポート結果を，次の図に示します。



注：

- Excelファイルには，マシン1.2.3.4の論理名が入力されていなかったため，マシン名/IPと同じ論理名が与えられています。
- マシン1のオペレーティング・システムはSUNOSと指定されていましたが，プラットフォームはWindowsと指定されていました。SUNOSはUNIXプラットフォームにのみ関連するため，これらの値は整合性を欠いています。このため，値SUNOSはNTで置き換えられました。
- Excelファイルにリストされていた3番目のマシンには，マシン名が指定されていませんでした。このマシンはインポートされませんでした。手動で追加する必要があります。

- 必要であるが，必須ではない値は，インポート・プロセス中にシステムによって自動的に入力されています。
- 仮想，参照，無効なフィールドを表すカラムは無視されます。

AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

- AUT ホスト・モジュール 279
- AUT ホストのフィールド 280
- [新規 AUT ホスト] ダイアログ・ボックス 281
- [AUT ホストの詳細] ダイアログ・ボックス 282
- AUT プール・モジュール 283
- [リンクされたホスト] ページ 284
- [AUT ホストをプールに追加] ダイアログ・ボックス 285
- AUT プールのフィールド 287
- [新規 AUT ホスト プール] ダイアログ・ボックス 287
- [AUT ホスト プール詳細] ダイアログ・ボックス 288
- AUT リソース・モジュールのメニューとボタン 289

AUTホスト・モジュール

このモジュールを使用すると，AUTホストを表示，管理できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTホスト**]を選択します。 • ALMサイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTホスト**]を選択します。
重要な情報	AUTホスト・モジュールは，ラボ管理とALMの両方で利用できます。
参照情報	「AUTリソースの概要」(273ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<共通のメニューとツールバー>	AUTリソース・モジュールのメニューとツールバーの詳細については，「AUTリソース・モジュールのメニューとボタン」(289ページ)を参照してください。
<AUTホスト・グリッド>	ALMで定義されているAUTホストのリストを表示します。
[説明]タブ	AUTホストに関する主な詳細と説明を表示します。 **ヒント**: 編集と形式のオプション用の[**説明**]領域を右クリックしてください。
[履歴]タブ	選択したAUTホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

AUTホストのフィールド

次の表に, AUTホストのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
所属プール	AUTホストが所属するホスト・プール。 **利用場所**:ラボ管理のみ
説明	AUTホストの説明。
論理名	AUTホストに与えられている論理名。
マシン名/IP	AUTホスト・マシンの名前またはIPアドレス。
更新日時	AUTホストの詳細情報が最後に変更された日付。
OSタイプ	AUTホスト・マシンのオペレーティング・システム。
パスワード	AUTホスト・マシンにログインするためのパスワード。
プラットフォーム	AUTホスト・マシンの基本オペレーティング・システム: Windowまたは UNIX。
プロトコル	AUTホストとの通信(監視目的)に使用されるネットワーク・プロトコル。 **標準設定値**:NetBIOS, WMI, SSH
UNIXプロンプト	オペレーティング・システムによって使用されるプロンプト。AUTホストとの通信(監視目的)にも使用されます。 **利用可能**:UNIXのAUTホストのみ。
ユーザ名	AUTホスト・マシンにログインするためのユーザ名。

［新規 AUT ホスト］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，新しいAUTホストを作成できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 **［ラボ管理］から：** 1. ラボ管理サイドバーの［**Performance Center**］で，［**AUT ホスト**］を選択します。 2. ［**新規 AUT ホスト**］をクリックします。 **ALM から：** 1. ALM サイドバーの［**Performance Center**］で，［**AUT ホスト**］を選択します。 2. ［**新規 AUT ホスト**］をクリックします。
重要な情報	ALM で AUT ホストを作成すると，AUT ホストが自動的にプロジェクトの AUT プールに追加されます。 **ヒント：** AUT ホストのリストを Excel ファイルからインポートできます。詳細については，「Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法」(273ページ)を参照してください。
参照情報	• 「AUT リソースの概要」(273ページ) • 『HP ALM Performance Center ガイド』

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア： データをクリアします。
	スペル・チェック： 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典： 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション： スペル・チェックの方法を設定できます。

UI要素	説明
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
マシン名/IP	AUTホスト・マシンの名前またはIP。
説明	新しいAUTホストの詳細情報を入力できます。詳細については，「AUTホストのフィールド」(280ページ)を参照してください。

[AUTホストの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，AUTホストの詳細を表示，変更できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTホスト**]を選択します。グリッドのAUTホストを右クリックし，[**AUTホストの詳細**]を選択します。 • ALMサイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTホスト**]を選択します。グリッドのAUTホストを右クリックし，[**AUTホストの詳細**]を選択します。
参照情報	「AUTリソースの概要」(273ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：AUTホストのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。

UI要素	説明
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b はacbとadefbを返し，a?b はacbを返します。
マシン名/IP	AUTホスト・マシンの名前またはIP。
詳細	選択したAUTホストの詳細情報を表示します。詳細については，「AUTホストのフィールド」(280ページ)を参照してください。
履歴	選択したAUTホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

AUTプール・モジュール

このモジュールを使用すると，AUTプールを表示，管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTプール**]を選択します。
関連タスク	AUTプール・モジュールは，ラボ管理でのみ利用できます。
参照情報	「AUTリソースの概要」(273ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<共通のメニューとツールバー>	AUTプール・モジュールのメニューとツールバーの詳細については，「AUTリソース・モジュールのメニューとボタン」(289ページ)を参照してください。
<AUTプールのグリッド>	システム内で定義されているAUTプールを表示します。
[説明]タブ	AUTプールに関する主な詳細と説明を表示します。 **ヒント**：編集と形式のオプション用の[**説明**]領域を右クリックしてください。

UI要素	説明
[リンクされたホスト]タブ	AUTホストを選択したプールに追加し，プールからホストを削除できます。詳細については，「[リンクされたホスト]ページ」(284ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	選択したAUTプールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[リンクされたホスト]ページ

このページを使用すると，AUTホストをAUTプールに追加し，AUT・プールからAUTホストを削除できます。

アクセス方法	• **AUTプール・モジュールからの場合**: ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTプール**]を選択します。情報パネルで，[**リンクされたホスト**]を選択します。 • **[AUTプール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合**: ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTプール**]を選択します。AUTプールを右クリックし，[**AUTプール詳細**]を選択します。[AUTプール詳細]ダイアログ・ボックスで，[**リンクされたホスト**]を選択します。 **注:** ラボ管理でのみ利用できます。
重要な情報	[リンクされたホスト]ページを使用すると，複数のAUTホストをAUTプールにリンクできます。 あるいは，AUTホストの詳細の[**所属プール**]フィールドから単一のAUTホストを複数のAUTプールにリンクできます。詳細については，「AUTホストのフィールド」(280ページ)を参照してください。
参照情報	「AUTリソースの概要」(273ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	AUTホストの詳細:[AUTホストの詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したリンクされているAUTホストの詳細情報を表示できます。詳細については，「AUTホストのフィールド」(280ページ)を参照してください。

UI要素	説明
	ホストをプールに追加：[AUTホストをプールに追加]が開き，AUTプールに追加するAUTホストを選択できます。
	ホストの削除：AUTプールから選択したAUTホストを削除します。
	ホストに移動：AUTホスト・モジュール内の選択したリンクされているAUTホストを表示します。
	すべて更新：最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定：グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索：[検索]ダイアログ・ボックスが開き，AUTホストを検索できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リンクされているホストのグリッド>	AUTプールに属しているAUTホストが一覧表示されます。ホストのフィールドの詳細については，「AUTホストのフィールド」(280ページ)を参照してください。

[AUTホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス

このページを使用すると，AUTプールに追加するAUTホストを選択できます。

アクセス方法	• **AUTプール・モジュールからの場合**: ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で,[**AUTプール**]を選択します。情報パネルで,[**リンクされたホスト**]を選択し,[**ホストをプールに追加**]ボタンをクリックします。 • **[AUTプール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合**: ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で,[**AUTプール**]を選択します。AUTプールを右クリックし,[**AUTプール詳細**]を選択します。[AUTプール詳細]ダイアログ・ボックスで,[**リンクされたホスト**]を選択し,[**ホストをプールに追加**]ボタンをクリックします。 **注:** ラボ管理でのみ利用できます。
重要な情報	あるいは,AUTホストの詳細の[**所属プール**]フィールドから単一のAUTホストを複数のAUTプールにリンクできます。詳細については,「AUTホストのフィールド」(280ページ)を参照してください。
参照情報	「AUTリソースの概要」(273ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は,山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	すべて更新:最新の情報が表示されるように,グリッドを更新します。
	カラムの選択:[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き,グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	フィルタ/ソートの設定:グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば,ツールバーの下に表示されます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
追加	選択したAUTホストをAUTプールに追加します。
<AUTホスト・グリッド>	AUTプールに追加できるAUTホストが一覧表示されます。
選択済み	プールに追加することを選択したAUTホストが表示されます。

AUTプールのフィールド

AUTプールには，次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
説明	AUTプールの説明。
更新日時	AUTプールの詳細情報が最後に変更された日付。
プールID	AUTプールのID。
プール名	AUTプールの名前。 **注:** この名前には，スペース，ピリオド，次のいずれかの文字を除き，最大128文字まで指定できます。 **: ; * \ / " ~ & ? { } $ % | < > + = ^ [ ] ( )**
ホストの総数	ホスト・プール内のAUTホストの合計数。

[新規AUTホスト プール]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，新しいAUTプールを作成できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTプール**]を選択します。[**新規 AUTホスト プール**]をクリックします。
参照情報	「AUTリソースの概要」(273ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。

UI要素	説明
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b はacbとadefbを返し，a?b はacbを返します。
プール名	AUTプールの名前。
詳細	新しいAUTプールの詳細情報を入力できます。詳細については，「AUTプールのフィールド」(287ページ)を参照してください。

[AUTホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，AUTプールの詳細を表示，変更できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTホスト**]を選択します。グリッドのAUTホストを右クリックし，[**AUTホストの詳細**]を選択します。
参照情報	「AUTリソースの概要」(273ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：AUTプールのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。

UI要素	説明
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b はacbとadefbを返し，a?b はacbを返します。
プール名	AUTプールの名前。
詳細	選択したAUTプールの詳細情報を表示します。詳細については，「AUTプールのフィールド」(287ページ)を参照してください。
リンクされたホスト	AUTホストを選択したプールに追加し，プールからホストを削除できます。詳細については，「[リンクされたホスト]ページ」(284ページ)を参照してください。
履歴	選択したAUTプールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

AUTリソース・モジュールのメニューとボタン

これらのモジュールを使用すると，テスト対象のアプリケーションをホストしているAUTリソースを管理できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **ラボ管理の場合**：ラボ管理サイドバーの[**Performance Center**]で，[**<AUTリソース>**]を選択します。 • **ALMの場合**：ALMサイドバーの[**Performance Center**]で，[**AUTホスト**]を選択します。 **注：**ラボ管理では，AUTホストとAUTプールの両方を定義できます。ALMでは，AUTホストのみ定義できます。
重要な情報	• AUTホストは，ラボ管理とALMの両方で管理できます。 • 管理者権限を持つユーザのみ，AUTプールを管理できます(ラボ管理で)。
参照情報	「AUTリソースの概要」(273ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	場所	説明
<AUTリソース>の詳細	<AUTリソース>と右クリック・メニュー	[<AUTリソース> 詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したAUTリソースの詳細情報を表示できます。
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URLのコピー	<AUTリソース>と<右クリック・メニュー>	選択したAUTリソースのURLをコピーして，リンクとして貼り付けます。電子メールやドキュメントなどの別の場所にURLを貼り付けることができます。リンクをクリックするとALMが起動し，リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合，ALMによって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したAUTリソースを削除します。
エクスポート	<AUTリソース>と<右クリック・メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き，AUTリソースを，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTMLドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**: グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**: グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索	ビュー	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでリソースを検索できます。検索オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<AUTリソース>に移動	<AUTリソース>	[<AUTリソース> に移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID番号で特定のリソースを検索できます。現在のフィルタ内のリソースにのみ移動できます。

UI要素	場所	説明
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
インポート	AUTホスト	AUTホストのリストをExcelファイル(.xlsまたは.csv)からALMにインポートできます。詳細については,「ExcelからAUTホスト・データをインポートする方法」(273ページ)を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規 <AUTリソース>	<AUTリソース>	AUTリソースを追加できます。 **注:** AUTプールの場合,ラボ管理でのみ利用できます。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き,プロパティを変更するか,ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	ビュー	最新の情報が表示されるように,グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	<AUTリソース> グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き,グリッドのリソースのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
カラムの選択	ビュー	［カラムの選択］ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 リソースのフィールドの詳細については，次を参照してください。 • 「AUT ホストのフィールド」(280ページ) • 「AUT プールのフィールド」(287ページ)
フィルタ/ソートの設定	ビュー	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	［編集］と<右クリック・メニュー>	［選択項目の更新］ダイアログ・ボックスが開き，<AUT リソース> グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第15章: プロジェクト管理

ラボ管理対応プロジェクトを作成した後，サイト管理でそのプロジェクトを管理します。ALMでのプロジェクトの管理の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ただし，サイト管理の管理タスクに加え，追加の手順を把握しておく必要がある特定のユースケースがあります。次に，それらのユースケースを示します。

プロジェクトのステージングから運用環境への移行

詳細については，「ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法 」(293ページ)を参照してください。

プロジェクトのコピーの作成

プロジェクトのコピーの作成方法の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理対応プロジェクトのコピーを作成する場合，次のことを認識しておく必要があります。

- 新しいプロジェクトでも，ラボ管理拡張が有効になっている必要があります。
- テスト実行の詳細情報は，**使用状況レポート**には表示されません。
- タイムスロットとプロジェクトの設定はコピーされません。
- 元のプロジェクトに関連付けられている結果ファイルはコピーされません。

ラボ管理プロジェクトのアーカイブ

ラボ管理対応プロジェクトのアーカイブとは，プロジェクトが置かれているサーバからプロジェクトをエクスポートまたは削除し，後でそのプロジェクトを同じサーバにインポートし戻すことです。

プロジェクトのエクスポート，インポート，アクセスの復元の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理対応プロジェクトをアーカイブする場合，次のことを認識しておく必要があります。

- 同じ PUID を持つプロジェクトが元のサーバに存在している場合，プロジェクトをそのサーバにインポートできません。
- プロジェクトへのアクセスを復元する場合，次のことを認識しておく必要があります。
  - テスト実行の詳細情報は，**使用状況レポート**には表示されません。
  - タイムスロットとプロジェクトの設定情報が失われます。

ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法

次のタスクでは，ラボ管理システムをステージングから運用環境へ正常に移行する方法について説明します。

> **注：** システムの移行の結果，運用環境で最初に作成され，ラボ管理に含まれていたすべての情報が失われます。

タスクは次の手順で構成されています。

- 「サイト管理のオープン」(294ページ)
- 「ラボ管理のステージングから運用環境への移行」(294ページ)
- 「運用環境でのラボ管理のアクティブ化」
- 「ALM ライセンスの更新」(294ページ)
- 「サーバおよびホストの更新」(294ページ)
- 「プロジェクトのステージング環境から運用環境への移行」(295ページ)
- 「運用環境でのプロジェクトのアクティブ化」(295ページ)
- 「運用環境でのラボ管理のプロジェクト設定 」(295ページ)

1. **サイト管理のオープン**

   詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2. **ラボ管理のステージングから運用環境への移行**

   a. ステージング環境で，サイト管理の[**ラボ管理**]タブを選択します。

   b. ステージングからラボ管理プロジェクトを削除し，運用環境に復元します。ラボ管理の削除と復元の詳細については，「[ラボ管理]タブ」(18ページ)を参照してください。

3. **運用環境でのラボ管理のアクティブ化**

   ラボ管理のアクティブ化の詳細については，「[ラボ管理]タブ」(18ページ)を参照してください。

4. **ALM ライセンスの更新**

   運用環境のラボ管理で，ALM ライセンスを更新します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

5. **サーバおよびホストの更新**

   > **注：** 運用環境のサーバとホストがステージング環境のものと異なる場合に，この手順を実行してください。

   ラボ管理で既存のサーバとホストを削除し，新しいサーバとホストで置き換えます。

   - Performance Center サーバを追加する方法の詳細については，「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)を参照してください。
   - ホストを追加する方法の詳細については，「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)を参照してください。

6. **プロジェクトのステージング環境から運用環境への移行**

   各プロジェクトをステージング環境から削除し，運用環境に復元します。プロジェクトの削除と復元の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

7. **運用環境でのプロジェクトのアクティブ化**

   プロジェクトのアクティブ化の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

8. **運用環境でのラボ管理のプロジェクト設定**

   運用環境に移行した各プロジェクトについて，この手順を実行します。プロジェクト設定の詳細については，「プロジェクト設定」(21ページ)を参照してください。

第16章: Performance Center サーバ

本章の内容

- Performance Center サーバの概要 297
- Performance Center サーバを管理する方法 297
- Performance Center サーバ・モジュールのユーザ・インタフェース 298

Performance Center サーバの概要

PC サーバ・モジュールでは，Performance Center の機能で必要な情報とリソースの管理を行います。PC サーバの新規作成，Performance Center サーバ・ステータスのモニタ，サーバ情報の編集，サーバ・パフォーマンスのチェックを実行できます。

Performance Center サーバの管理の詳細については，「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)を参照してください。

Performance Center サーバを管理する方法

このタスクでは，Performance Center サーバを管理するためのさまざまなオプションについて説明します。

> **注:** このタスクは，次の上位レベルのタスクの一環です。「ラボ管理の管理の使用方法」(14ページ)

Performance Center サーバの詳細については，「Performance Center サーバの概要」(297ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「サーバの追加」(297ページ)
- 「Performance Center server に対するサーバ接続のチェック」(297ページ)
- 「サーバの再起動」(298ページ)
- 「サーバへのパッチのインストール」(298ページ)

サーバの追加

1. ラボ管理で，[**サーバ**] > [**PC サーバ**]を選択します。
2. [**新規 PC サーバ**]ボタン をクリックします。
3. [新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックスで，必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックス」(306ページ)を参照してください。

Performance Center server に対するサーバ接続のチェック

ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]から[**PC サーバ**]を選択します。グリッド内のサーバを右クリックし，[**サーバの確認**] > [**サーバの確認**]を選択します。

タスク・マネージャが開き，サーバ上で実行された各チェックの結果全体，[**成功**]または[**失敗**]が表示されます。

サーバ・チェックの進行状況は，PC サーバ・モジュールの[**サーバのステータスの確認**]タブで確認できます。

次のチェックが実行されます。

- **サーバへの ping**: Performance Center サーバが選択したマシンへの ping を実行します。
- **Ping URL**: 選択したサーバがリストされている URL への ping を実行します。

あるいは，上記のチェックとともにサーバから特定の URL への追加の接続チェックを実行できます。グリッド内のサーバを右クリックし，[**サーバの確認**] > [**URL への接続性の確認**] を選択して，URL を入力します。

> **例:**
>
> - 通常の URL: `http://www.website.com`
> - マシン名 : `machine22` または `http://machine22`

サーバの再起動

ラボ管理サイドバーの [**サーバ**] で，[**PC サーバ**] を選択します。グリッド内の再起動するサーバを右クリックし，[**サーバの再起動**] を選択します。

サーバへのパッチのインストール

> **注:** サーバにパッチをインストールするには，最初にパッチを ALM にアップロードしておく必要があります。詳細については，「パッチの ALM へのアップロード方法」(265ページ) を参照してください。

ラボ管理サイドバーの [**サーバ**] で，[**PC サーバ**] を選択します。グリッド内のパッチをインストールするサーバを右クリックし，[**パッチのインストール**] を選択します。

> **ヒント:** パッチは，複数のサーバに同時にインストールできます。複数のサーバを選択するには，キーボードの CTRL キーを押しながらサーバを選択します。

Performance Center サーバ・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

- PC サーバ・モジュール・ウィンドウ 299
- PC サーバ・モジュールのメニューとボタン 300
- PC サーバ・モジュールのフィールド 303
- [PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックス 305
- [新規 PC サーバ] ダイアログ・ボックス 306
- [プロセス] ページ 307
- [サーバのステータスの確認] ページ 308

PC サーバ・モジュール・ウィンドウ

PC サーバ・モジュール・ウィンドウを使用すると，Performance Center サーバを管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**PC サーバ**]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<PC サーバ・モジュールの共通の UI 要素>	• **PC サーバのフィールド**:フィールドの定義については，「PC サーバ・モジュールのフィールド」(303ページ)を参照してください。 • **PC サーバのメニューとボタン**:コマンドとボタンの説明については，「PC サーバ・モジュールのメニューとボタン」(300ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**:詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<グリッド・フィルタ>	各カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合，現在カラムにはフィルタが適用されていません。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<サーバ・グリッド>	Performance Center サーバのリストを表示します。
<情報パネル>	モジュールの下部領域にあります。グリッド内で選択したサーバに関する情報を表示します。
[説明]タブ	現在選択されているサーバについての説明が表示されます。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

UI 要素	説明
[イベント ログ] タブ	選択したサーバで実行されているタスク，操作のステータス，エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については，「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」(178ページ)を参照してください。
[プロセス]タブ	選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については，「[プロセス] ページ」(307ページ)を参照してください。
[サーバのステータスの確認]タブ	サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。サーバの確認のステータスの詳細を表示するには，タブ内の行を右クリックし，[**サーバのステータスの確認の詳細**]を選択します。詳細については，「[サーバのステータスの確認] ページ」(308ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

PC サーバ・モジュールのメニューとボタン

本項では，PC サーバ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**PC サーバ**]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
ALM 接続	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	内部と外部の ALM URL を定義できます。 内部 URL は，すべての Performance Center コンポーネントが ALM への接続に使用します。 この URL は次の形式である必要があります。 `http://<alm>:<port>` **例**：`http://myalm:8080` **注**：SSL 接続では，ALM の内部 URL は，https で始まる必要があります。 例：https://myalm:443

UI 要素	メニュー	説明
サーバの再設定	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	選択したサーバのシステム情報をリセットします。たとえば，内部/外部 URL，ユーザ ID などです。
パッチのインストール	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	[パッチのインストール]ダイアログ・ボックスが開き，選択したサーバにインストールするパッチを選択できます。
サーバの確認	PC サーバ	選択したサーバとシステム内の他のマシン間の接続性をチェックします。
サーバの再起動	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	選択したサーバをリモートで再起動できます。
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー	PC サーバ	選択したサーバをコピーして，その URL をリンクとして貼り付けます。サーバ自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し，リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバを削除します。

UI 要素	メニュー	説明
エクスポート	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのサーバをテキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**: グリッドのすべてのサーバをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**: グリッド内で選択したサーバをエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き, モジュールでサーバを検索できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
PC サーバに移動	PC サーバ	[PC サーバに移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番号で特定のサーバを検索できます。現在のフィルタ内のサーバにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	表示	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	表示	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規 PC サーバ	PC サーバ	PC サーバを追加できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには, 次の手順で行います。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
PC サーバの詳細	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したサーバの詳細が表示されます。詳細については,「[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックス」(305ページ)を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	PC サーバのグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 PC サーバのフィールドの詳細については，「PC サーバ・モジュールのフィールド」(303ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のサーバに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

PC サーバ・モジュールのフィールド

本項では，PC サーバ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**PC サーバ**]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
設定の最終チェック	最後の設定のチェックが成功または失敗したかを表示します。
接続性の最終チェック	最後の接続のチェックが成功または失敗したかを表示します。
説明	Performance Center サーバの説明。
外部 URL	外部ソースから Performance Center サーバへの接続に使用する URL。 **注:** SSL 接続の場合，外部 URL に次の形式を使用して，Performance Center server を追加します。 `https://<PC サーバ>` **例:** `https://mypcs:443`
インストールの最終チェック	最後のインストールのチェックが成功または失敗したかを表示します。
内部 URL	Performance Center サーバと ALM とのすべての内部通信，および負荷分散に使用する URL。
名前	新規サーバの設定時に割り当てるサーバ名。
パフォーマンスの最終チェック	最後のパフォーマンスのチェックが成功または失敗したかを表示します。
サーバ ID	サーバ ID。
サーバの状態	サーバの現在の状態。可能性のある状態は次のとおりです。 • **アイドル**: サーバはアイドル状態です。 • **パッチのインストール中**: インストール用のパッチをサーバにインストール中で，サーバは一時的に利用できません。 • **再起動中**: サーバは再起動中で，一時的に利用できません。 **標準設定値**: [アイドル]

UI 要素	説明
ステータス	サーバの現在のステータス。可能性のあるステータスは次のとおりです。 • **稼働中**：サーバは稼働中です。 • **非稼働**：サーバは稼動していません。 • **利用不可**：サーバは利用できません。

[PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックス

[PC サーバの詳細] ダイアログ・ボックスでは，単一のサーバの表示と更新ができます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**PC サーバ**]を選択します。 2. サーバを右クリックし，[**PC サーバの詳細**]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：サーバのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
サーバ ID	サーバの ID。
名前	サーバの名前。

UI 要素	説明
詳細	現在選択されているサーバの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については,「PC サーバ・モジュールのフィールド」(303ページ)を参照してください。
イベント・ログ	選択したサーバで実行されているタスク, 操作のステータス, エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については,「イベント・ログ」(151ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているサーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
プロセス	選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については,「[プロセス] ページ」(307ページ)を参照してください。
サーバステータスの確認	サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。サーバの確認のステータスの詳細を表示するには, タブ内の行を右クリックし, [**サーバステータスの詳細の確認**] を選択します。詳細については,「[サーバのステータスの確認] ページ」(308ページ)を参照してください。

[新規 PC サーバ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると, 新しい Performance Center サーバを追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[**サーバ**] で, [**PC サーバ**] を選択します。 2. [**新規 PC サーバ**] ボタン をクリックします。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
詳細	PC サーバのフィールドが一覧表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「PC サーバ・モジュールのフィールド」(303ページ)を参照してください。 **ヒント**：このページの[**説明**]フィールドをクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
名前	新しいサーバに付ける名前を入力します。 **構文の例外**：サーバ名には，次の文字は使用できません。**\ / : " ? < > | * % '**

[プロセス] ページ

このページには，選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報が表示されます。

アクセス方法	• **PC サーバ・モジュールからの場合**： ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**PC サーバ**]を選択します。情報パネルで，[**プロセス**]を選択します。 • **[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合**： ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**PC サーバ**]を選択します。サーバを右クリックして，[**サーバの詳細**]を選択します。[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスで，[**プロセス**]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)
参照情報	「Performance Center サーバの概要」(297ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	更新:最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
	プロセスの強制終了:グリッド内の選択したプロセスを終了します。 **注:** • **ホスト・モジュールの場合**:選択したプロセスを終了するには，プロセスの強制終了アクセス許可が必要です。 • **Performance Center サーバ・モジュールの場合**:ビューア・アクセス許可を持つユーザが選択したプロセスを終了できます。
<プロセス・グリッド>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。 • **名前**:プロセスの名前。 • **PID**:プロセス ID。 • **プロセッサ時間(%)**:プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。 • **メモリ使用量(KB)**:プロセスが使用するメモリ量(KB)。 • **経過時間(d.hh:mm:ss)**:プロセス開始以降に経過した時間で，**d**は日数，**hh:mm:ss**は経過した時間，分，秒です。
<ナビゲーション領域>	ページの下部にあり，グリッド内のエントリのページ内を移動できます。エントリの合計数がナビゲーション領域の右側に表示されます。

[サーバのステータスの確認]ページ

このページは，サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。

アクセス方法	• **PC サーバ・モジュールからの場合**: ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**PC サーバ**]を選択します。情報パネルで，[**サーバのステータスの確認**]を選択します。 • **[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合**: ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**PC サーバ**]を選択します。サーバを右クリックし，[**PC サーバの詳細**]を選択します。[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスで，[**サーバのステータスの確認**]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(297ページ)
参照情報	「Performance Center サーバの概要」(297ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	[サーバのステータスの確認]の詳細: 次のフィールドが表示されます。 • **実際値**: サーバの接続性の確認による実際の値。 • **確認**: サーバの確認機能によってチェックされるサーバのサブ領域。 • **確認結果 ID**: サーバの確認の各ステップの ID。 • **期待値**: サーバの確認による期待される値。 • **カテゴリ**: サーバの確認機能によってチェックされるサーバの領域: 設定，接続性，インストール，パフォーマンス。 • **確認日**: サーバがチェックされた日付。 • **エラー**: チェック中にエラーが発生した場合，エラーを表示します。 • **ステータス**: サーバの確認が成功または失敗したかを示します。
	更新: ページを更新します。
	フィルタ/ソートの設定: グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択: [カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索: [検索]ダイアログ・ボックスが開き，グリッド内を検索できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<サーバのステータスの確認のグリッド>	サーバの確認のステータスを表示します。グリッドに表示するカラムを選択するには，をクリックします。
実際の値	サーバの接続性の確認による実際の値。

UI 要素	説明
カテゴリ	サーバの確認機能によってチェックされるサーバの領域: • 設定 • 接続性 • インストール • パフォーマンス
確認	サーバの確認機能によってチェックされるサブ領域。たとえば，パフォーマンス・チェックの場合のサブ領域は，プロセッサ，メモリ，システムです。
確認日	サーバがチェックされた日付。
確認結果 ID	サーバの確認の各ステップの ID。
エラー	チェック中にエラーが発生した場合，エラーを表示します。
期待値	サーバの確認による期待される値。
ステータス	サーバの確認が成功または失敗したかを示します。

第17章: CDA サーバ

本章の内容

- CDA サーバの概要 312
- CDA サーバを管理する方法 312
- CDA サーバのユーザ・インタフェース 313

CDA サーバの概要

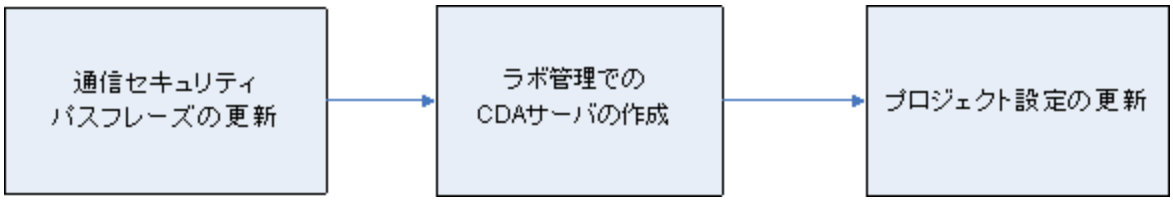
CDA サーバ・モジュールは，ラボ管理内での HP Continuous Delivery Automation(CDA) サーバの作成と構成に使用します。CDA には，一連の動的なターゲット環境に複合アプリケーションを送信する方法の定義に必要結果および関係を示すデータ・モデルが用意されています。

CDA は ALM と統合して，リソースの動的なプロビジョニングおよびデプロイメントを可能にします。AUT 環境設定を CDA にリンクすると，ALM は環境パラメータの特定の値を入力するようにユーザに要求しなくてもリンクされたテストの実行を行うことができます。ラボ管理で CDA サーバを定義すると，AUT 環境パラメータを CDA パラメータにリンクするために ALM で CDA サーバを使用できます。CDA および AUT パラメータの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

CDA サーバを管理する方法

このタスクでは，ラボ管理で CDA サーバを作成する方法を説明します。ラボ管理で CDA サーバを管理し，ALM で CDA リンケージを実行します。

ALM での CDA 設定は，次のワークフローで行います。



1. **通信セキュリティ・パスフレーズの更新**
   a. サイト管理で，**COMMUNICATION_SECURITY_PASSPHRASE** サイト・パラメータを更新します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
   b. ALM サーバ上の HP Application Lifecycle Management サービスを再起動します。
2. **ラボ管理での CDA サーバの作成**
   a. ラボ管理で，[**サーバ**] > [**CDA サーバ**]を選択します。
   b. [**新規 CDA サーバ**] ボタン をクリックします。

      注: サイトごとに設定できる CDA サーバは 1 つだけです。

   c. [新規 CDA サーバ] ダイアログ・ボックスで，サーバ情報を入力します。CDA のフィールドの詳細については，「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(317ページ)を参照してください。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規 CDA サーバ] ダイアログ・ボックス」(317ページ)を参照してください。
   d. 送信後，CDA サーバ・データで互換性チェックが行われます。内部 URL は，接続

チェックに使用します。接続に問題がない場合には，CDA サーバがグリッドに表示されます。

3. **プロジェクト設定の更新**
   a. ラボ管理で，[**ラボ設定**] > [**プロジェクト設定**]を選択します。
   b. 該当するプロジェクトをグリッドから選択し，[**プロジェクト設定の詳細**]ボタン をクリックします。
   c. [プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックスで，[**CDA サーバ**]フィールドと[**CDA ドメイン**]フィールドを更新します。[OK]をクリックします。

   これで，CDA サーバが ALM とリンクできます。

CDA サーバのユーザ・インタフェース

本項の内容

- CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ 314
- CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン 314
- CDA サーバ・モジュールのフィールド 317
- [新規 CDA サーバ]ダイアログ・ボックス 317
- [CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックス 318

CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**CDA サーバ**]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(312ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<CDA サーバ・モジュールの共通の UI 要素>	• **CDA サーバのフィールド**:フィールドの定義については，「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(317ページ)を参照してください。 • **CDA サーバのメニューとボタン**:コマンドとボタンの説明については，「CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン」(314ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**:詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<グリッド・フィルタ>	各カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合，現在カラムにはフィルタが適用されていません。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<サーバ・グリッド>	CDA サーバのリストを表示します。
[履歴]タブ	現在選択されている CDA サーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン

本項では，CDA サーバ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**CDA サーバ**]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(312ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
CDA サーバ詳細	[CDA サーバ]と<右クリック・メニュー>	[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したサーバの詳細が表示されます。詳細については，「[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックス」(318ページ)を参照してください。
削除	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバを削除します。
エクスポート	[CDA サーバ]と<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのサーバをテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**：グリッドのすべてのサーバをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**：グリッド内で選択したサーバをエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでサーバを検索できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
CDA サーバに移動	CDA サーバ	[CDA サーバに移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID 番号で特定のサーバを検索できます。現在のフィルタ内のサーバにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	表示	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	表示	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。

UI 要素	メニュー	説明
新規 CDA サーバ	CDA サーバ	CDA サーバを追加できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには，次の手順で行います。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
置換	［編集］と<右クリック・メニュー>	CDA サーバのグリッドに［置換］ダイアログ・ボックスが開き，グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択	表示	［カラムの選択］ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 PC サーバのフィールドの詳細については，「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(317ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のサーバに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	編集	［選択項目の更新］ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

CDA サーバ・モジュールのフィールド

本項では，CDA サーバ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**CDA サーバ**]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(312ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
外部 URL	外部ソースから CDA サーバへの接続に使用する URL。これは，必須フィールドです。 URL のフォーマット：`http://[サーバ名]:[ポート]/cda` **注：** SSL 接続の場合，外部 URL に次の形式を使用して，CDA サーバを追加します。 `https://<cda_server>`
ID	サーバ ID。
内部 URL	Performance Center サーバと ALM とのすべての内部通信，および負荷分散に使用する URL。
名前	新規サーバの設定時に割り当てるサーバ名。 URL のフォーマット：`http://[サーバ名]:[ポート]`

[新規 CDA サーバ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，新しい CDA サーバを作成できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**CDA サーバ**]を選択します。 2. [**新規 CDA サーバ**]ボタン をクリックします。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(312ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア：ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
詳細	CDA サーバのフィールドが一覧表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(317ページ)を参照してください。 **ヒント**：このページの[**説明**]フィールドをクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
名前	新しいサーバに付ける名前を入力します。 **構文の例外**：サーバ名には，次の文字は使用できません。**\ / : " ? < > | * % '**

[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックス

[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックスでは，単一のサーバの表示と更新ができます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[**サーバ**]で，[**CDA サーバ**]を選択します。 2. サーバを右クリックし，[**CDA サーバ詳細**]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(312ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	保存：詳細を保存します。
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最終エンティティ：サーバのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フィールド検索：指定したフィールド名を検索できます。アスタリスク「*」と疑問符「?」を使用したワイルドカード検索をサポートします。 例：a*b は acb と adefb を返し，a?b は acb を返します。
ID	サーバの ID。
名前	サーバの名前。
詳細	現在選択されているサーバの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(317ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているサーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第18章: Lab Service

本章の内容

- HP ALM Lab Service の概要 321
- HP ALM Lab Service のインストール 321
- HP ALM Lab Service の使用 328
- HP ALM Lab Service Agent 331

HP ALM Lab Service の概要

HP ALM Lab Service はテスティング・ホスト上でエージェントとして機能するため，ALM はホスト上でテストとメンテナンス・タスクをリモートで開始できます。

Lab Service は，テスティング・ホストでバックグラウンド実行されます。テスティング・ホストを ALM ラボ管理機能と統合するには，ラボ管理または ALM のホスト/テスティング・ホスト・モジュールでホストを定義してから，[Lab Service の設定] ページを使用して ALM Lab Service を ALM サーバに指定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「HP ALM Lab Service Agent」(331ページ)を参照してください。

1 回の登録処理で，エージェントの ID が検証され，ALM とホスト間にセキュリティ保護された通信チャネルが確立されます。登録後，ALM を使用してリモート・ホスト上で機能テストとメンテナンス・タスクを実行します。

Lab Service は，ALM とテスト・ホスト間のセキュアなインタフェースとして機能します。ALM との通信 (テスト要求，テスト結果，メンテナンス・タスクなど) は，Lab Service を経由します。Lab Service は，標準 HTTP プロトコルを通じて ALM と通信し，ファイアウォールを通過できます。ALM Lab Service を停止すると，テストの実行で ALM ラボ管理によるホストの使用が回避されます。

タスクの詳細については，「HP ALM Lab Service の使用」(328ページ)を参照してください。

HP ALM Lab Service のインストール

このタスクでは，HP ALM Lab Service のインストール方法について説明します。

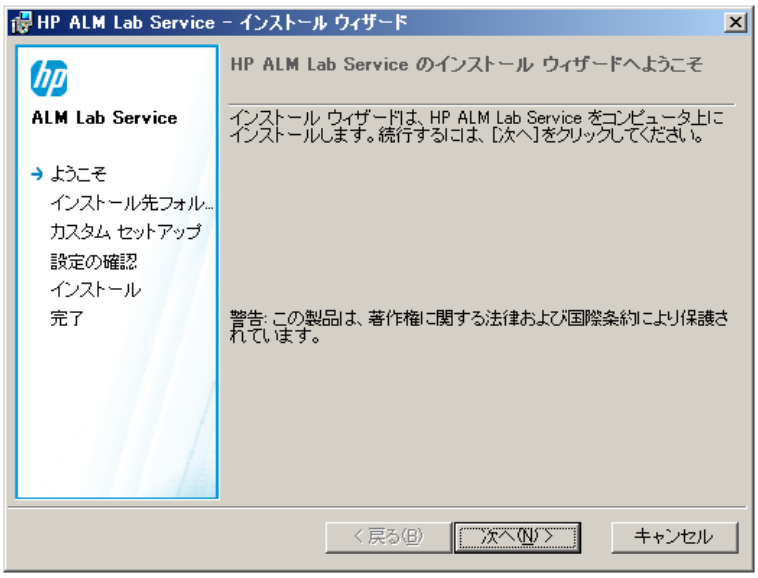
> **注:** HP ALM Lab Service のインストールの修正，修復の詳細については，「HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール」(327ページ)を参照してください。

HP ALM Lab Service - インストール・ウィザードによる Lab Service のインストール

1. HP ALM Lab Service MSI インストール・ファイルを HP ALM の [アドイン] ページでダウンロードします。オペレーティング・システム環境に合わせてインストール・パスを選択します。

   > **注:** 互換性を確保するには，Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンである必要があります。使用中の Lab Service のバージョンが ALM サーバと一致しない場合，[ホスト/テスティング ホスト] グリッドでテスティング・ホストが [**利用不可**] と表示されます。

2. MSI インストール・ファイルを実行します。**HP ALM Lab Service - インストール・ウィザード**が起動し，[**ようこそ**] 画面が開きます。

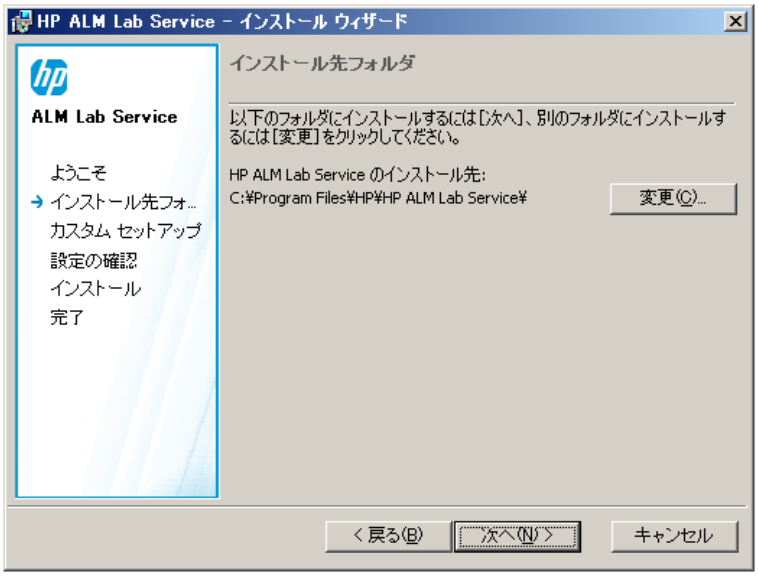


> **注:**
> - マシンの管理者権限が必要です。
> - ユーザ・アクセス制御(UAC)を無効にする必要があります。

[**次へ**] をクリックします。

3. [**インストール先フォルダ**] 画面が開きます。

   Lab Service をインストールするフォルダを指定します。[**変更**] をクリックすると、インストール先フォルダを変更できます。

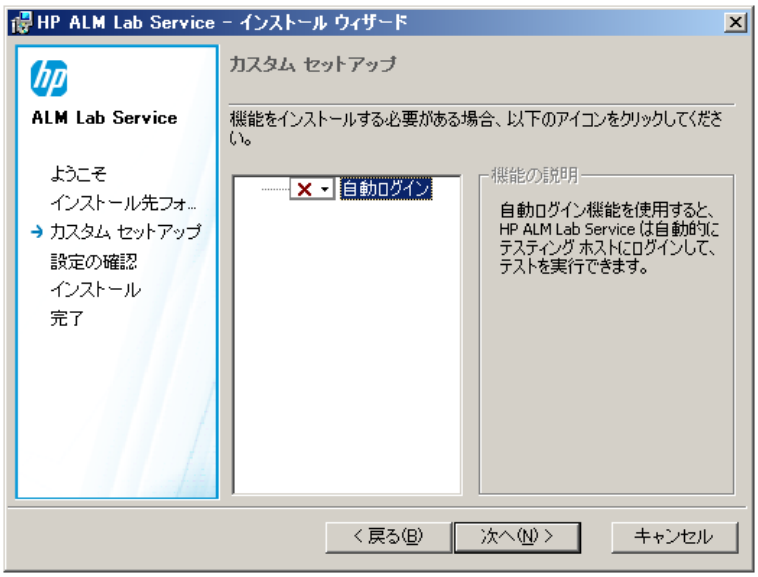


> **注:** インストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限が必要です。

表示されているフォルダへのインストールを開始するには，［**次へ**］をクリックします。

4. ［**カスタム セットアップ**］画面が開きます。

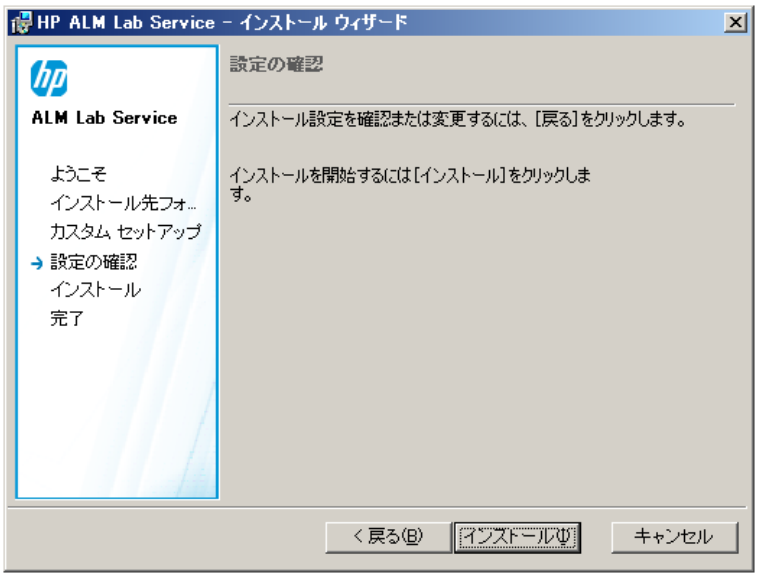
   この画面では，Lab Service の自動ログイン機能を有効にすることができます。［自動ログイン］チェックボックス・アイコンをクリックし，［**この機能を有効にする**］を選択します。自動ログインの詳細については，「自動ログイン」(330ページ)を参照してください。



> **注意：Windows XP** では，HP ALM Lab Service のセットアップを行うと，自動ログインに必要なファイル(GINA DLL) がインストールされます。他のアプリケーションでホストへのログインをカスタマイズしている場合，別バージョンのファイルがすでにインストールされている可能性があります。したがって，このファイルを置換するとエラーが発生することがあります。自動ログイン機能を有効にする場合は，他のアプリケーションをアンインストールしてから，Lab Service のインストールを再開してください。

   ［**次へ**］をクリックします。

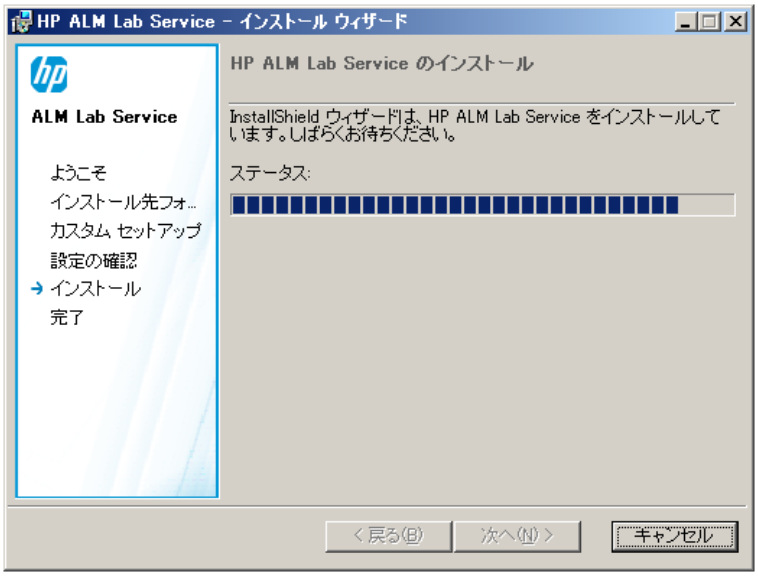
5. ［**設定の確認**］画面が開きます。



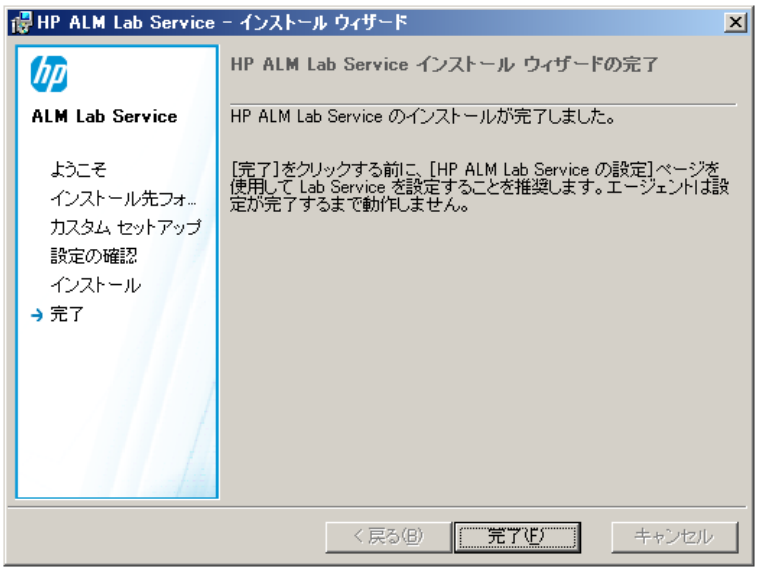
設定を確認または変更する場合は，[**戻る**]をクリックします。

設定を確定してインストール処理を開始するには，[**インストール**]をクリックします。

[**インストール**]ページが開き，HP ALM Lab Service のファイルがインストールされます。



6. インストールが完了すると，[**HP ALM Lab Service の設定**]ダイアログ・ボックスと[**完了**]画面が開きます。



[Lab Service の設定]ダイアログ・ボックスにホスト設定を入力し，[**OK**]をクリックします。[Lab Service の設定]ページのユーザ・インタフェースの詳細については，「HP ALM Lab Service Agent」(331ページ)を参照してください。

> **注:**
> - Lab Service の設定はこの段階で行うことをお勧めしますが，後で設定することも可能です。エージェントを実行するには，設定を完了する必要があります。
> - インストールで自動ログインを有効にすると，コンピュータの再起動を指示するメッセージが表示されます。[Lab Service の設定]ページの内容を確認してから，再起動してください。

これで，Lab Service のインストールは完了です。[完了]画面の[**完了**]をクリックします。Lab Service のトレイ・アイコンが Windows タスクバーに表示されます。

サイレント・モードでの Lab Service のインストール

コマンド・ラインで，次の Microsoft MSI サイレント・インストール・コマンドを入力します。

```
msiexec /i "<MSI の場所>/HpAlmLabService_x64.msi" /qb SERVERNAME=http://<サーバ名>:<ポート>/qcbin HOSTUSERNAME=<ユーザ名>
```

> **注:**
> - マシンの管理者権限が必要です。
> - ユーザ・アクセス制御(UAC)を無効にする必要があります。

次に，指定可能な ALM 固有のパラメータを示します。

パラメータ	説明
HOSTUSERDOMAIN=＜ドメイン＞	自動ログインが有効の場合に必要です。ログイン・ユーザのドメインを指定します。
HOSTUSERNAME=＜ユーザ名＞	**必須パラメータ。**テスティング・ホストでのテスト実行時に，ログインが必要なユーザを指定します。 **注:** このユーザには次の権限が必要です。 • グローバル・オブジェクトの作成 • All COM の権限 • インストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限 • 所定のタイプのテストを実行するために必要になるすべての権限。たとえば，UFT テストを ALM から実行する場合，選択するユーザには UFT テストの実行に必要な権限がすべて必要になります。各テスト・ツールで必要な権限の詳細については，テスト・ツールのユーザ・ガイドを参照してください。
HOSTUSERPASSWORD=＜パスワード＞	自動ログインが有効の場合に必要です。ログイン・ユーザのパスワードを指定します。
ISAUTOLOGIN=1	自動ログイン機能を有効にします。自動ログインが有効の場合，HOSTUSERDOMAIN パラメータと HOSTUSERPASSWORD パラメータを指定してください。自動ログインの詳細については，「自動ログイン」(330ページ)を参照してください。
LOGLEVEL=＜ログ・レベル＞	Lab Service がログを記録する際のレベル(**＜ログ・レベル＞**) を指定します。サポートされるログのレベルは，エラー，オフ，警告，情報，詳細です。ログ・レベルの詳細については，「HP ALM Lab Service Agent」(331ページ)を参照してください。
LOGLOCATION="＜ログ・ディレクトリ＞"	Lab Service のログを記録する場所 (**＜ログ・ディレクトリ＞**) を指定します。
REGISTER=1	インストールの完了後に，登録要求を ALM サーバに自動送信します。

パラメータ	説明
SERVERNAME=http://＜サーバ名＞:＜ポート＞/qcbin	**必須パラメータ。** ALM サーバの URL。 例: `SERVERNAME=http://almserver1:8080/qcbin`

これ以外にも標準の MSI パラメータが提供されています。詳細情報は，コマンド・ラインで `msiexec /?` と入力して確認できます。

HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール

HP ALM Lab Service のインストールの変更

1. MSI インストール・ファイルを実行します。[**ようこそ**] 画面で **HP ALM Lab Service - インストール・ウィザード** が起動します。[**次へ**] をクリックします。
2. [**プログラムのメンテナンス**] 画面が開きます。
   [**変更**] ラジオ・ボタンを選択します。[**次へ**] をクリックします。
3. [**カスタム セットアップ**] 画面が開きます。
   機能アイコンを使用して，HP ALM Lab Service 機能を有効または無効にします。
   [**次へ**] をクリックします。
4. [設定の確認] 画面が開きます。
   [**次へ**] をクリックします。
5. [**完了**] 画面が開きます。[**完了**] をクリックします。

HP ALM Lab Service の削除

> **注意:** Lab Service を削除したら，別のバージョンを再インストールする前にホストを再起動する必要があります。再起動せずに新しいバージョンを再インストールしようとすると，インストールが失敗します。

MSI ファイルを使用して Lab Service を削除するには，次の手順を実行します。

1. MSI インストール・ファイルを実行します。[**ようこそ**] 画面で **HP ALM Lab Service - インストール・ウィザード** が起動します。[**次へ**] をクリックします。
2. [**プログラムのメンテナンス**] 画面が開きます。
   [**削除**] ラジオ・ボタンを選択します。[**次へ**] をクリックします。
3. [**プログラムの削除**] 画面が開きます。[**削除**] をクリックします。
   MSI インストール・ファイルの実行時に Lab Service が実行中であった場合，[**使用中のファイル**] 画面が開く場合があります。[**OK**] をクリックして，削除を完了します。

4. [**完了**]画面が開きます。[**完了**]をクリックします。

Windows の[プログラムと機能]を使用して Lab Service を削除するには，次の手順を実行します。

1. [**コントロール パネル**]＞[**すべてのコントロール パネル項目**]＞[**プログラムと機能**]に移動して，Windows の[プログラムと機能]画面を開きます。
2. [**HP ALM Lab Service**]を右クリックして，[**アンインストール**]を選択します。

サイレント・アンインストールを使用して Lab Service を削除するには，次のいずれかのコマンドを実行します。

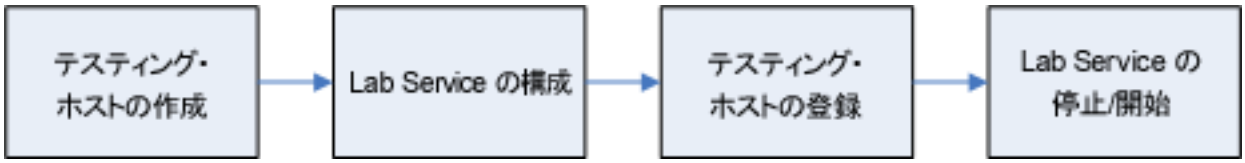
- `msiexec /x "＜msi の場所＞\HpAlmLabService_x64.msi"`
- `msiexec /x {8A0D781B-7976-419F-91D9-15F3121FCFA5}`

HP ALM Lab Service の使用

このタスクでは，HP ALM Lab Service の使用方法について説明します。ALM を使用してテスティング・ホストで機能テスト・セットからテストを実行するには，Lab Service を使用して ALM でホストを登録する必要があります。

HP ALM Lab Service の詳細については，「HP ALM Lab Service の概要」(321ページ)を参照してください。

> **注:** 互換性を確保するには，Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンである必要があります。使用中の Lab Service のバージョンが ALM サーバと一致しない場合，[ホスト/テスティング ホスト]グリッドでテスティング・ホストが[**利用不可**]と表示されます。



このタスクは次のステップで構成されています。

- 「テスティング・ホストの作成」(328ページ)
- 「HP ALM Lab Service の構成」(329ページ)
- 「ラボ管理でのホストの登録の承認」(329ページ)
- 「Lab Service の停止/開始」(330ページ)

1. **テスティング・ホストの作成**

   ALM またはラボ管理の[ラボ リソース]で，ホスト/テスティング・ホスト・モジュールを選択します。[**新規テスティング ホスト**]ボタンをクリックし，テスティング・ホスト情報を入力します。新しいテスティング・ホストの[**登録ステータス**]が[**未登録**]に設定されます。

> **注:** [**登録自動承認**]を[**Y**]に設定することで，ALMでテスティング・ホスト登録を自動的に承認するように準備できます。

タスクの詳細については，「テスティング・ホストの管理方法」(114ページ)を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規テスティング ホスト]ダイアログ・ボックス」(146ページ)を参照してください。

2. **HP ALM Lab Service の構成**

Lab Service を設定するには，次の内容が必要です。

- ALM サーバの URL。
- テスティング・ホストでのテスト実行専用に使用する，専用の Windows ユーザ名。

> **注:** このユーザには次の権限が必要です。
>
> - グローバル・オブジェクトの作成
> - All COM の権限
> - 所定のタイプのテストを実行するために必要になるすべての権限。たとえば，UFT テストを ALM から実行する場合，選択するユーザには UFT テストの実行に必要な権限がすべて必要になります。各テスト・ツールで必要な権限の詳細については，テスト・ツールのユーザ・ガイドを参照してください。

- Windows ユーザ名のパスワードとドメイン。インストールの間に自動ログインを有効にした場合のみ，利用できます。
- (オプション) テスティング・ホストと ALM 間の通信で使用するプロキシ・サーバの URL と証明書。

[設定]ページを使用して，ALM と通信するように Lab Service を設定できます。

[設定]ページを使用して Lab Service を登録するには，次の手順を実行します。

a. システム・トレイにある[Lab Service]アイコンを右クリックします。[設定]ページを開きます。

b. ALM サーバ URL とホスト・ユーザ情報を入力します。必要に応じてプロキシ・サーバ情報を入力します。[設定]ページに関するユーザ・インタフェースの詳細については，「HP ALM Lab Service Agent」(331ページ)を参照してください。[**ホストの登録**]をクリックします。

c. ラボ管理で，ホスト・グリッドを更新します。新しいホストの[**登録ステータス**]が[**保留中**]に設定されます。

3. **ラボ管理でのホストの登録の承認**

ホストを作成したときに[**登録自動承認**]を[**Y**]に設定した場合，登録が自動的に承認されます。

自動的に承認されるようにホストを設定しない場合には，ホストを手動で承認する必要があります。ホストの登録要求はラボ管理者によってラボ管理内から承認できます。ホストをプライベート・ホストとして ALM プロジェクトから作成した場合，そのプロジェクトから登録を承認できます。

ホスト・モジュールのグリッドからホストを選択し，[**ホスト操作**]ドロップダウン矢印をクリックし，[**登録の承認**]を選択します。[**登録ステータス**]が[**保留中**]から[**登録済み**]に変わります。

新しいテスティング・ホストが登録されます。ALM を使用して，このホストで機能テストのスケジュールを設定して実行できます。

4. **Lab Service の停止/開始**

タスクバーのアイコンを使用して，Lab Service を開始および停止できます。アイコンを右クリックして，次のいずれかを実行します。

- 停止するには，[**ALM Lab Service の停止**]をクリックします。
- 開始するには，[**ALM Lab Service の開始**]をクリックします。

注意:

- Lab Service を停止すると，テスティング・ホストはラボ管理に[**非稼働**]と表示されます。再度開始するまで，テスティング・ホストでサーバ側の実行を使用してテストを実行することはできません。
- Lab Service を停止した後，待機時間が長すぎると，ALMで Lab Service が再起動されたかどうかを確認するためにポーリングが停止されます。ホスト/テスティング・ホスト・グリッドでテスティング・ホストの[**ステータス**]を手動で[**稼働中**]に設定する必要があります。

自動ログイン

ALM を使用して，登録したテスティング・ホスト上でテストを実行するには，テストの実行権限を持つ Lab Service ユーザがテスティング・ホストにログインする必要があります。Lab Service では，テスト実行を要求したユーザがテスティング・ホストに自動ログインする設定を行うことができるので，ユーザがログインしていない状況を避けることができます。

自動ログインを有効にするには，[設定]ページでユーザ名とパスワードを入力する必要があります。詳細については，「HP ALM Lab Service Agent」(331ページ)を参照してください。

自動ログインが有効な状態でセッションを切断すると(セッション・ウィンドウを閉じる，など)，ユーザは自動的にログイン状態に戻り，テストを実行します。ただし，画面がロックされていると，セッション・ユーザ・インタフェース(UFT GUI テストなど)が必要なテストは実行できません。

注:

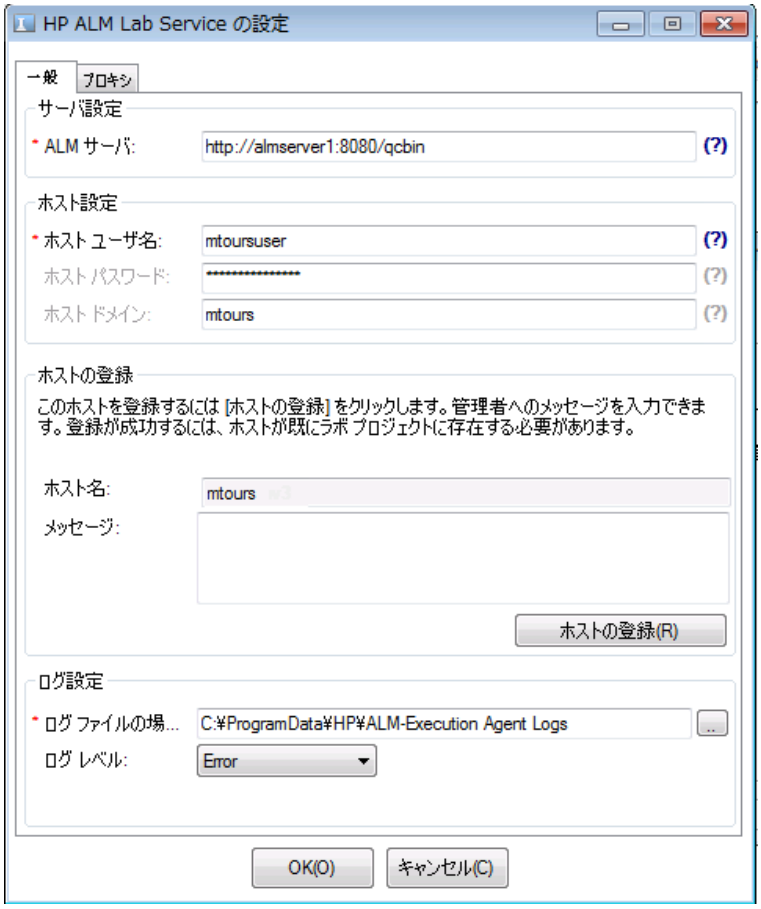
- 自動ログインを有効にする操作には，マシンの管理者権限が必要です。
- 自動ログインを有効にするには，ユーザ・アクセス制御（UAC）を無効にする必要があります。
- 既存のLab Service環境で自動ログインを無効または有効にするには，MSIファイルを実行してから［**変更**］をクリックします。詳細については，「HP ALM Lab Serviceの変更またはアンインストール」(327ページ)を参照してください。

HP ALM Lab Service Agent

アクセス方法	Windowsタスクバーで Lab Service のアイコンを右クリックして，［**設定**］を選択します。
重要な情報	［設定］ページを使用して，Lab ServiceとALMサーバとの通信を管理できます。
関連タスク	「HP ALM Lab Service の使用」(328ページ)
参照情報	「HP ALM Lab Service の概要」(321ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

[一般]タブ



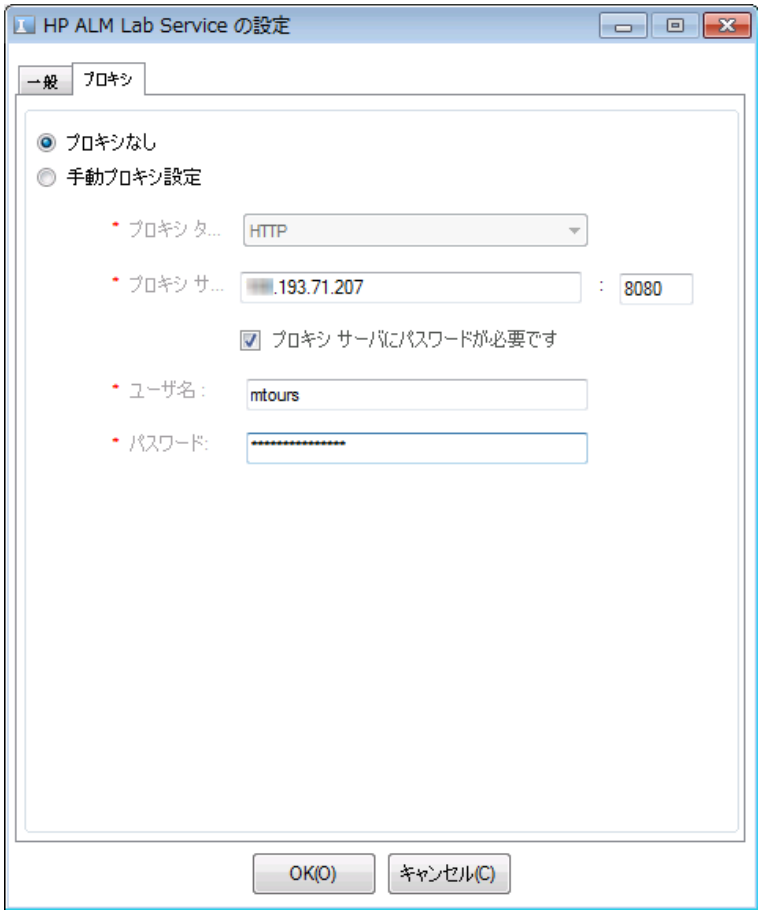
このタブでは，Lab Service の一般的な設定を行います。

UI 要素	説明
[サーバ設定] セクション	**ALM サーバ**: Lab Service と通信する ALM サーバの URL。 この URL は次の形式である必要があります。 `http(s)://<サーバ名>:<ポート>/qcbin`

UI 要素	説明
[ホスト設定] セクション	• **ホスト・ユーザ名**: このホストでの ALM テストの実行に使用する Windows ユーザの名前。名前には，バックスラッシュ記号 (\) は指定できません。 **注:** このユーザには次の権限が必要です。 • グローバル・オブジェクトの作成 • All COM の権限 • インストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限 • 所定のタイプのテストを実行するために必要になるすべての権限。たとえば，UFT テストを ALM から実行する場合，選択するユーザには UFT テストの実行に必要な権限がすべて必要になります。各テスト・ツールで必要な権限の詳細については，テスト・ツールのユーザ・ガイドを参照してください。 • **ホスト・パスワード**: Windows ユーザのパスワード。このフィールドに入力できるのは，自動ログインが有効な場合のみです。 • **ホスト・ドメイン**: Windows ユーザのドメイン。このフィールドに入力できるのは，自動ログインが有効な場合のみです。
[ホストの登録] セクション	• **ホスト名**: ALM がテスティング・ホストの識別に使用する名前。 • **メッセージ**: ラボ管理 の管理者に送信されるメッセージ。 • **ホストの登録**: ALM サーバを使用したテスティング・ホストを登録します。 詳細については，「HP ALM Lab Service の使用」(328ページ)を参照してください。

UI要素	説明
[ログ設定]セクション	**ログ・ファイルの場所**: ログが書き込まれるディレクトリ。ログでテスト実行およびメンテナンス・タスクの進行状況が記録されます。ディレクトリが存在しない場合は，作成されます。このフィールドは入力が必須です。 **注:** [ホスト設定]で定義したユーザ名に，ログ・ファイルのパスに対する書き込みアクセス権が割り当てられていないと，実行ログは作成されません。 **ログ・レベル**:ドロップダウン・メニューでログ・レベルを選択します。 • **Off**: ログは記録されません。 • **Error**: エラーのみがログに記録されます。 • **Warning**: エラーと警告がログに記録されます。 • **Info**: エラー，警告，情報がログに記録されます。 • **Verbose**: Lab Service エージェントが実行したアクションがすべてログに記録されます。 **注意:** ログ・レベルを高く設定すると，パフォーマンスに影響する可能性があります。デバッグ情報の生成が必要である場合を除き，[**Error**]レベルに設定することをお勧めします。

[プロキシ]タブ



このタブでは，テスティング・ホストがプロキシ・サーバ経由でALMと通信する場合に使用するプロキシ・サーバ情報を入力します。

UI要素(表示順)	説明
プロキシなし	テスティング・ホストがALMサーバと直接通信する場合，このオプションを選択します。
手動プロキシ設定	テスティング・ホストがALMサーバとプロキシ・サーバを介して通信する場合，このオプションを選択します。このオプションを選択した場合，プロキシ・タイプとプロキシ・サーバを入力する必要があり，オプションでユーザ名とパスワードを指定できます。
プロキシ・タイプ	テスティング・ホストとプロキシ・サーバ間の通信で使用するプロトコル。

UI要素(表示順)	説明
プロキシ・サーバ: <ポート番号>	プロキシ・サーバのホスト名またはIPアドレス。右のフィールドにポート番号を入力してください。
プロキシ・サーバにパスワードが必要です	プロキシ・サーバとの通信で認証が必要な場合，このオプションを選択します。このオプションを選択した場合，プロキシ・サーバのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。
ユーザ名	プロキシ・サーバの認証に使用するユーザ名。
パスワード	指定したユーザ名のパスワード。

注: プロキシ設定には，UIでは指定できないものがあります。このようなプロキシの詳細設定を行うには，**HP.ALM.Lab.Agent.RemoteService.exe.config** 設定ファイル(HP ALM Lab Service インストール・ディレクトリ)を変更します。標準のインストール・ディレクトリは **C:\Program Files\HP\HP ALM Lab Service** です。設定ファイルを編集する手順は，このリンクに掲載されているMSDNの手順を参照してください。

フィードバックを送信

ラボ管理ガイドを使用してお気づきになった点をお知らせください。

電子メールの宛先: docteam@hpe.com

Java™
COMPATIBLE